

千歳市

キウス4遺跡

—北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財事前発掘調査報告書—

平成8年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

千歳市

キウス4遺跡

—北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財事前発掘調査報告書—

平成8年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1. キウス 4 遺跡航空写真



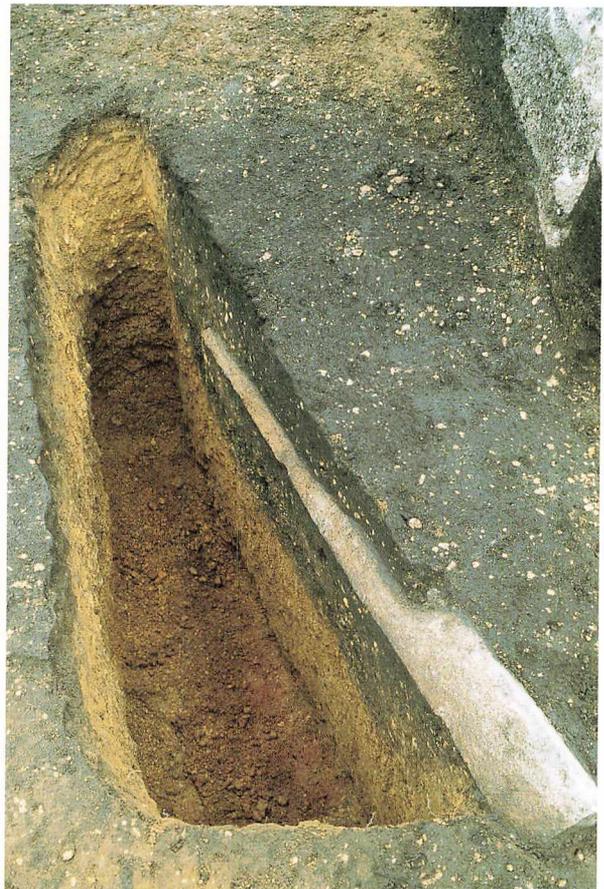
1. X-1/XP-1 セクション(1)

N →



2. X-1/XP-1 セクション(2)

NE →



3. X-1/XP-1 セクション(3)

SW →

例 言

- 1 本書は、北海道横断自動車道建設に伴い財団法人北海道埋蔵文化財センターが、平成5年度に調査を実施した千歳市キウス4遺跡の埋蔵文化財事前発掘調査報告書である。
- 2 この発掘調査は、北海道横断自動車道の本線および〈仮称〉千歳東インターチェンジ建設予定地において、遺構・遺物の詳細分布を把握することを目的としたものである。
- 3 本書の編集は皆川洋一が行った。執筆は鬼柳彰と皆川洋一が分担して行った。挿図および写真図版は皆川洋一が担当した。
- 4 調査にあたっては、文化庁および北海道教育委員会の指導を得た。

記号等の説明

1. 遺構の表記には以下に示す記号を用いた。

X:周堤墓 XP:周堤墓土壙 H:住居跡 HP:住居跡に伴うピット HF:住居跡に伴う焼土もしくは炉
P:土壙 SP:小ピット F:焼土

2. 遺構図中の細数字は標高(単位 m)である。

3. 平面図の方位記号は真北を示す。遺構や遺物出土状況の平面図は調査方格(グリッド)を縦横の基準としてAラインが図の天、1ラインが図の左に来るように作成した。従って、方位のない平面図は調査区の設定図(1章/図I-3)の方位による。

4. 平面図中の+は調査方格(グリッド)の交点を示す。交点の傍らに記した記号(M-37など)はその交点の右下もしくは周辺に位置する区画の名称に一致している。

5. 図の縮尺は次のようにした。またスケールバーを添えて縮尺を明らかにしてある。

土層断面図:50分の1他 遺構図:40分の1 遺物出土状況詳細図:10分の1 土器実測図:3分の1
土器拓影:3分の1 剥片石器類・土製品・石製品実測図:2分の1 礫石器類実測図:3分の1または4分の1

6. 文中での遺構の規模は「確認面での長軸長×短軸長/床(底)面での長軸長×短軸長/確認面からの最大深」の要領で記した。一部壊されているものは現存長を()で示し、不明の場合は-の記号もしくは無数値で示した。

7. 土層の色調は『新版標準土色帳』(小山・竹原 1967)に従って記載したのものもある。

8. 土層の記述には下記の記号、略称を用いた場合がある。

樽前 a 降下軽石堆積物:Ta-a、白頭山-苦小牧火山灰:B-Tm、樽前 c 降下火砕堆積物:Ta-c、恵庭 a 降下軽石堆積物:En-a、恵庭 a 降下軽石堆積物起源のローム層:En-L or EnL、恵庭 a 降下軽石堆積物のうち未風化の軽石礫:En-P or EnP

9. 遺構覆土等における土壌・堆積物の混在状態を下記のように表現した場合がある。

A + B:A と B がほぼ等量に混じる。A > B:A に B が少量混じる。A ≧ B:A に B が微量混じる。

10. 土器の大きさは最大高、最大幅、最大径、石器・土製品・石製品等の大きさは最大長、最大幅、最大厚の順で記し、破損しているものについてはその数値を()で括ってある。

目 次

口絵 (カラー写真)

例言

記号等の説明

I 調査の概要	1
1 調査の要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	1
4 位置と環境	4
5 遺物の分類	8
(1) 土器	8
(2) 石器・石製品	8
(3) 土製品	9
(4) 自然遺物	9
II 土層と盛土遺構	13
1 土層	13
2 盛土遺構	14
III 遺構	25
1 周堤墓	25
2 住居跡	48
3 土塋	52
3 小ピット	54
4 焼土	57
IV 包含層の遺物	58
1 土器	58
2 石器・石製品	60
3 石製品	61
V 各種一覧資料	81

写真図版

報告書抄録

挿図目次

I 調査の概要	1	図III-16 X-6 遺物出土状況	43
図I-1 遺跡の位置	2	図III-17 X-7の遺物	44
図I-2 遺跡周辺の地形	5	図III-18 X-7	45
図I-3 調査区の設定	7	図III-19 X-7セクション	46
図I-4 トレンチと遺構の位置	11	図III-20 X-8・9の遺物	47
II 土層と盛土遺構	13	2 住居跡	48
1 土層		図III-21 H-1	49
図II-1 遺跡における土層柱状図	13	図III-22 H-1の炉跡・出入口部・柱穴	50
2 盛土遺構		図III-23 H-1の遺物	51
図II-2 Pライン(北側盛土)セクション	15	3 土塙	52
図II-3 R31.S31西壁(南側盛土遺構)セクション	16	図III-24 P-1と遺物	52
図II-4 T18.19北壁セクション	17	図III-25 P-2・3と遺物	53
図II-5 T20.21北壁ロングセクション	18	4 小ピット	54
図II-6 T22.23北壁セクション	19	図III-26 SP-1・2・3・4・5	55
図II-7 T24.25北壁ロングセクション	20	図III-27 P-1・2・3の遺物	56
図II-8 T26.27北壁セクション	21	5 焼土	57
図II-9 T28.29南壁(南側盛土遺構)セクション	22	図III-28 トレンチ内の焼土と小ピット	57
図II-10 T30.31南壁(南側盛土遺構)セクション	23	IV 包含層の遺物	58
図II-11 T32.33北壁セクション	24	図IV-1 土器(1)	62
III 遺構	25	図IV-2 土器(2)	63
1 周提墓	25	図IV-3 土器(3)	64
図III-1 X-1	27	図IV-4 土器(4)	65
図III-2 XP-1	28	図IV-5 土器(5)	66
図III-3 X-1の遺物	29	図IV-6 土器(6)	67
図III-4 X-3の遺物	30	図IV-7 土器(7)	68
図III-5 X-2	31	図IV-8 土器(8)	69
図III-6 X-3	32	図IV-9 土器(9)	70
図III-7 X-4	34	図IV-10 土器(10)	71
図III-8 X-4のマウンドと遺物	35	図IV-11 土器(11)	72
図III-9 X-4東西トレンチセクション	36	図IV-12 土器(12)	73
図III-10 X-4南北トレンチセクション	37	図IV-13 土器(13)	74
図III-11 X-6の遺物	38	図IV-14 土器(14)	75
図III-12 X-5	39	図IV-15 剥片石器(1)	76
図III-13 X-5セクション	40	図IV-16 剥片石器(2)	77
図III-14 X-6	41	図IV-17 剥片石器(3)	78
図III-15 X-6セクション	42	図IV-18 礫石器(1)	79
		図IV-19 礫石器(2)	80

表目次

I 章 概要

表 I - 1 検出遺構一覧 4
表 I - 2 遺構・包含層出土遺物一覧 4

III 章 遺構

表 III - 1 周堤墓一覧 25

V 章 各種一覧資料

表 V - 1 遺構種別出土遺物一覧 81

表 V - 2 遺構出土遺物一覧 82
表 V - 3 遺構掲載土器一覧 85
表 V - 4 遺構掲載石器・石製品一覧 86
表 V - 5 包含層出土遺物一覧 87
表 V - 6 トレンチ・グリッド出土遺物一覧 88
表 V - 7 包含層掲載土器一覧 100
表 V - 8 包含層掲載石器・石製品一覧 103

口絵目次

口絵 1 - 1 航空写真
口絵 2 - 1 X-1・XP-1 セクション (1) N →
口絵 2 - 2 X-1・XP-1 セクション (2) ... NE →
口絵 2 - 3 X-1・XP-1 セクション (3) .. SW →

図版目次

図版 -1
1. 調査前風景 NE →
2. 調査前風景 W →
図版 -2
1. 重機作業風景 NE →
2. 重機作業風景 NE →
図版 -3
1.T-29 トレンチセクション E →
2.T-29 トレンチセクション NE →
図版 -4
1.X-1 調査終了状況 W →
2.X-1 集石出土状況 NE →
3.X-1 オロシガネ状石製品 S →
4.X-1 オロシガネ状石製品 E →
図版 -5
1.X-1・XP-1 確認状況 NW →
2.X-1・XP-1 セクション NW →
図版 -6
1.X-6 遺物出土状況 W →
2.X-6 周堤東側遺物出土状況 E →
3.X-6 周堤東側遺物出土状況 N →
図版 -7
1.X-4 中央マウンド検出状況 S →
2.X-4 中央マウンド調査状況 S →
3.X-4 中央マウンド調査状況 NW →
4. 文化庁調査官視察 NE →
図版 -8
1.X-4 周堤西側トレンチセクション (周堤内側)
..... S →
2.X-4 周堤南側トレンチセクション (周堤内側)
..... W →
3.X-4 周堤東側トレンチセクション (周堤内側)
..... S →

図版 -9			
1.X-4 中央マウンド立石出土状況	NW →		
2.X-4 周堤内土壌検出状況	SE →		
図版 -10			
1.H-1 完掘状況	E →		
2.遺構検出状況	SE →		
3.H-1 炉跡セクション	E →		
4.H-1 柱穴 (HP-33・34) 検出状況	NE →		
図版 -11			
1.H-1 / HP-4・5 セクション	SE →		
2.H-1 / HP-3 セクション	SE →		
3.H-1 出入口部の配列ピット	E →		
4.出入口部のピットセクション	E →		
5.H-1 小柱穴群検出状況	E →		
6.H-1 小柱穴群完掘状況	E →		
図版 -12			
1.P-1 完掘状況	SW →		
2.P-1 セクション (テストピット)	SW →		
3.P-1 周囲の遺物出土状況	S →		
図版 -13			
1.P-2 完掘状況	S →		
2.P-2 セクション	W →		
3.P-3 完掘状況	NE →		
4.P-3 セクション	S →		
5.SP-6 セクション	S →		
図版 -14			
1.盛土遺構 (南) 焼土検出状況	NE →		
2.盛土遺構 (南) T-29 トレンチセクション	NW →		
3.炭窯跡検出状況	S →		
図版 15			
1.盛土遺構 (南) 遺物出土状況 (1)	S →		
2.盛土遺構 (南) 遺物出土状況 (2)	N →		
3.盛土遺構 (南) 遺物出土状況 (3)	N →		
図版 -16			
1.重機トレンチ調査風景	N →		
2.トレンチ調査状況	E →		
3.トレンチ調査完了風景	W →		
図版 -17			
1.調査終了状況 (調査区西側)	E →		
		2.調査終了状況 (調査区東側)	N →
		3.調査終了状況 (調査区北側)	SE →
		図版 -18	
		1.遺構の土器 (1)	
		図版 -19	
		1.遺構の土器 (2)	
		図版 -20	
		1.遺構の土器 (3)	
		図版 -21	
		1.遺構の石器 (1)	
		図版 -22	
		1.包含層の土器 (1)	
		図版 -23	
		1.包含層の土器 (2)	
		図版 -24	
		1.包含層の土器 (3)	
		図版 -25	
		1.包含層の土器 (4)	
		図版 -26	
		1.包含層の土器 (5)	
		図版 -27	
		1.包含層の土器 (6)	
		図版 -28	
		1.包含層の土器 (7)	
		図版 -29	
		1.包含層の土器 (8)	
		図版 -30	
		1.包含層の土器 (9)	
		図版 -31	
		1.包含層の土器 (10)	
		図版 -32	
		1.包含層の土器 (11)	
		図版 -33	
		1.包含層の土器 (12)	
		図版 -34	
		1.包含層の土器 (13)	
		図版 -35	
		1.包含層の土器 (14)	
		図版 -36	
		1.包含層の土器 (15)	

図版 -37

1. 包含層の土器 (16)

図版 -38

1. 包含層の土器 (17)

図版 -39

1. 包含層の土器 (18)

図版 -40

1. 包含層の土器 (19)

図版 -41

1. 包含層の土器 (20)

図版 -42

1. 包含層の土器 (21)

図版 -43

1. 包含層の土器 (22)

図版 -44

1. 包含層の土器 (23)

図版 -45

1. 包含層の石器 (1)

図版 -46

1. 包含層の石器 (2)

図版 -47

1. 包含層の石器 (3)

図版 -48

1. 包含層の石器 (4)

図版 -49

1. 包含層の石器 (5)

図版 -50

1. 包含層の石器 (6)

図版 -51

1. 包含層の石器 (7)

図版 -52

1. 包含層の石器 (8)

図版 -53

1. 包含層の石器 (9)

図版 -54

1. 包含層の石器 (10)

I 調査の概要

1 調査要項

事業名 北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財事前発掘調査
 委託者 日本道路公団札幌建設局（平成8年7月1日より、日本道路公団北海道支社）
 発掘期間 平成5年7月14日～8月2日、10月12日～27日
 整理期間 平成8年4月1日～平成9年3月28日
 遺跡名 キウス4遺跡（北海道教育委員会登録番号：A-03-92）
 所在地 千歳市中央208-2・4・6・10・12・15・16
 調査面積 3,380m²

2 調査体制

平成5年度	調査部	調査部長	森田 知忠
		調査第3課長	千葉 英一（発掘担当者）
		主任	佐藤 和雄
		文化財保護主事	皆川 洋一（発掘担当者）
		嘱託	鎌田 望
平成8年度	第2調査部	第2調査部長	鬼柳 彰
		第3調査課長	佐川 俊一
		主任	皆川 洋一（整理、報告書担当）

3 調査に至る経緯

〈高速道路計画及び包蔵地確認調査〉

道東と道央部を結ぶ高速道路―北海道横断自動車道―の基本計画が明らかにされたのは、昭和47年のことで、同61年には千歳～夕張間の整備計画が決定され、翌62年10月23日に日本道路公団札幌建設局（以下、道路公団という）より、埋蔵文化財保護のための事前協議書が北海道教育委員会（以下、道教委という）に提出された。計画ルートは道央自動車道からジャンクションで分岐した後、千歳市と恵庭市の境界に沿って平野部を通り、千歳川を超え、馬追丘陵を横断、空知管内の追分町・由仁町・栗山町を経て夕張市に至る延長44kmである。

道教委は予定路線が千歳市に所在する国指定史跡「キウス周堤墓群」付近を通り、しかも、〈仮称〉千歳東インターチェンジが計画されていることから、昭和62年11月と翌63年4月に本遺跡付近の埋蔵文化財所在確認調査を行った。その結果、「キウス周堤墓群」及び周知の「キウス7号周堤墓」は道路用地にかからないことが確認されたが、山林内に新たに発見された4基の周堤墓が用地内にあることが判明したため、道教委と道路公団はこれらを現状保存する方向で検討することを申し合わせた。

範囲確認調査は平成3年度～8年度にかけて実施され、テストピットから多量に出土した土器の形式や土層の観察などから、上記のもの以外にもいくつかの周堤墓が存在すること、遺物を大量に含む盛土遺構が存在することが明らかになった。道教委は範囲確認調査の結果から、本遺跡が史跡「キウス周堤墓群」から連続する一大周堤墓群の一部を構成するものであると判断し、保存について道路公団と協議を継続する一方、文化庁に詳細を報告した。

道路公団は、〈仮称〉千歳東インターチェンジが地元千歳市の強い要望のもとに、計画されたものであることから、建設計画の変更はきわめて困難であるとの見解を示したが、遺跡が真に貴重なものであるとの判断が示されれば、計画変更について検討せざるを得ないとの判断に達した。

また、文化庁はキウス4遺跡が重要な遺跡であることを認めるとともに、保存のための判断材料が不足していることから、平成5年度中に詳細試掘調査を実施するよう道教委に対して指導した。

〈事前発掘調査〉

以上の経緯に基づいて、道教委は道路公団と協議のうえ、遺構・遺物の分布状況等を詳細に把握するため、トレンチ掘削による試掘調査を計画、道教委の指示を受けた財北海道埋蔵文化財センターは、平成5年7月から10月にかけて事前発掘調査を実施した。

この調査によって、工事計画範囲には耕作によってかなり破壊されている部分があることが判明したが、新たに9基の周堤墓が確認されたほか、土器・石器などの遺物を大量に含む盛土遺構が南北に分かれて広がっていること、出土遺物の大部分は周堤墓と同時期のものであり、竪穴住居跡や土壌などもあることから、本遺跡は縄文時代後期の大規模な遺跡であることが確定的になった。

範囲確認調査の成果に基づき、道教委は文化庁の指導を得ながら道路公団との協議を継続した。その結果、道路本線が遺跡内を通過すること、インターチェンジの位置変更は行わないことが確定的となったが、両者は管理ヤードの位置を変更すること、判明している周堤墓については設計変更により、可能な限り保存することを等を申し合わせた。このため、道路公団は本線の盛土工事予定範囲の一部を橋梁に変更し、本線とランプウェイの間に予定していた管理ヤードをインターチェンジの外へ移すなど、種々の設計変更を行った。

〈その後の発掘調査の経過〉

上記のような経緯の後、本遺跡の本格的な発掘調査は平成7年度から開始された。7年度には9月～10月の2ヵ月間に6ヵ所の橋台部分計2,429㎡を調査、8年度は本線からランプウェイにかかる部分の3,930㎡について調査した。両年度の遺物整理については、現在実施中である。

平成9・10年度にはそれぞれ2万㎡余りを発掘して現地作業を終える予定であるが、整理作業、報告書作成にはさらに数年を要する見込みである。

本書は平成5年度に実施したキウス4遺跡の事前発掘調査に関する報告書である。調査結果については平成5年度中に概要報告を作成したが、今回、残されていた遺物整理作業を行って、本報告書にまとめたものである。

調査区の設定は道教委が平成3・4年度に実施した範囲確認調査のそれにならった。トレンチの掘開は道教委が20m間隔で行った調査の間を埋める様に展開し、必要に応じて追加・拡張を行なった。トレンチの掘り下げは耕作土を重機で行ないその下層を人力で行なった。現地形は10mのグリッドポイント毎の高さを押さえ測量した。土層は各トレンチの土層断面に現われた高さを可能な限り記録している。出土した遺構・遺物の記録・取り上げは10×10mグリッドを基本に行なった。

3. 調査に至る経緯

表 I - 1 検出遺構一覧

層位	遺構名	遺構記号	遺構数
IV層上位	焼土	F	1
IV層下位	周堤墓	X	9
	盛土遺構		2
	住居跡	H	1
	土壇	P	3
	柱穴状小ピット	SP	6以上
	焼土	F	9以上
計			31以上

表 I - 2 出土遺物一覧

	遺構	包含層
縄文早期土器	14	59
縄文後期土器	408	18,963
縄文晩期土器	0	58
不明土器	74	28
剥片石器	9	349
礫石器	14	258
剥片・石屑等	90	2,159
石核	0	13
礫・礫片等	530	517
土製品	0	2
石製品	1	1
自然遺物	有り	有り
現代遺物	0	97
計	1,140	22,504
総計	23,644	

4 位置と環境

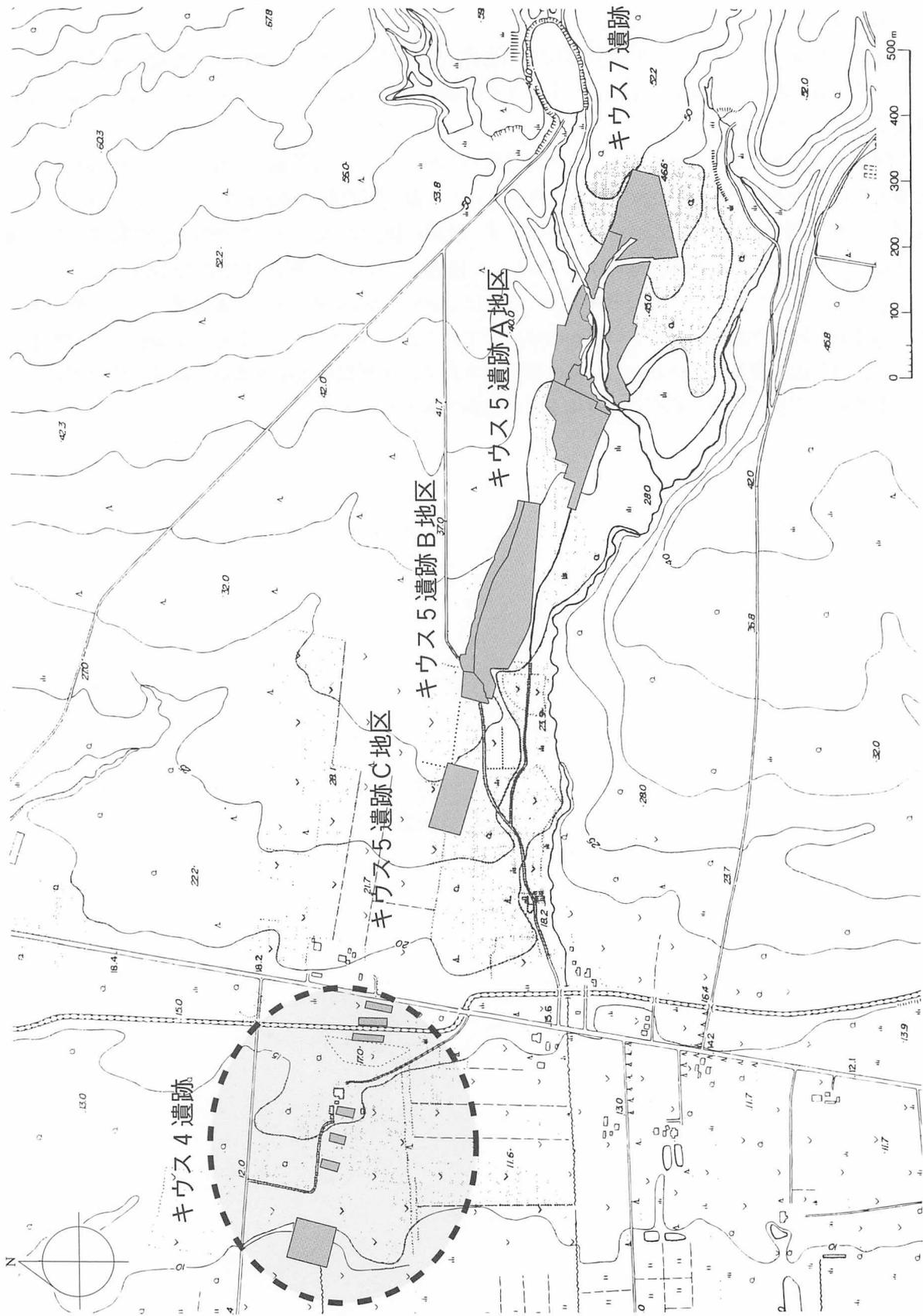
キウス4遺跡は、石狩低地帯の南東部を南北に延びる馬追丘陵の西斜面裾部（標高9～19m）に所在する縄文時代の遺跡である。丘陵裾に沿って千歳市から北隣の長沼町方面へ国道337号が通っており、これにほぼ並行して南長沼用水が流れている。千歳市の市街地から北東へ約8kmの位置にあたり、西方の平野を挟んで、樽前山、恵庭岳、空沼岳などの山並みが遠望できる。

本遺跡の範囲は国道から西に約400m、南北方向に約300mの広がりがあり、面積は約9万㎡におよんでいる。西方約5kmを流れる千歳川右岸に続く平野部は、かつて長都沼（オサットー）、馬追沼（マオイトー）などの湖沼が水を湛えていたところだが、第二次大戦中から数次にわたる干拓で埋め立てられ、今は丘陵裾から続く広大な耕地になっている。本遺跡が立地する緩やかな斜面も横断道用地になるまでは、畑として利用されていたところである。千歳川は本来、長都沼を通過していたが、埋立ての際に流路を今の位置に変更したものである。

本遺跡の北東約300mには、同じ丘陵裾部に立地する国指定史跡「キウス周堤墓群」があり、東側の丘陵上にはキウス5遺跡とキウス7遺跡が位置している。また、縄文時代の環壕が発掘された丸子山遺跡が南方約2kmに所在している。

遺跡名の「キウス」は、明治末頃まで本遺跡付近を示す地名であった。その由来について、永田方正の『北海道蝦夷語地名解』には、「Kiusi・キウシ 鬼芽多き處・川ノ名」と記されている。明治29年の仮製5万分1図には、馬追丘陵を西流して本遺跡付近で平野部に入る「キウシ」と本遺跡の西端部を北流して、長都沼と馬追沼をつなぐ「イカベツ」に合流する「オルイカ川」が描かれている。さらに、長都沼の周辺にはそのころ湿地が広がっていたらしい。本遺跡の南部や西端部では、現在も丘陵部からの伏流水が地下に流れ込んでおり、試掘の際にも多量の湧水があった。

「キウス周堤墓群」は、河野常吉が明治末期から大正初期にかけて調査（大正7年『北海道史-付録地図』他）して以来、先史時代の巨大構築物として注目されることとなった。河野常吉はこの遺構を「チャシ」と報告しているが、昭和39・40年の大場利夫、石川徹による調査（昭和42年『千歳遺跡』）によって、縄文時代の共同墓地であることが明らかにされた。その後、「キウスの環状土籬群」と呼ばれてきたが、昭和54年の国史跡指定の際に「キウス周堤墓群」と改称され、今も原生林の中に



図I-2 遺跡周辺の地形

4 位置と環境

保存されている。指定区域内に残されている周堤墓は7基あって、規模は外径約70m、周堤の高さが約5mに達するものがある。

千歳市や北隣の恵庭市では、昭和50年代から各種の開発に伴い多くの遺跡で周堤墓の発掘調査が行われ、その数は31基におよんでいるが、「キウス周堤墓群」のものは、これらの中でも群を抜いて大規模であることが知られている。

今回調査したキウス4遺跡は「キウス周堤墓群」に近いことから、発見の経緯もこれと関連が深い。大場・石川の報告によると、かつては本遺跡付近にも4基の周堤墓が地表に見えたらしい。このうち、南側の3基（『千歳遺跡』挿図8・9・10号）は、位置に疑問が残るが、今回の事前発掘調査で判明したものの一部と考えられる。当時は「一群として接近して存在し、現在は完全に耕地になっており、その原形はわずかにうかがえる。」状態だったという。他の1基（同書7号）は本遺跡のすぐ北側にあって、当時から用水や道路によって一部が破壊されていたが、今も「キウス7号周堤墓」として残されている。所在確認調査で発見された4基の周堤墓を含め、周堤墓は指定区域から連続して分布しており、本遺跡は「キウス周堤墓群」と一体をなす遺跡であるものと考えられよう。

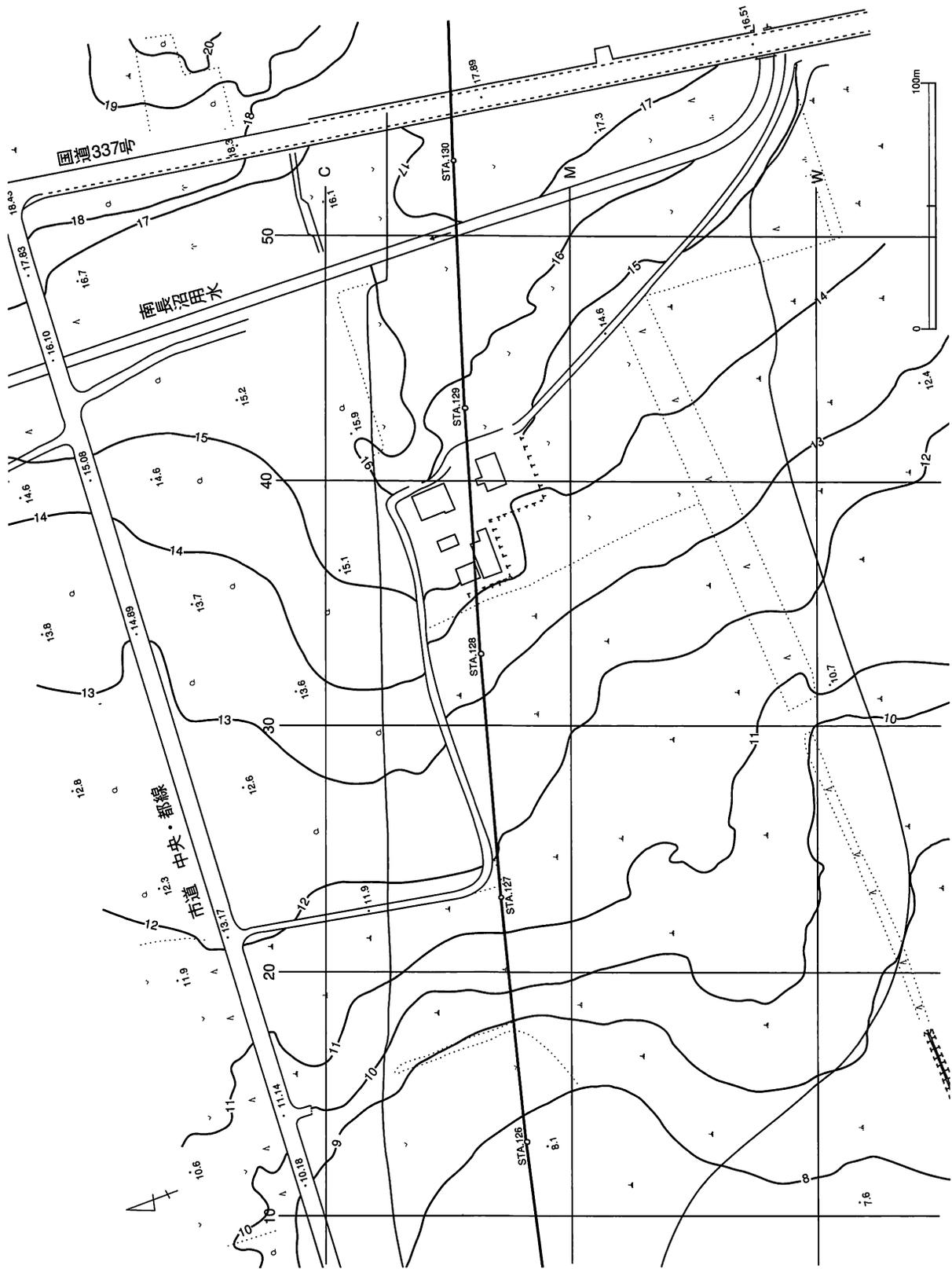


図 I-3 調査区の設定

5 遺物の分類

5 遺物の分類

(1) 土器

I群 縄文時代早期に属するもの。

a類 貝殻腹縁圧痕文、条痕文のある土器群。(今回は出土していない)。

b類 縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文などの施される土器群。

b-1類 東釧路Ⅱ式、東釧路Ⅲ式に相当するもの。(今回は出土していない)。

b-2類 コッタロ式に相当するもの。

b-3類 中茶路式に相当するもの。(今回は出土していない)。

b-4類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの。

a類 縄文の施された丸底、尖底を特色とする土器群。

a-1類 網文式土器に相当するものと、結束のない羽状縄文の施された丸底を特色とするもの(今回は出土していない)。

a-2類 春日町式、中野式など、縄文の施された尖底を特色とするもの(今回は出土していない)。

b類 円筒土器下層式、植苗式に相当するもの(今回は出土していない)。

Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの。

a類 円筒土器上層式に相当するもの(今回は出土していない)。

b類 a類以外のもの。

b-1類 天神山式に相当するもの(今回は出土していない)。

b-2類 柏木川式に相当するもの(今回は出土していない)。

b-3類 北筒式(トコロ6類)、ノダップⅡ式、煉瓦台式に相当するもの(今回は出土していない)。

Ⅳ群 縄文時代後期に属するもの。

a類 余市式、入江式に相当するもの。

b類 船泊上層式、手稻式、ホッケマ潤式、エリモB式に相当するもの。

c類 堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当するもの。

Ⅴ群 縄文時代晩期に属するもの。

a類 大洞B式、上ノ国式に相当するもの。

b類 大洞C₁式、大洞C₂式に相当するもの(今回は出土していない)。

c類 大洞A式、大洞A'式、タンネトウL式に相当するもの(今回は出土していない)。

Ⅵ群 続縄文時代に属するもの。

Ⅶ群 擦文時代に属するもの(今回は出土していない)。

(2) 石器・石製品

大分類として剥片石器群、磨製石器群、礫石器群を設定し、群ごとに以下の順で器種別に並べた。なお、分類の方法および遺物の名称等については、これまで北海道埋蔵文化財センターによって刊行された報告書におよそならったものである。

剥片石器群

石鏃（平面の形態による分類）

ポイントまたは両面加工のナイフ（平面の形態による分類）

ドリル（平面の形態による分類）

つまみ付ナイフ（加工状況による分類）

スクレイパー（平面の形態および加工状況による分類）

加工痕のみられる剥片（Rフレイク）

楔形石器

石核

剥片、碎片

原石

磨製石器群

石斧（刃部の形態による分類。のみ形のものも含める。）

石斧原石

擦切残片

剥片

礫石器群

砥石

すり石（定形的なものと不定形なものに分けられる。不定形のは素材の形状によって分類した。）

たたき石

くぼみ石

石皿

台石

加工痕のみられる礫

礫、礫片

石製品

（3）土製品

土玉類、オロシガネ状土製品などがある。

（4）自然遺物

明瞭な加工の見られない生物遺体を自然遺物とした。動物遺体が見られる。

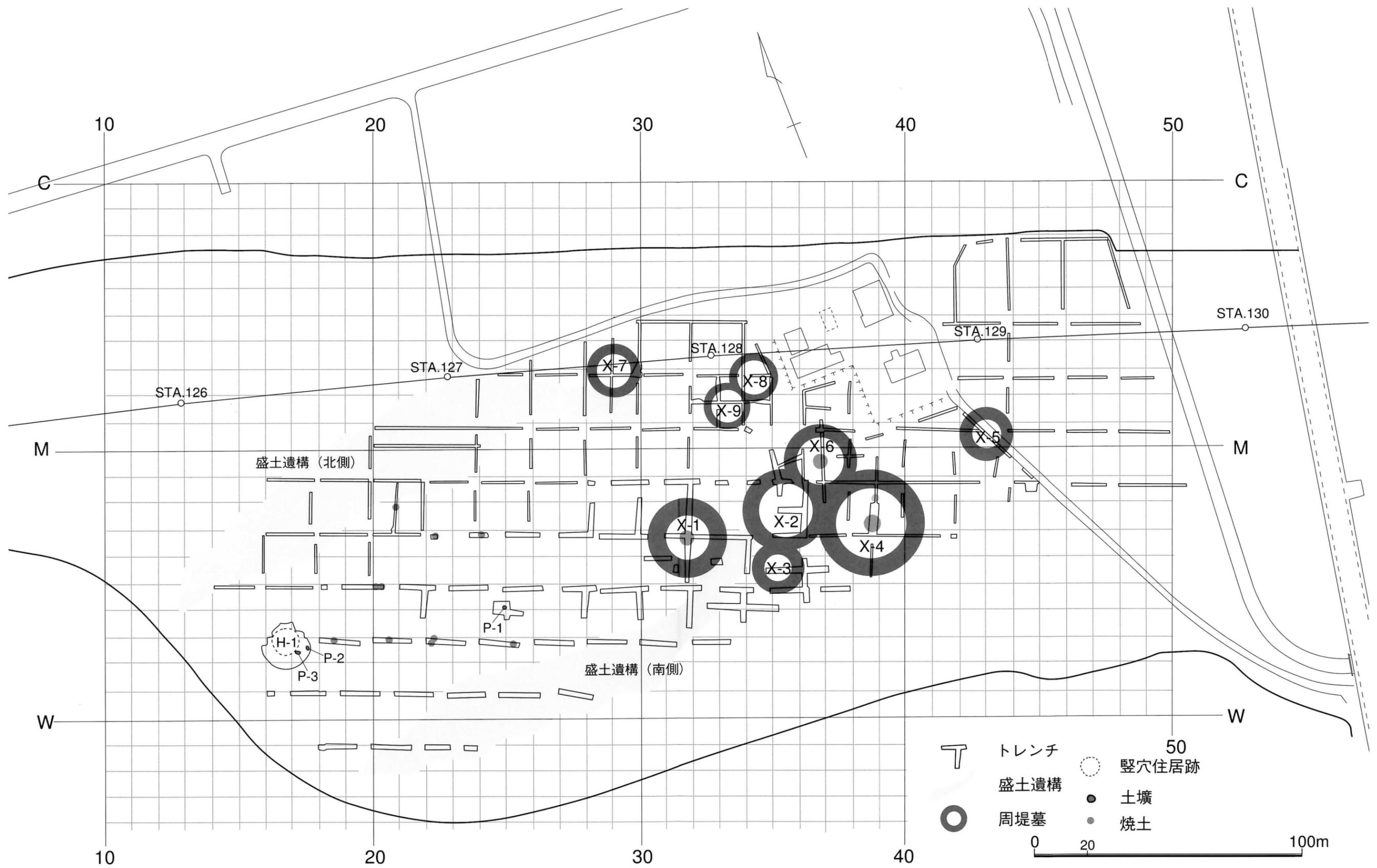


図 I-4 トレンチと遺構の位置

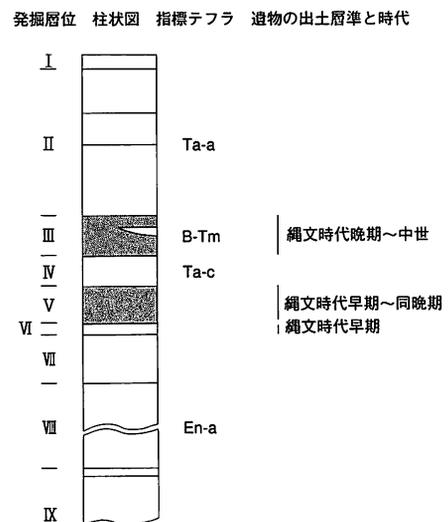
II 土層と盛土遺構

1 土層 (図II-1 / 図版-3)

キウス4遺跡は馬追丘陵西端に立地しており、遺跡の周辺に発達する丘陵、谷底平野、古砂丘、扇状地、沖積低地といった地形の中でキウス4遺跡が位置するのは沖積低地に面した丘陵部である。

これらの地形面を覆って恵庭岳起源の降下軽石 En-a が良く発達しており、その直上にはこれの風成二次堆積物が認められる。遺跡はその上位に発達した腐植土の中から検出されている。以下、土層の概要と発掘上の層区分を図II-1に示す。この図は主にオサットー1遺跡、キウス7遺跡の地質を参考にTラインのトレンチ列のものから作成しているが、En-a以上はキウス4遺跡にもほぼ共通である。各土層の概要は次のとおりである。

- I層：現表土、耕作土。大きく攪乱を受けている軽石混じりの黒色土。層厚約20～30cm。攪乱で動いた大量の縄文時代後期末の遺物が含まれている。
- II層：樽前山起源の降下軽石 Ta-a。砂質のテフラを主体とし、数枚のフォールユニットから成る。下部と上部は礫質で粗粒となる。層厚約0～20cm。A.D.1739年降下。この層には心土破砕が原因と考えられる溝状の攪乱が広範に認められ、かつ耕作や削平などによってすでに失われた部分も少なくない。最も明瞭に残っていたのが周堤墓の上位層に形成された窪地内であったため、周堤墓の位置を確認する一つの手段となり得ている。
- III層：黒色粘土質腐植土。粒径0.5cm > の岩片・軽石を多く含む。層厚10～15cm。白頭山起源の B-Tm の薄層(層厚1cm >)が認められる。「第1黒色土」相当。II層で見られる攪乱の多くが本層にも及んでいる。縄文時代晩期～中世の遺物包含層。調査区東部で焼土が検出された。
- IV層：樽前山起源の降下岩片 Ta-c が混じる腐植土。Ta-c の粒径0.5cm ±。層厚5～10cm。Ta-c は曾屋・佐藤(1980)の Ta-c1 である。B.C.300～500年頃降下。
- V層：黒色粘土質腐植土。層厚5～20cm。「第II黒色土」相当。各調査トレンチで層厚が顕著に異なる。本層中には周堤墓や盛土遺構など大規模な土木作業を伴うと考えられる縄文時代後期末頃の遺構が多く検出されていることから、人為的な要因による可能性がある。また、南北二つの盛土遺構に挟まれた空間のV層は、層厚的にも色調的にも薄いものが多い。トレンチセクションで示したものは基礎的なデータを
得るためにあえて相当する基本層序の層位を当てている。縄文時代早期～同晩期の遺物包含層。
- VI層：暗褐色粘土質腐植土。層厚約10cm。縄文時代早期の遺物が出土する。周堤や盛土を作る主な材料となっている。
- VII層：褐色ローム。本層直下の En-a の軽石を少量含む。層厚約20～30cm。周堤や盛土を作る主な材料となっている。
- VIII層：恵庭岳起源の降下軽石 En-a。粒径0.5-3cmの明褐色の軽石から成る。層厚約100～cm。B.C.13,000～15,000年頃降下。



文献

曾屋龍典・佐藤博之 1980 『千歳地域の地質』地域地質研究報告(5万分の1図幅) 地質調査所

図II-1 遺跡における土層柱状図

2 盛土遺構

2 盛土遺構 (図 I - 4)

遺跡は東から西に向かって徐々に低くなる丘陵裾野の緩斜面上にあり、西端部と南端部は低湿地に面している。その調査区の南北両端で確認された二つの盛土遺構はいずれも今回の調査地区外へ広がる長大な規模を誇る遺構である。ともに幅 10～50 m、長さ 150 m 以上、厚さ 0.60 m 以上を計るが、今回確認された部分は包含層と同様に大きく攪乱を受けている。特に盛り土の頂部については周堤墓と同様に削平の憂き目に会い、原型を止めるものは皆無であった。

この南北の両盛土遺構は、調査区の中央部から西側にかけて確認された住居跡、土壙、小ピット、焼土などの遺構群を囲む様な位置関係にあると推定される。調査区東側で検出された周堤墓群とは両盛土遺構の東端部で一部重複するようだが、新旧関係及び構造については不明瞭である。時期は出土する遺物から縄文時代後期末頃と考えられるが、同じ時期と考えられる各遺構に「住み分け」の傾向と重複の関係が認められ、これらが若干の時間幅を持って作られている可能性がある。

盛土遺構の確認作業はその広大な範囲を押さえるのを第一の目的に、必要なトレンチを設けた。トレンチ内で検出された盛り土の多くは面的な確認に止めたが、層厚、堆積状況、包含遺物など必要最小限の資料のを得るため、主に北側の盛土遺構については P ラインのトレンチ、南側の盛土遺構については T ラインのトレンチを選んで各々盛り土を掘り下げる調査を行っている。

堆積状況 (図 I - 9～11 / 図版 - 9～11)

主に基本層序の V～Ⅷ層に相当する土壌で構成されており、割合としては VI・Ⅶ層が主体で V・Ⅷ層は比較的少ないようである。各土壌は明瞭に分層されるのではなく、混然と一体になった土壌の中でどこかの層の土の割合が幾分多いといった分け方で認識される。盛り土の堆積はその様な土壌が、薄くて小さな単位で幾重にも重なっている。盛り土の中から見つかる焼土や一括遺物の検出状況も面的な様相を見せており、この観察結果とも矛盾しない。このことから、小さな単位の土を徐々に積み上げていった盛土遺構の制作方法が推定される。

この堆積状況は南と北の盛り土でも大きくは変わらず、これらが同時に築かれた可能性も考えられる。しかし、双方の盛り土の下に V～Ⅶ層がなく直接Ⅷ層があるといった部分が観察されており、このまるで削平を受けたような痕跡が盛り土の供給に関わるとした場合、二つの盛土遺構がしめる広大な土地に対し削平と盛り土の土木作業を同時に行ったとは考えづらい。同じ V～Ⅶ層を大量に使う周堤墓との関わりからも、時間差をもった段階的な土木作業が行われたと考えるのが妥当と思われる。

なお、トレンチ内の盛土の下から他の遺構が検出されることは少なく、全域でも盛土遺構と同じ時期の遺構は、大きくは重複しないものと思われる。

盛り土に包含される遺構・遺物 (図 IV - 1～18 / 図版 18～54)

今回の調査で多く検出された遺構は焼土である。熱による赤化の度合いで大きく二つに分けられる。一つは強く赤化が見られるその場で生成された焼土、もう一つは赤化の弱い二次的に投棄されたと考えられる焼土で、割合的には後者が多く遺物とともにかなりの量が運ばれてきていると考えられる。

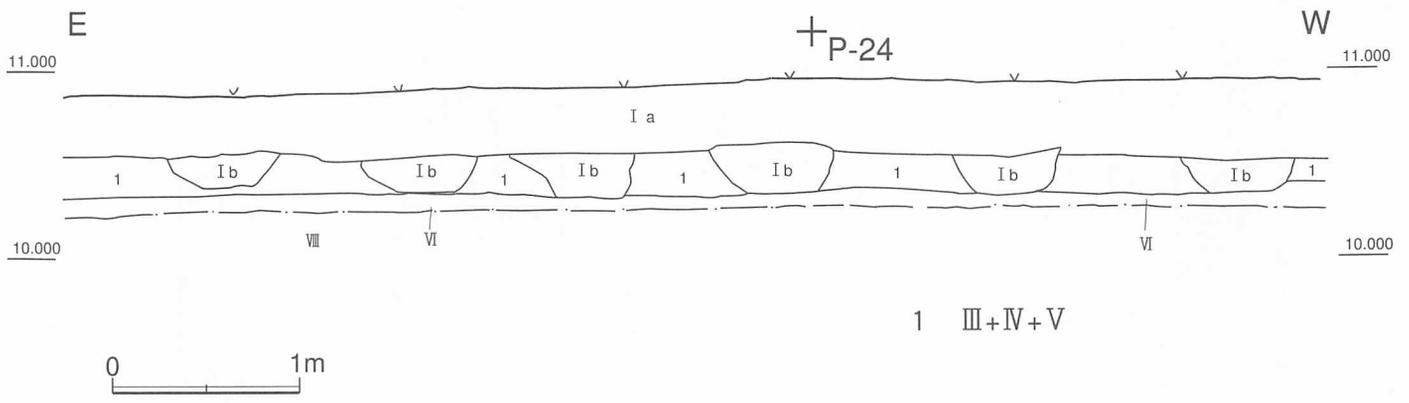
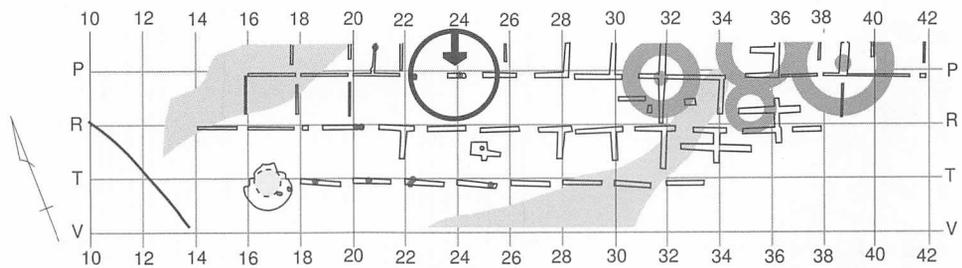
これらは恐らくこの土壌の重なり狭間に遺棄もしくは廃棄されたと考えられる。

遺物は縄文時代後期末頃のもの的大量に包含している。土器は IV 群 c 類の堂林式土器が圧倒的に多く、これには復元可能なものが面的に出土する場合と、ほとんど接合しない小破片が出土する場合とがある。また、焼土との関連が伺われる遺物は今回見られなかった。石器類も大半が IV 群 c 類に伴うものである

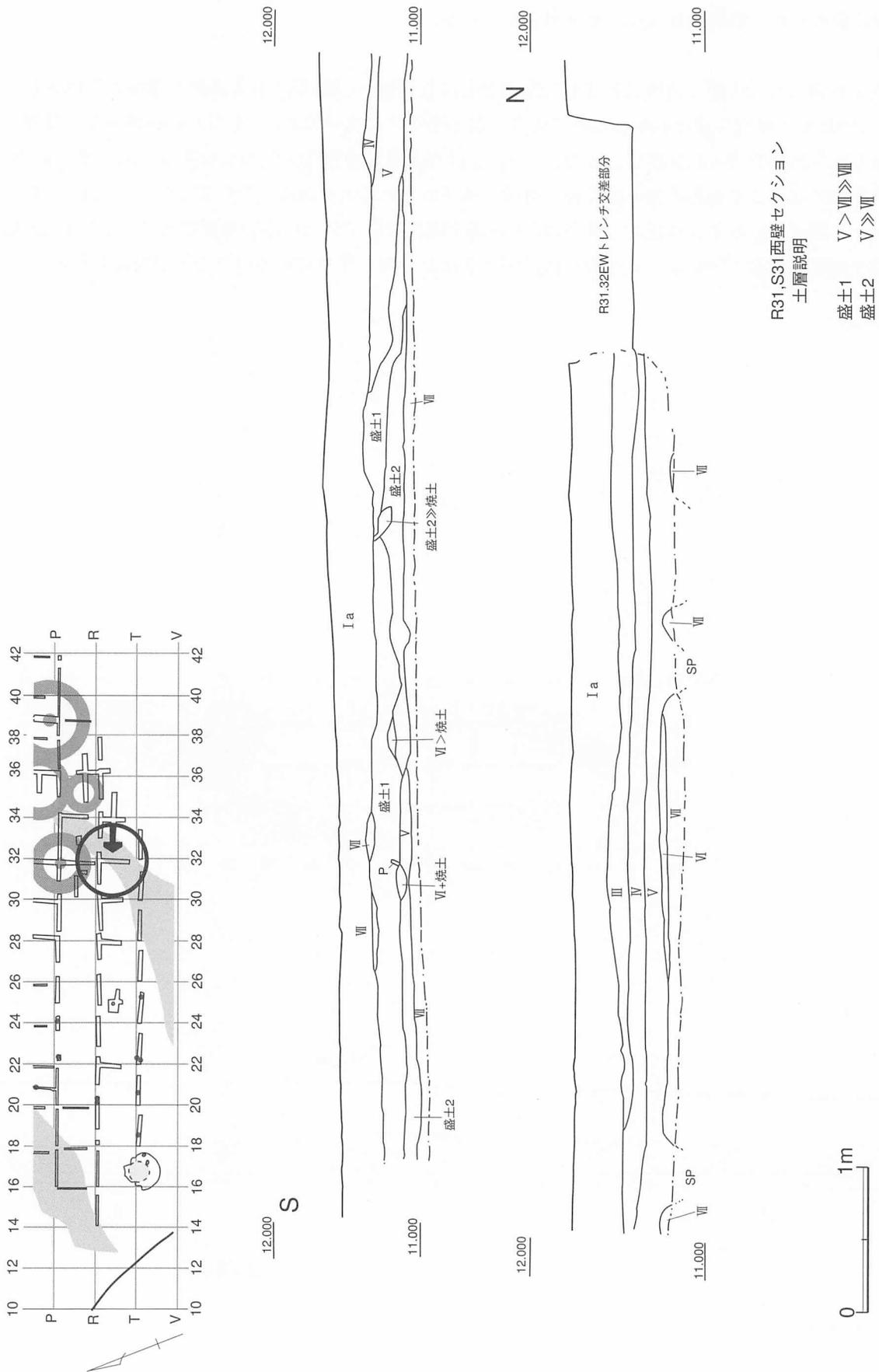
が相対的には遺物の中で石器の占める割合は少ない傾向にある。これ以外では、焼けた動物遺体の細片が無数に認められ、植物遺体も極少量が出土している。

その他

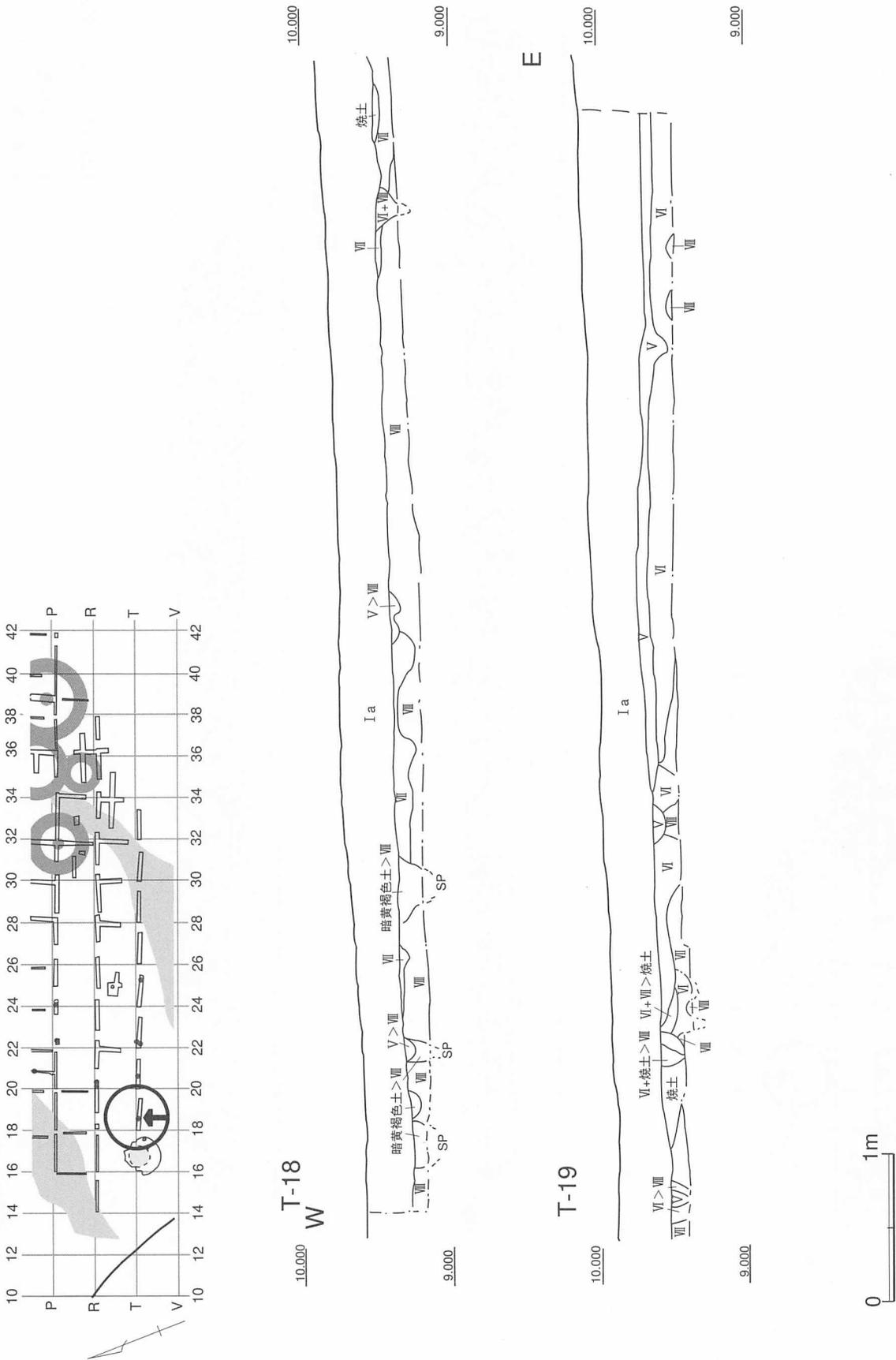
調査区西側の南北の盛土遺構に挟まれた空間からは住居跡、土壙、焼土など多数の遺構が検出されている。この部分は現代の農地利用のために大きく削平を受けた部分であり、そのため遺構の多くは掘り込み面や掘り込みを失った状態であった。この部分は本来的に沖積低地に面した高台の地形で、縄文時代後期末頃にはそこで各種の営みが行われ遺構が残されたと考えられる。このことから、現在、西側に向かって開けているように見える地形は、実は縄文時代後期末には小高い地形であり、更に南北の盛土遺構が配置されることによってその内部に閉ざされた空間を作りだしていたことが想定される。



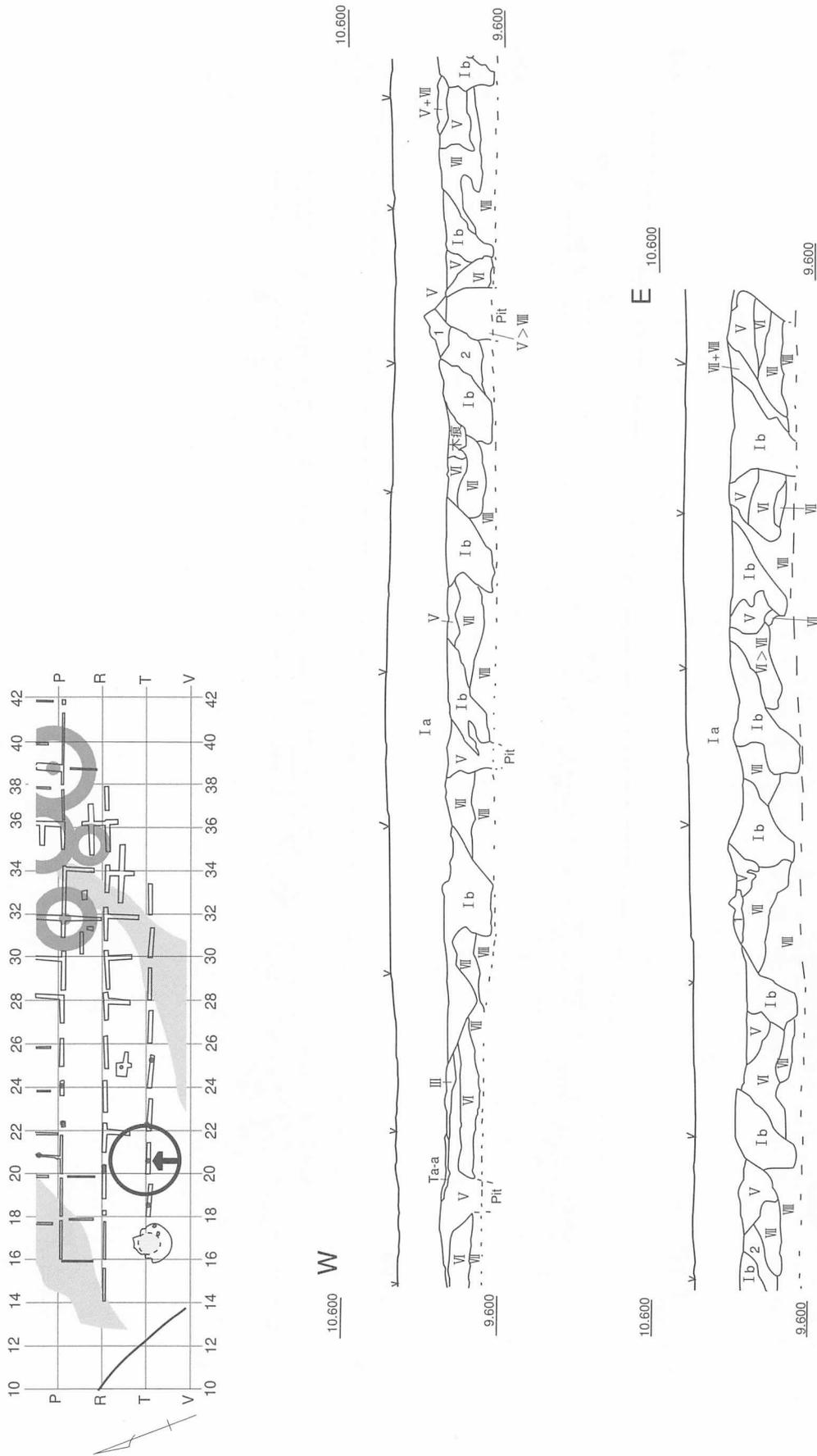
図II-2 Pラインセクション



図II-3 R31,S31西壁(南側盛土遺構)セクション



図II-4 T18.19北壁セクション

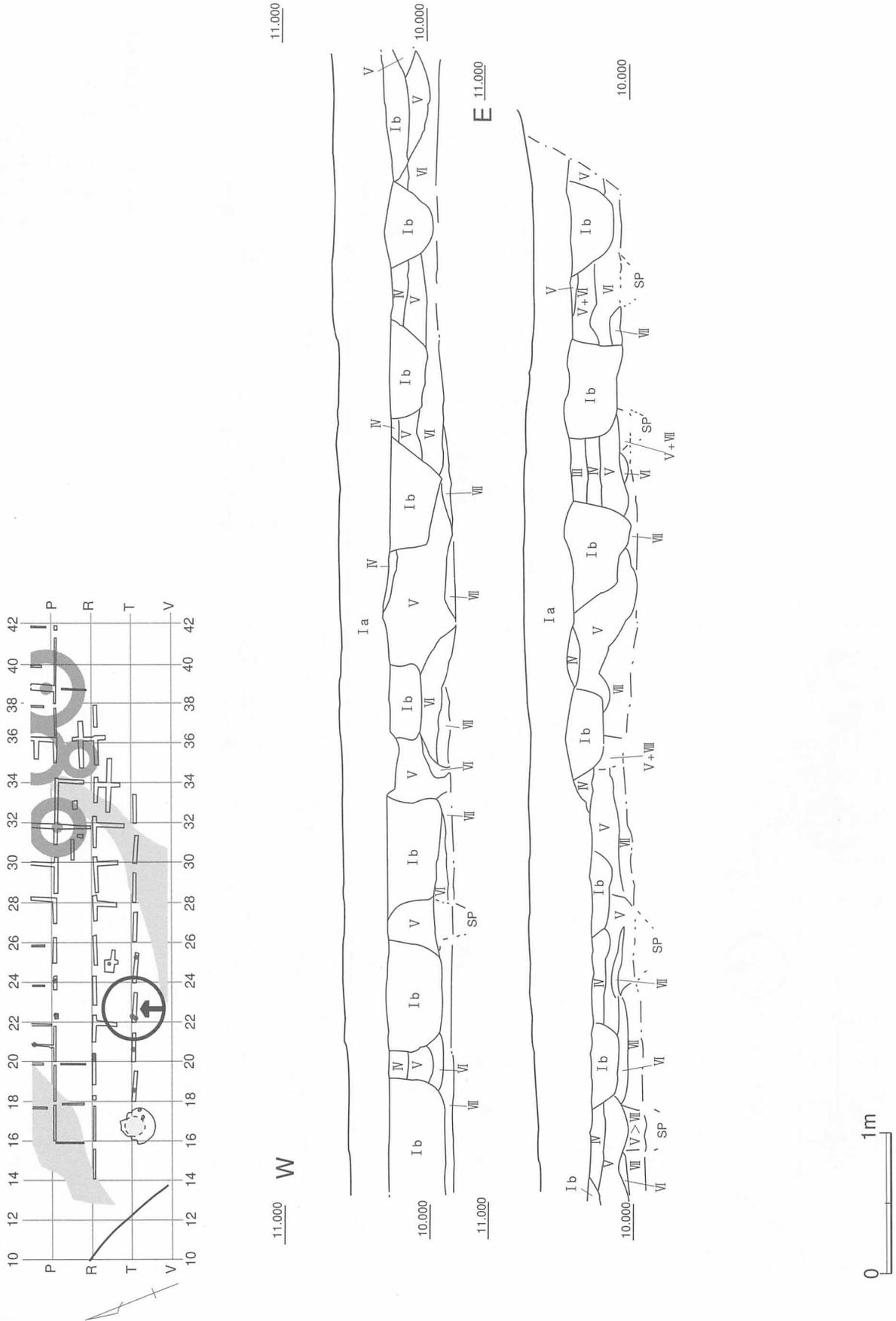


T20.21セクション土層説明

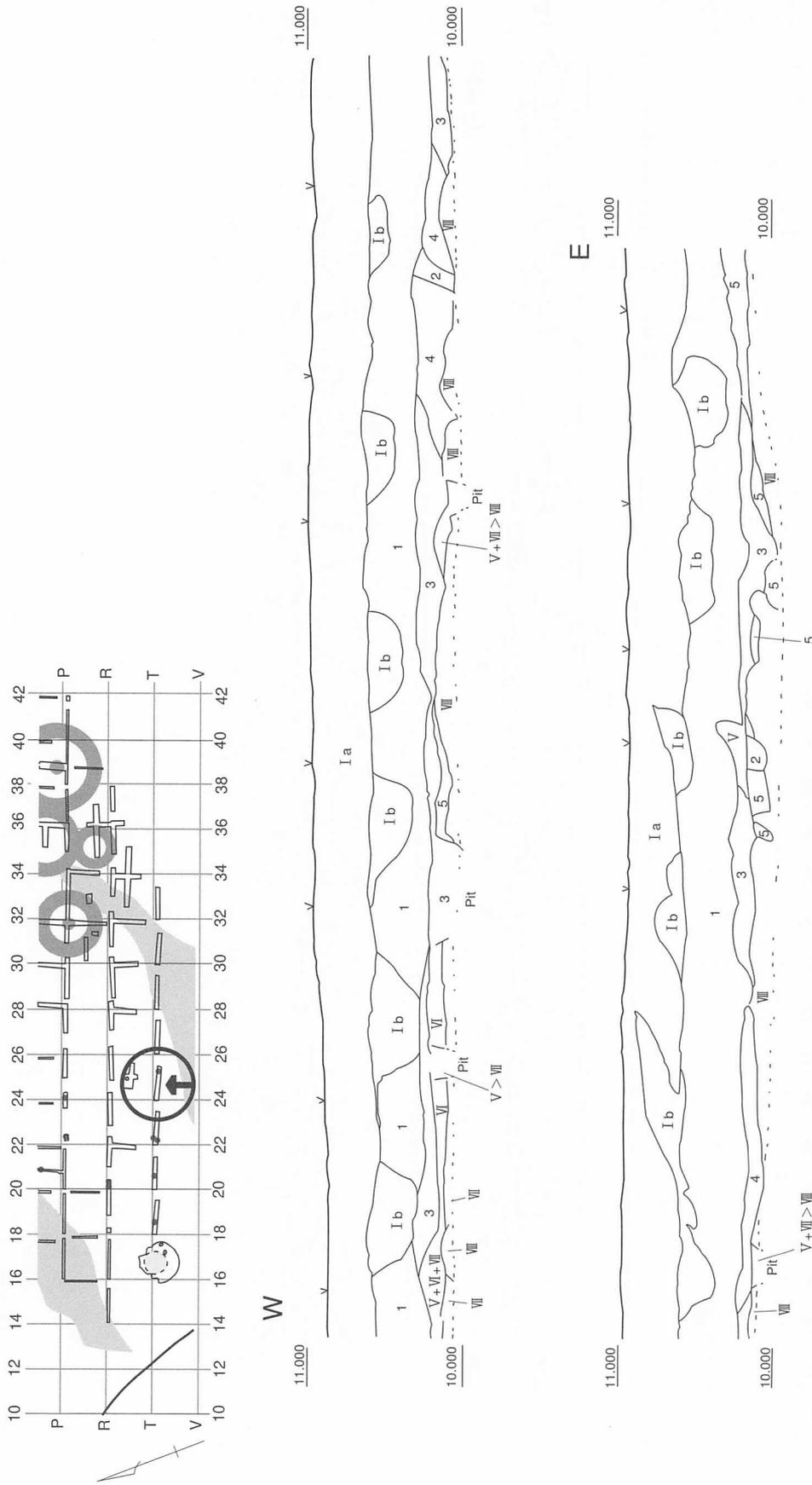
- 1 V > VII > VIII
- 2 VII > VIII



図II-5 T20.21北壁ロングセクション



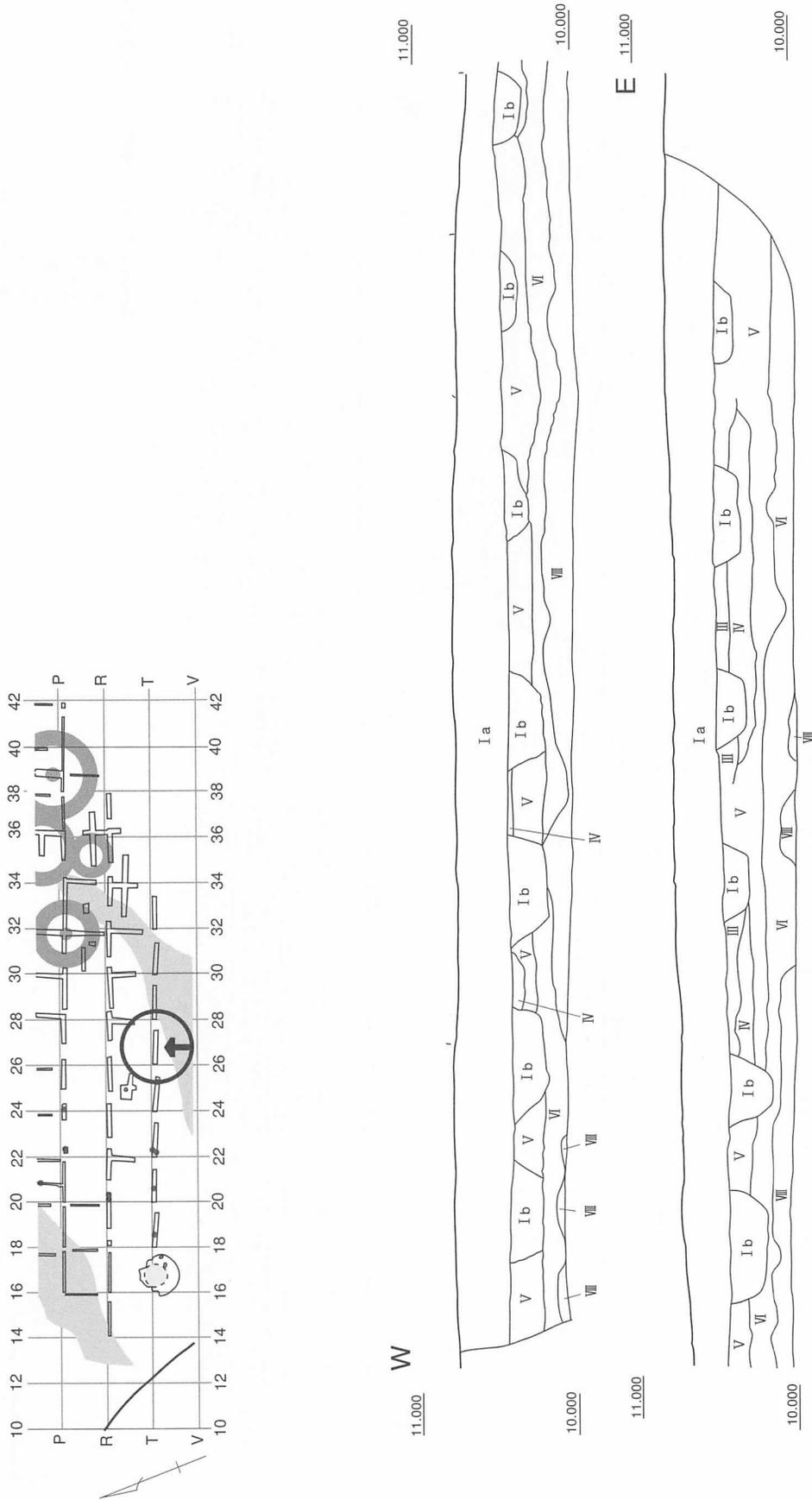
図II-6 T22.23北壁セクション



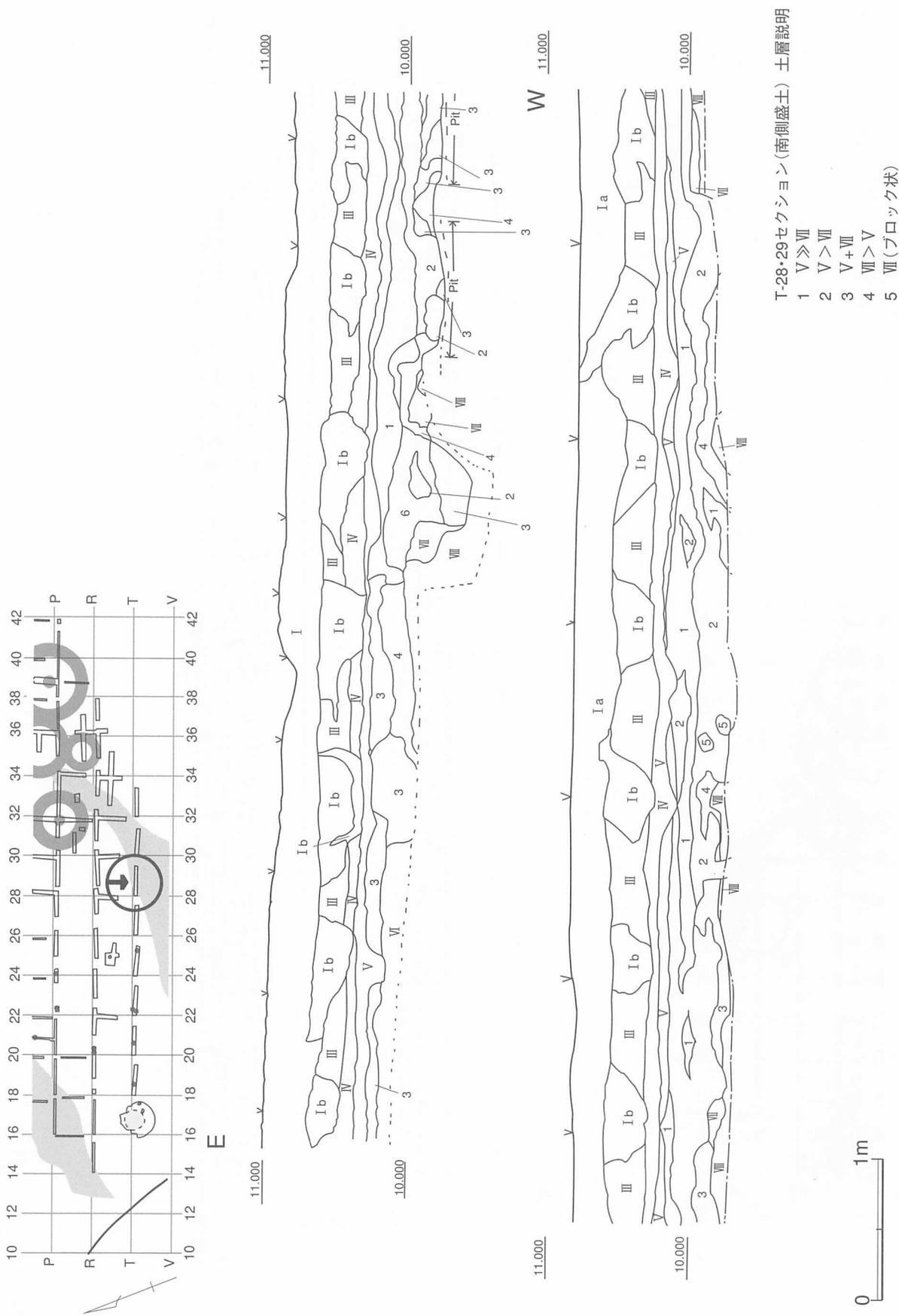
T24.25セクション土層説明

- 1 黒色土(Ⅲ+Ⅳ+Ⅴ)
- 2 Ⅲ+Ⅳ+Ⅴ>Ⅷ
- 3 Ⅴ>Ⅷ
- 4 Ⅴ>Ⅷ>Ⅷ
- 5 Ⅴ+Ⅶ+Ⅷ

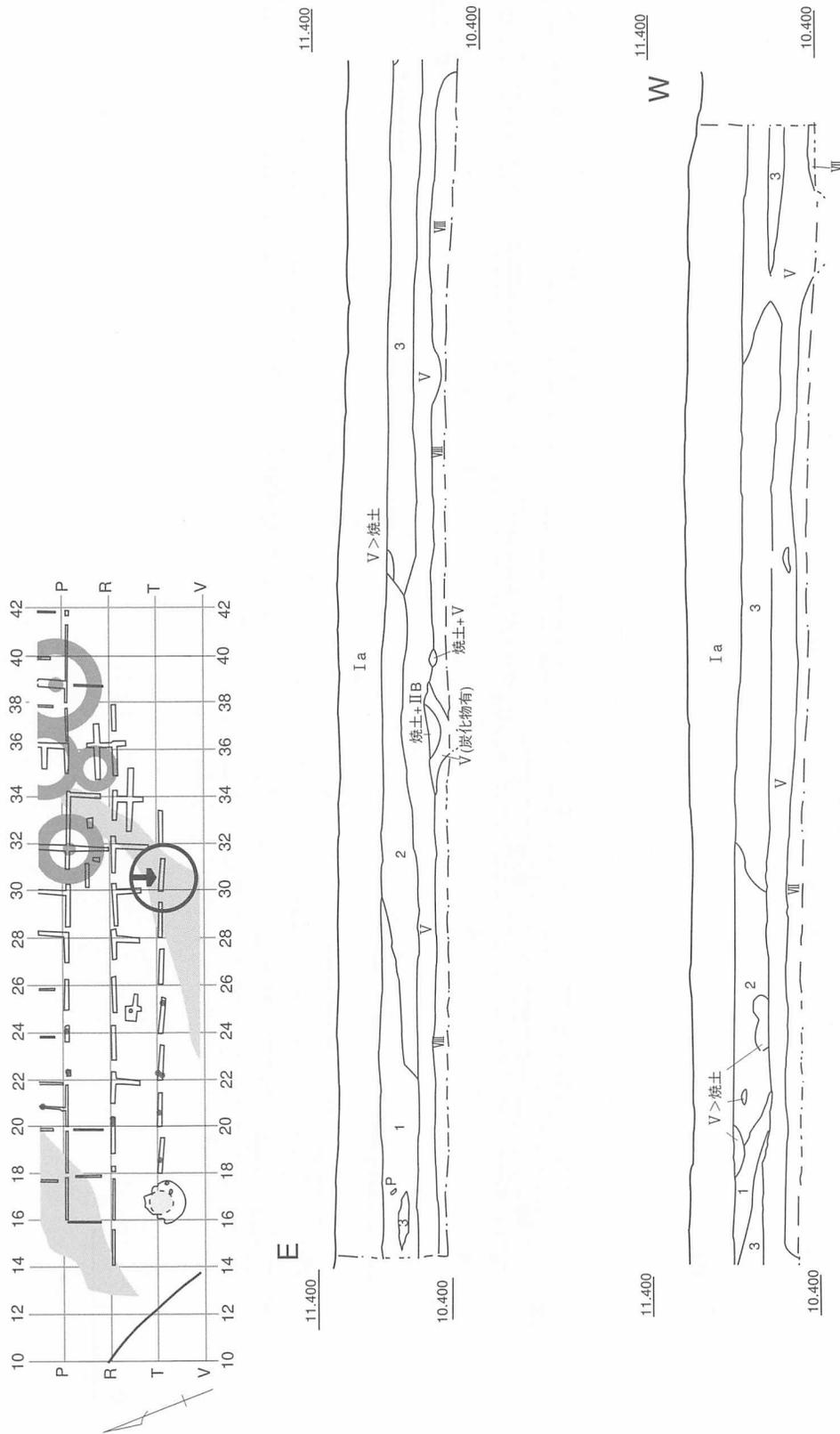
図Ⅱ-7 T24.25北壁ロングセクション



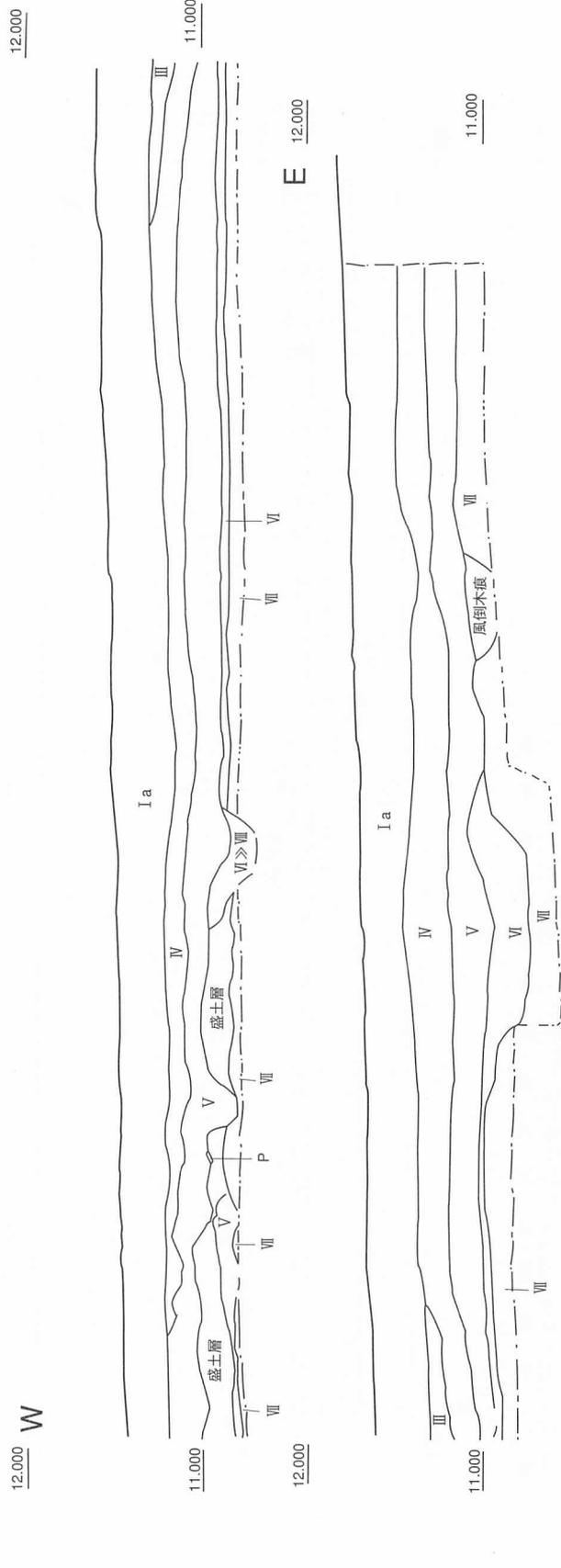
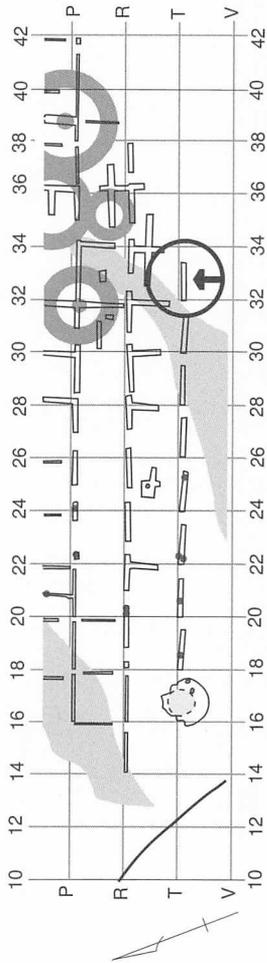
図II-8 T26.27北壁セクション



図II-9 T28.29南壁(南側盛土遺構)セクション



図II-10 T30.31南壁(南側盛土遺構)セクション



図II-11 T32.33北壁(南側盛土遺構)セクション

Ⅲ 遺構

V層中から周堤墓(X-1~9)、住居跡(H-1)、土壙(P-1~3)、柱穴状の小ピット(SP-1~3を含む多数)、焼土(多数)、盛土遺構(南側・北側)などを検出した。

1 周堤墓(図Ⅲ-12~/図版-4~9)

今回の調査ではV層から9カ所の周堤墓が確認された。これらは国指定史跡『キウス周堤墓群』と地形的には同じ面にあり、一つの大きな群を構成しているものと考えられる。周堤墓の調査は遺跡保護のため必要最低限に止めており、周堤及び周堤内の土壙墓に完掘したものはなく全てトレンチによる調査である。

遺構の確認はI層の表土を除去した段階で、II層:Ta-aが入るIII層の窪みによるものと耕作や心土破碎の攪乱に見られる周堤の痕跡とによる。周堤の頂部は耕作や心土破碎の攪乱が著しく原型を止めているものはほとんどない。また、外径と内径に関しても一部を除いて(X-4・6)完掘したデータではない。

全般的な傾向であるが周堤部はV層腐植土中の面にVI・VII層を盛土して作られていると考えられ、盛り土にVIII層En-aパミスが使われた形跡はない。周堤内はVII層中まで堅穴形に掘り下げられており、周堤部はその排土を盛り土したと考えられる。堅穴の床面に台の様な高まり(以後、マウンド)が備わる場合はその部分だけを掘り残したもので、周堤に接した部分も含めて床面からの立ち上がりは角の明瞭なものとなっている。マウンドは平面がほぼ円形で周堤の中央に位置し、その上面もVI~VII層上面まで剥かれている。周堤内マウンド上と堅穴床面では墓と考えられる土壙(以下、土壙墓)が検出されており、マウンド上の土壙墓は埋め戻し土が掘り込み面まで充填されたものでプランは不明瞭である。これらには立石を伴うものもある。堅穴床面のものは土壙墓上面の陥没した部分に腐植土が流れ込んで不整形ながらプランは明瞭に認識される。なお、今回調査された範囲に限ってではあるが、時期や性格の異なる他遺構との明らかな重複は認められなかった。

堆積土層についてはV層に相当する腐植土の層厚が周堤の内外で異なることが指摘できる。すなわち、周堤内で厚く周堤外及び周囲の包含層が非常に薄い。この事象はトレンチで周堤内を床面まで掘り下げたX-1・4で認められたものであるが、原因としては周堤墓周辺に植生が乏しかったことや土地の削平などが考えられ、周堤内は意図的に黒色土を運びいれて盛土やマウンドの黄褐色土と黒色土とによる色調的なデザインがなされていた可能性がある。

X-1~7は周堤と堅穴の掘り込みから明らかな輪郭を示すが8・9号は心土破碎のため1~7号と表Ⅲ-1周堤墓一覧

遺構名	規模		確認土壙数	備考
	外径	内径		
X-1	約32 m	約19 m	1	マウンド・立石有り
X-2	約31 m	約19 m	0	
X-3	約19 m	約10 m	0	
X-4	約41 m	約27 m	9	マウンド・立石有り
X-5	約20 m	約14 m	0	
X-6	約28 m	約17 m	0	マウンド有り
X-7	約20 m	約13 m	0	
X-8	約18 m	約13 m	0	
X-9	約17 m	約11 m	0	

1 周提墓

比較してやや明瞭さにかける。規模は大小様々で最大は4号（外径約4.1m、内径約2.7m）、最小は9号（推定外径約1.7m、内径約1.1m）である。周堤内の中央に盛り上がった部分が確認されたのは1・4・6号の3カ所で、1・4号ではマウンド上に石（立石）が確認されている。また、6号の周堤内側の壁際の床からは堂林式土器が2個体出土しており、これが周提墓の時期を縄文時代後期末とした理由となっている。

過去に調査された周提墓はいずれも集落との関係が明らかでなかったが、本遺跡においては周提墓・住居跡群（集落）・盛土遺構がセットで確認されている。

本調査終了後に全ての周提墓は保護のために必要な処置を施した後に再度埋め戻している。

X-1（図Ⅲ-1～3／図版-4・5・18・54）

X-1は、周堤の外径が約3.2mと今回確認された中では中規模のものである。表土除去後にⅡ層：Ta-aが入るⅢ層の窪みで確認し、重機と人力でグリッドラインに沿った十字のトレンチを設けた。Ⅲ・Ⅳ層を除去後主に中央部とその周辺の調査を行っている。

周堤部

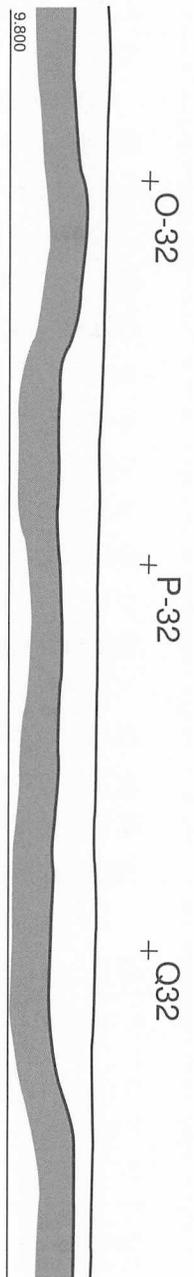
周堤部分は盛り土されたEn-Lの黄褐色ロームが認められる面まで調査を行ったもので、東、南、西のトレンチ内周堤頂部は耕作など削平を受けている。したがって、外径と内径は完掘して得られた数値ではなく、堅穴の床と検出された周堤の頂部との比高差は約50cmである。

堅穴部

堅穴はⅦ層まで掘り込まれた平坦なもので、その面には黒色土の入った不整形の落ち込みが認められたがこれらも土壙墓の可能性もある。しかしこの掘り込まれた面を床とするには疑問がある。堅穴内に形成されたⅤ層の腐植土層は層厚が約10cm程であるが、この土層は上位に腐植土、下位にはほぼ均一に大粒のⅧ層パミスを含む腐植土に大きく分かれる。これに対し周堤外のⅤ層は未発達でⅥ層との境界も極めて不明瞭である。つまり同じⅤ層腐植土層が周堤の内外で不自然に層厚が異なるのだ。周堤外は周辺も含めて当時の植生に乏しかったであろう状況や土地の削平によるなどの推定が可能である。周堤内は遺物で後述する礫の破碎片（礫片集中）がⅤ層の中位で出土する状況も見られ、腐植土中のパミスも堅穴の掘り込みがⅥ層中で終了しているにも関わらずさらに20cmほど下位に堆積するⅧ層のパミスが多数見られることに不自然さを感じる。そのため、堅穴を掘り込んだ後に意図してパミスを混ぜた腐植土をマウンド部を除く床面に敷き詰めた可能性がある。考えられる目的は周堤の盛り土やマウンドの黄褐色と堅穴床面の黒色による周提墓の色彩的な明暗のデザインにあるのではないだろうか。このことは、XP-1の覆土上位がやはりパミス混じりの黒色土で強く埋め戻されている特徴にもつながる。

マウンド

堅穴中央部に位置する不整形のマウンドは、径が約6m程、堅穴床面との比高差は10～20cm程である。その中央付近には黒色土の入る楕円形のプランが認められ、その内の一つ（XP-1）は立石を伴う土壙墓であった。



1 周堤墓

XP-1 (中央土墳墓)

規模：1.72 × 0.9 / 1.54 × 推定 0.8 / 調査した深さ約 1.1 m

マウンド状で検出した土墳墓ある。確認時は黒色土の入る楕円形プランとそのプランの西端から石が顔を出した状態であった。今回は長径の軸より北側を半裁し墳底近くのベンガラ上面までの調査を行った。

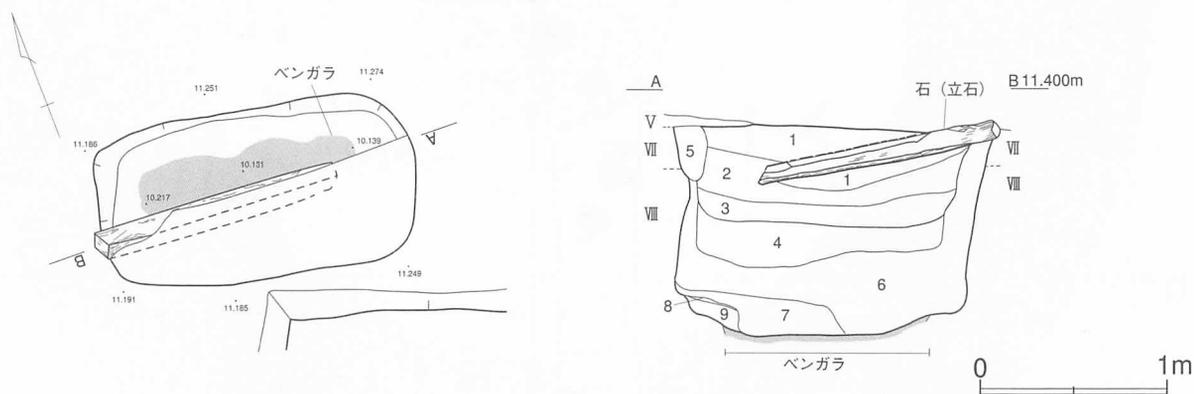
平面は隅丸長方形、長軸の方向はほぼ東西である。真下に向かって掘り込まれており壁は垂直に近い角度で立ち上がっている。墳底面は長軸に沿って窪む形態と推定されベンガラはその縦長の窪みに入っている。感触では、底部は図よりそれ程下がないと思われる。

覆土は埋め戻しがなされたもので、黒色土を主体とする上位の層（1～4層）とⅥ・Ⅶ層の土を主体とする下位の層とに大きく分かれ、いずれも圧をかけた様に堅く締まっている。上位の黒色土は本来的にマウンド状には存在しないはずなので意図的に持ってきたと考えられる。また、5層を含む土層断面の両端はやや締まりがなく一部に空洞も見られた。これらの位置に木柱状のものが埋められていた可能性もある。上位の層中からは長さ約130cm、幅約16cmの角柱状の石（立石）が図の様に半ば埋没した状態で見つかった。この立石は一方の端が特に堅く締まった覆土2層に潜り込んでおり、本来は上位の黒色土を主体とする埋め戻しの覆土中に立てられていたと考えられる。ただし、調査現場来訪の識者からは、土墳墓の外に立てられていた可能性もあるとの指摘もありここに併記しておく。

調査終了後には墳底のベンガラ上面を布で覆い土壌内を白色のTa-aで充填した。また、立石も現位置が動かぬように処置を施し周堤墓とともに埋め戻している。

その他の土壌

マウンド以外の竪穴床面にも黒色土の入る不整形の遺構と考えられるプラン見つかった。これらのプランに入る黒色土はしまりのないもので、XP-1の上位に入るものとは趣が異なる。



XP-1 土層説明

- 1 黒 (Hue5YR1.7/1) V≫Ⅷ 軟らかい一次堆積のものと考えられる腐植土層。
- 2 黒 (Hue10YR2/1) V>Ⅶ≫Ⅷ 硬く締まった腐植土層。立石はこの土層中に立てられていたと考えられる。
- 3 黒 (Hue5YR2/1) V>Ⅷ 2層よりも更に硬く締まった腐植土層。圧をかけて埋め戻した可能性が考えられる。
- 4 黄褐 (Hue10YR5/6) Ⅷ 埋め戻しの火山灰。
- 5 明黄褐 (Hue10YR6/6) Ⅶ 埋め戻しのローム質土。
- 6 にぶい黄褐 (Hue10YR5/4) Ⅶ≫Ⅷ 埋め戻し。
- 7 黄褐 (Hue10YR5/6) Ⅷ 埋め戻しの火山灰。
- 8 灰褐 (Hue7.5YR4/2) V 埋め戻し。
- 9 にぶい黄褐 (Hue10YR5/4) Ⅶ+Ⅷ 埋め戻し。

礫片集中

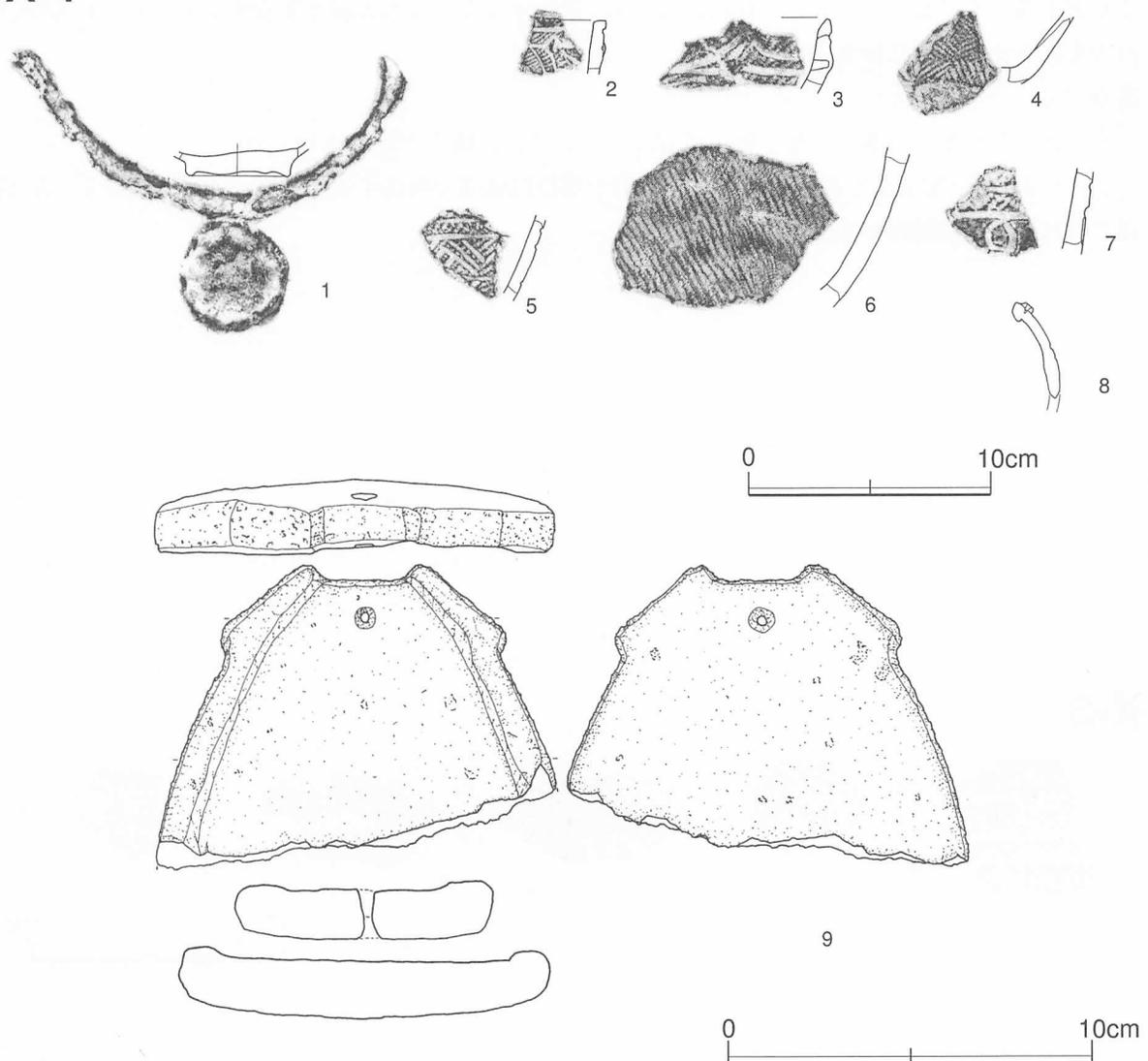
周堤墓に設けた西側トレンチからは礫片の集中が出土している。図の波線で囲まれた、マウンドの立ち上がり付近に及ぶ範囲から出土したもので、豎穴内に堆積するV層腐植土層の中位で出土している。摂理に沿って割られた砂岩質の扁平破片で約500点ほど出土している。石質がX P-1の立石と同じなので立石を整形した時の屑とも考えられる。接合を試みたが縦長の板状になる傾向が伺われた。

遺物

得られた遺物は少なくマウンド上から石製品、周堤墓のV層からIV群c類土器、石斧の小破片、礫片が出土している。

1～7はIV群c類土器である。2、3が口縁部、5、7が胴部でこれらには沈線文が施されている。6は底部近くの胴部、1、4が底部である。8は微隆起線の施された精製の注口土器口縁部である（写真：図版-18-8）。器面には赤色顔料が塗布されている。9はマウンド上面のX P-1近くで出土した多孔質の疑灰岩製のオロシガネ状石製品である。

X-1



図III-3 X-1の遺物

1 周堤墓

X-2 (図III-25)

掛かるトレンチでⅡ層:Ta-aが入るⅢ層上面の窪みと盛り土とで確認した周堤墓である。調査はトレンチ内の測量と竪穴内の包含層の一部を掘り下げるにとどめ再度埋め戻している。

周堤部

推定される外形は約31m、竪穴に堆積するⅢ層上面と周堤部との比高差は約70cmである。周堤の頂部は耕作で欠失している。隣接するX-3・4・6の周堤とはほぼ一体化しているかのごとく観察され、それらとの重複をとらえることは困難であった。

遺物

竪穴内の包含層からⅣ群c類土器が出土している。

X-3 (図III-4・6)

掛かるトレンチでⅡ層:Ta-aが入るⅢ層上面の窪みと盛り土とで確認した周堤墓である。調査はトレンチ内の測量と竪穴内の包含層の一部を掘り下げるにとどめ再度埋め戻している。

周堤部

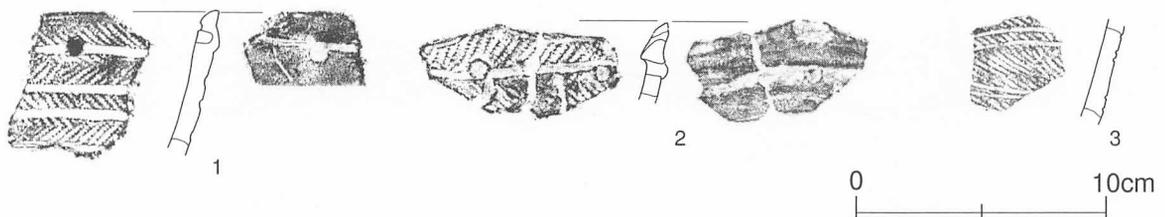
周堤の頂部は耕作で欠失している。推定される外形は約19mで小型の部類にはいる。竪穴に堆積するⅢ層上面と周堤部との比高差は約60cmである。隣接するX-2の周堤と重複すると推定されるが、それらをとらえることは困難であった。

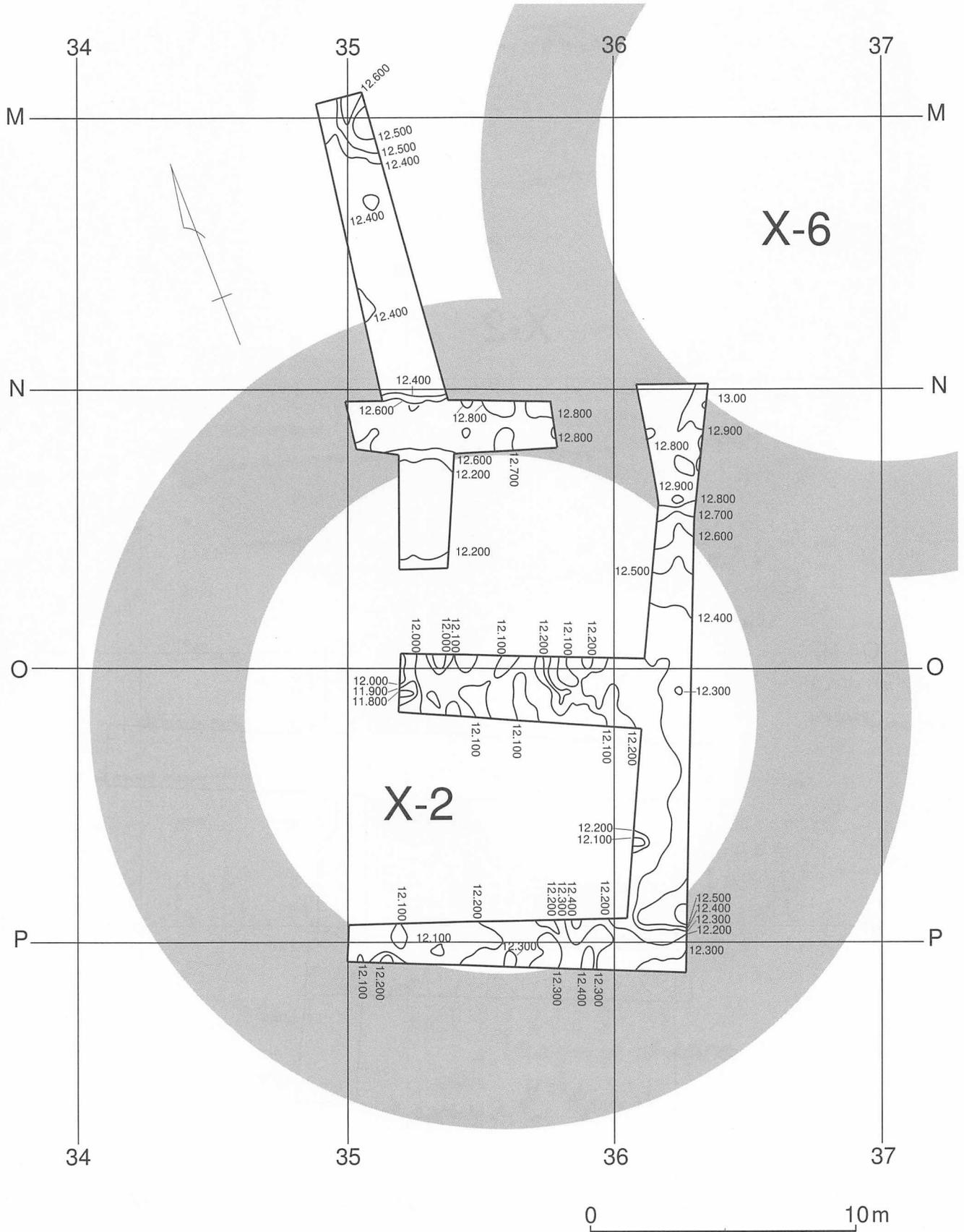
遺物

竪穴内の包含層からⅣ群c類土器、砥石片、フレイク、礫などが出土している。

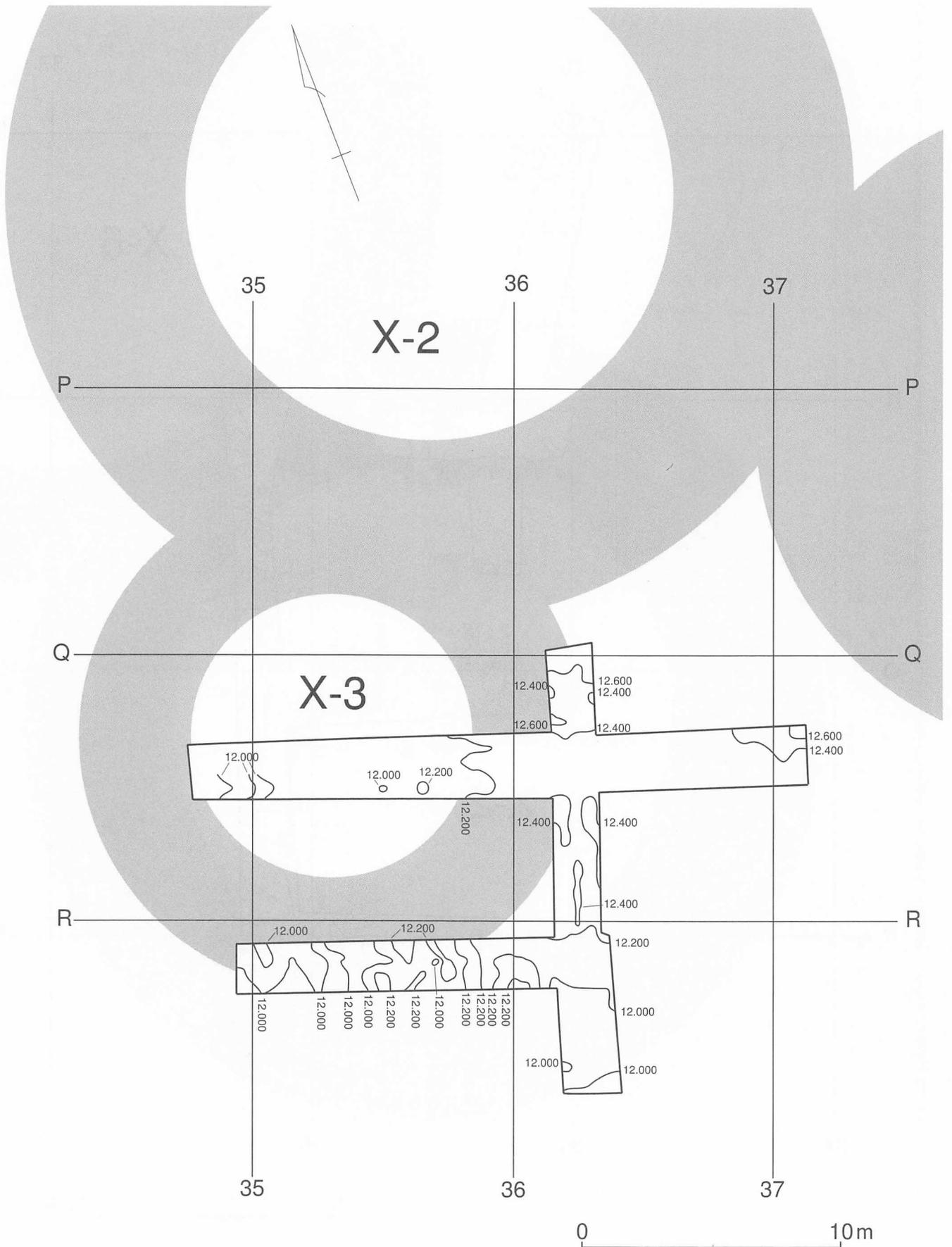
1～3はⅣ群c類土器である。1、2は深鉢形土器の口縁部で横走する沈線文が施されている。3は胴部で対になる横走沈線が施されている。

X-3





图III-5 X-2



图Ⅲ-6 X-3

X-4 (図Ⅲ-7～10/図版-7～9)

大型の周堤墓で、規模としては今回検出された中では最大、国指定史跡「キウス周堤墓群」を含む現在知られているものの中でもおよそ5番目に相当する。確認は掛かるトレンチ内のⅡ層:Ta-aが入るⅢ層上面の窪みと盛り土による。調査はトレンチ内における堅穴床面までの掘り下げと周堤中央部を通るトレンチの拡幅とで行っている。その結果、周堤内のマウンドが二カ所(第1・第2マウンド)、土壙墓のプラン9カ所、堅穴から周堤への立ち上がりなどが検出されている。これらは調査終了後に全て埋め戻している。

周堤部

推定で外径約41m、内径約27mの周堤の頂部は耕作で大きく欠失しており、堅穴床面と周堤部との比高差は約60cmとなっている。隣接するX-2・6の周堤と重複するが、頂を削平され一体化しているとも思われる盛り土から重複関係をとらえることは困難であった。主にⅦ層の黄褐色ローム質土が使われた残存する盛り土部は非常にしっかりした作りを未だ残しており、周堤部を作り上げるための優れた造形技術の存在が容易に察せられる。少なくとも周堤の内側へ向く大きな崩落が観察されたトレンチはなくX-4の周堤の堅牢さが伺える。

堅穴部

Ⅶ層の下位まで掘り込んでおり、床面から周堤部へは明らかな角を伴って立ち上がっている。マウンドは中央(第1マウンド)とその北側(第2マウンド)の2カ所から検出されている。土壙墓と考えられるプランは中央のマウンド上に2カ所、堅穴内に7カ所が確認されている。それ以外には柱穴状の小ピットが3カ所見つかっている(図Ⅲ-8)。いずれもプランの確認までの調査に止めている。堅穴床で検出された7カ所の土壙覆土にはしまりのない黒色土が入る。

周堤内に堆積するⅤ層腐植土層はやはり周堤外のそれよりもやや厚い傾向にあるが、X-1のそれとは異なりパミスの不自然な混じりは認められない。遺物はこの腐植土層の中位から見つかっている。

第1マウンド(中央マウンド)

堅穴中央部に掘り残されたやや楕円がかった形状のマウンドである。長径が約6mで床面との比高差は約30cmである。マウンドの中央付近には土壙墓と考えられる隅長円方形の不明瞭なプラン2カ所と大型扁平礫の一部が見つかっている。土壙墓のプランは茶褐色の汚れたローム質土で掘り込み面までぴっちり埋め戻されており、その堅く締まった土の様子から何らかの圧力を受けた覆土と考えられる。扁平礫は外観に摂理の多く見られる砂岩質のもので最大幅約60cm厚さ約15cmの規模である。立石としたが観察可能な範囲でそれが自立していた痕跡はなく据え置かれている感じが強い。

第2マウンド

第1マウンドと北側の周堤との間に位置するマウンド状の高まりである。第1マウンドとは異なり丸く狭い頂からは裾野が広がっている。床面との比高差は約20cm、上面に土壙のプランは見られないが、トレンチ内の形状から独立したマウンドと判断した。堅穴作成時に掘り残されたのは明らかで、何らかの目的があったと考えられる。

遺物

堅穴内の包含層からⅣ群c類土器、スクレイパー、フレイクなどが出土している。

1はⅤ層から出土したⅣ群c類土器の胴部、2はⅢ層から出土したⅥ群土器の胴部である。3は床面で出土した黒曜石製のエンドスクレイパーである。

1 周提墓

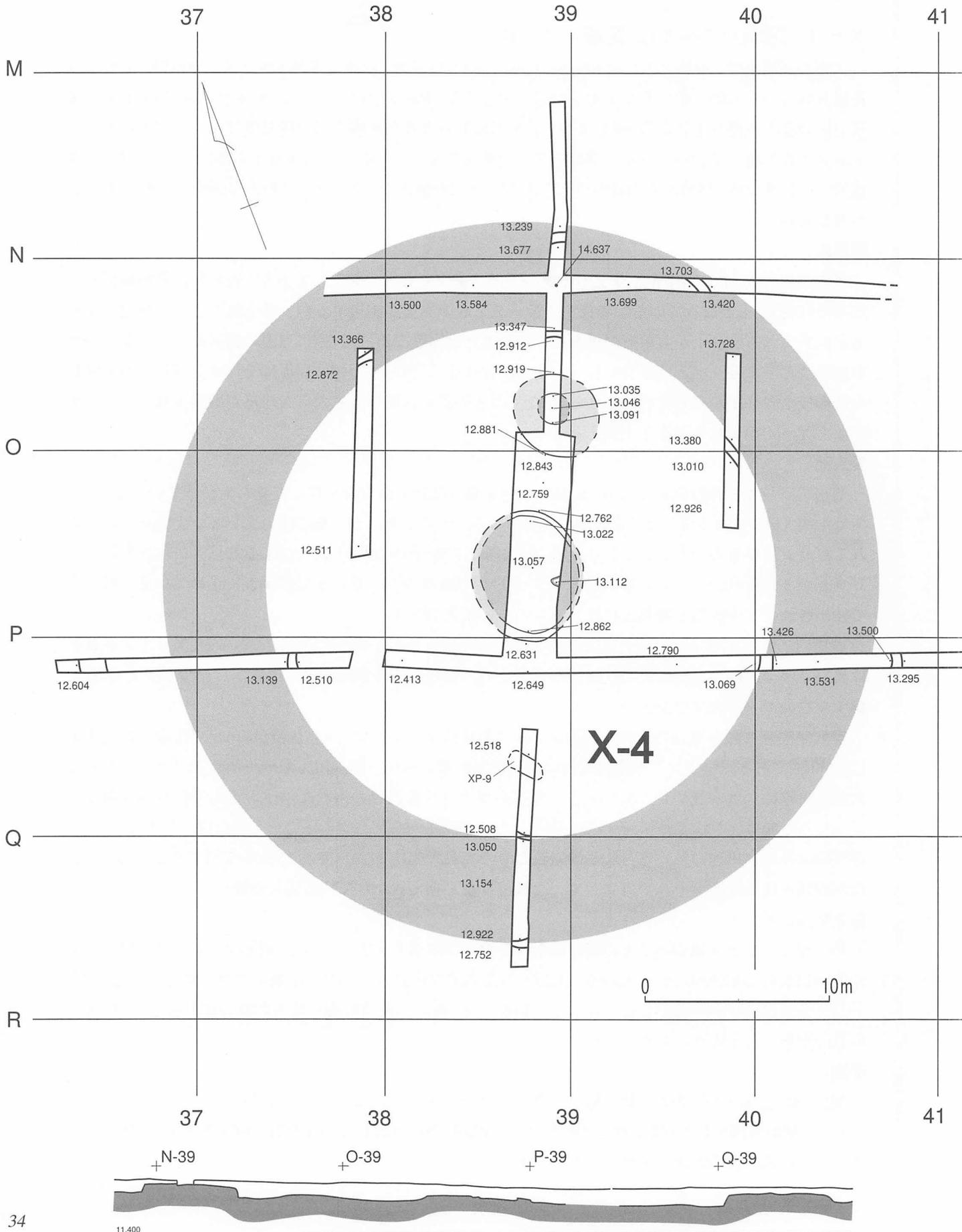
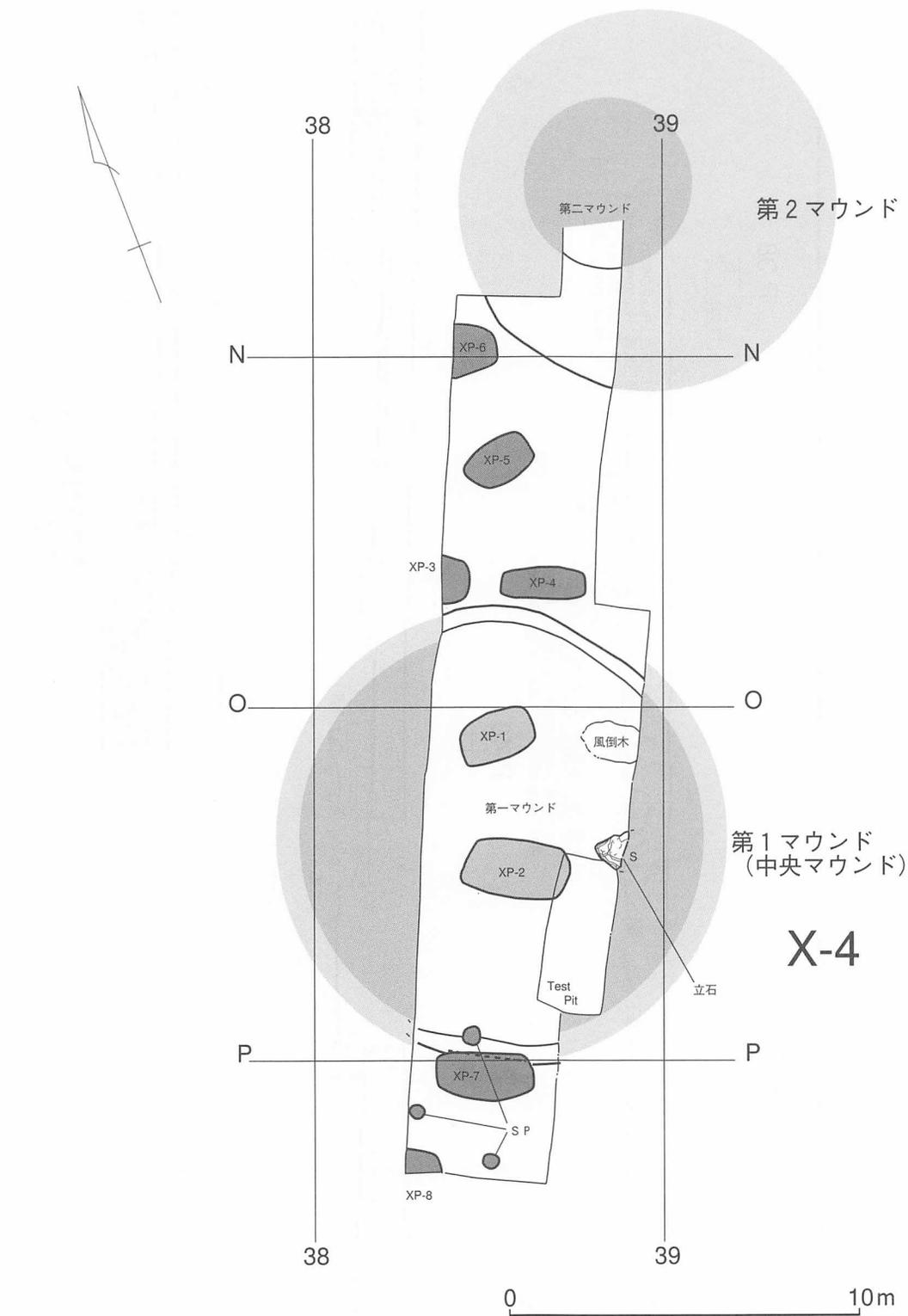
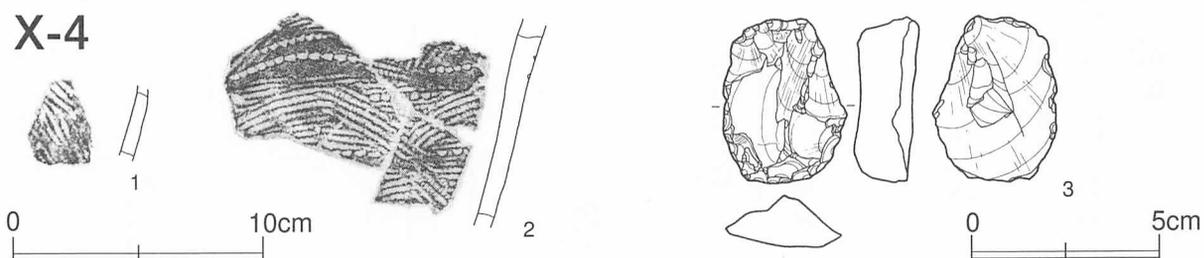


图 III-7 X-4

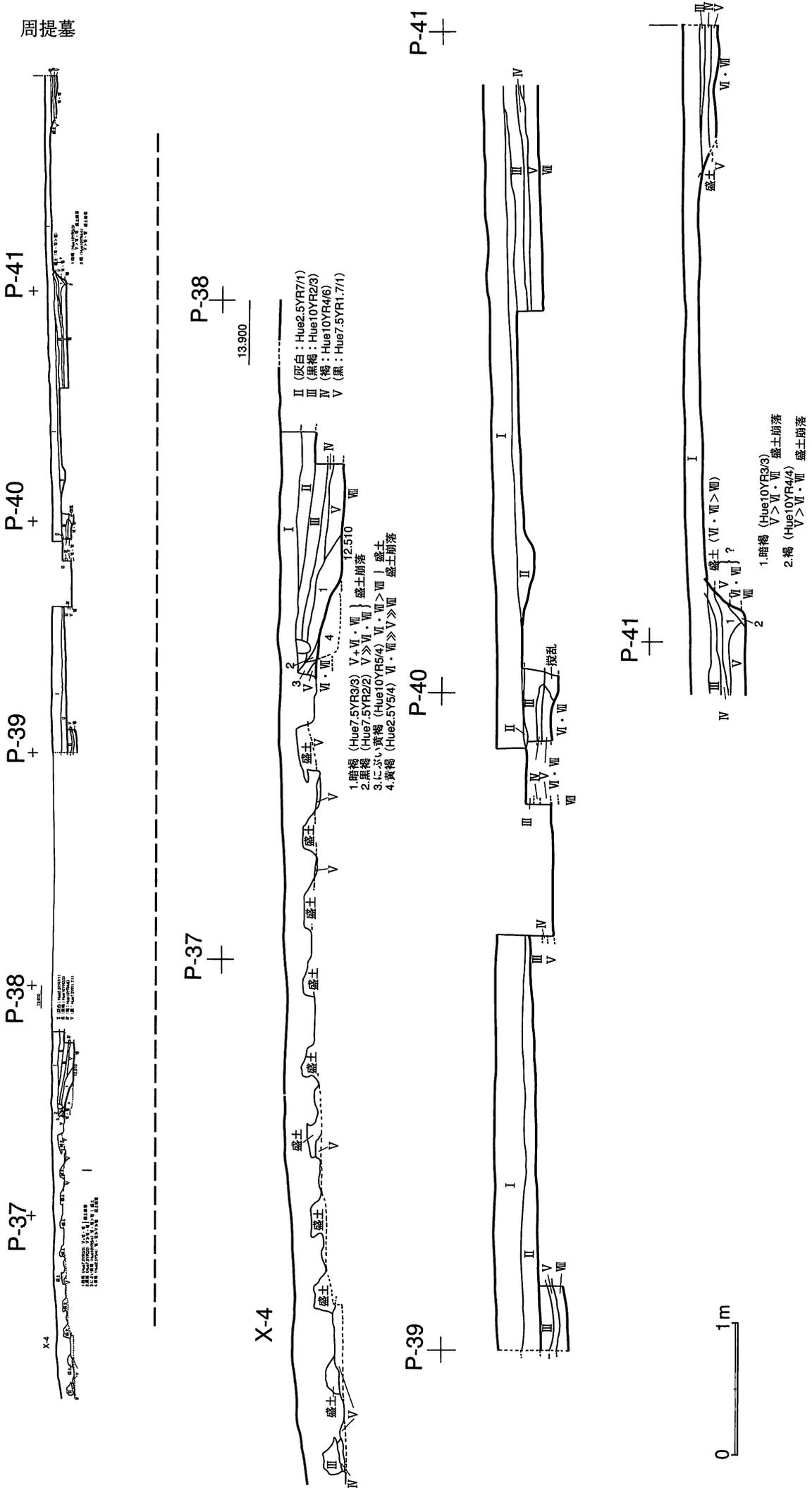


X-4

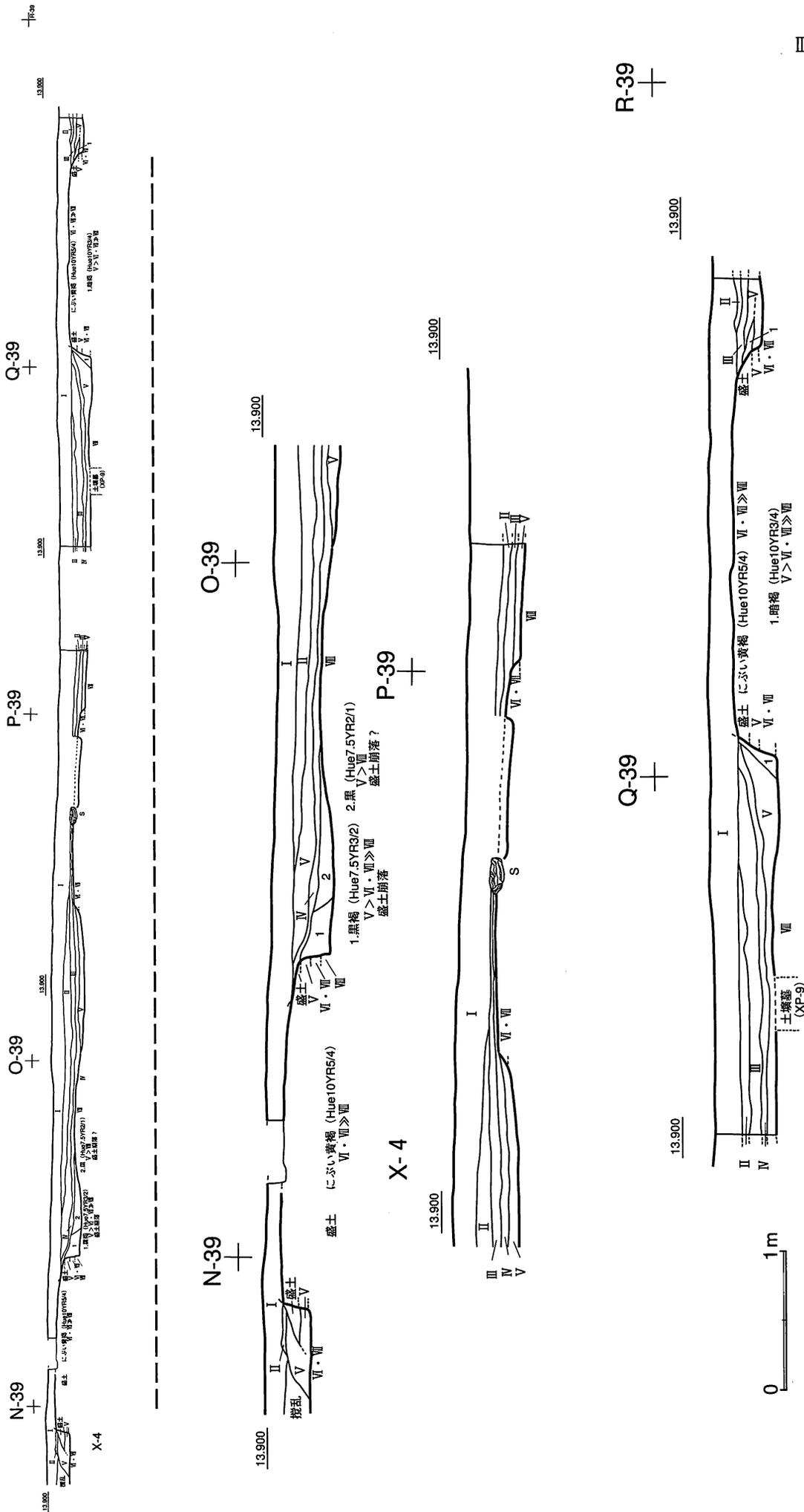


図III-8 X-4のマウンドと遺物

1 周提墓



図III-9 X-4 東西トレンチセクション



図III-10 X-4南北トレンチセクション

1 周堤墓

X-5 (図III-12・13)

調査区の西端で検出された小型の周堤墓である。確認は掛かるトレンチで検出された周堤の盛り土とⅡ層:Ta-aが入るⅢ層上面の窪みによる。調査はトレンチで検出された周堤部付近を竪穴の床面まで掘り下げて行った。マウンド及び土壌プランは検出されていない。遺物は出土していない。

周堤部

推定外径約20m、内径約14m、頂部を削平された周堤部と竪穴床面との比高差は約60cmの規模で今回の調査では小型の部類に入る。盛り土にはⅥ・Ⅶ層のローム質土が使われている。

竪穴部

床面はⅦ～Ⅷ層に作られており、周堤部への立ち上がりは角をもって立ち上がる。

X-6 (図III-11・14～16/図版-6)

確認は掛かるトレンチで検出された周堤の盛り土とⅡ層:Ta-aが入るⅢ層上面の窪みによる。調査はトレンチで検出された周堤部付近を竪穴の床面まで掘り下げて行った。トレンチ内からはマウンド及び土壌プランは検出されていない。

周堤部

推定外径約28m、内径約17m、頂部を削平された周堤部と竪穴床面との比高差は40～60cm程の規模で今回の調査では中型の部類に入る。盛り土には堅く締まったⅥ・Ⅶ層のローム質土が使われている。

竪穴部

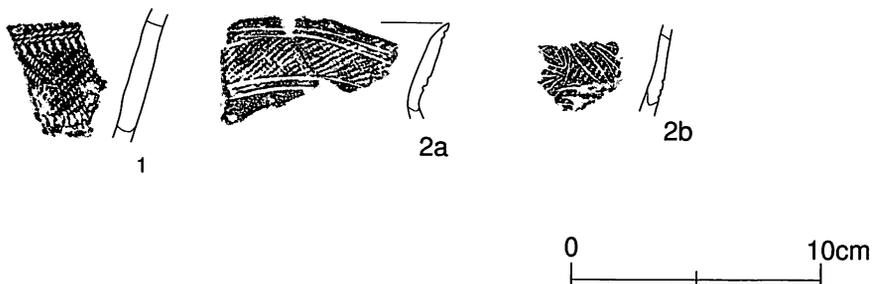
床面はⅦ層中に作られており、周堤部への立ち上がりは角をもって急激に立ち上がっている。

遺物

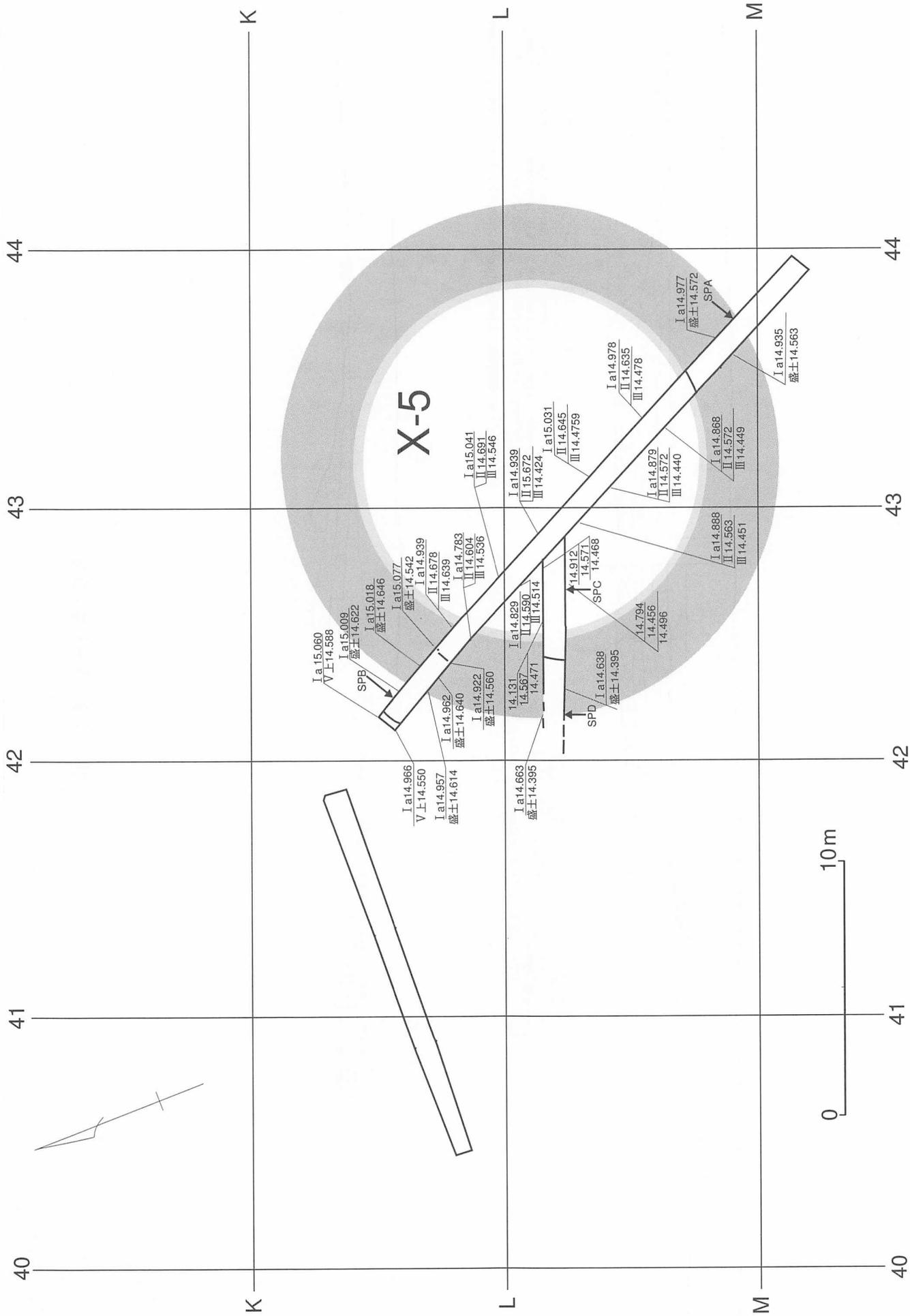
図に記した竪穴の壁際床面で2個体のⅣ群c類土器が出土した(図III-16/図版-6-1)。2個体とも突瘤と横走沈線が施された深鉢形土器で、胴部には磨消状の無文帯を有し器形のこの部分には僅かな括れが見られる。これらは竪穴内に据え置かれた状態で出土しており、このような例は少ない。そのため、この土器は取り上げずに現位置を保ったまま埋め戻している。取り上げを行った遺物にはⅠ群b-4類、Ⅳ群c類土器、フレイク、礫などがある。

1はⅠ群b-4類の深鉢形土器胴部である。器面には撚糸文風の縄文と短縄文が施されている。2はⅣ群c類の壺形土器口縁部と胴部である。器面には細い沈線による文様が施されている。

X-6

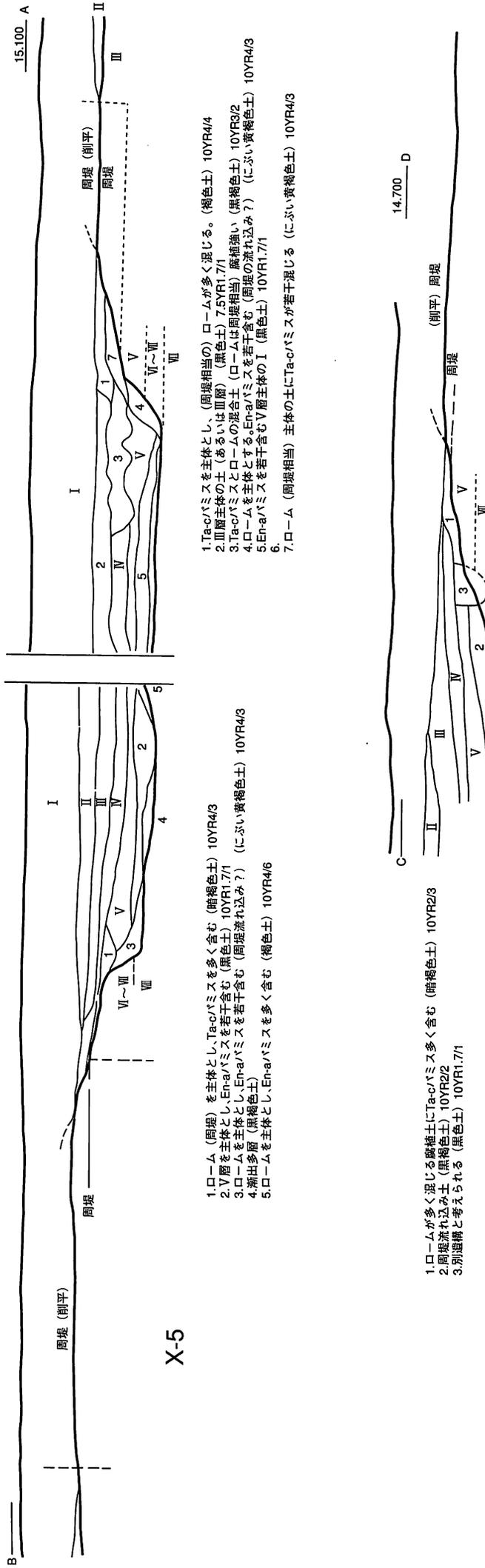


図III-11 X-6の遺物

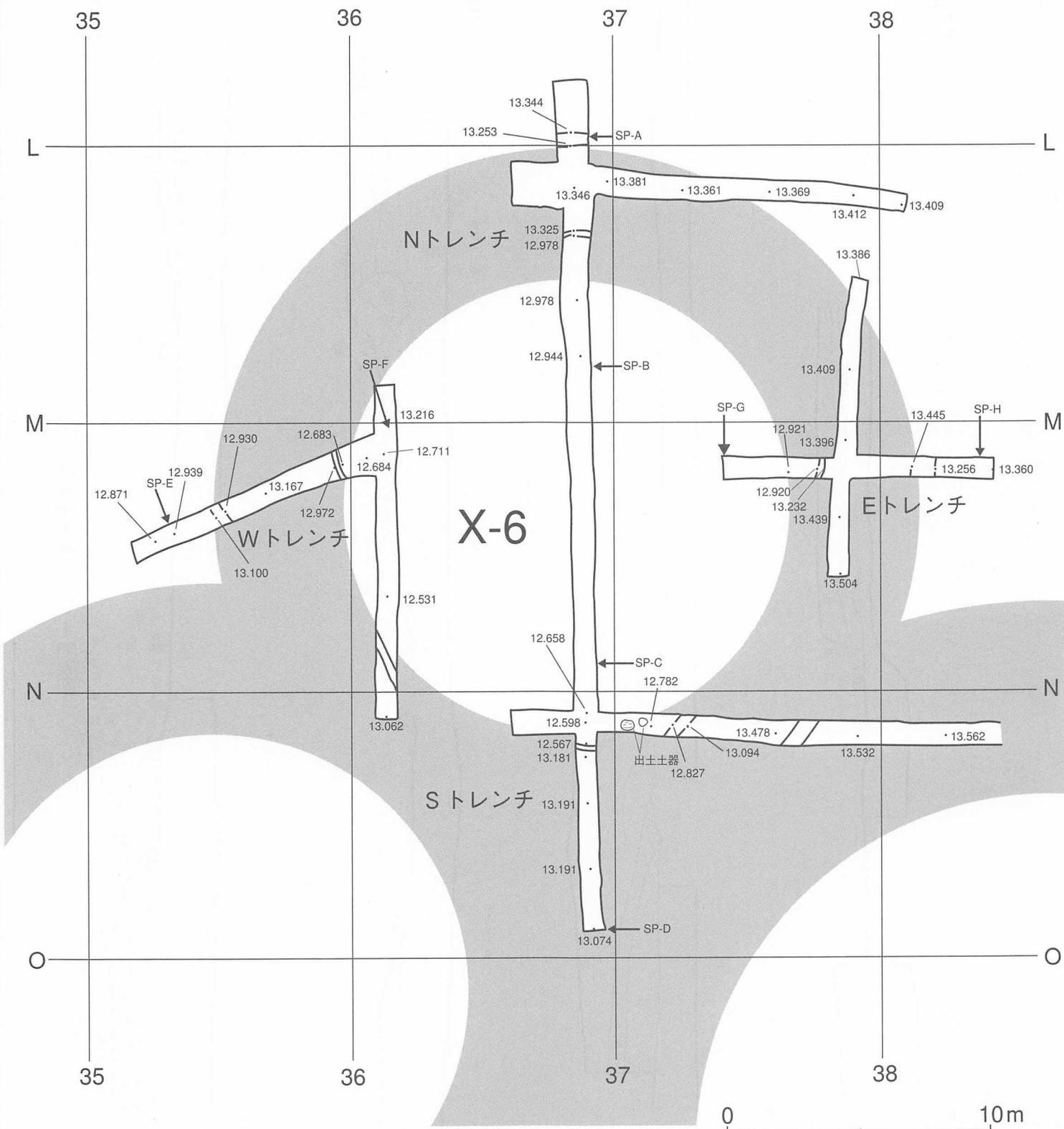


図III-12 X-5

1 周提墓

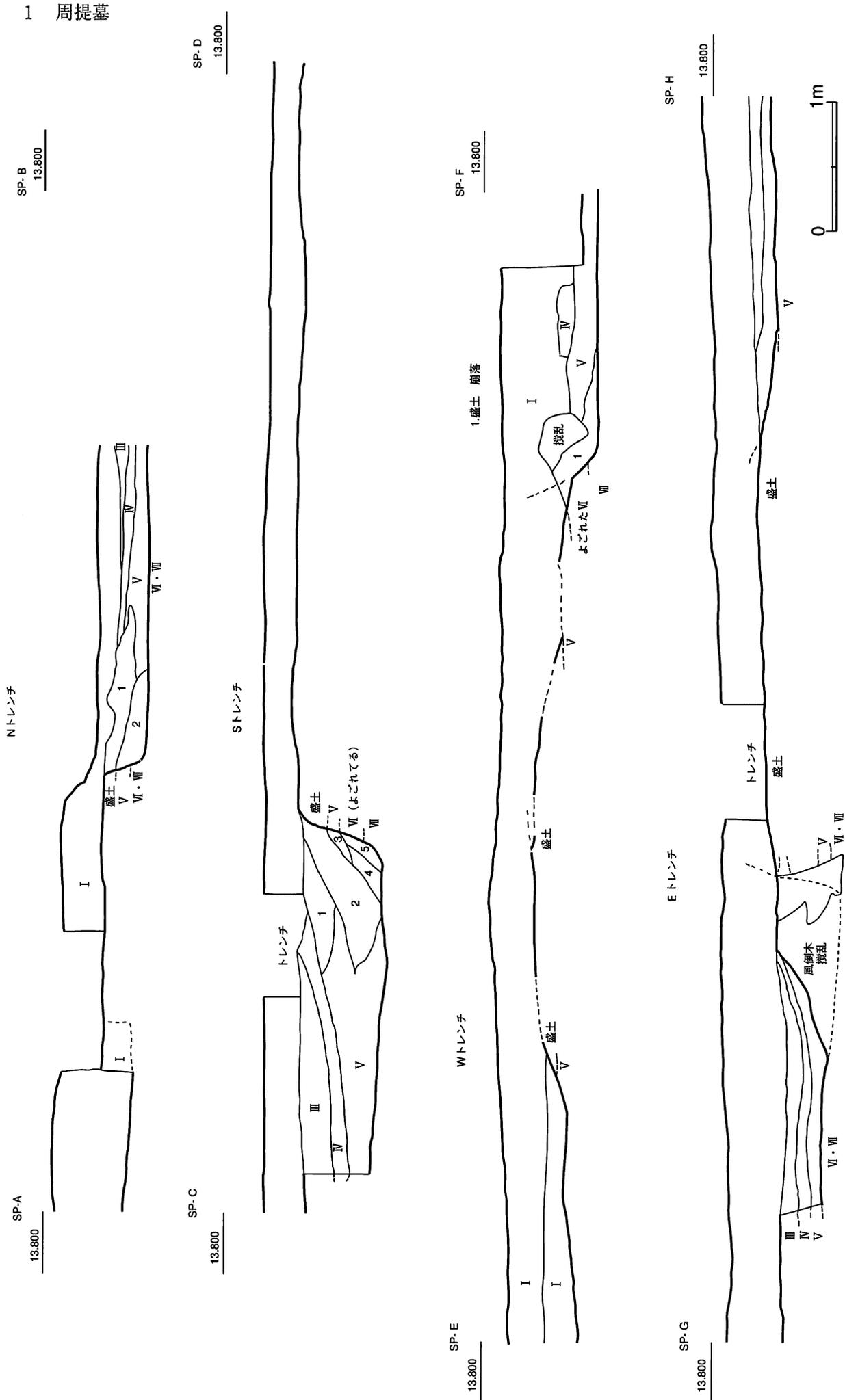


図III-13 X-5セクション

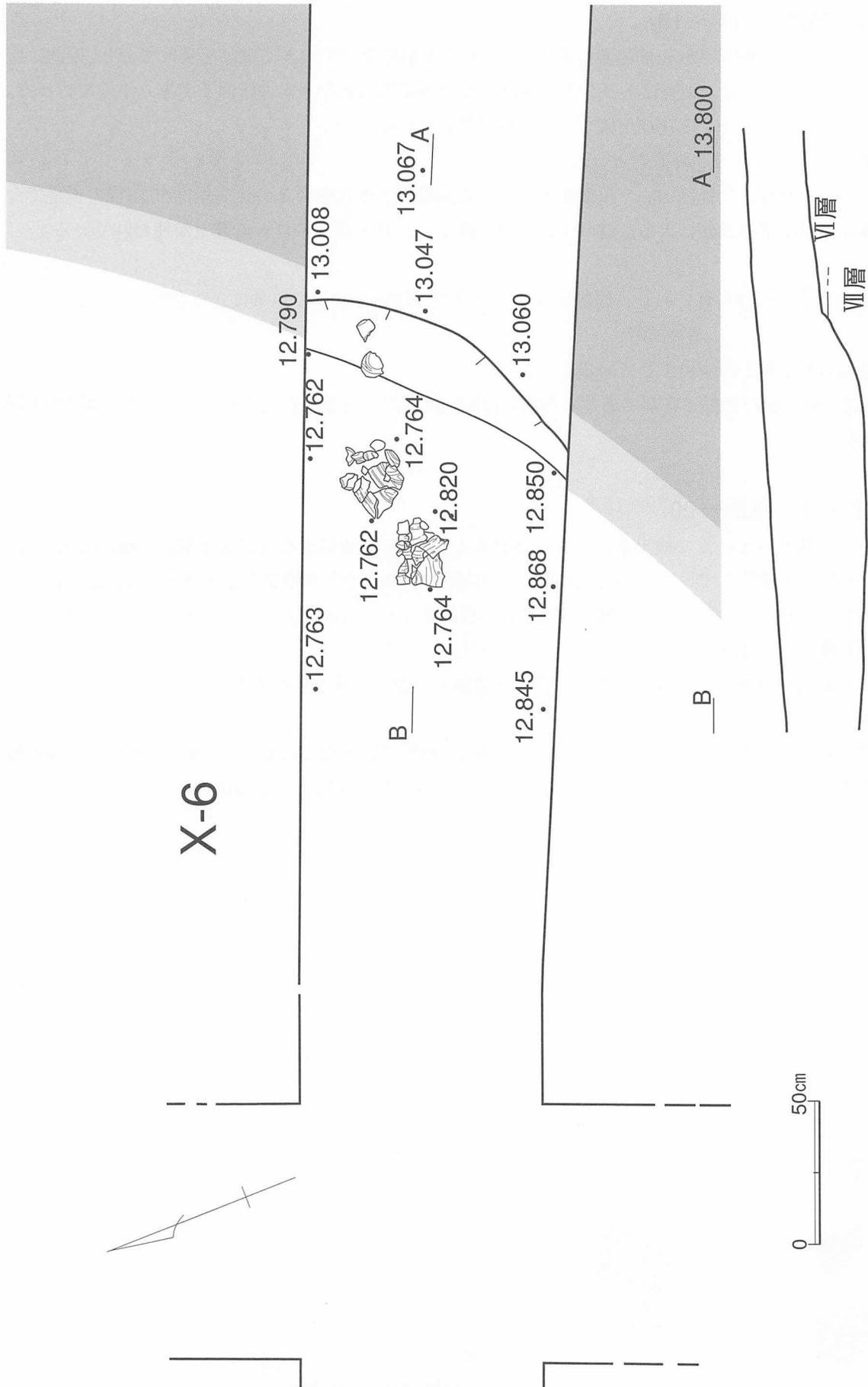


図Ⅲ-14 X-6

1 周提墓



図版Ⅲ-15 X-6セクション



圖III-16 X-6遺物出土狀況

1 周堤墓

X-7 (図Ⅲ-17~19)

調査区北側から検出された周堤墓である。耕作や心土破碎などで大きく攪乱を受けており、確認は盛り土とその痕跡による。調査はトレンチで検出された周堤部付近を竪穴の床面まで掘り下げて行った。トレンチ内からはマウンド及び土壌プランは検出されていない。

周堤部

推定外径約20m、内径約18m、頂部を削平された周堤部と竪穴床面との比高差は50cm程の規模で今回の調査では小型の部類に入る。盛り土には堅く締まったⅥ・Ⅶ層のローム質土が使われている。

竪穴部

床面はⅦ層中に作られており、周堤部への立ち上がりは角をもって急激に立ち上がっている。

遺物

遺物はⅣ群c類土器が出土している。

1は注口形土器の胴部と底部である。器面には細い沈線による文様が施されている。2は深鉢形土器胴部である。

X-8・9 (図Ⅲ-20)

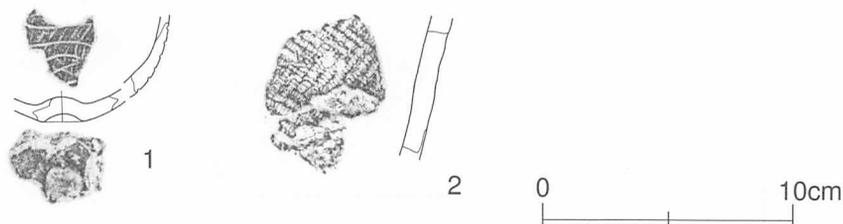
調査区北側からで並んで検出された周堤墓である。耕作や心土破碎などによる攪乱が極めて大きく、ほとんど原型を維持していない。確認は盛り土の痕跡によるが不明瞭な部分が多い。調査はトレンチで検出された盛り土付近を竪穴床面と推定される位置まで掘り下げて行った。トレンチ内からはマウンド及び土壌プランは検出されていない。遺物は出土していない。

平成7年度の調査で確認された帯状の盛り土遺構と誤認した可能性がある。

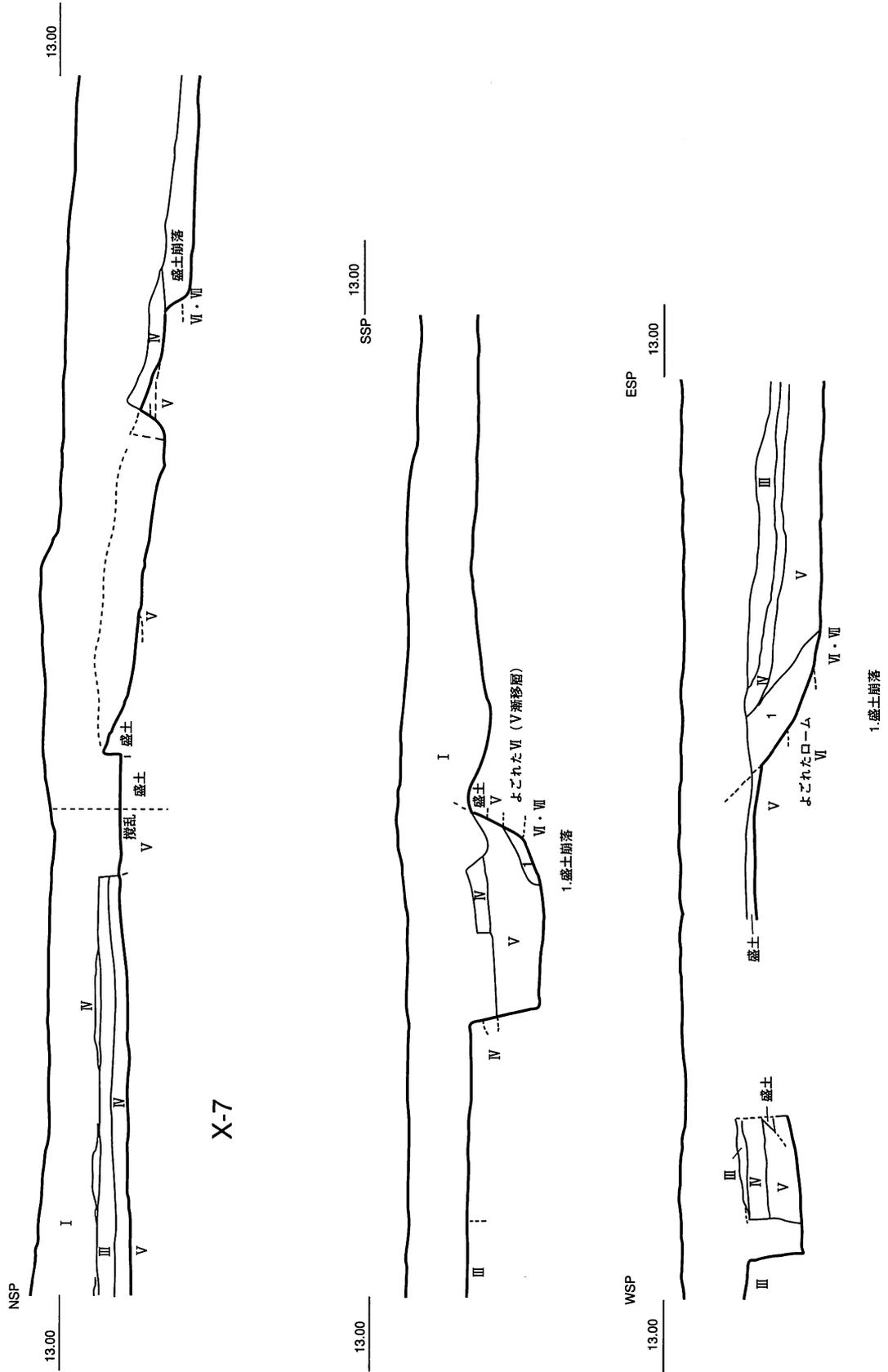
周堤部

周堤と考えられる盛り土は大きく破壊されており、規模は推定復元に基づく。周堤部と竪穴床面との比高差は不明である。盛り土には堅く締まったⅥ・Ⅶ層のローム質土が使われている。

X-7

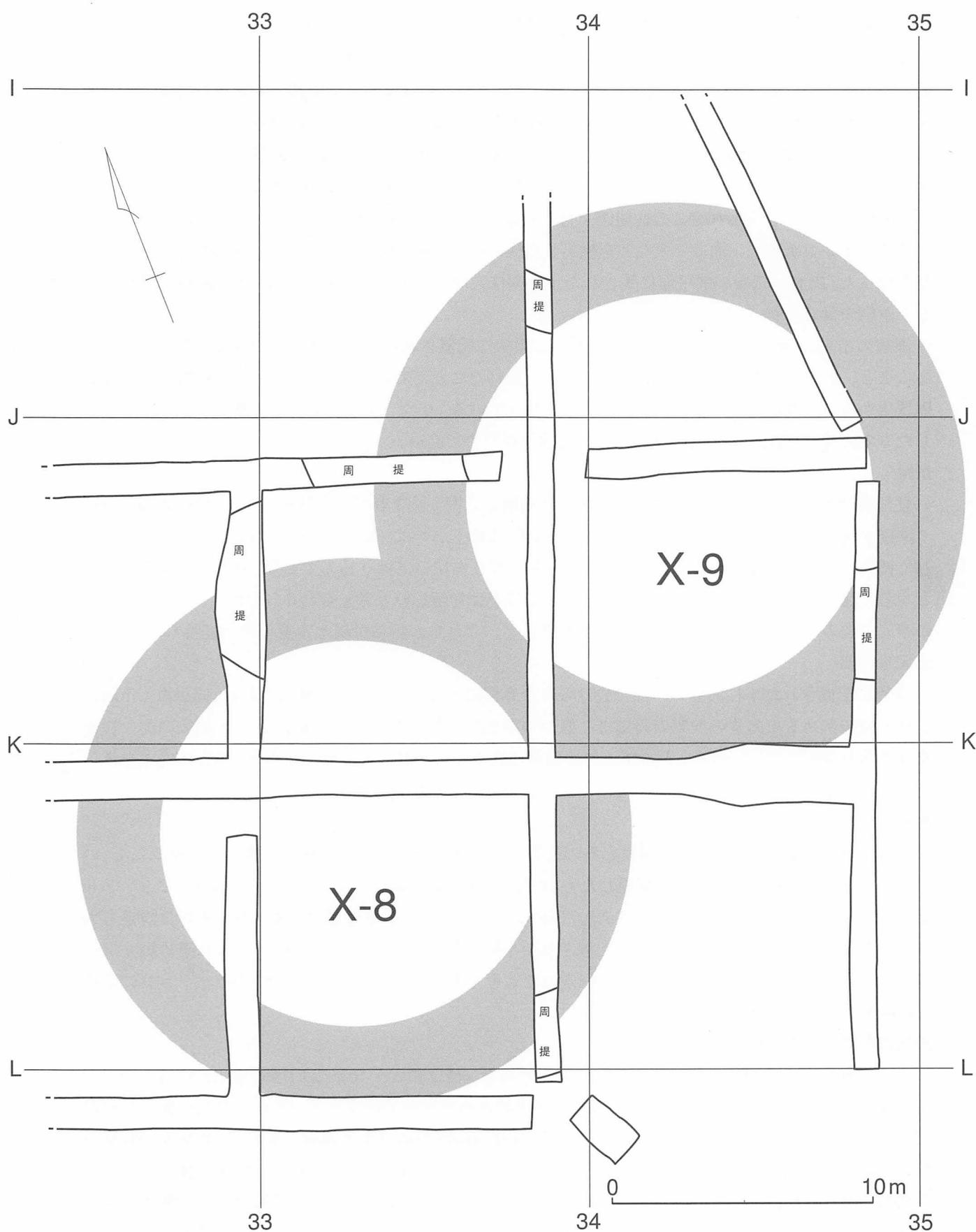


図Ⅲ-17 X-7の遺物



X-7

図III-19 X-7セクション



图III-20 X-8·9

2 住居跡

2 住居跡

H-1 (図Ⅲ-21～23/図版-10・11)

調査区の西端で検出された住居跡である。縄文時代後期のこの周辺は現況と異なり、高台の地形であったと考えられる。しかし、現代の農地活用のためこの高台はⅧ層にまで達する大きな削平を受けて平坦な地形へ変化したと考えられる。周辺の耕作土中にもⅧ層:En-aパミスが大量に混じっており遠景からでも容易に確認されるほどである。この時包含層も同時に失われており、遺構や遺物は地中深くにあったものだけがその痕跡を留めている。それらから推定してV層上面から少なくとも50cm～1mの層厚で削平されたと考えられ、この住居跡を含む周辺遺構の竪穴部もそのときになくなっている。

確認はトレンチ内の下面で柱穴などを検出した後に本住居跡に絞ってトレンチの拡幅を試み全体の確認を行った。調査はⅧ層の削平面に残された土壌や柱穴などの位置を測量した後、本住居跡に関わる主な小遺構の調査も行っている。

調査の結果、炉跡、入り口部、土壌、支柱穴、環状に配置された小柱穴群などで構成された住居跡であること、その住居跡は数次に及ぶ建て直しが行われたことがわかった。また、住居内に配置された遺構覆土からはⅣ群c類を主体とする遺物が見つかった。また、土壌や支柱穴の覆土上位は熱で赤化したものが多く本住居は火災に見舞われた可能性が極めて高い。

炉跡

住居範囲の中央からやや南側に寄った位置に重複して掘り込まれているHP-1・2は上場の径が広く深度が浅い同じ形状の土壌で、いずれも壙底面には焼土がへばり付いていることから、これらが炉として機能していたと判断した。二つの土壌はHP-23を切って掘り込んでおり、HP-23を支柱穴とする住居跡よりも、HP-1・2を炉とする住居がより新しいと考えられる。ただし、HP-1・2の壙底や壁のパミスには焼成を受けた痕跡が乏しく、これらが炉に付属する遺構の可能性もある。

出入り口部

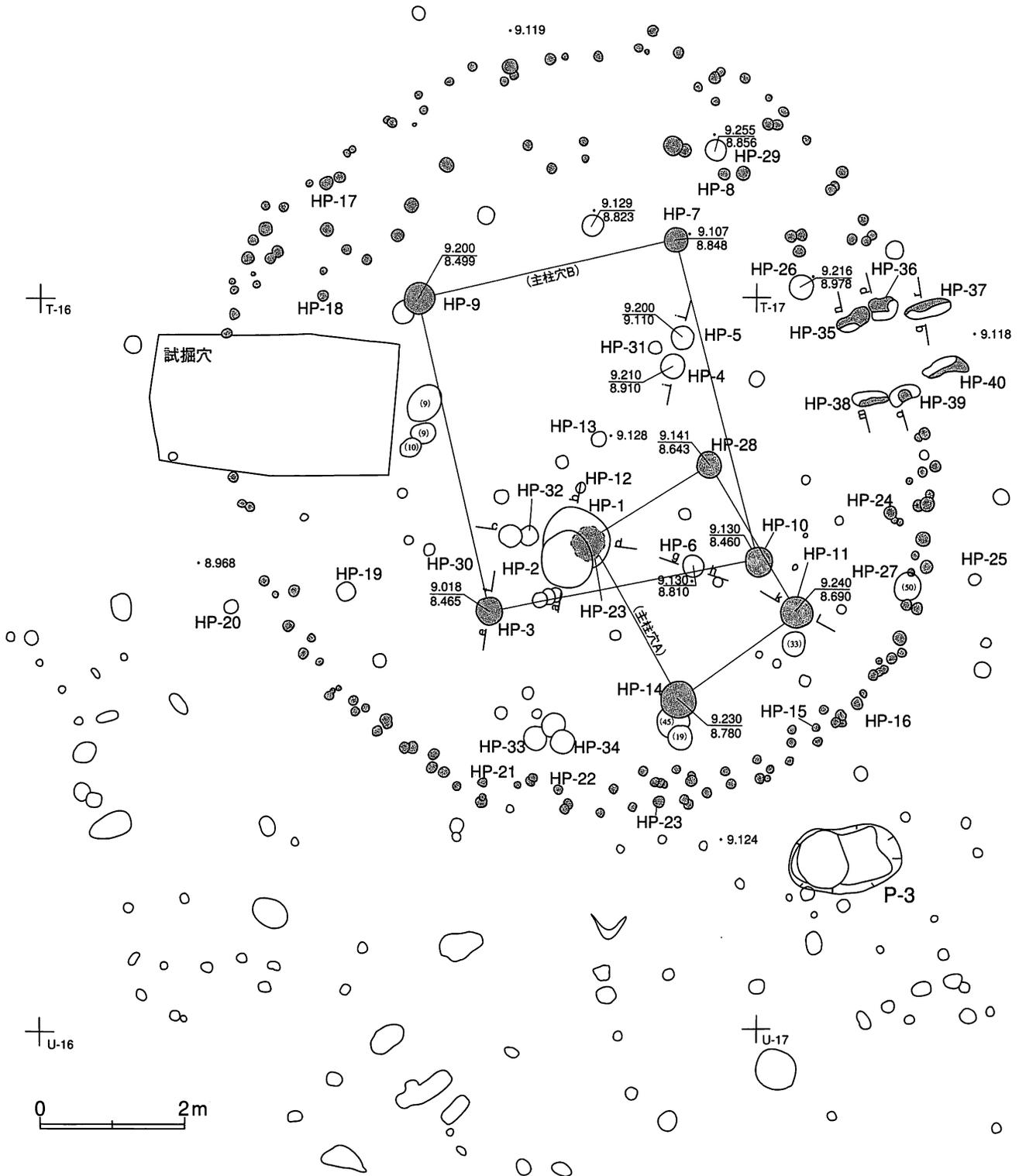
環状に配置された小柱穴群の一部に設けられた6個の小ピットによって構成される。幅が約1m弱の通路を想定させる東向きの空間の両側に3個ずつ不整楕円形の小ピットが並ぶもので、出入口的な機能を有すると判断した。各小ピットの覆土には色調の異なる土が縦に入る傾向があり、例えば丸太を縦に割ったような材を立ててその根本を埋めたような使われ方が想定される。

支柱穴

大型の柱穴を調査したところ、規模とその配置から住居2軒分と考えられる支柱穴列を確認した。いずれも、四つ角に同じ規模の柱を配置したもので、土壌の重複関係からHP-11・14・23・28などで構成されるものが古く(支柱穴A)、HP-3・7・9・10などで構成されるものは規模も大きくこれには出入口部や周囲に環状に配置された小柱穴群などが伴う(支柱穴B)。柱は予め掘り上げておいた同じサイズの柱穴に埋め込んで固定したと考えられ、調査された各支柱穴のセクションには柱との隙間を埋める土層が観察される。

環状に配置された小柱穴群

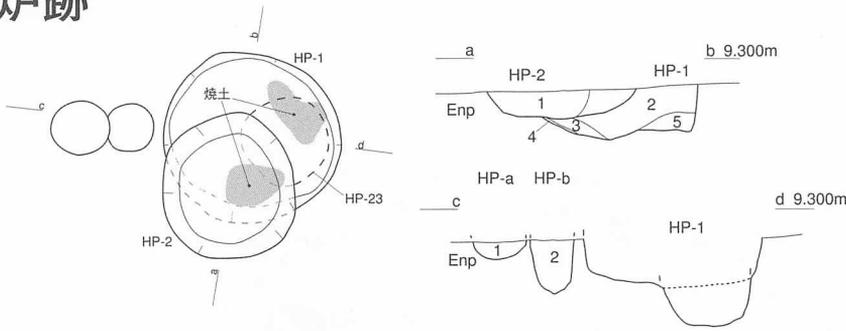
支柱穴Bを中心に環状に配置された小柱穴群である。径は約5～10cmと口径の寸法にはばらつきが見られるが、深さはいずれもⅧ層に約10cm程突き刺さった状態で止まっている。小柱穴の断面は先の円い杭状のもので上から打ち込まれたものと考えられる。配列はやや不規則なもので、かなりの数量のものに重複が見られ、一部内側を巡る配列も認められる。これらも、数次にわたる住居の修築などによる結果と考えられ、観察では近接して内側と外側に打ち込まれる2本の杭が等間隔で環状に配置される状態が基本形と考えられる。推定では、支柱穴Bを中心に内側を巡る配列(外径約9.7m)に伴って



※ () の数字は最大深cm

図III-21 H-1

炉跡

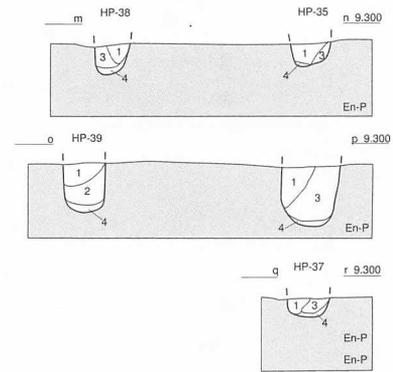
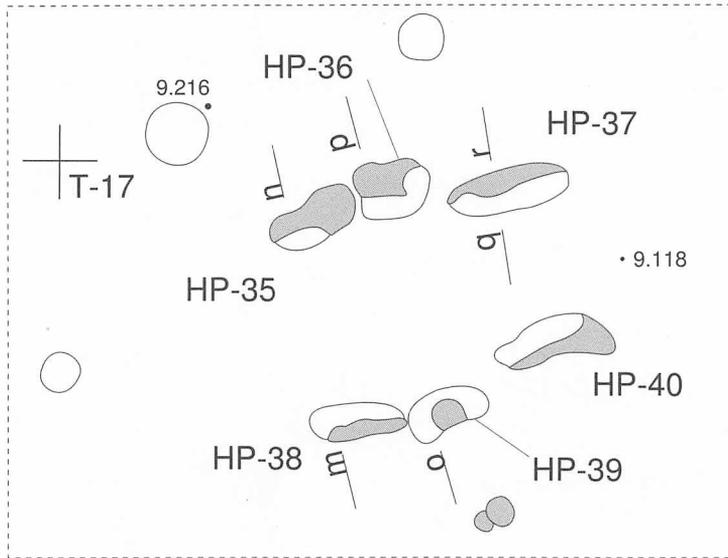


土層説明

- 1 暗褐色土 V層に微量のⅦ層が混じる。
- 2 にぶい黄褐色土 Ⅶ層に微量のⅤ層が混じる。
- 3 暗褐色土 V層に少量のⅦ層と焼土が混じる。
- 4 焼土



出入口部

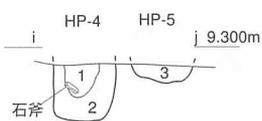


土層説明

- 1 暗褐色土 V・Ⅶ層が混じる。
- 2 暗褐色土 V層に少量のⅦ層が混じる。
- 3 暗黄褐色土 Ⅶ層に少量のⅤ層が混じる。
- 4 黄橙褐色土 Ⅶ層に微量のⅤ層が混じる。

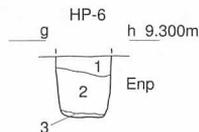


柱穴



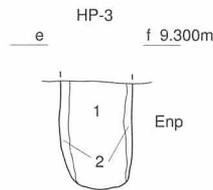
HP-4・5 土層説明

- 1 極暗赤褐 (Hue2.5YR2/4) 焼けた腐植土層 石斧を含む
- 2 黒褐 (Hue5YR2/2) V>>Ⅷ (小粒)
- 3 黒褐 (Hue5YR2/1) V>Ⅷ (小粒)



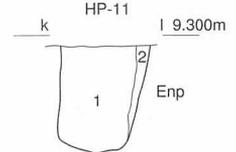
HP-6 土層説明

- 1 暗赤褐 (Hue5YR3/3) 焼けた V>Ⅷ (小粒)
- 2 黒褐 (Hue10YR3/2) V>>Ⅷ (小粒)
- 3 暗赤褐 (Hue5YR3/2) 焼けた V>>Ⅷ (小粒)



(主柱穴B) HP-3 土層説明

- 1 黒褐 (Hue10YR3/2) V>>Ⅷ 炭化物・骨片・遺物を含む
- 2 黒褐 (Hue10YR3/2) V>>Ⅷ 軟らかい



(主柱穴A) HP-11 土層説明

- 1 黒褐 (Hue7.5YR2/2) V>>Ⅷ (小粒)
- 2 黒褐 (Hue10YR3/2) V+Ⅷ



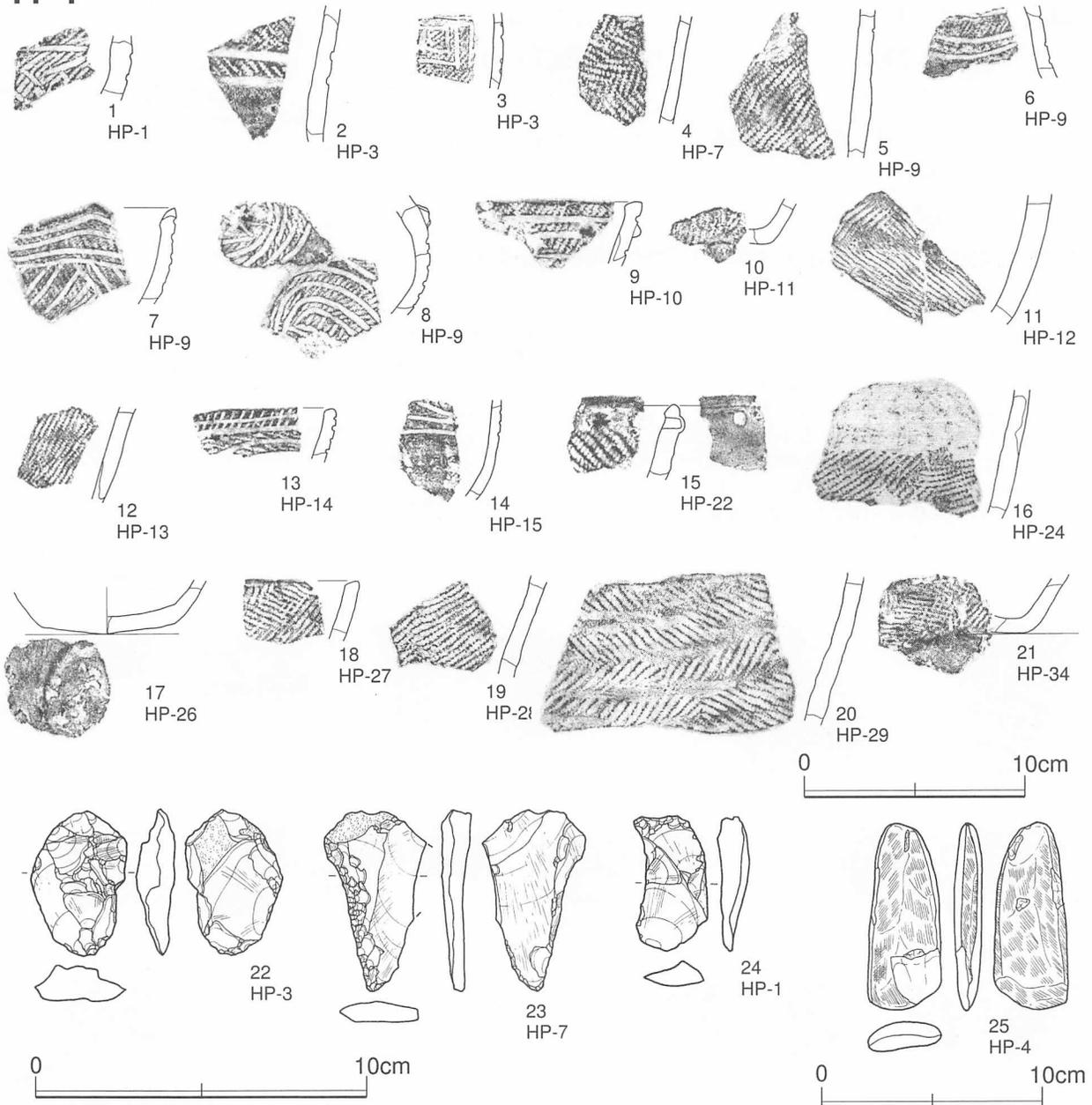
1回、外側を巡る配列(外径約10.6m)に伴って1～2回の修築及び改築の類が行われたと考えられる。
遺物

H-1に所属する各遺構の覆土から177点の遺物が出土した。種類は土器がⅣ群c類土器、石器類がスクレイパー、Rフレイク、石斧、たたき石、フレイク、チップ、礫などである。それ以外のものには種子、動物遺体も出土している。これらは全て柱穴など小型の遺構から出土したもので、削平によって破壊される前の豊富な遺物量が伺える。

1～21はⅣ群c類土器である。7、9、11、13、15は口縁部、10、17、21は底部、それ以外は胴部の破片である。6、8は注口形土器の可能性ある。1、2、3、6、7、8、9、13、14に沈線文、8に粘土粒の貼付、13には刻みが施文されている。

22、23は黒曜石製のスクレイパー、24は同じく黒曜石製のRフレイクである。25は緑色泥岩製の石斧である。

H-1



図Ⅲ-23 H-1の遺物

3 土壌 (図Ⅲ-24・25 / 図版-12・13)

周堤墓域外から検出された土壌は3カ所である。全て、南側と北側の盛土遺構の間にある空間で見つかり、他の小ピットや焼土と同じく周堤墓が集中する区域をはずれている。時期は、覆土中の遺物から周堤墓や盛土遺構、住居跡などと同じ縄文時代後期末と考えられる。

P-1

位置：R-24・25 規模：(1.09) × 0.82 / 0.82 × 0.71 / 1.01 m

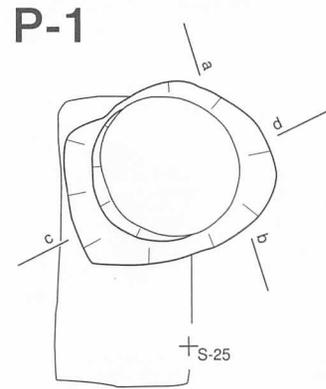
特徴 平成4年の試掘調査により検出された土壌である。西側の壁に段があり、確認面の平面形は西側が角張り、東側が丸みを持つ。墳底の平面は円形、墳底面は平坦である。覆土上層には掘り上げ土と考えられる覆土1・2層と流れ込みのV層土が堆積し、覆土3層からはIV群c類土器が出土している。覆土5層上面にはまばらにベンガラが見つかる。また、周囲のV層包含層からは多数のIV群c類土器が出土している。

遺物 27点の遺物が出土している。種類はIV群c類土器、石鏃、フレイクである。土器は全て小破片で、周囲からの流れ込みと考えられる。

1～10はIV群c類土器である。3～10は口縁部、1、2は胴部である。5～7、9の器面には沈線文が施されている。

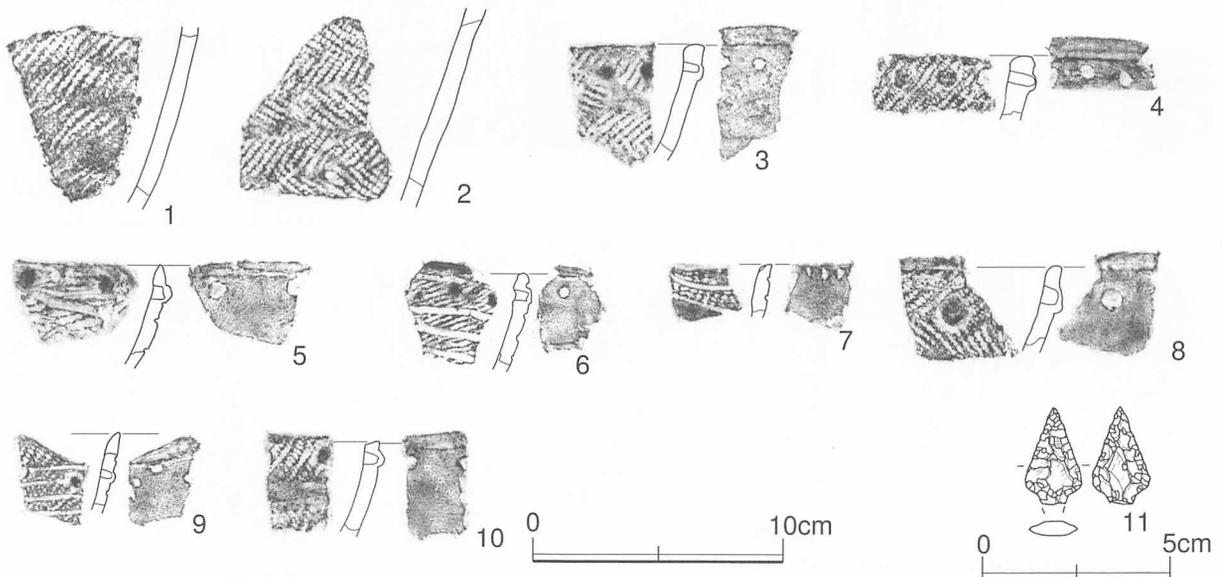
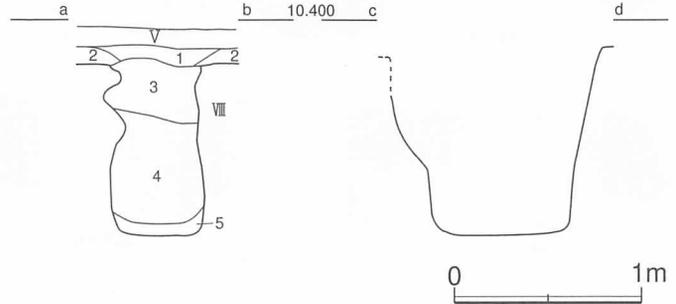
11は黒曜石製の石鏃である。

時期 縄文時代後期末の比較的新しい段階の可能性はある。



P-1 土層説明

- 1 暗褐色土 (V+VI+VII+VIII)
- 2 褐色土 (VI+VII > V > VIII)
- 3 黒色土 (V > VIII) 若干の炭化物を含む
- 4 黒色土 (V+VIII) 若干の炭化物を含む 3層より硬く締まっている
- 5 黄褐色土 (VII >> V) 上面に微量のベンガラあり 4層より硬く締まる



図Ⅲ-24 P-1と遺物

P-2・3

P-2 位置:T-17 規模:(1.61) × (1.15) / 0.84 × 0.79 / (0.64) m

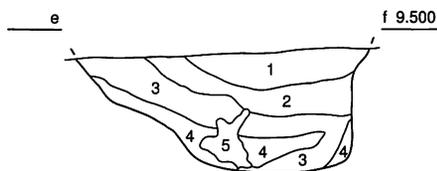
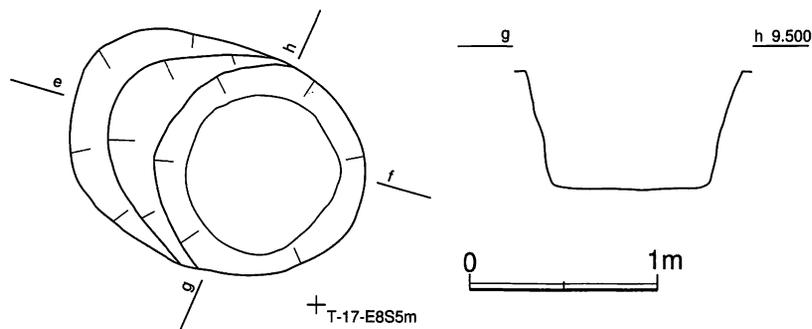
P-3 位置:T-17 規模:(1.59) × (0.81) / 0.73 × 0.71 / (0.76) m

特徴 P-2・3はH-1に接近して確認された類似の土層である。掘り込み面とそこに近い部分は削平で欠失している。その平面形は楕円でP-2が長軸を北西-南東に、P-3が長軸をほぼ西-東に向けている。いずれも壁の一方に傾斜ないし緩い段が認められ、円形の壙底は平坦に作られている。覆土は掘り上げられた土がそのまま埋め戻されていると考えられ、上位が非常に硬く締まっていることから埋め戻し時に圧力をかけている可能性がある。これらは同じ性格を持つと考えられ、いずれもH-1と微妙な位置関係にあることから、その関連遺構の可能性も高い。

遺物 P-3の覆土からはIV群c類土器1点が出土している。1はIV群c類の深鉢形土器口縁部である。

時期 縄文時代後期末

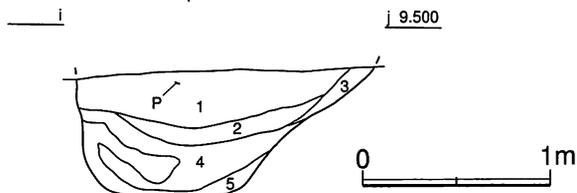
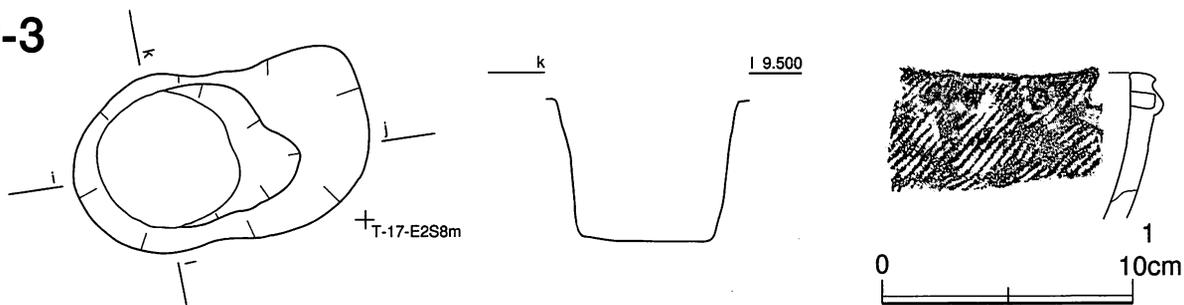
P-2



P-2 土層説明

- 1 黒褐色土 (V>VII>VIII) 硬く締まる
- 2 暗褐色土 (VIII>V>VII) もろい
- 3 暗黄褐色土 (VIII>>V>>VII) もろい
- 4 黒褐色土 (V>VII>VIII)
- 5 黒色土 (V>>VIII) 木根による攪乱

P-3



P-3 土層説明

- 1 黒褐色土 (V>VII>VIII) 硬く締まる
- 2 暗褐色土 (VIII>V>VII) もろい
- 3 暗黄褐色土 (VIII>>V>>VII)
- 4 黒褐色土 (V>VII) もろい
- 5 黒色土 (V>VII>VIII)

図Ⅲ-25 P-2・3と遺物

4 小ピット

4 小ピット (図Ⅲ-26～28)

南側と北側の盛土遺構の間にある空間に設けたトレンチでは焼土とともに無数の柱穴状の小ピットが確認されている。若干の資料を得るためR-19・20・24トレンチで検出されたSP-1～6について調査を行っている。これら無数の小ピットもやはり、他の土壌や焼土と同じく周堤墓が集中する区域をはずれる傾向にある。

SP-1

位置：R-19 規模：0.48×0.36／0.32×0.30／0.52 m

特徴 平面が円形で壁はほぼ真っ直ぐに立ち上がっている。壙底は丸味を帯びている。覆土は埋め戻された硬い土が入っている。

遺物 覆土からは51点の遺物が出土している。種類はI群b-2類、IV群c類土器、石斧片、フレイク、礫、有意礫である。土器は全て小破片で、周囲からの流れ込みと考えられる。有意礫は意図的に埋めた可能性がある。

1、3はIV群c類の土器である。1は沈線文の施された深鉢形土器口縁部、3は磨消帯のある壺形土器頸部である。3はIV群b類の可能性もある。2はI群b-2類の深鉢形土器胴部である。器面には粘土紐の貼り付けと組紐圧痕が施されている。

4は砂岩質の円礫である。

時期 縄文時代後期末

SP-2

位置：R-19 規模：0.76×(0.32)／(0.44)×(0.14)／0.92 m

特徴 トレンチの壁際で検出したやや大型の柱穴である。平面は円形をなすと推定される。壁はほぼ真っ直ぐに立ち上がっており、壙底は平坦である。覆土は上位の1層に埋め戻された硬い土が入っており、土壌の可能性を残す。

遺物 覆土からは63点の遺物が出土している。種類はIV群c類土器、Rフレイク、フレイクである。

5～11はIV群c類の土器である。5～8は深鉢形土器の口縁部、9～11は胴部である。6～11には沈線文が施されている。

12は黒曜石製のRフレイクである。

時期 縄文時代後期末

SP-3

位置：R-19・20 規模：0.68×0.064／0.52×0.44／0.48 m

特徴 平面が円形でやや丸味を帯びた壙底から壁は僅かに傾斜しながら立ち上がっている。覆土は1層に埋め戻された硬い土が入る。

遺物 覆土からは31点の遺物が出土している。種類はIV群c類土器、礫である。

13、14はIV群c類の土器である。13は深鉢形土器の口縁部、14は横走沈線の施された胴部である。

時期 縄文時代後期末

SP-4

位置：R-20 規模：0.36×0.36／0.22×0.19／—m

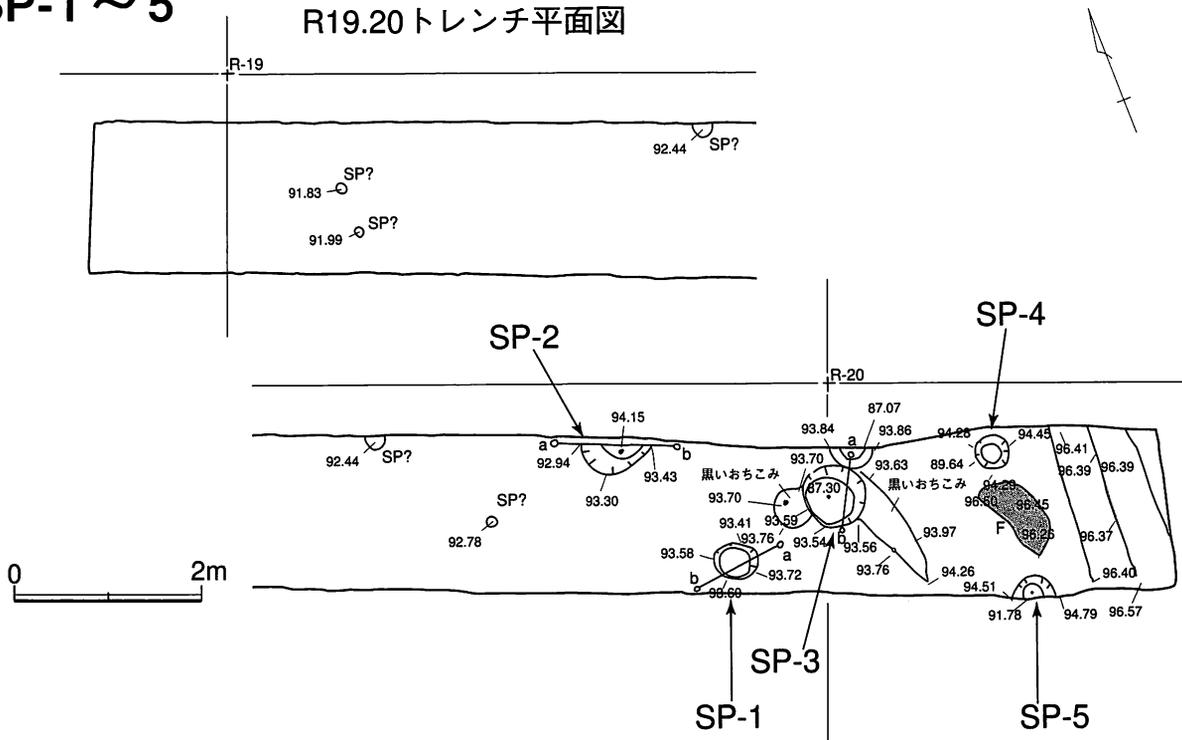
特徴 平面が円形を呈す小ピットである。

遺物 覆土からはIV群c類土器、砥石、フレイク、チップ、礫など17点の遺物が出土している。

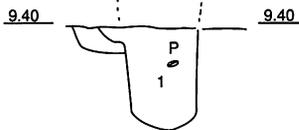
時期 縄文時代後期末

SP-1 ~ 5

R19.20トレンチ平面図

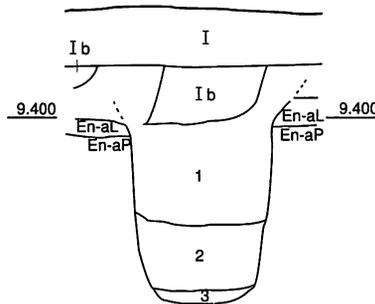


SP-1



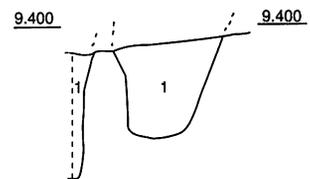
SP-1 土層説明
 1 暗黄色土 V+VII>VIII
 硬くよく締まる。埋め戻し土である。

SP-2



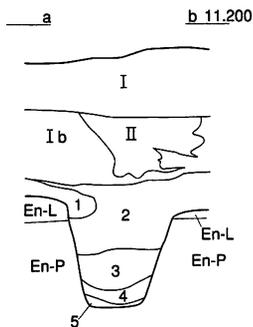
SP-2 土層説明
 1 暗黄色土 V+VII>VIII
 硬くよく締まる。埋め戻し土である。
 2 1層に色調似るが締まりなくポロポロ。
 3 2層にベンガラ混入。

SP-3

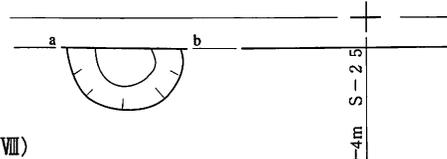


SP-3 土層説明
 1 暗黄色土 V+VII>VIII
 硬くよく締まる。埋め戻し土である。

SP-6



SP-6 土層説明
 1 暗褐色土 (V>VIII)
 2 黒色土 (V>VIII)
 3 黒色土 (V>VIII)
 2層よりパミスがやや多い
 4 暗黄褐色土 (VIII>V)
 硬く締まっている
 5 黒褐色土 (V+VIII)硬く締まる)



図III-26 SP-1・2・3・4・5・6

4 小ピット

SP-5

位置：R-20 規模：0.48 × (0.24) / 0.24 × (0.16) / -m

特徴 トレンチ壁際で検出した平面が円形を呈すと推定される小ピットである。

遺物 遺物は出土していない。

時期 縄文時代後期末

SP-6

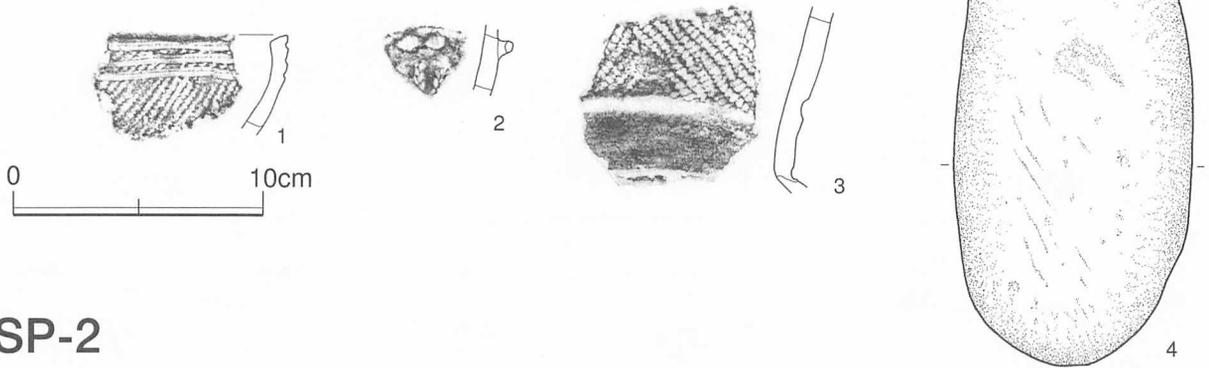
位置：R-24 規模：0.60 × (0.32) / 0.31 × (0.20) / 0.50 m

特徴 トレンチ壁際で検出した平面が円形を呈すと推定される小ピットである。覆土中からベンガラが出土しており土壌の可能性もある。

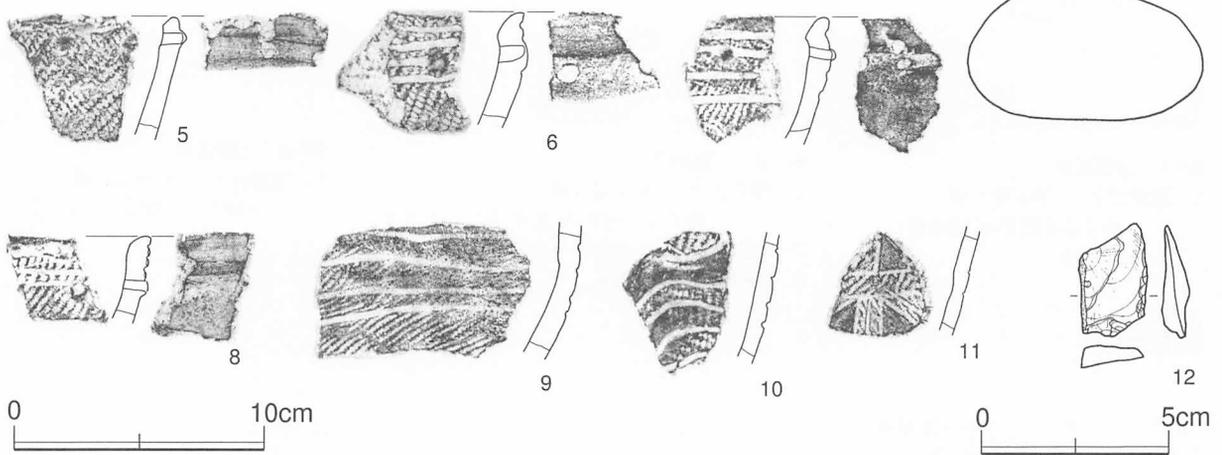
遺物 覆土からIV群c類土器、フレイク、礫片、動物遺体など20点の遺物が出土している。土器は全て小破片で、周囲からの流れ込みと考えられる。

時期 縄文時代後期末

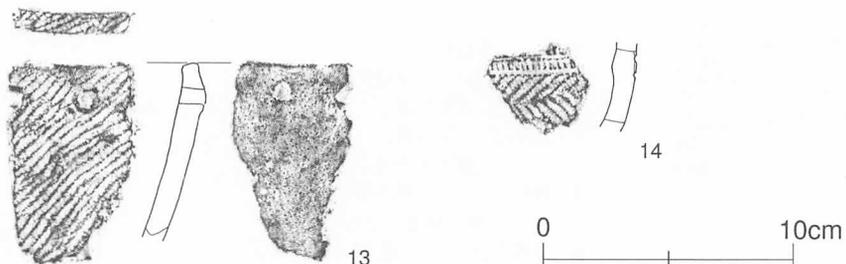
SP-1



SP-2



SP-3

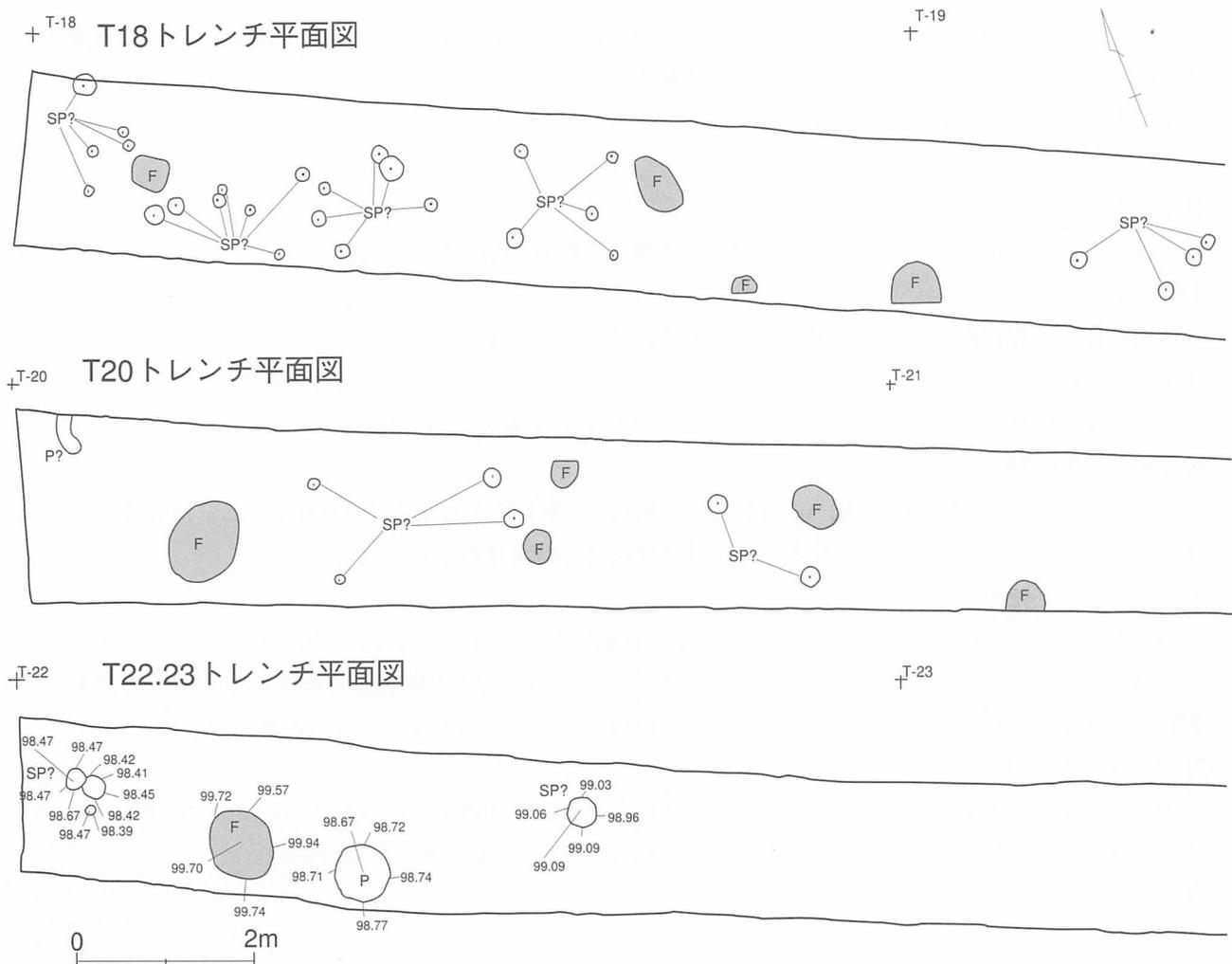


図Ⅲ-27 P-1・2・3の遺物

5 焼土 (図III-28 / 図版-14)

南側と北側の盛土遺構とその間にある空間に設けたトレンチでは土壌や無数の柱穴状の小ピットとともに多数の焼土が確認されている。盛土遺構で確認された焼土については盛土遺構とあわせた資料的価値を考慮して確認以外の調査を実施していない。特にT-19・20・22トレンチで検出された焼土についてだけ調査を行っている。これら多数の焼土もやはり、他の土壌や小ピットと同じく周堤墓が集中する区域をはずれる傾向にある。以下、特徴的な部分を簡単に述べる。

一つにのそれらの焼土を検出した位置である。「1住居跡」で述べた様にこの周辺は大きく削平を受けた部分であり本来の生活面はもっと上位のレベルにあったはずで、焼土が比較的深い位置から検出されるのはやや不自然である。住居の内外に限らず何らかの掘り込みをとまなう火の設備があったと推定される。また、今回焼土としたものには大きく3種類ある。1.その場で生成されたもの、2.廃棄されたもの、3.土壌内の覆土が赤化しているもの、である。2.のパターンが多いのは盛土遺構であるが、これに対して削平部分のトレンチでは3.が多いようだ。赤化の強弱によっては1.か3.かの判断が難しい場合もあるが、それにしても深い位置の土壌に熱の影響の痕跡が残るパターンが多すぎるように思える。盛土遺構に挟まれた空間は、住居跡や柱穴様の小ピット群の検出状況から見て、一時期、建設物による過密状態にあったと推定される。H-1が先に述べた火災に遭遇していた場合、周辺の構築物にも被害が及ぶ可能性は十分に考えられる。地中に残る熱の痕跡は、災害、戦火あるいは儀式など何らかの要因で大きな炎が周辺に及ぼしたことによるものかもしれない。



図III-28 トレンチ内の焼土と小ピット

IV 包含層の遺物

この調査で得られた遺物は、総点数22,504点である。層位別で見るとV層が最も多く、次いで盛土遺構の盛り土中からのものが多いが、I層と表面採取で得られた遺物は約8,000点とV層を上回る点数である。これは農地利用による大規模な削平で広く包含層が破壊されたためである。これらの遺物の内大きなウエイトをしめるのは縄文時代後期末のもので、土器は総数19,108点の内18,988点をIV群c類土器で占める。石器類に関してもそれに近い割合でIV群c類に伴うと考えられるも、土器と比較してやや点数が少ないようだ(表V-5)。

V層の堆積状況は全体的に層厚が薄く、黒色土も発達も良くない。特に南北の盛土遺構に挟まれた範囲には黒色土が少なく、それに相当する暗褐色土中から多数のIV群c類土器とそれに伴う石器類が出土している。トレンチを拡幅して包含層の調査を行ったS-25のポイント杭付近でも多数の遺物が出土しているが、盛土遺構の細かい土器と同様にそれらの接合率も極めて低い。

1 土器 (図IV-1~14 / 図版-22~44)

土器は総数19,108点の内、IV群c類土器が18,988点とその大半を占めている。これ以外にはI群b-4類(東釧路IV式)、IV群a類(余市式)、V群c類(タンネトウL式)などの土器が僅かに出土しているがこれらに伴う遺構は見あたらない。S・T-31では区画する沈線に沿って刻みを多用するホッケマ式・エリモB式類似の土器が集中する傾向がみられる。

なお、土器の掲載は全てトレンチを設けた10×10mのグリッド別におこなった。序列はグリッド番号の若い順とし、説明は各グリッドのものを横軸のアルファベットでまとめておこなった。また、分類は特に断らない限りIV群c類とする。

Dライン (2)

2は小型の鉢形土器口縁部である。器面には沈線文と刻みが施されている。

Iライン (3)

3は深鉢形土器口縁部である。器面には沈線文が施されている。

Jライン (4~7)

4~7は深鉢形土器口縁部で、5、7の器面には横走する沈線文が施されている。

Kライン (8~15)

9~15は深鉢形土器口縁部、9、10、12、13の器面には横走する沈線文が施されている。14は無文である。8は注口形土器の胴部で、器面には曲線の沈線文と磨消は施されている。

Lライン (16~26)

16、20~22は深鉢形土器口縁部、17、18、23は胴部である。16、18、20~22、23の器面には沈線文が施されている。19は連続する刻みの施された壺もしくは注口形土器頸部である。24~26はI群b-4類の深鉢形土器胴部で24、25は撚糸文風、26は組紐圧痕風の羽状縄文が各々の器面に施されている。

Mライン (27~29)

27はI群b-4類の深鉢形土器胴部で表裏の面に撚糸文風の羽状縄文が施されている。28、29は注口形土器の胴部と底部である。28の器面には細い沈線文施されている。29は無文である。

Nライン (30~32)

4類の深鉢形土器胴部で24、25は撚糸文風、26は組紐圧痕風の羽状縄文が各々の器面に施されている。

Mライン (27～29)

27はI群b-4類の深鉢形土器胴部で表裏の面に撚糸文風の羽状縄文が施されている。28、29は注口形土器の胴部と底部である。28の器面には細い沈線文施されている。29は無文である。

Nライン (30～32)

30、31は沈線文の施された深鉢形土器の口縁部、胴部である。32は注口と考えられる土器の胴部である。器面には連続した刻みが施されている。

Pライン (33～49)

34～36、38、40、41、43～46、49は深鉢もしくは鉢形土器口縁部、33、37、42は胴部である。35、36、38、40、42には沈線文が施される。33は器面を区画する横走沈線に沿って刻みが施されるもので、IV群b類の可能性もある。45は口縁部に爪形様の刻みが施されている。47、48は壺もしくは注口形土器で器面には沈線文と刻みで複雑な文様を描いている。39はIV群a類の余市式土器口縁部である。

Qライン (50・51)

50は口唇部に刻みの施された磨消の口縁部でIV群b類の可能性はある。51は沈線文の施された深鉢形土器口縁部である。

Rライン (52～74)

52、53、56、57、59、60、64～67、69～74は鉢形土器口縁部である。56、57、59、65、～67、69、70、72、73の器面には沈線文が施される。69にはボタン状の貼り付けが見られる。54、61～63、68は深鉢形土器胴部、55、58は同一個体の底部で、これらの器面には沈線文が施されている。

Sライン (75～111)

S-31のトレンチでは南側の盛土遺構が検出されている。86～109はその遺物である。S-24～31では区画の横走沈線文に沿って刻みをほどこすものが多く、これらはIV群b類のホッケマ式やエリモB式に近い段階と考えられる(94～95、103、105～107、109)。

75～81、83、85～92、94、95、98～100、102、104、106～109、111は深鉢形土器口縁部である。75は口縁部に半裁竹管による刺突列が巡っている。76、79、「80、81、83、90、92、97、98、99、108、111の器面には沈線文が施されている。97、は深鉢形土器胴部である。82、84、93深鉢形土器の底部である。101は注口土器の口縁部である。110は台付きの浅鉢形土器底部かもしれない。

Tライン (1・112～199)

T-30・31のトレンチでは南側の盛土遺構が検出されている。148～155、157～163、196～200はその遺物である。T-30・31では区画の横走沈線文に沿って刻みをほどこすものが多く、これらはIV群b類のホッケマ式やエリモB式に近い段階と考えられる(149、152～154、157、165～168、174、178)。

148はI群b-2類の深鉢形土器胴部である。1、114、124、138、141、145、147、160、161、174、175、176、179、183、193、196、199、200は深鉢形土器胴部。125、140、199は底部である。116、146は注口形土器の口縁部、129、142、147、158、171、179、181、194、198は注口形土器の胴部、133は底部である。132、159は浅鉢形を呈すると考えられる土器の底部である。それ以外は深鉢形土器の口縁部である。112の突瘤部は指先で摘まれた様に縦長である。118には連続した爪形様の刻みが施されている。181は精製土器と考えられ、器面には朱色を塗布した形跡が僅かに見られる。182の器面には御殿山式に見られる様な三叉文風の沈線文が描かれている。129、147、179の器面と159の底部輪郭にはボタン状の粘土の貼り付けが施されている。

1 土器

Uライン (201～203)

全て口縁部である。201は磨消の無文帯を有し、202と203の器面には沈線文が施されている。

Vライン (204～270)

V-16・17・25・27・28のトレンチでは南側の盛土遺構が検出されている。228～242、253～255、257～265、270はその遺物である。

204～217、223、225、231～236、238、239、241～245、249～255、259～267、270は深鉢形口縁部、224、226～228、246、247は胴部、221、222、248、258、268は底部である。219、220は注口部、218、230、240、256、257は注口形土器胴部である。237はミニチュア土器と考えられる。

Xライン (271～284)

X-19・20のトレンチでは南側の盛土遺構が検出されている。274～276はその遺物である。

271～279、281～283は深鉢形土器口縁部、284が底部である。280は注口形土器胴部と考えられる。

2 石器・石製品 (図Ⅳ—15～19 / 図版—45～54)

剥片石器は349点、礫石器は532点が出土しており、どちらもV層と盛り土の中から出土するものが最も多く、次いでI層の耕作土からも多数出土している。剥片石器の内訳は石鏃、ポイント、ドリル、つまみ付ナイフ、エンドスクレイパー、スクレイパー、くさび形石器、異形石器など、礫石器は石斧、たたき石、すり石、くほみ石、砥石、台石などである。石製品は石棒の破片が1点出土している。これらの大半は、IV群c類土器に供うと考えられる。

剥片石器群

石鏃 (1～47)

全部で96点が出土しており、V層で出土したものが40点、盛土遺構の盛り土から出土ものは31点である。盛り土から出土したものは8、11、12、19、22、24～36、40～44、47である。形態的には有茎のものが大きな割合を占めている。しかし、規模にばらつきが多く作りの粗雑なものが目に付く。石材は黒曜石を使うものが多く、それ以外では珪質頁岩などが用いられている。

ポイントもしくは両面加工のナイフ (48～50)

10点が出土したが、その多くは尖頭部をもつスクレイパーに該当する。やはり黒曜石が石材として用いられており、作りも石鏃同様にやや粗い。

ドリル (51～59)

24点が出土しており、比較的数量が多い。棒状の形態のものと剥片の一部に尖頭部を削出するものがある。51～55が前者で、石材には黒曜石とメノウ質のものが使われている。56～59は後者で黒曜石が使われている。

つまみ付部を持つもの (60～63)

簡単なつまみ部を削出する粗雑なナイフで14点が出土した。分類ではつまみ付ナイフとして扱っている。石材は黒曜石が多く60だけが頁岩である。

スクレイパー (64～77)

64～69は刃部断面の角度が大きなスクレイパーで、搔器的な機能を有していたと考えられる。70～77は角度の少ない刃部を持つもので削器である。70～74は刃部が緩やかな弧を描く。75～77は直線的である。石材は黒曜石が多い。

Rフレイク (78、79)

加工痕のみられる剥片が148点出土している。石材は黒曜石と頁岩である。

異形石器 (86)

86は両面加工がなされた異形の石器である。黒曜石製。

楔形石器 (80～82)

剥片の相対する両端に打撃による細かな階段状の剥離が見られるもので6点が出土している。80～82は黒曜石製の縦長剥片が使われており、81、82は盛り土から出土している。

石核 (83～85)

黒曜石製の石核で13点が出土している。

礫石器

石斧 (87～93)

134点が出土している。磨製の石斧や細かい敲打で整形するものなどがある。前者は片岩類、後者は泥岩の類を石材に用いている。後者は縄文時代後期末頃に現れる特徴的な石斧である。91、94は未製品と考えられる。

たたき石 (95～102)

48点が出土している。石斧と同じ泥岩類やかんらん岩の石材を使ったものが多く、石斧の破損品を転用したと思われるものも見られる。形態的には長楕円形のものや球に近い形態のものがあり、前者は礫の長端部に敲打状の著しい磨滅が見られ、後者は角を潰すように全面を使用する傾向にある。

すり石 (109～113)

18点が出土している。円礫の扁平面や細長い綾部を使用したものがあり、後者は縄文時代早期のものかもしれない

くぼみ石 (111)

6点が出土している。111はすり面のある扁平部に窪みを設けたもので、石材は砂岩が使われている。

砥石 (104～107)

44点が出土しているが、比較的盛り土から出土する小破片が多いようだ。石材は砂岩である。

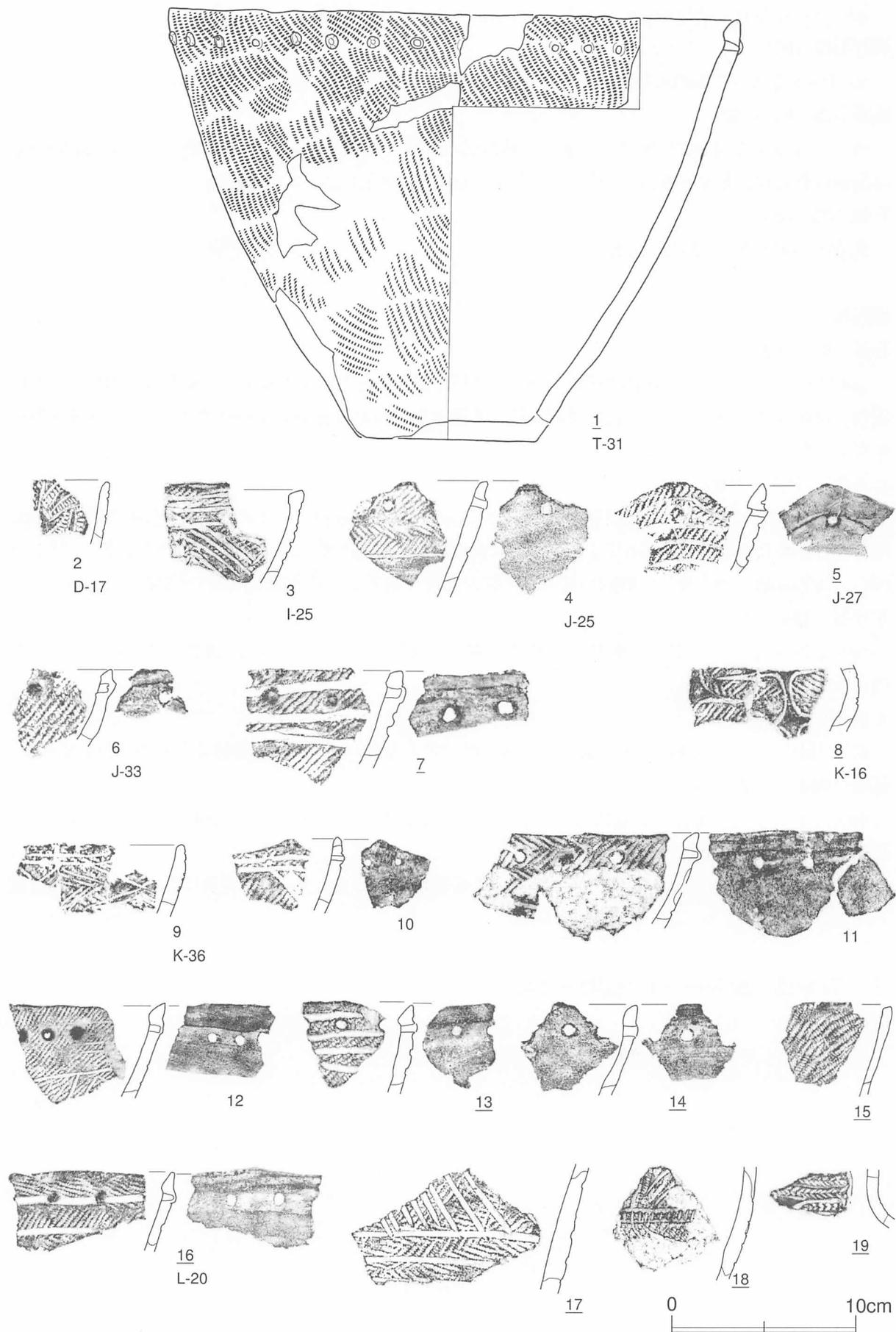
石皿・台石 (103、108、114)

6点が出土している。扁平の安山岩や板状の砂岩を使用したもので、中央付近に磨滅がある。加工痕のみられる礫

3 石製品 (図IV—19／図版—54)

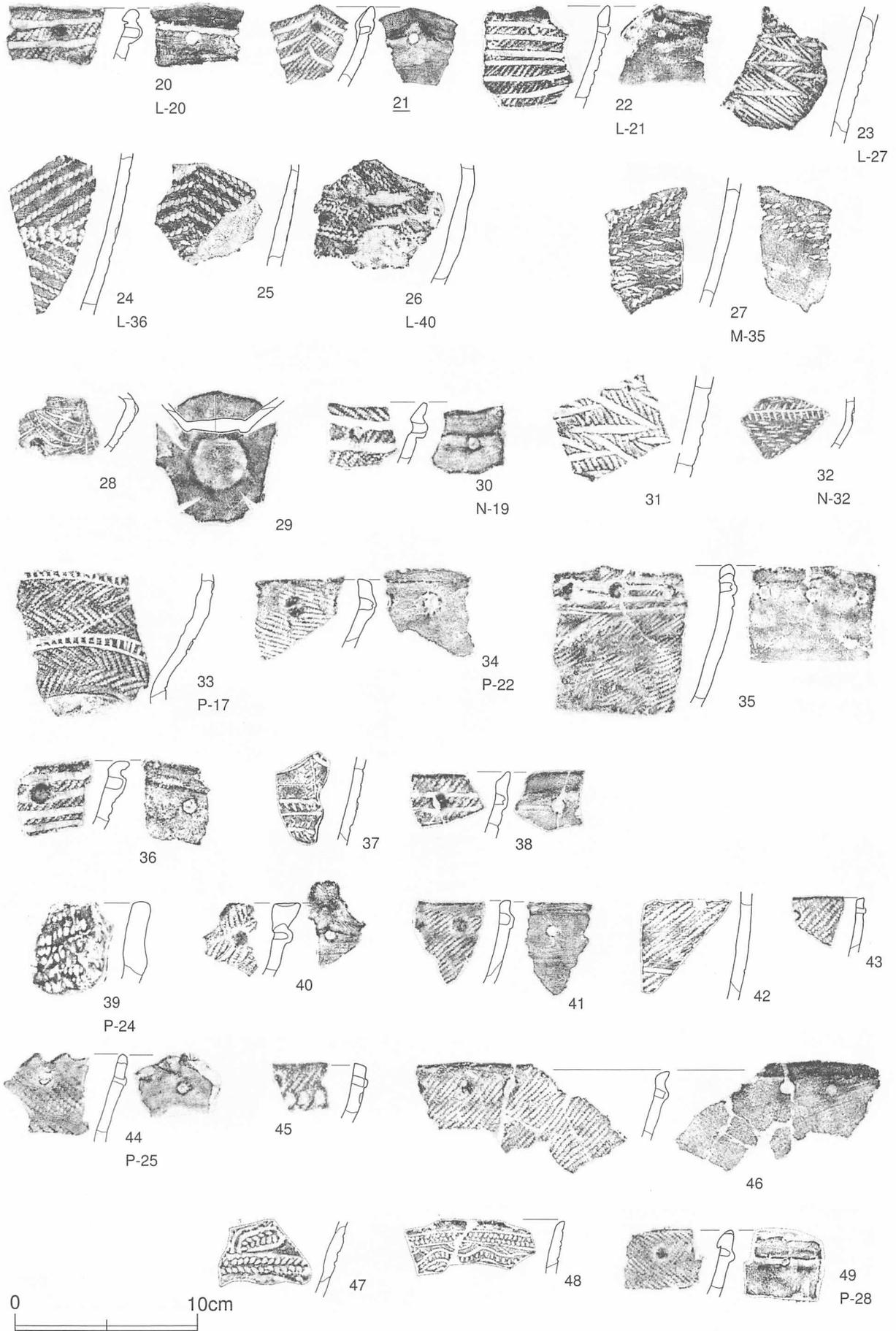
石棒 (115)

1点が出土している。115は石棒の破片である。片岩製。



図Ⅳ-1 土器 (1)

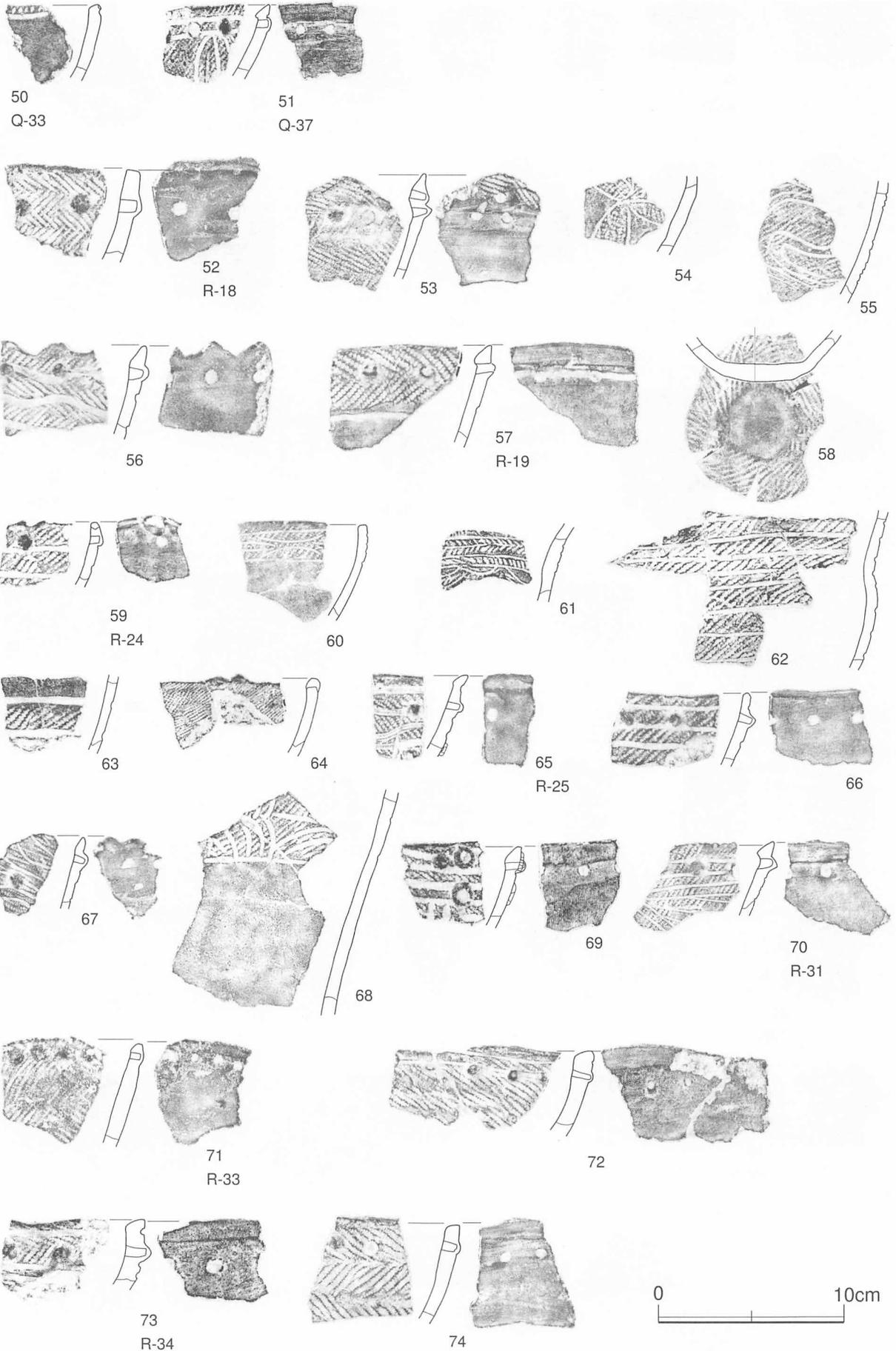
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



図IV-2 土器 (2)

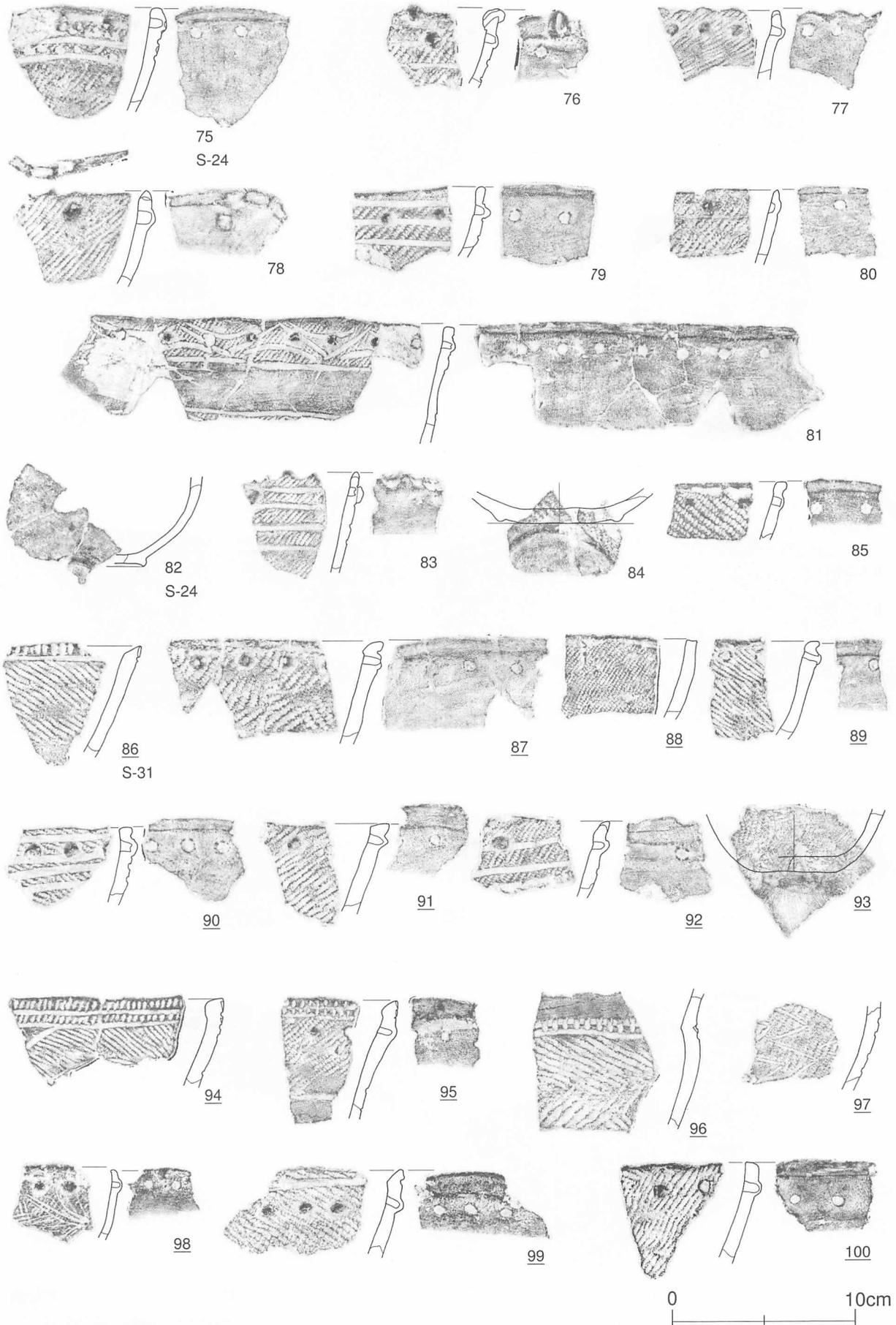
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。

1 土器



図IV-3 土器 (3)

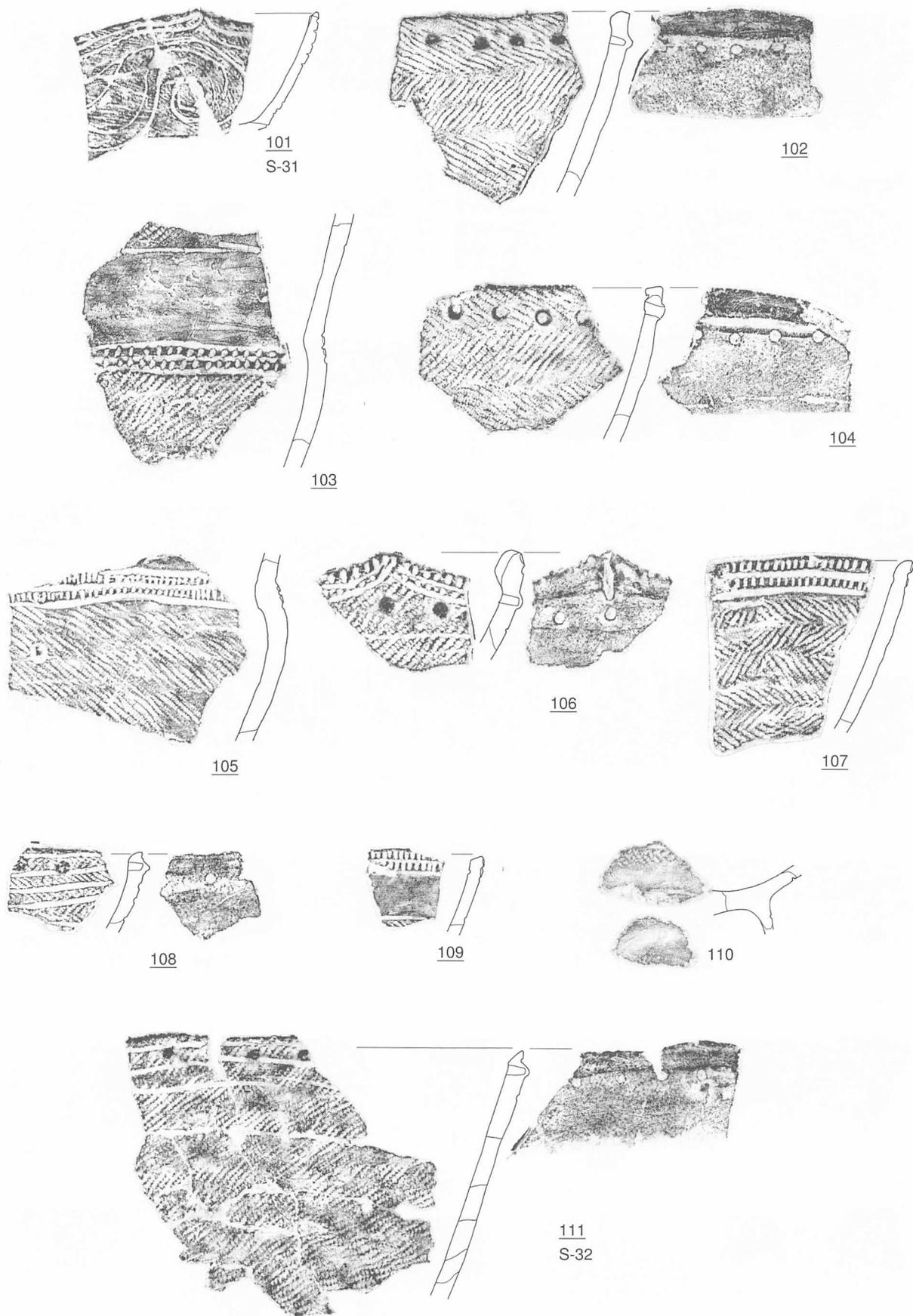
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



図IV-4 土器 (4)

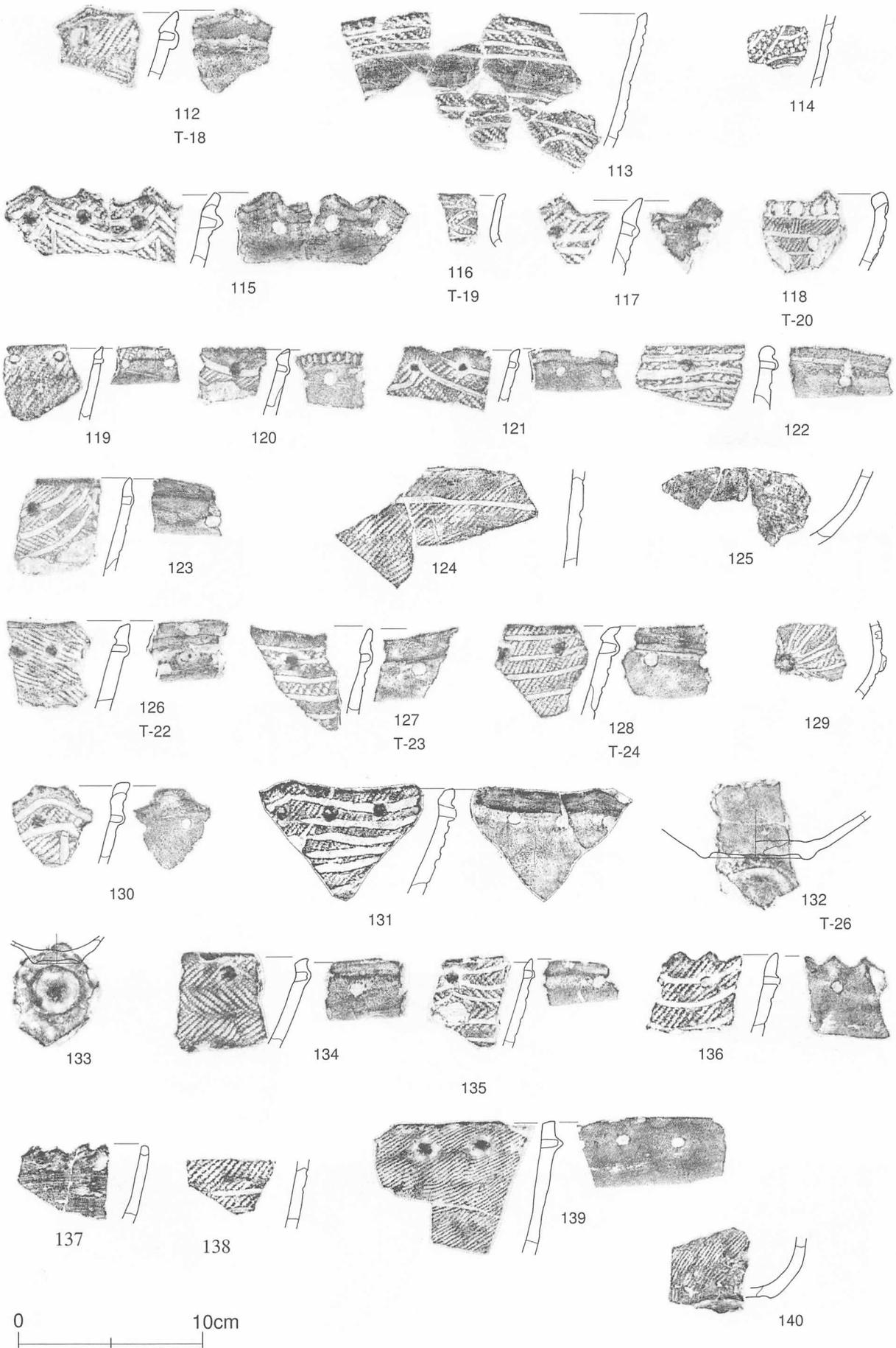
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。

1 土器



図IV-5 土器 (5)

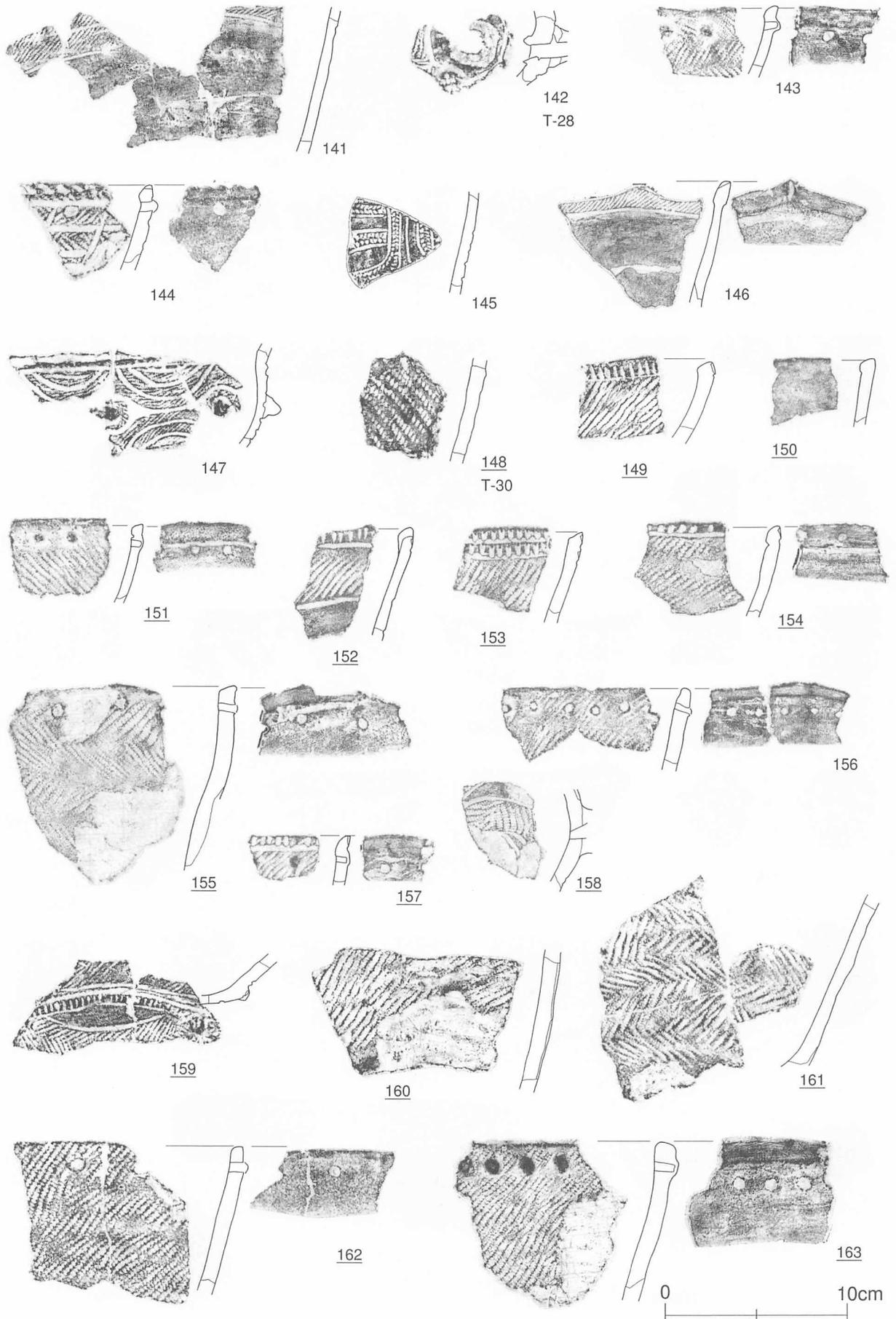
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



図IV-6 土器 (6)

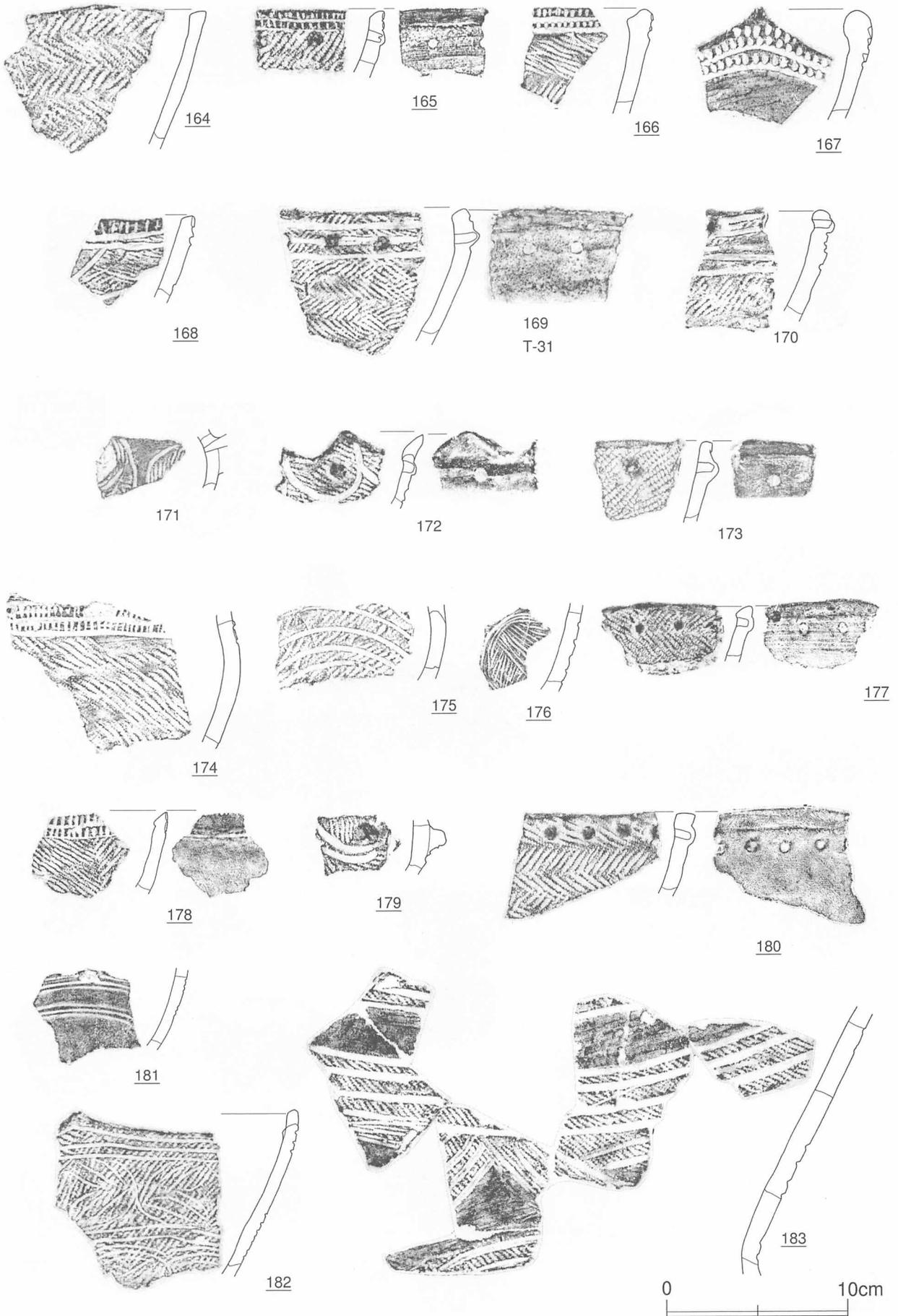
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したものの。

1 土器



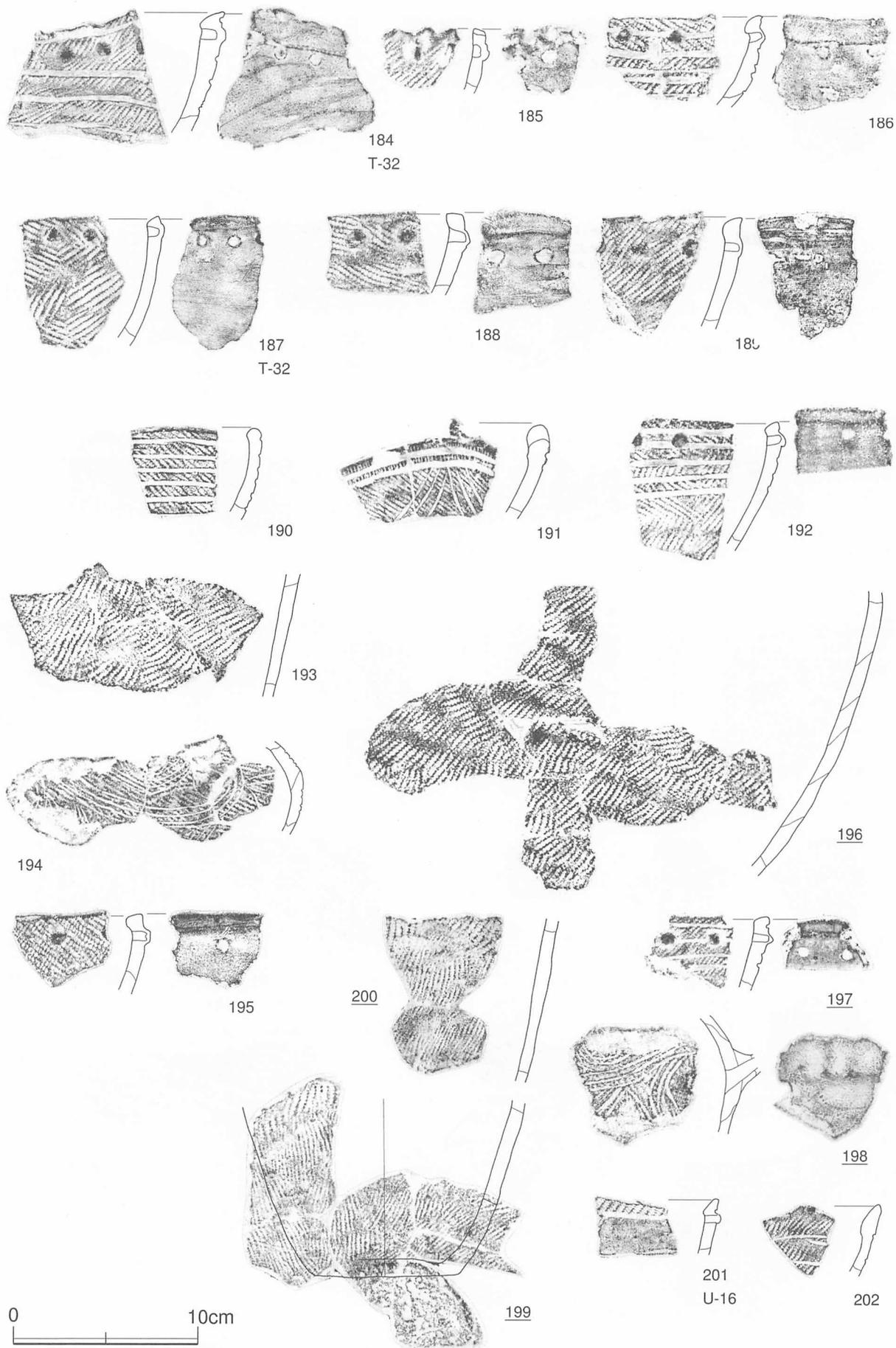
図IV-7 土器 (7)

※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



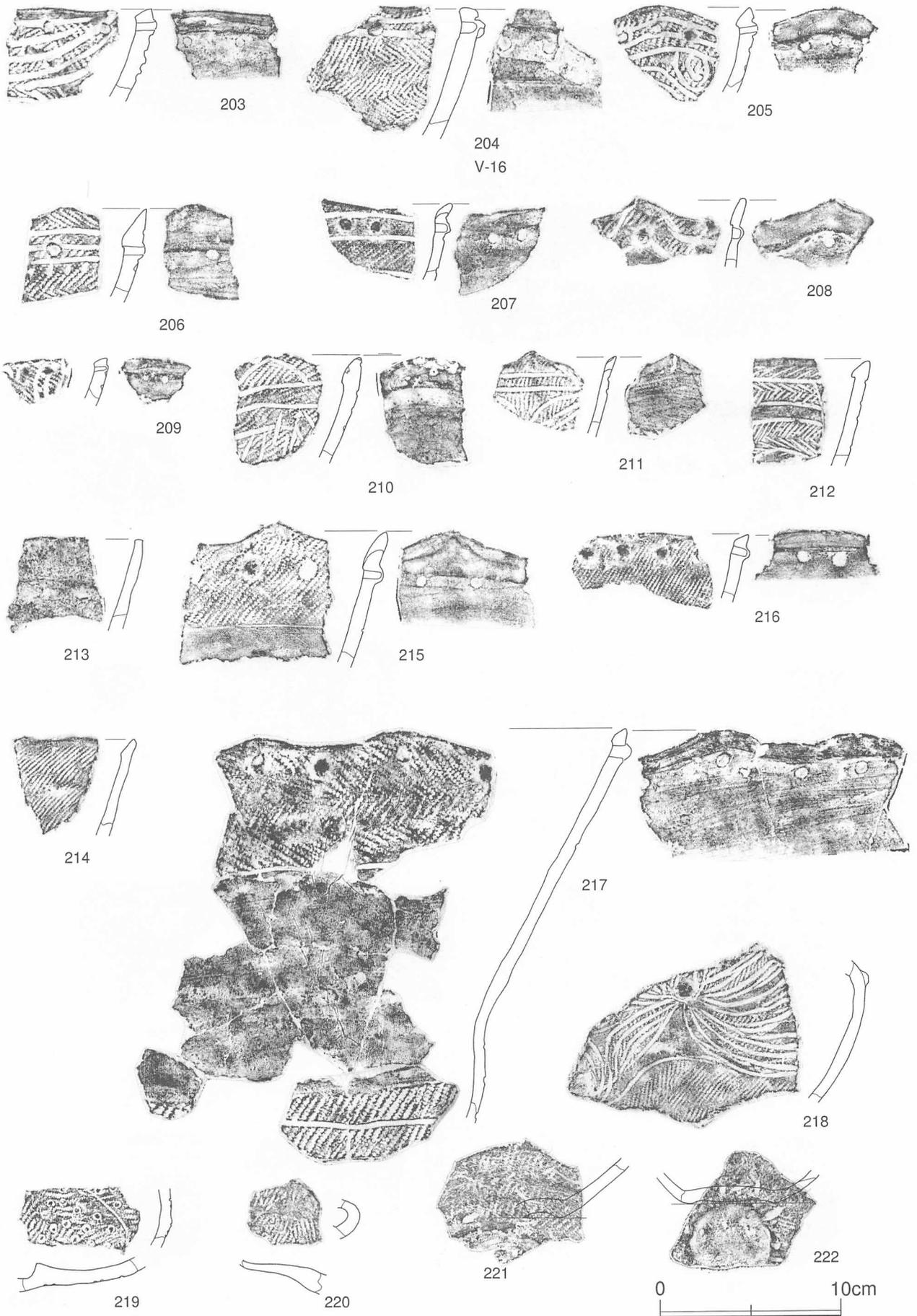
図IV-8 土器 (8)

※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



図Ⅳ-9 土器 (9)

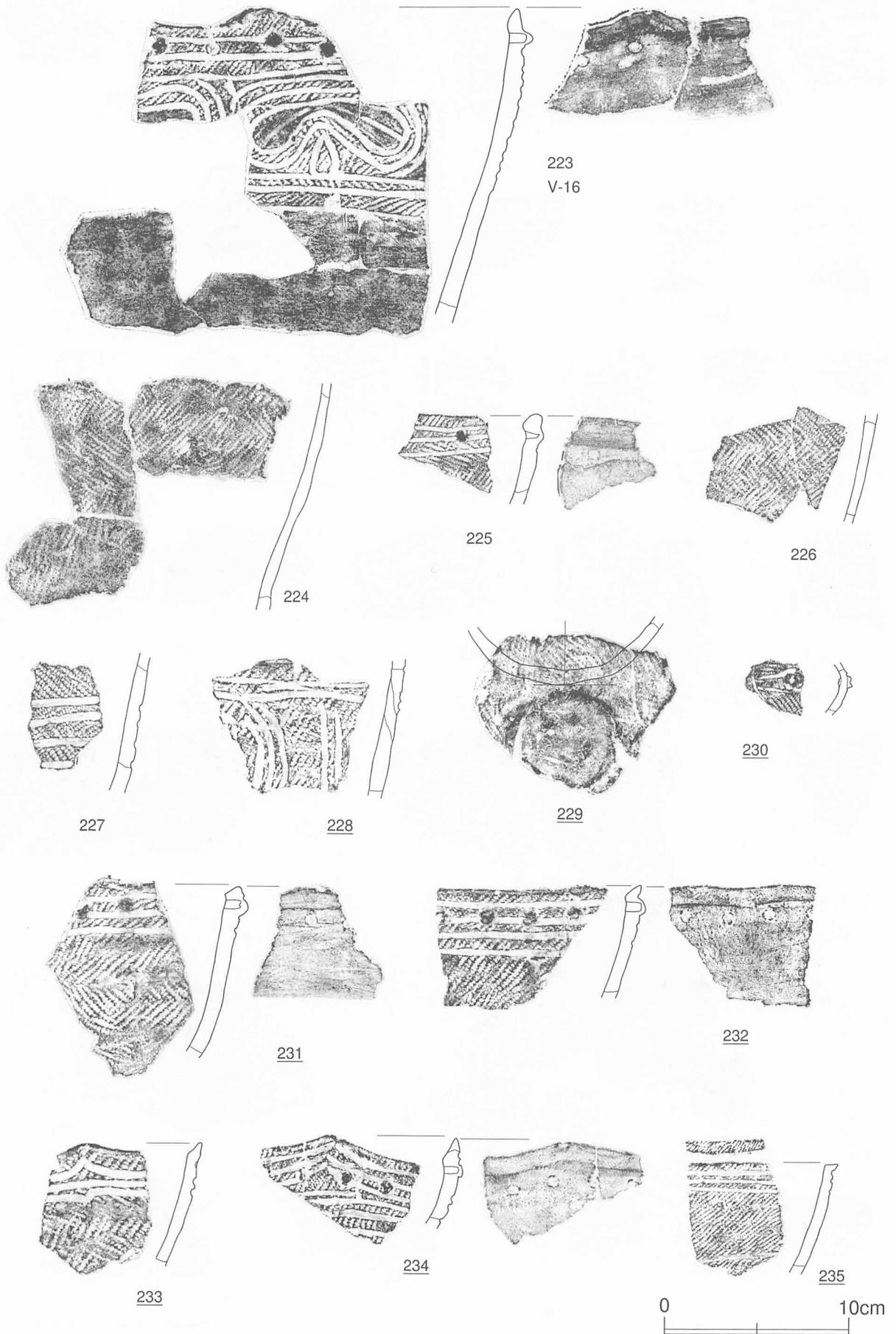
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



図IV-10 土器 (10)

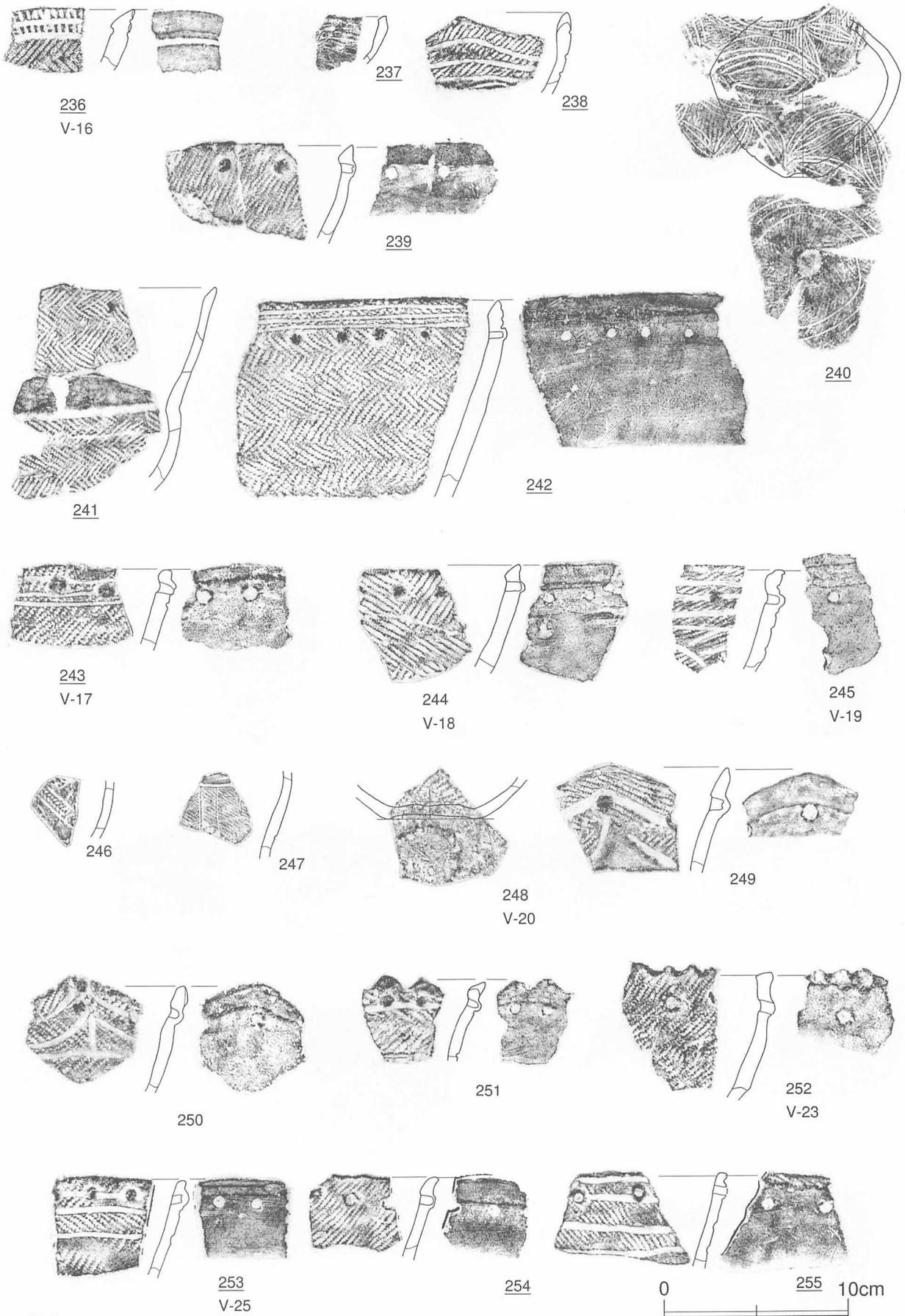
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。

1 土器



図Ⅳ-11 土器 (11)

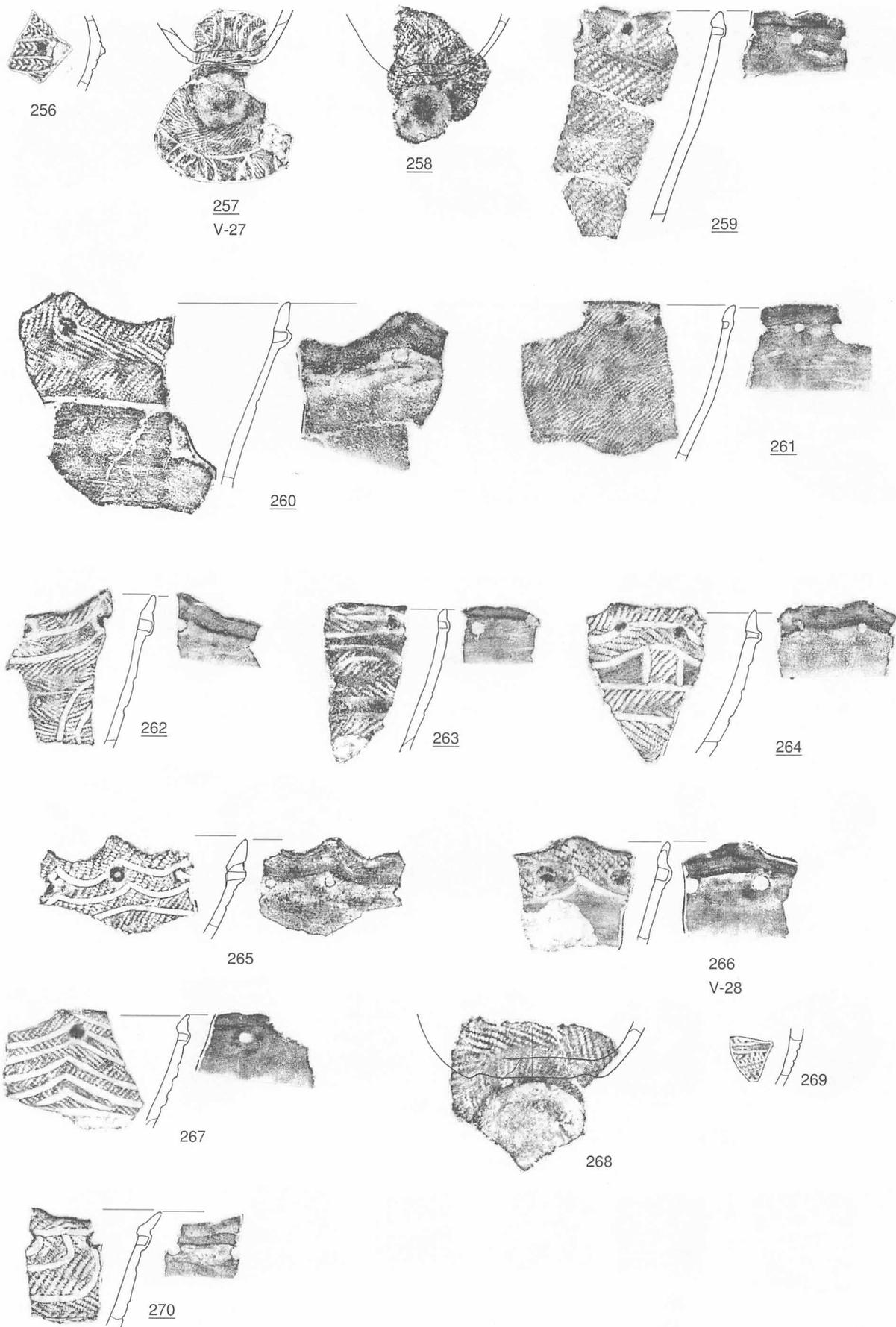
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



図IV-12 土器 (12)

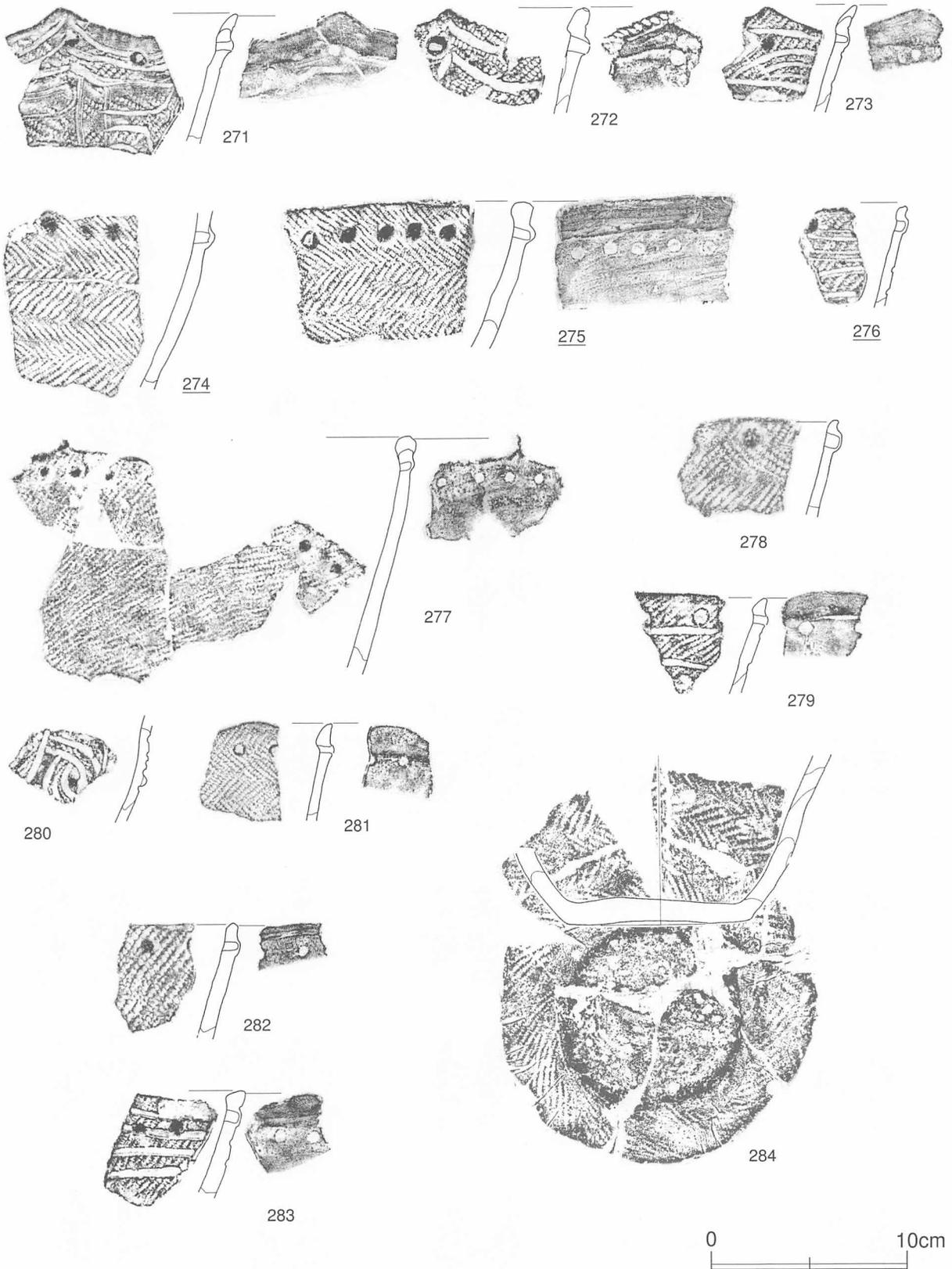
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。

1 土器



図Ⅳ-13 土器 (13)

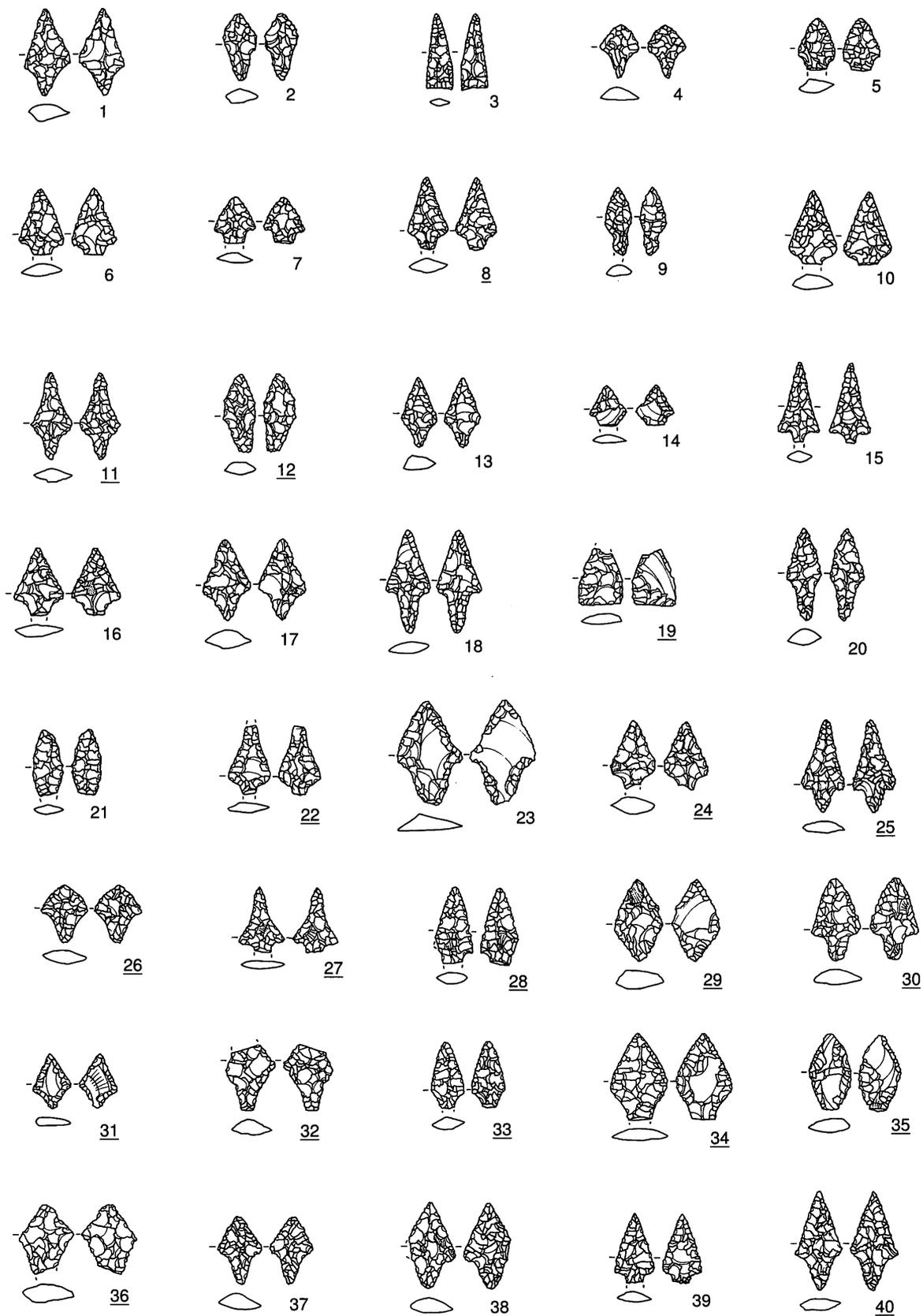
※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



図IV-14 土器 (14)

※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。

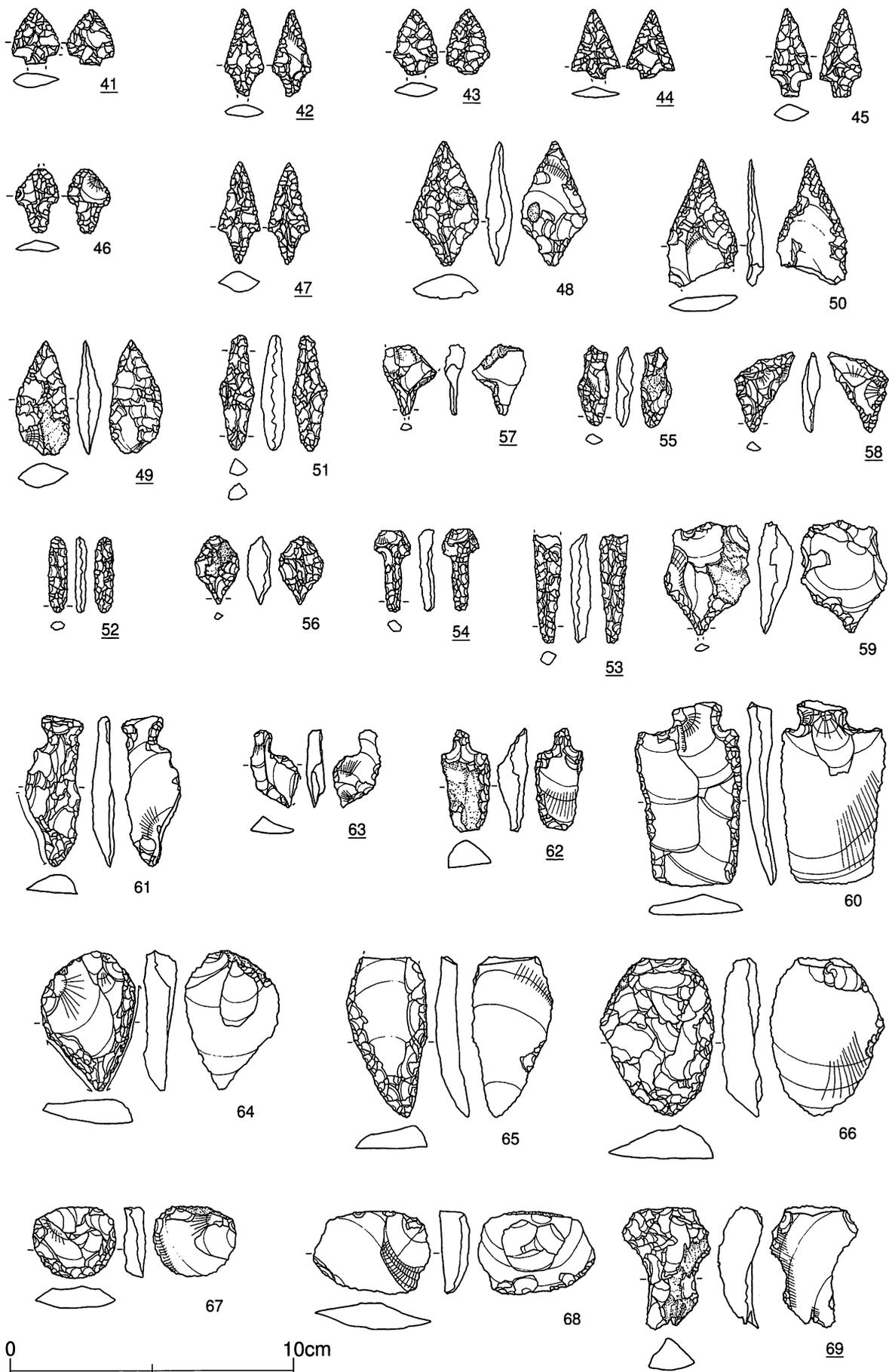
2 石器



0 10cm

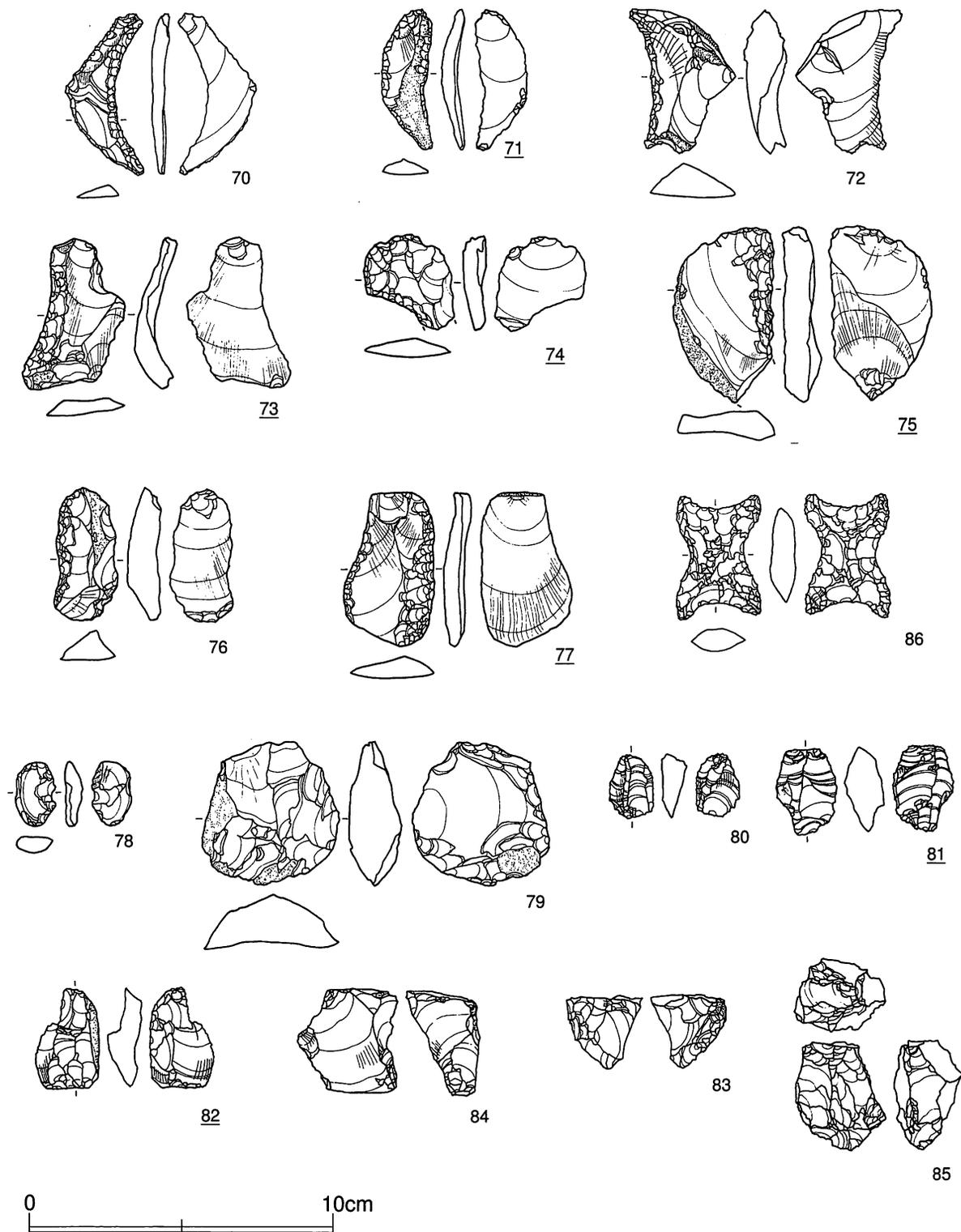
図IV-15 剥片石器 (1)

※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



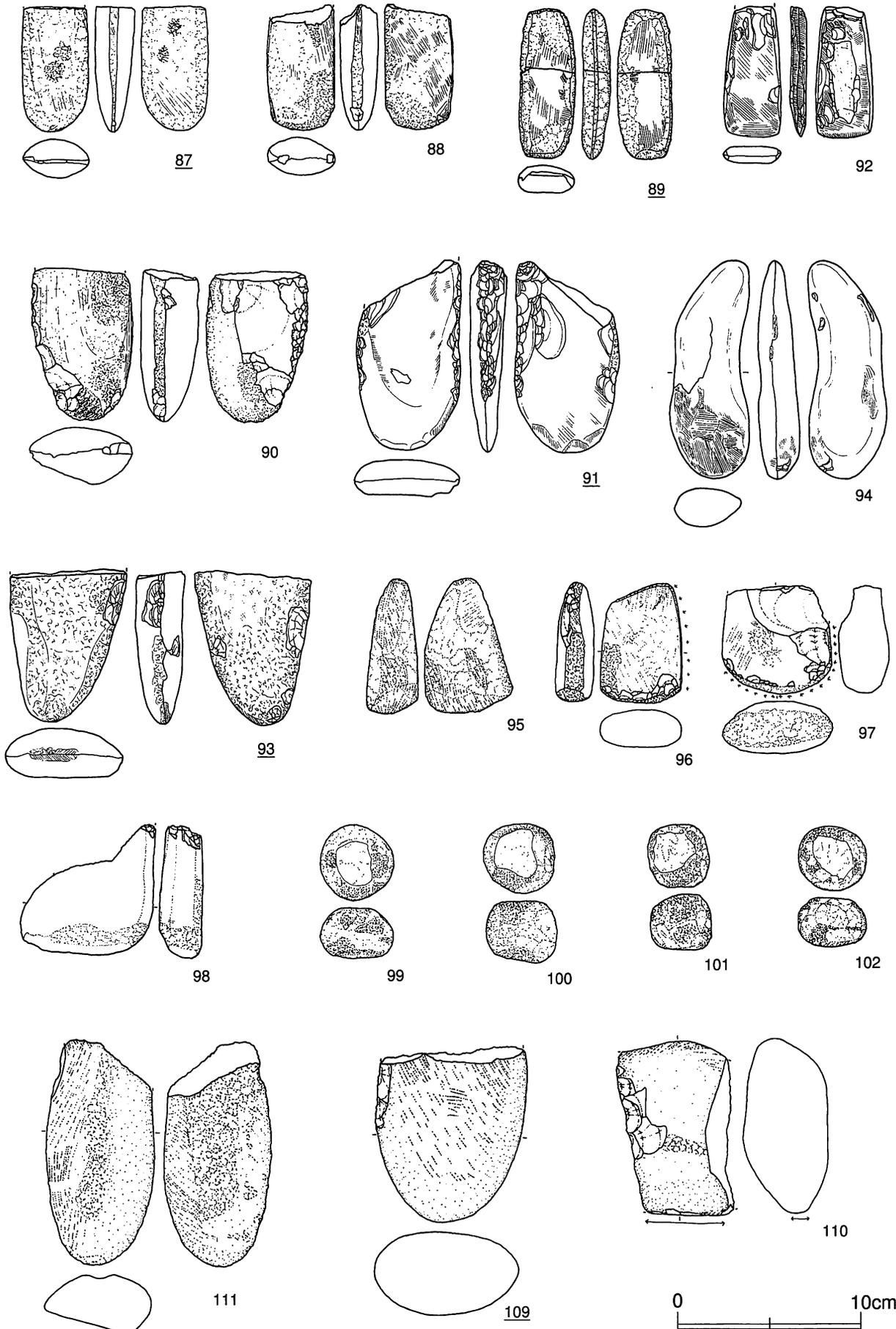
図IV-16 剥片石器 (2)

※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



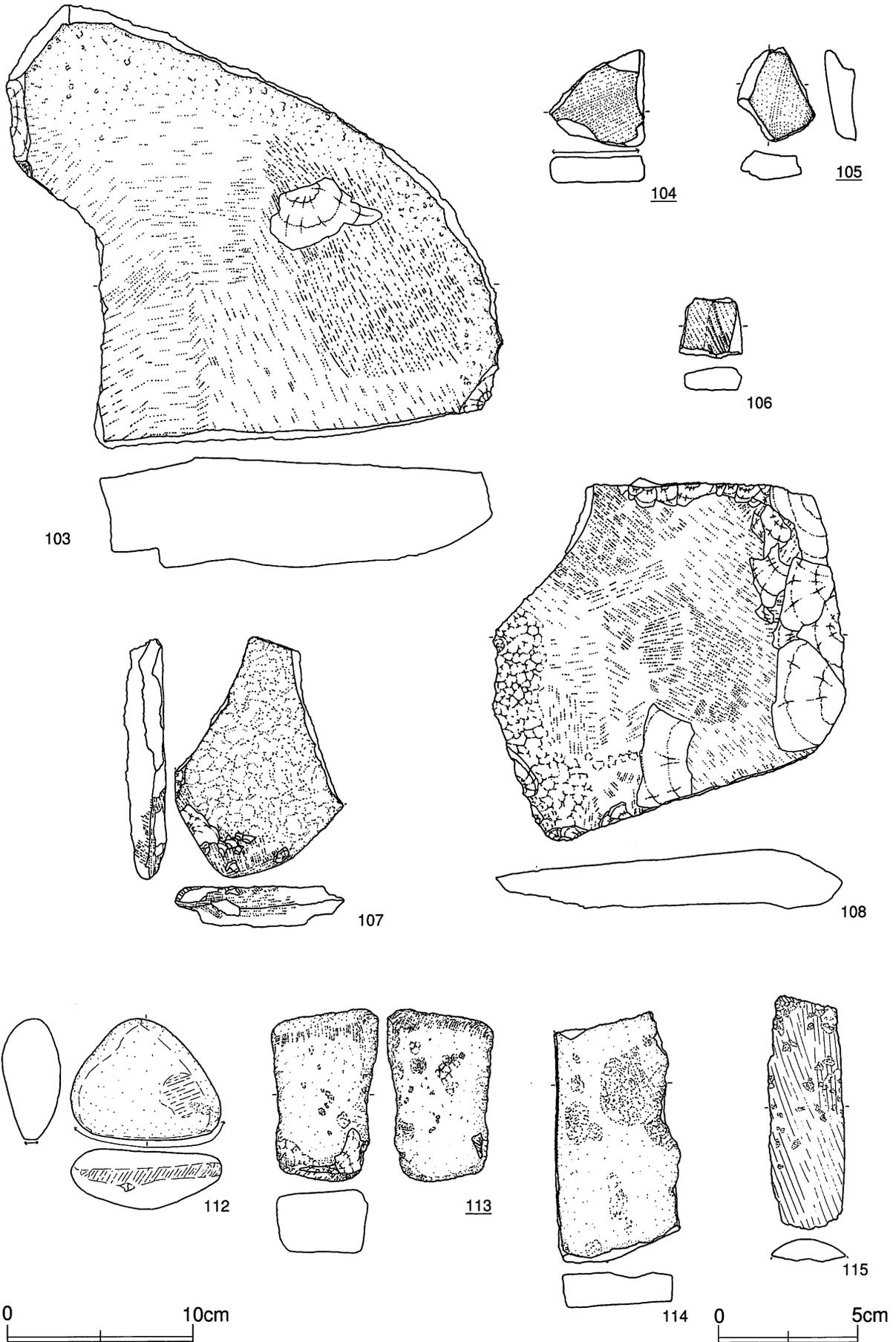
図IV-17 剥片石器 (3)

※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



図IV-18 礫石器 (1)

※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。



図IV-19 礫石器 (2)

※遺物番号にアンダーラインのあるものは盛土遺構で出土したもの。

V 各種一覽資料

表V-1 遺構種別出土遺物一覽

遺物名	分類	遺構種				合計
		X	H	P	SP	
縄文早期土器	I b-4	14				14
合計		14				14
縄文後期土器	IVc	154	122	25	155	456
合計		154	122	25	155	456
剥片石器					1	1
	スクレイパー	1	1			2
	スクレイパー片			1		1
	Rフレイク			4		5
合計		1	6	1	1	9
礫石器	石斧			3		4
	石斧片	1	2			3
	たたき石片		1			1
	砥石				1	1
	砥石片	4			1	5
合計		5	6		3	14
剥片・石屑等	フレイク	31	20	1	16	68
	チップ		21		1	22
合計		31	41	1	17	90
礫・礫片等	礫	3	2		2	7
	礫片	545		1	2	548
	有意礫				1	1
合計		548	2	1	5	556
石製品	オロシガネ状石製品	1				1
合計		1				1
自然遺物	炭化物		有り			0
	種子		有り			0
	骨		有り			0
	骨片		有り	有り		0
合計		754	177	28	181	1,140

表V-2 遺構出土遺物一覧

遺構名	層位	遺物名	分類	数量			
X	1	覆土5層 (XP-1)	縄文後期土器	IVc	5		
				合計	5		
			床面	縄文後期土器	IVc	1	
			石製品	オロシガネ状石製品	1		
				合計	2		
		V層	縄文後期土器	IVc	52		
			礫石器	石斧片	1		
			剥片・石屑等	フレイク	3		
			礫・礫片等	礫片	11		
				礫片一括	532		
				合計	599		
		周堤盛土部	礫・礫片等	礫片	1		
				合計	1		
		表採	縄文後期土器	IVc	3		
				合計	3		
			合計	610			
X	2	覆土	縄文後期土器	IVc	1		
				合計	1		
X	3	覆土	縄文後期土器	IVc	48		
				礫石器	砥石片(同一個体)	4	
				剥片・石屑等	フレイク	4	
				礫・礫片等	礫片	1	
					合計	57	
X	4	床面	縄文後期土器	IVc	1		
				剥片石器	スクレイパー	1	
				剥片・石屑等	フレイク	4	
					合計	6	
		Ⅲ層	縄文後期土器	IVc	3		
			剥片・石屑等	フレイク	1		
				合計	4		
		V層	縄文後期土器	IVc	3		
				合計	3		
		IV層	剥片・石屑等	フレイク	3		
				合計	3		
				合計	16		
	X	6	床面	剥片・石屑等	フレイク	1	
						合計	1
				Ⅲ層	剥片・石屑等	フレイク	1
			礫・礫片等	礫	1		
				合計	2		
		IV層	縄文早期土器	I b-4	3		
				合計	3		
		V層	縄文早期土器	I b-4	2		
			縄文後期土器	IVc	14		
			剥片・石屑等	フレイク	3		
				合計	19		
		VI層	剥片・石屑等	フレイク	8		
				合計	8		
		周堤盛土部	縄文早期土器	I b-4	9		
			縄文後期土器	IVc	1		
	剥片・石屑等		フレイク	3			
	礫・礫片等		礫	2			
			合計	15			
			合計	48			
X	7	V層	縄文後期土器	IVc	22		
				合計	22		
H	1	覆土	縄文後期土器	IVc	11		
				礫石器	石斧片	1	
				剥片・石屑等	チップ	1	

遺構名	層位	遺物名	分類	数量
		礫・礫片等	礫	1
		自然遺物	炭化物	
			合計	14
HP-1	覆土	縄文後期土器	IVc	3
		剥片石器	Rフレイク	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
			合計	5
	焼土	剥片・石屑等	チップ	12
		礫・礫片等	礫	1
		自然遺物	炭化物	
			骨	
			合計	13
			合計	18
HP-3	覆土	縄文後期土器	IVc	22
		剥片石器	スクレイパー	1
			Rフレイク	2
		礫石器	石斧	2
		剥片・石屑等	フレイク	7
			チップ	3
		自然遺物	骨片	
			合計	37
HP-4	覆土	縄文後期土器	IVc	2
		礫石器	石斧	1
		剥片・石屑等	チップ	1
			合計	4
HP-6	覆土	剥片・石屑等	チップ	1
			合計	1
HP-7	覆土	縄文後期土器	IVc	1
		剥片石器	スクレイパー片	1
			合計	2
HP-8	覆土	剥片・石屑等	フレイク	1
			合計	1
HP-9	覆土	縄文後期土器	IVc	44
		剥片・石屑等	フレイク	1
			チップ	1
		自然遺物	種子	
			骨片	
			合計	46
HP-10	覆土	縄文後期土器	IVc	11
		剥片・石屑等	フレイク	1
		自然遺物	骨片	
			合計	12
HP-11	覆土	縄文後期土器	IVc	2
		剥片石器	Rフレイク	1
		礫石器	たたき石片	1
		剥片・石屑等	フレイク	3
			合計	7
HP-20	覆土	剥片・石屑等	フレイク	1
			合計	1
HP-21	覆土	剥片・石屑等	フレイク	1
			合計	1
HP-22	覆土	縄文後期土器	IVc	2
			合計	2
HP-23	覆土	縄文後期土器	IVc	1
			合計	1
HP-24	覆土	縄文後期土器	IVc	7
			合計	7
HP-25	覆土	礫石器	石斧片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1

遺構名	層位	遺物名	分類	数量	
			合計	2	
	HP-26	覆土	縄文後期土器	IVc	1
			合計	1	
	HP-27	覆土	縄文後期土器	IVc	2
			合計	2	
	HP-28	覆土	縄文後期土器	IVc	1
			剥片・石屑等	チップ	1
			合計	2	
	HP-29	覆土	縄文後期土器	IVc	2
			合計	2	
	HP-30	覆土	縄文後期土器	IVc	4
			合計	4	
	HP-31	覆土	剥片・石屑等	フレイク	1
			合計	1	
	HP-32	覆土	剥片・石屑等	フレイク	1
			合計	1	
	HP-33	覆土	剥片・石屑等	フレイク	1
			合計	1	
	HP-34	覆土	縄文後期土器	IVc	6
			剥片・石屑等	チップ	1
			合計	7	
			合計	177	
P	1	覆土	縄文後期土器	IVc	25
			剥片石器	石鏃	1
			剥片・石屑等	フレイク	1
			合計	27	
SP	1	覆土	縄文後期土器	IVc	43
			礫石器	石斧	1
			剥片・石屑等	フレイク	4
			礫・礫片等	礫	1
				礫片	1
				有意礫	1
			合計	51	
SP	2	覆土	縄文後期土器	IVc	54
			剥片石器	Rフレイク	1
			剥片・石屑等	フレイク	8
			合計	63	
SP	3	覆土	縄文後期土器	IVc	30
			礫・礫片等	礫	1
			合計	31	
SP	4	覆土	縄文後期土器	IVc	11
			礫石器	砥石	1
				砥石片	1
			剥片・石屑等	フレイク	2
				チップ	1
			礫・礫片等	礫片	1
			合計	17	
SP	6	覆土	縄文後期土器	IVc	17
			剥片・石屑等	フレイク	2
			礫・礫片等	礫片	1
			自然遺物	骨片	
			合計	20	
			総点数	1,140	

表V-3 遺構掲載土器一覽

図版番号	番号	遺構名	土層	備考	
図Ⅲ-3	1	X	1	周堤内上面	
	2	X	1	周堤内上面	
	3	X	1	周堤内上面	
	4	X	1	周堤内上面	
	5	X	1	周堤内上面	
	6	X	1	周堤内上面	
	7	X	1	床面直上	
	8	X	1	覆土	写真
図Ⅲ-4	1	X	3	覆土上面	
	2	X	3	覆土上面	
	3	X	3	覆土上面	
図Ⅲ-8	1	X	4	床面	
	2	X	4	I層	
図Ⅲ-11	1	X	6	盛土	
	2a	X	6	V層	a.b
図Ⅲ-17	1	X	7	V層	a.b
	2	X	7	V層	
図Ⅲ-23	1	H	1	HP-1覆土	
	2	H	1	HP-3覆土	
	3	H	1	HP-3覆土	
	4	H	1	HP-7覆土	
	5	H	1	HP-9覆土	
	6	H	1	HP-9覆土	
	7	H	1	HP-9覆土	
	8	H	1	HP-9覆土	
	9	H	1	HP-10覆土	
	10	H	1	HP-11覆土	
	11	H	1	HP-12覆土	
	12	H	1	HP-13覆土	
	13	H	1	HP-14覆土	
	14	H	1	HP-15覆土	
	15	H	1	HP-22覆土	
	16	H	1	HP-24覆土	
	17	H	1	HP-26覆土	
	18	H	1	HP-27覆土	
	19	H	1	HP-28覆土	
	20	H	1	HP-29覆土	
	21	H	1	HP-34覆土	
図Ⅲ-24	1	P	1	覆土	
	2	P	1	覆土	
	3	P	1	覆土	
	4	P	1	覆土	
	5	P	1	覆土	
	6	P	1	V層	
	7	P	1	V層	
	8	P	1	V層	
	9	P	1	V層	
	10	P	1	V層	
図Ⅲ-25	1	P	3	覆土	
図Ⅲ-27	1	SP	1	覆土	
	2	SP	1	覆土	
	3	SP	1	覆土	
	5	SP	2	覆土	
	6	SP	2	覆土	
	7	SP	2	覆土	
	8	SP	2	覆土	
	9	SP	2	覆土	
	10	SP	2	覆土	
	11	SP	2	覆土	
	13	SP	3	覆土	
	14	SP	3	覆土	

表V-4 遺構掲載石器一覧

図版番号	遺物番号	分類	遺構名	層位	点数	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g
図Ⅲ-3	9	石皿	X-1-1	周堤床面	1	125.5	1.5	0.4	1
図Ⅲ-8	3	スクレイパー	X-4-7	覆土	1	4.4	3.3	0.65	3.5
図Ⅲ-23	22	スクレイパー	H-1/HP-3	覆土	1	4.3	(3.15)	0.9	5.3
	23	スクレイパー片	H-1/HP-7	覆土	1	5.6	3.3	1.2	11.9
	24	Rフレイク	H-1/HP-1	覆土	1	4.1	2.9	0.9	10.4
	25	石斧	H-1/HP-4	覆土	1	8.5	5.7	1.6	21.3
図Ⅲ-24	11	石鏃	P-1-2	覆土	1	(2.5)	1.8	1.35	59.5
図Ⅲ-27	4	有意礫	SP-1-4	覆土	1	20.1	165	9.5	1,650
	12	Rフレイク	SP-2-2	覆土	1	3	2		500

表V-5 包含層出土遺物一覽

遺物名	分類	土層							表探	層位不明	合計
		I層	II層	III層	IV層	V層	盛土	VI層			
縄文早期土器	I b-4	45		1	2	4	1	4		2	59
合計		45		1	2	4	1	4		2	59
縄文後期土器	IV a	3									3
	IV c	4,403		1	1	6,641	5,352	1	2480	72	18951
合計		4,406		1	1	6,641	5,352	1	2480	81	18963
縄文晩期土器	V c					58					58
合計						58					58
不明土器	一括土器					28					28
合計						28					28
剥片石器	石鏃	8		1		30	28		10		77
	石鏃片	4				10	3		1	1	19
	ポイント	1				3	2				6
	ポイント片	2				1			1		4
	ドリル	5				8	6		3	1	23
	ドリル片						1				1
	つまみ付ナイフ	2				5	4		3		14
	エンドスクレイパー	1									1
	スクレイパー	16				3	9		11		39
	スクレイパー片								2		2
	くさび形石器	4					2				6
	異形石器	1									1
	Rフレイク	44				46	27	1	28	2	148
	Uフレイク					3	3		2		8
合計		88		1		109	85	1	61	4	349
礫石器	石斧	21				25	25		10		81
	石斧片	17				18	11		7		53
	たたき石	21				3	7		5		36
	たたき石片	6				2	1		3		12
	すり石	3				3	5		4	1	16
	すり石片	1					1				2
	くぼみ石	3				3					6
	砥石	5					1		1		7
	砥石片	16				5	13		3		37
	石皿片・台石片	2				1	1		2		6
	礫器								1		1
	礫石器片						1				1
合計		172				148	150		57	5	532
剥片・石屑等	フレイク	351	2	5	2	470	484	19	261	8	1602
	チップ	88				131	294		42	2	557
合計		439	2	5	2	601	778	19	303	10	2159
石核類	コア	7				2	2		1	1	13
合計		7				2	2		1	1	13
礫・礫片等	礫	111		2		34	32		16	6	201
	礫片	78				88	84		45	4	299
	焼礫					1					1
	原石	5				4	4		3		16
合計		194		2		127	120		64	10	517
土製品	土製品						2				2
合計							2				2
石製品	石棒片									1	1
合計										1	1
自然遺物	炭化物	有り				有り					0
	種子						有り				0
	骨						有り				0
	骨片	有り				有り	有り		有り		0
	ベンガラ	有り									0
現代遺物	陶器	6					73		3		82
	鉄	1									1
	鉄板	1									1
	釘								4		4
	鉄製品	3							3		6
	石炭	1									1
	ガラス					2					2
合計		12				2	73		10		97
		5,286	2	10	5	7,632	6,479	25	2,955	110	22,504

表V-6 トレンチ・グリッド別出土遺物一覧

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
H	30		合計	4
	I層			4
		縄文後期土器	IVc	4
I	25		合計	23
	V層			23
		縄文後期土器	IVc	22
		剥片石器	石鏃	1
J	23		合計	23
	I層			23
		縄文後期土器	IVc	18
		礫石器	石斧	1
		剥片・石屑等	フレイク	4
J	25		合計	35
				4
		剥片・石屑等	フレイク	3
		石核類	コア	1
	盛土			31
		縄文後期土器	IVc	31
J	26		合計	10
	I層			10
		縄文後期土器	IVc	10
J	27		合計	16
	I層			16
		縄文後期土器	IVc	16
J	28		合計	4
	I層			4
		縄文後期土器	IVc	2
		礫・礫片等	礫	2
J	32		合計	5
	I層			5
		縄文後期土器	IVc	5
J	33		合計	22
	I層			22
		縄文後期土器	IVc	22
J	36		合計	2
	I層			2
		縄文後期土器	IVc	1
		礫石器	礫片	1
K	18		合計	181
	I層			58
		縄文後期土器	IVc	41
		礫石器	たたき石	1
			すり石	1
			くほみ石	1
			砥石片	1
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	7
		礫・礫片等	礫	4
	V層			123
		縄文後期土器	IVc	95
		剥片石器	石鏃	1
			ドリル	1
		礫石器	石斧破片	3
			礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	19
		礫・礫片等	礫	1
K	23		合計	9
	I層			9
		縄文後期土器	IVc	9
K	36		合計	65

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
	I層			4
		縄文後期土器	IVc	3
		剥片・石屑等	チップ	1
	V層			61
		縄文晩期土器	Vc	58
		剥片・石屑等	フレイク	3
K	41		合計	14
	I層			14
		縄文早期土器	I b-4	2
		礫・礫片等	礫	12
K	42		合計	1
	III層			1
		剥片石器	石鏃	1
L	20		合計	631
	盛土			631
		縄文後期土器	IVc	561
		剥片石器	スクレイパー	2
			くさび形石器	2
			Rフレイク	1
		礫石器	石斧	3
			たたき石	2
			すり石	2
			礫片	10
		剥片・石屑等	フレイク	46
		石核類	コア	1
		礫・礫片等	礫	1
L	21		合計	73
	盛土			73
		縄文後期土器	IVc	66
		剥片・石屑等	フレイク	6
		礫・礫片等	礫	1
L	22		合計	29
	I層			15
		縄文後期土器	IVc	13
		剥片・石屑等	フレイク	2
	盛土			14
		縄文後期土器	IVc	14
L	23		合計	5
	I層			5
		縄文後期土器	IVc	4
		礫・礫片等	礫	1
L	24		合計	10
				10
		縄文後期土器	IVc	8
		礫石器	礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
L	26		合計	13
	I層			13
		縄文早期土器	I b-4	13
L	27		合計	19
	I層			16
		縄文後期土器	IVc	14
		剥片・石屑等	フレイク	2
	盛土			3
		縄文後期土器	IVc	3
L	29		合計	4
	I層			4
		縄文後期土器	IVc	3
		剥片・石屑等	フレイク	1
L	30		合計	14

V 各種一覧資料

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
	I層			14
		縄文後期土器	IVc	13
		礫石器	礫片	1
L 34			合計	3
	I層			3
		縄文後期土器	IVc	3
L 36			合計	28
	I層			11
		縄文早期土器	I b-4	7
		縄文後期土器	IVc	1
		剥片石器	くさび形石器	1
		礫石器	礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
	Ⅲ層			4
		縄文早期土器	I b-4	1
		剥片・石屑等	フレイク	3
	V層			12
		縄文早期土器	I b-4	4
		剥片石器	Rフレイク	1
		剥片・石屑等	フレイク	5
		礫・礫片等	礫	2
	盛土			1
		縄文早期土器	I b-4	1
L 37			合計	19
	I層			17
		縄文早期土器	I b-4	7
		剥片石器	ポイント	1
			Rフレイク	1
		礫石器	石斧片	1
		剥片・石屑等	フレイク	2
		礫・礫片等	礫	5
	V層			1
		縄文後期土器	IVc	1
	攪乱			1
		縄文後期土器	IVc	1
L 39			合計	6
	I層			6
		縄文早期土器	I b-4	4
		礫・礫片等	礫	2
L 40			合計	25
	I層			9
		縄文早期土器	I b-4	3
		礫石器	石斧	1
		剥片・石屑等	フレイク	5
	新移層			16
		縄文早期土器	I b-4	4
		縄文後期土器	IVc	1
		剥片石器	Rフレイク	1
		剥片・石屑等	フレイク	10
L 41			合計	11
	I層			11
		縄文早期土器	I b-4	3
		剥片・石屑等	フレイク	6
		礫・礫片等	礫	2
L 20~24			合計	268
	表採			268
		縄文後期土器	IVc	248
		剥片石器	ドリル	1
		剥片・石屑等	フレイク	17
		礫・礫片等	礫	1

グリッド	層位	遺物名	分類	数量
			原石	1
M 35			合計	13
	I層			1
		縄文後期土器	IVc	1
	V層			12
		縄文後期土器	IVc	10
		礫石器	たたき石	1
			すり石	1
M 36			合計	6
	I層			6
		縄文早期土器	I b-4	6
M 38			合計	1
	Ⅲ層			1
		剥片・石屑等	フレイク	1
	43		合計	25
	I層			20
		礫・礫片等	礫	20
	Ta-a			2
		剥片・石屑等	フレイク	2
	Ta-c			1
		縄文早期土器	I b-4	1
	地割攪乱			2
		剥片・石屑等	フレイク	2
M 44			合計	3
	Ⅲ層			1
		礫・礫片等	礫	1
	攪乱			2
		縄文早期土器	I b-4	2
M 49			合計	1
	I層			1
		礫石器	砥石	1
N 16			合計	24
	I層			24
		縄文後期土器	IVc	23
		礫・礫片等	礫	1
N 19			合計	110
	I層			110
		縄文後期土器	IVa	1
			IVc	87
		剥片石器	石鏃	2
		礫石器	石斧片	2
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	15
		礫・礫片等	原石	1
N 22			合計	29
	I層			29
		縄文後期土器	IVc	23
		剥片石器	くさび形石器	1
		礫石器	礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	1
		石核類	コア	1
		礫・礫片等	礫	1
N 28			合計	1
	I層			1
		縄文後期土器	IVc	1
N 30			合計	11
	I層			11
		縄文後期土器	IVc	7
		礫石器	たたき石	1
			礫片	1

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
		礫・礫片等	礫	2
N	32		合計	5
	I層			5
		縄文後期土器	IVc	5
N	33		合計	20
	I層			16
		縄文後期土器	IVc	12
		礫石器	たたき石片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
		礫・礫片等	礫	2
		表土		4
		縄文後期土器	IVc	3
		金属製品	陶器	1
N	34		合計	6
	I層			6
		縄文後期土器	IVc	2
		礫石器	礫片	1
		金属製品	陶器	3
N	35		合計	22
	I層			18
		縄文後期土器	IVc	6
		剥片石器	異形石器	1
			Rフレイク	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
			チップ	4
		礫・礫片等	礫	4
		金属製品	鉄製品	1
		盛土		4
		縄文後期土器	IVc	2
		剥片石器	Rフレイク	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
N	36		合計	4
	I層			4
		縄文後期土器	IVc	3
		剥片石器	スクレイパー	1
N	37		合計	1
	V層			1
		剥片石器	石鏃片	1
N	38		合計	3
	I層			3
		剥片・石屑等	フレイク	2
		礫・礫片等	礫	1
N	39		合計	1
	III層			1
		縄文後期土器	IVc	1
N	41		合計	1
	斬移層			1
		剥片・石屑等	フレイク	1
N	42		合計	5
	V層			5
		剥片・石屑等	フレイク	5
N	43		合計	3
	I層			1
		礫石器	礫片	1
	Ta-c			2
		縄文早期土器	I b-4	1
		縄文後期土器	IVc	1
N	44		合計	15
	III層			1
		剥片・石屑等	フレイク	1

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
	V層			4
		剥片・石屑等	チップ	4
	Ta-c			2
		剥片・石屑等	フレイク	2
	斬移層			8
		剥片・石屑等	フレイク	8
O	17		合計	38
	I層			38
		縄文後期土器	IVc	33
		剥片・石屑等	フレイク	5
O	35		合計	4
	I層			4
		剥片石器	エンドスクレイパー	1
		礫石器	たたき石	1
			礫片	1
		礫・礫片等	礫	1
			現代物	
O	39		合計	1
	I層			1
		剥片・石屑等	フレイク	1
P	17		合計	140
	I層			140
		縄文後期土器	IVc	127
		礫石器	石斧	2
			砥石	1
		剥片・石屑等	フレイク	9
		礫・礫片等	礫	1
P	20		合計	15
	I層			15
		縄文後期土器	IVc	14
		礫・礫片等	礫	1
P	22		合計	230
	I層			21
		縄文後期土器	IVc	19
		礫石器	石斧	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
	V層			209
		縄文後期土器	IVc	189
		剥片石器	Uフレイク	1
		礫石器	すり石	1
			石斧片	1
			砥石片	1
			礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	11
		礫・礫片等	礫	2
P	23		合計	97
	V層			97
		縄文後期土器	IVc	94
		礫石器	石斧片	1
			礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
P	24		合計	273
	I層			5
		縄文後期土器	IVc	3
		礫石器	石斧片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
	V層			268
		縄文後期土器	IVc	254
		剥片石器	スクレイパー	1
			Rフレイク	1

V 各種一覽資料

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
			石鏃片	1
		礫石器	石斧	1
			たたき石片	1
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	7
P	25		合計	160
	V層			160
		縄文後期土器	IVc	152
		剥片石器	石鏃	2
			Rフレイク	2
		礫石器	石斧片	1
		剥片・石屑等	フレイク	3
	26		合計	41
	I層			6
		縄文後期土器	IVc	4
		礫石器	たたき石	1
			礫片	1
	V層			35
		縄文後期土器	IVc	30
		剥片石器	石鏃	2
		礫石器	石斧	1
		礫・礫片等	礫	2
P	27		合計	75
	V層			75
		縄文後期土器	IVc	72
		礫石器	石斧片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
		礫・礫片等	礫	1
P	28		合計	11
	I層			7
		縄文後期土器	IVc	4
		礫・礫片等	礫	3
	V層			4
		縄文後期土器	IVc	3
		剥片・石屑等	フレイク	1
P	29		合計	3
	V層			3
		縄文後期土器	IVc	1
		剥片・石屑等	フレイク	2
P	30		合計	5
	I層			2
		剥片石器	Rフレイク	1
		礫・礫片等	礫	1
	V層			3
		縄文後期土器	IVc	1
		剥片・石屑等	フレイク	2
P	31		合計	4
	I層			4
		縄文後期土器	IVc	2
		金属製品	鉄製品	2
	32		合計	5
	I層			5
		縄文後期土器	IVc	2
		礫石器	たたき石	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
		礫・礫片等	礫	1
P	33		合計	11
	I層			9
		縄文後期土器	IVc	7
		礫石器	礫片	1

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
			礫・礫片等	1
	V層			2
		縄文後期土器	IVc	2
P	34		合計	9
	I層			8
		縄文後期土器	IVc	6
		礫石器	礫片	1
		礫・礫片等	礫	1
	V層			1
		縄文後期土器	IVc	1
P	36		合計	12
	I層			12
		縄文後期土器	IVc	9
		礫石器	たたき石	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
		礫・礫片等	原石	1
P	37		合計	5
	I層			2
		縄文後期土器	IVc	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
	V層			3
		縄文後期土器	IVc	3
P	38		合計	2
	I層			1
		剥片・石屑等	フレイク	1
	V層			1
		剥片・石屑等	フレイク	1
P	39		合計	1
	III層			1
		礫・礫片等	礫	1
P	42		合計	1
	V層			1
		剥片・石屑等	チップ	1
Q	15		合計	41
	I層			41
		縄文後期土器	IVc	35
		剥片石器	Rフレイク	1
		剥片・石屑等	フレイク	4
		礫・礫片等	礫	1
Q	30		合計	3
	V層			3
		縄文後期土器	IVc	3
Q	31		合計	1
	I層			1
		縄文後期土器	IVc	1
Q	33		合計	31
	I層			31
		縄文後期土器	IVc	24
		礫石器	たたき石	1
			礫片	3
		礫・礫片等	礫	2
			鉄板	1
	34		合計	3
	I層			3
		縄文後期土器	IVc	3
	35		合計	1
	I層			1
		金属製品	陶器	1
Q	36		合計	22
	I層			4

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
		縄文後期土器	IVc	3
		石製品	石炭	1
	V層			18
		縄文後期土器	IVc	17
		剥片石器	Rフレイク	1
R	16		合計	3
	I層			3
		縄文後期土器	IVc	3
R	18		合計	313
	I層			7
		縄文後期土器	IVc	5
		剥片石器	ノッチドスクレイパー	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
	V層			294
		縄文後期土器	IVc	271
		剥片石器	Rフレイク	3
			石鏃片	1
		礫石器	石斧	2
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	15
	表採			12
		縄文後期土器	IVc	11
		礫石器	礫片	1
R	19		合計	74
	V層			60
		縄文後期土器	IVc	50
		剥片石器	スクレイパー	1
			Rフレイク	2
		礫石器	礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	4
		礫・礫片等	礫	2
	表採			14
		縄文後期土器	IVc	10
		礫石器	石斧	1
		剥片・石屑等	フレイク	3
R	20		合計	165
	I層			25
		縄文後期土器	IVc	21
		剥片石器	Rフレイク	1
		礫石器	台石片	1
			礫片	1
		礫・礫片等	礫	1
		自然遺物	炭化物	1
	V層			71
		縄文後期土器	IVc	63
		剥片石器	Rフレイク	2
		礫石器	礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	5
	表採			65
		縄文後期土器	IVc	53
		剥片石器	スクレイパー	2
			Rフレイク	1
		礫石器	たたき石	2
			砥石	1
			釘	2
			礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	3
	盛土			4
		縄文後期土器	IVc	3
		礫石器	石斧片	1

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
R	21		合計	12
	表採			12
		縄文後期土器	IVc	10
		剥片石器	石鏃	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
R	22		合計	52
	表採			52
		縄文後期土器	IVc	41
		剥片石器	Rフレイク	1
		礫石器	たたき石	1
			すり石	1
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	5
		礫・礫片等	礫	1
R	23		合計	20
	V層			2
		縄文後期土器	IVc	2
	表採			18
		縄文後期土器	IVc	16
		剥片・石屑等	フレイク	2
R	24		合計	737
	V層			737
		縄文後期土器	IVc	700
		剥片石器	石鏃	1
			スクレイパー	1
			Rフレイク	2
		礫石器	石斧片	5
			礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	19
			チップ	2
		礫・礫片等	礫	4
R	25		合計	367
	V層			294
		縄文後期土器	IVc	277
		剥片石器	石鏃	1
			石鏃片	1
		礫石器	石斧	1
			礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	10
		礫・礫片等	礫	1
	攪乱			17
		縄文後期土器	IVc	8
		剥片石器	Rフレイク	1
		礫石器	礫片	2
		礫・礫片等	礫	6
	表採			7
		縄文後期土器	IVc	7
	P-1			49
		縄文後期土器	IVc	45
		剥片・石屑等	フレイク	4
R	26		合計	41
	I層			7
		縄文後期土器	IVc	7
	V層			34
		縄文後期土器	IVc	32
		礫石器	礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
R	27		合計	11
	表採			11
		縄文後期土器	IVc	5

V 各種一覽資料

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
		礫石器	礫片	5
		剥片・石屑等	フレイク	1
R	28		合計	35
	I層			4
		縄文後期土器	IVc	2
		礫・礫片等	礫	2
	V層			19
		縄文後期土器	IVc	18
		礫石器	礫片	1
	表採			12
		縄文後期土器	IVc	8
		礫石器	たたき石片	1
			礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
		礫・礫片等	礫	1
R	29		合計	3
	V層			3
		縄文後期土器	IVc	2
		剥片・石屑等	フレイク	1
R	30			14
	I層			9
		縄文後期土器	IVc	7
		礫石器	礫片	2
	表採			5
		礫石器	石皿片	1
			礫片	2
		礫・礫片等	礫	1
		金属製品	陶器	1
R	31		合計	38
	I層			27
		縄文後期土器	IVc	25
		剥片・石屑等	フレイク	1
		礫・礫片等	礫	1
	表採			7
		縄文後期土器	IVc	4
		礫石器	礫片	2
		金属製品	鉄製品	1
	表土			4
		縄文後期土器	IVc	3
		金属製品	陶器	1
R	32		合計	26
	I層			3
		縄文後期土器	IVc	2
		剥片・石屑等	チップ	1
	V層			23
		縄文後期土器	IVc	20
		礫石器	砥石片	1
		剥片・石屑等	チップ	2
R	33			89
	I層			20
		縄文後期土器	IVc	19
		剥片・石屑等	フレイク	1
	V層			69
		縄文後期土器	IVc	40
		剥片石器	一括土器	28
		剥片・石屑等	フレイク	1
R	34			46
	I層			8
		縄文後期土器	IVc	8
	V層			38

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
		縄文後期土器	IVc	34
		剥片・石屑等	フレイク	2
			チップ	1
		ガラス製品	ガラス	1
R	35		合計	8
	I層			7
		縄文後期土器	IVc	6
		礫石器	たたき石片	1
	V層			1
		土製品	焼礫	1
R	36		合計	16
	I層			16
		縄文後期土器	IVc	15
		礫石器	鉄	1
R	37			14
	I層			12
		縄文後期土器	IVc	11
		剥片・石屑等	フレイク	1
	V層			2
		剥片石器	Rフレイク	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
S	20		合計	32
	I層			23
		縄文後期土器	IVc	17
		剥片石器	つまみ付ナイフ	1
		剥片・石屑等	フレイク	4
		礫・礫片等	原石	1
	表土			9
		縄文後期土器	IVc	9
S	22		合計	14
	表採			14
		縄文後期土器	IVc	13
		礫石器	石斧	1
S	24		合計	389
	V層			389
		縄文後期土器	IVc	372
		剥片石器	ポイント	1
			Rフレイク	2
		礫石器	礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	10
		礫・礫片等	礫	1
		自然遺物	炭化物	
S	25		合計	75
	V層P-1			60
		縄文後期土器	IVc	56
		剥片石器	石鏃片	1
		剥片・石屑等	フレイク	3
	P-1			15
		縄文後期土器	IVc	14
		剥片・石屑等	チップ	1
S	27		合計	7
	V層			7
		縄文後期土器	IVc	7
S	28		合計	8
	V層			8
		縄文後期土器	IVc	7
		礫石器	石斧	1
S	29		合計	2
	I層			2
		縄文後期土器	IVc	2

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
S	31		合計	948
	I層			36
		縄文後期土器	IVc	26
		剥片石器	Rフレイク	1
			石鏃片	1
		礫石器	砥石片	1
			礫片	4
		剥片・石屑等	フレイク	1
		礫・礫片等	礫	2
	V層			98
		縄文後期土器	IVc	80
		剥片石器	石鏃	2
			ドリル	1
			Rフレイク	1
		礫石器	石斧	1
			礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	8
		礫・礫片等	礫	2
	盛土			813
		縄文後期土器	IVc	636
		剥片石器	石鏃	2
			ドリル	1
			スクレイパー	3
			Rフレイク	3
			つまみ付ナイフ片	2
		礫石器	石斧	1
			たたき石	2
			石斧片	2
			砥石片	2
			礫片	20
		剥片・石屑等	フレイク	57
			チップ	71
		礫・礫片等	礫	10
			原石	1
	表土			1
		礫石器	砥石	1
S	32		合計	72
	盛土			72
		縄文後期土器	IVc	68
		剥片石器	石鏃	1
			スクレイパー	1
		剥片・石屑等	チップ	2
		自然遺物	種子	
S	33		合計	8
	V層			8
		縄文後期土器	IVc	7
		剥片・石屑等	フレイク	1
T	16		合計	36
	I層			36
		縄文後期土器	IVc	25
		剥片石器	Rフレイク	1
		剥片・石屑等	フレイク	9
		礫・礫片等	礫	1
T	16.18		合計	199
	I層			199
		縄文後期土器	IVa	1
			IVc	180
		剥片石器	石鏃	1
			スクレイパー	3
			くさび形石器	1

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
			Rフレイク	1
		礫石器	石斧	1
			たたき石	1
		石核類	コア	2
		礫・礫片等	礫	7
			原石	1
T	18		合計	452
	I層			258
		縄文後期土器	IVa	1
			IVc	203
		剥片石器	石鏃	1
			ドリル	1
			スクレイパー	3
			くさび形石器	1
			Rフレイク	2
		礫石器	石斧	1
			たたき石	2
			石斧片	1
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	30
		石核類	コア	2
		礫・礫片等	礫	7
			原石	1
	V層			194
		縄文後期土器	IVc	175
		剥片石器	石鏃	1
			Rフレイク	1
		礫石器	たたき石	1
			石斧片	1
			砥石片	1
		剥片・石屑等	フレイク	14
T	19		合計	171
	V層			171
		縄文後期土器	IVc	134
		剥片石器	石鏃	2
			Rフレイク	2
			つまみ付ナイフ片	2
			石鏃片	2
		礫石器	石斧	2
			礫片	4
		剥片・石屑等	フレイク	22
		礫・礫片等	原石	1
T	20		合計	206
	I層			9
		縄文後期土器	IVc	3
		礫石器	石斧	1
			台石片	1
			砥石片	1
		剥片・石屑等	フレイク	3
	V層			197
		縄文後期土器	IVc	173
		剥片石器	石鏃	1
			ドリル	1
			Rフレイク	3
		礫石器	石斧	2
			すり石	1
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	14
T	21		合計	9
	V層			9

V 各種一覧資料

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
		縄文後期土器	IVc	7
		剥片・石屑等	フレイク	1
		礫・礫片等	礫	1
T 22			合計	160
	I層			23
		縄文後期土器	IVc	18
		剥片石器	ポイント片	1
		礫石器	石斧	2
			礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
	V層			114
		縄文後期土器	IVc	83
		剥片石器	Rフレイク	1
		礫石器	礫片	13
		剥片・石屑等	フレイク	11
			チップ	3
		礫・礫片等	礫	2
		ガラス製品	ガラス	1
				23
		縄文後期土器	IVc	16
		剥片石器	Rフレイク	1
			石鏃片	1
		剥片・石屑等	フレイク	2
			チップ	2
		石製品	石棒片	1
T 23			合計	23
	V層			14
		縄文後期土器	IVc	13
		剥片・石屑等	フレイク	1
	表採			9
		縄文後期土器	IVc	7
		剥片・石屑等	フレイク	1
			チップ	1
T 24			合計	317
	I層			2
		剥片・石屑等	フレイク	2
	V層			285
		縄文後期土器	IVc	188
		剥片石器	石鏃	3
			ドリル	1
			Rフレイク	1
		礫石器	石斧片	1
			礫片	6
		剥片・石屑等	フレイク	62
			チップ	19
		礫・礫片等	礫	4
	表採			30
		縄文後期土器	IVc	22
		礫石器	たたき石	1
			石斧片	1
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	3
		礫・礫片等	原石	1
T 26			合計	431
	I層			22
		縄文後期土器	IVc	21
		礫・礫片等	礫	1
	V層			409
		縄文後期土器	IVc	368
		剥片石器	石鏃片	1

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
		礫石器	石斧片	1
			礫片	6
		剥片・石屑等	フレイク	15
			チップ	16
		礫・礫片等	礫	2
T 27			合計	6
	V層			6
		縄文後期土器	IVc	6
T 28			合計	353
	I層			7
		縄文後期土器	IVc	7
	V層			237
		縄文後期土器	IVc	224
		剥片石器	石鏃	1
			Rフレイク	2
			ポイント片	1
		礫石器	石斧	2
			礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	6
	なし			51
		縄文後期土器	IVc	48
		剥片石器	ドリル	1
		礫石器	すり石	1
			礫片	1
	盛土			58
		縄文後期土器	IVc	46
		剥片石器	Uフレイク	1
		礫石器	礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	7
			チップ	3
T 29			合計	89
	I層			9
		縄文後期土器	IVc	6
		礫石器	たたき石	1
		礫・礫片等	礫	2
	V層			80
		縄文後期土器	IVc	70
		剥片石器	石鏃	1
			Rフレイク	1
		礫石器	砥石片	1
			礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	4
T 30			合計	1,179
	I層			23
		縄文後期土器	IVc	17
		礫石器	たたき石	1
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	3
	盛土			1,156
		縄文後期土器	IVc	863
			(同一個体)土器	73
		剥片石器	石鏃	5
			ポイント	1
			ドリル	2
			つまみ付ナイフ	1
			Rフレイク	5
			つまみ付ナイフ片	1
			ドリル片	1
			石鏃片	1
		礫石器	石斧	7

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
			すり石	2
			石斧片	2
			砥石片	1
			礫片	16
		剥片・石屑等	フレイク	79
			チップ	88
		礫・礫片等	礫	8
T	31		合計	410
	I層			69
		縄文後期土器	IVc	65
		礫石器	たたき石	1
			砥石片	1
			礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
	V層			51
		縄文後期土器	IVc	44
		剥片石器	石鏃	1
			Rフレイク	1
		礫石器	礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	2
		礫・礫片等	礫	1
	盛土			290
		縄文後期土器	IVc	260
		剥片石器	石鏃	4
			石鏃片	1
		礫石器	たたき石	2
			すり石片	1
			石斧片	2
			砥石片	1
			礫片	5
		剥片・石屑等	フレイク	7
			チップ	7
T	32		合計	818
	I層			104
		縄文後期土器	IVc	91
		剥片石器	つまみ付ナイフ	1
			Rフレイク	1
		礫石器	礫片	6
		剥片・石屑等	フレイク	3
		石核類	コア	1
		礫・礫片等	礫	1
	V層			547
		縄文後期土器	IVc	528
		剥片石器	石鏃	2
			つまみ付ナイフ	1
			Rフレイク	1
			つまみ付ナイフ片	1
		礫石器	石斧	2
			くぼみ石	1
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	5
			チップ	2
		礫・礫片等	礫	2
	盛土			159
		縄文後期土器	IVc	153
		剥片石器	石鏃	1
		礫石器	たたき石	1
			石斧片	1
			砥石片	1
			礫片	2

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
		表土		8
		縄文後期土器	IVc	8
T	33		合計	12
	盛土			12
		縄文後期土器	IVc	7
		礫・礫片等	礫	5
U	16		合計	233
	I層			233
		縄文後期土器	IVc	190
		剥片石器	石鏃	1
			Rフレイク	3
		礫石器	たたき石	2
			すり石	2
			石斧片	1
			砥石片	5
			礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	22
		礫・礫片等	礫	4
V	16		合計	3,833
	I層			2,543
		縄文後期土器	IVc	2,236
		剥片石器	石鏃	3
			ドリル	4
			スクレイパー	7
			Rフレイク	19
			ポイント片	1
			石鏃片	1
		礫石器	石斧	10
			たたき石	2
			砥石	1
			すり石片	1
			たたき石片?	2
			石斧片	9
			砥石片	3
			礫片	18
		剥片・石屑等	フレイク	151
			チップ	69
		石核類	コア	1
			ベンガラ	
		礫・礫片等	礫	5
		自然遺物	炭化物	
			骨片	
	盛土			1,290
		縄文後期土器	IVc	1,094
		剥片石器	石鏃	9
			ドリル	1
			スクレイパー	2
			Rフレイク	14
			Uフレイク	1
			石鏃片	1
		礫石器	石斧	1
			砥石	1
			石斧片	1
			砥石片	4
			礫片	9
		剥片・石屑等	フレイク	123
			チップ	26
		礫・礫片等	礫	2
			原石	1
V	17		合計	190

V 各種一覽資料

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
	盛土			190
		縄文後期土器	IVc	157
		礫石器	石斧	3
			石斧片	1
			砥石片	2
			礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	25
		礫・礫片等	原石	1
		自然遺物	骨	
V	18		合計	245
	I層			5
		縄文後期土器	IVc	5
	V層			210
		縄文後期土器	IVc	174
		剥片石器	石鏃片	2
		礫石器	石斧	1
			砥石片	1
			礫片	2
		剥片・石屑等	フレイク	18
			チップ	10
		礫・礫片等	礫	2
	表採			30
		縄文後期土器	IVc	24
		剥片石器	Uフレイク	1
		礫石器	たたき石片	1
		礫・礫片等	礫	2
		金属製品	鉄製品	2
V	19		合計	119
	V層			32
		縄文後期土器	IVc	25
		剥片石器	Rフレイク	2
		剥片・石屑等	フレイク	3
			チップ	2
	表採			87
		縄文後期土器	IVc	72
		剥片石器	Rフレイク	1
		礫石器	石斧	1
			礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	11
			チップ	1
V	20		合計	358
	V層			327
		縄文後期土器	IVc	241
		剥片石器	石鏃	4
			ポイント	1
			ドリル	2
			Rフレイク	5
			Uフレイク	2
		礫石器	石斧	1
			たたき石片	1
			礫片	7
		剥片・石屑等	フレイク	42
			チップ	15
		石核類	コア	2
		礫・礫片等	礫	1
			原石	3
	表採			15
		縄文後期土器	IVc	6
		剥片石器	石鏃	1
			つまみ付ナイフ	1

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
			Rフレイク	3
		礫石器	石斧	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
			チップ	2
	表土			16
		縄文後期土器	IVc	15
		剥片・石屑等	フレイク	1
V	21		合計	3
	表採			3
		縄文後期土器	IVc	3
V	22		合計	74
	I層			10
		縄文後期土器	IVc	7
		礫石器	たたき石	1
		礫・礫片等	礫	2
	V層			60
		縄文後期土器	IVc	51
		剥片石器	Rフレイク	1
		礫石器	石斧	1
			石皿片	1
		剥片・石屑等	フレイク	4
			チップ	2
	表採			4
		縄文後期土器	IVc	4
V	23		合計	6
	V層			6
		縄文後期土器	IVc	5
		礫石器	たたき石	1
V	24		合計	186
	I層			6
		縄文後期土器	IVc	4
		剥片・石屑等	フレイク	2
	V層			168
		縄文後期土器	IVc	151
		剥片石器	石鏃	1
			ポイント	1
			Rフレイク	2
		礫石器	礫片	4
		剥片・石屑等	フレイク	9
	盛土			12
		縄文後期土器	IVc	10
		礫石器	砥石片	1
		剥片・石屑等	フレイク	1
V	25		合計	642
	V層			114
		縄文後期土器	IVc	108
		礫石器	くぼみ石	1
		剥片・石屑等	フレイク	4
		礫・礫片等	礫	1
	表採			9
		縄文後期土器	IVc	5
		礫石器	礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	3
	盛土			519
		縄文後期土器	IVc	466
		剥片石器	石鏃	1
		礫石器	石斧	4
			たたき石片	1
			台石片	1
			砥石片	1

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
			礫片	5
		剥片・石屑等	フレイク	24
			チップ	14
		土製品	土製品	2
V	26		合計	70
	I層			1
		縄文後期土器	IVc	1
	V層			69
		縄文後期土器	IVc	63
		剥片石器	ドリル	1
			Rフレイク	1
		剥片・石屑等	フレイク	3
			チップ	1
V	27		合計	978
	V層			41
		縄文後期土器	IVc	33
		剥片・石屑等	フレイク	7
			チップ	1
	表採			101
		縄文後期土器	IVc	82
		剥片石器	Uフレイク	1
		礫石器	石斧片	1
			釘	1
			砥石片	1
			礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	8
			チップ	3
		礫・礫片等	原石	1
	盛土			836
		縄文後期土器	IVc	645
		剥片石器	石鏃	4
			ポイント	1
			ドリル	2
			スクレイパー	1
			Rフレイク	2
			Uフレイク	1
		礫石器	石斧	4
			石斧片	1
			礫片	7
		剥片・石屑等	フレイク	87
			チップ	77
		石核類	コア	1
		礫・礫片等	礫	2
			原石	1
		自然遺物	骨片	
V	28			478
	I層			12
		縄文後期土器	IVc	11
		剥片・石屑等	フレイク	1
	V層			385
		縄文後期土器	IVc	324
		剥片石器	石鏃	3
			ドリル	1
			つまみ付ナイフ	1
			Rフレイク	2
		礫石器	石斧	3
			くぼみ石	1
			石斧片	1
			礫片	4
		剥片・石屑等	フレイク	27

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
			チップ	18
		盛土		81
		縄文後期土器	IVc	61
		剥片石器	石鏃	1
			Rフレイク	1
		礫石器	石斧	1
			礫片	1
		剥片・石屑等	フレイク	11
			チップ	5
X	18		合計	559
	I層			493
		縄文後期土器	IVc	401
		剥片石器	スクレイパー	1
			Rフレイク	11
			石鏃片	2
		礫石器	たたき石	3
			くぼみ石	2
			たたき石片	2
			石斧片	2
			砥石片	4
			礫片	15
		剥片・石屑等	フレイク	35
			チップ	13
		礫・礫片等	礫	2
	盛土			66
		縄文後期土器	IVc	57
		礫石器	石斧	1
			礫石器片	1
			礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	2
			チップ	1
		礫・礫片等	礫	1
X	20		合計	164
	I層			41
		縄文後期土器	IVc	34
		礫石器	石斧	1
			砥石	1
			礫片	3
		剥片・石屑等	フレイク	1
		礫・礫片等	礫	1
	盛土			123
		縄文後期土器	IVc	116
		礫石器	礫片	4
		剥片・石屑等	フレイク	3
X	22		合計	65
	V層			27
		縄文後期土器	IVc	18
		剥片・石屑等	フレイク	5
			チップ	4
	盛土			38
		縄文後期土器	IVc	32
		礫石器	すり石	1
		剥片・石屑等	フレイク	5
X	23		合計	468
	V層			467
		縄文後期土器	IVc	382
		剥片石器	Rフレイク	2
		礫石器	石斧	4
			石斧片	2
			礫片	5

グリッド名	層位	遺物名	分類	数量
		剥片・石屑等	フレイク	45
			チップ	27
		自然遺物	骨片	
	表採			1
		縄文後期土器	IVc	1
X	24		合計	16
	I層			15
		縄文後期土器	IVc	13
		剥片・石屑等	フレイク	2
	V層			1
		縄文後期土器	IVc	1
表採			合計	2,177
	V層表採			5
		縄文後期土器	IVc	5
	盛土			3
		縄文後期土器	IVc	1
		礫・礫片等	礫	2
	表採			2,169
		縄文後期土器	IVc	1,828
		剥片石器	石鏃	8
			ドリル	2
			つまみ付ナイフ	2
			スクレイパー	9
			Rフレイク	22
			スクレイパー片	2
			ポイント片	1
			石鏃片	1
		礫石器	石斧	6
			たたき石	1
			すり石	3
			礫器	1
			たたき石片	1
			石皿片	1
			石斧片	5
			砥石片	2
		剥片・石屑等	フレイク	201
			チップ	35
		石核類	コア	1
		礫・礫片等	礫	10
			礫片	24
		自然遺物	骨片	
			自然遺物?	
			釘	1
			陶器	2
表土			合計	3
	I層			3
		縄文後期土器	IVc	2
		礫・礫片等	礫片	1
			総点数	22,504

表V-7 包含層掲載土器一覧

図版番号	番号	グリッド	土層
図Ⅲ-1土器 (1)	1	T 31	盛土
	2	D 17	I層
	3	I 25	V層
	4	J 33	I層
	5	J 27	盛土
	6	J 33	I層
	7	J 25	盛土
	8	K 16	盛土
	9	K 36	V層
	10		V層
	11		V層
	12	L 20	表探
	13		盛土
	14		盛土
	15		盛土
	16		盛土
	17		盛土
	18		盛土
	19		盛土
	20		盛土
図Ⅲ-2土器 (2)	21	L 20	表探
	22	L 21	盛土
	23	L 27	I層
	24	L 37	I層
	25	L 36	I層
	26	L 40	I層
	27	M 35	V層
	28		V層
	29		V層
	30	N 19	I層
	31		I層
	32	N 32	I層
	33	P 17	I層
	34	P 22	V層
	35		V層
	36		V層
	37		V層
	38		V層
	39	P 24	V層
	40		V層
	41		V層
	42		V層
	43		V層
	44	P 25	V層
	45		V層
	46		V層
	47		V層
	48		V層
	49	P 28	V層
図Ⅲ-3土器 (3)	50	Q 33	I層
	51	Q 37	I層
	52	R 19	V層
	53	R 18	V層
	54	R 20	V層
	55	R 21	V層
	56	R 18	表探
	57	R 19	V層
	58		V層
	59	R 24	V層
	60		V層
	61		V層
	62		V層
	63		V層
	64		V層
	65	R 25	V層
	66		V層
67		V層	

図版番号	番号	グリッド	土層
	68		V層
	69		V層
	70	R 31	I層
	71	R 33	V層
	72		V層
	73	R 34	V層
	74		V層
図Ⅲ-4土器 (4)	75	S 24	V層
	76	S 25	V層
	77	S 26	V層
	78	S 27	V層
	79	S 28	V層
	80	S 29	V層
	81	S 30	V層
	82	S 31	V層
	83	S 32	V層
	84	S 33	V層
	85	S 34	V層
	86	S 31	盛土
	87		盛土
	88		盛土
	89		盛土
	90		盛土
	91		盛土
	92		盛土
	93		盛土
	94		盛土
95		盛土	
96		盛土	
97		盛土	
98		盛土	
99		盛土	
100		盛土	
図Ⅲ-5土器 (5)	101	S 31	盛土
	102		盛土
	103		盛土
	104		盛土
	105		盛土
	106		盛土
	107		盛土
	108		盛土
	109		盛土
	110		V層
	111	S 32	盛土
図Ⅲ-6土器 (6)	112	T 18	V層
	113		V層
	114		V層
	115		V層
	116	T 19	V層
	117		V層
	118	T 20	I層
	119		V層
	120		V層
	121		V層
	122		V層
	123		V層
	124		V層
	125		V層
126	T 22	不明	
127	T 23	V層	
128	T 24	V層	
129		V層	
130		V層	
131		V層	
132	T 26	V層	
133		V層	
134		V層	

図版番号	番号	グリッド		土層		
	135			V層		
	136			V層		
	137			V層		
	138			V層		
	139			V層		
	140			V層		
図Ⅲ-7土器 (7)	141	T	26	V層		
	142	T	28	V層		
	143			V層		
	144			V層		
	145			V層		
	146			不明		
	147			不明		
	図Ⅲ-8土器 (8)	148	T	30	盛土	
		149			盛土	
		150			盛土	
		151			盛土	
		152			盛土	
		153			盛土	
154				盛土		
155				盛土		
156				盛土		
157				盛土		
158				盛土		
159				盛土		
図Ⅲ-9土器 (9)		160			盛土	
	161			盛土		
	162			盛土		
	163			盛土		
	図Ⅲ-10土器 (10)	164	T	30	盛土	
		165			盛土	
		166			盛土	
		167			盛土	
		168			盛土	
		図Ⅲ-11土器 (11)	169	T	31	I層
			170			I層
			171			V層
			172			V層
173					V層	
174					盛土	
175					盛土	
176					盛土	
177				盛土		
178				盛土		
179				盛土		
180				盛土		
図Ⅲ-12土器 (12)	181				盛土	
	182			盛土		
	183			盛土		
	図Ⅲ-13土器 (13)	184	T	32	I層	
		185			I層	
		186			I層	
		187			V層	
		188			V層	
		189			V層	
		190			V層	
		191			V層	
		192			V層	
		193			V層	
194				V層		
195				V層		
196				盛土		
197			盛土			
198			盛土			
199			盛土			
200			盛土			
図Ⅲ-14土器 (14)	201	U	16	I層		

図版番号	番号	グリッド		土層	
	202			I層	
図Ⅲ-10土器 (10)	203	V	16	I層	
	204			I層	
	205			I層	
	206			I層	
	207			I層	
	208			I層	
	209			I層	
	210			I層	
	211			I層	
	212			I層	
	213			I層	
	214			I層	
	図Ⅲ-11土器 (11)	215			I層
216				I層	
217				I層	
218				I層	
219				I層	
220				I層	
221				I層	
222				I層	
図Ⅲ-12土器 (12)		223	V	16	I層
		224			I層
		225			I層
		226			I層
		227			I層
	228			盛土	
	229			盛土	
	230			盛土	
	231			盛土	
	232			盛土	
	233			盛土	
	234			盛土	
	図Ⅲ-13土器 (13)	235			盛土
236		V	16	盛土	
237				盛土	
238				盛土	
239				盛土	
240				盛土	
241				盛土	
242				盛土	
243		V	17	盛土	
244		V	18	V層	
245		V	19	V層	
246				V層	
247				V層	
図Ⅲ-14土器 (14)	248	V	20	V層	
	249			V層	
	250			V層	
	251			V層	
	252	V	23	V層	
	253	V	25	盛土	
	254			盛土	
	255			盛土	
	図Ⅲ-15土器 (15)	256	V	25	V層
		257	V	27	盛土
		258			盛土
		259			盛土
		260			盛土
261				盛土	
262				盛土	
263				盛土	
264				盛土	
265				盛土	
図Ⅲ-16土器 (16)		266	V	28	V層
		267			V層
		268			V層

図版番号	番号	グリッド		土層
	269			V層
	270			盛土
図Ⅲ-14土器 (14)	271	X	18	I層
	272	X	18	I層
	273	X	18	I層
	274	X	18	盛土
	275	X	18	盛土
	276	X	20	盛土
	277	X	23	V層
	278	X	23	V層
	279	X	23	V層
	280	X	23	V層
	281	X	23	V層
	282	X	24	I層
	283	X	24	V層
	284	不明		不明
図版-44	285	不明		不明
	286	U	16	I層
	287	不明		表採
	288	不明		不明
	289	不明		不明

表V-8 包含層掲載石器・石製品一覽

図版番号	遺物番号	分類	グリッド	層位	点数	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g
図IV-15	1	石鏃	I-25-2	V層	1	2.90	1.50	0.55	1.4
	2	石鏃	K-18-10	V層	1	2.25	1.10	0.45	0.8
	3	石鏃	K-24-1	Ⅲ層	1	2.60	0.85	0.25	0.4
	4	石鏃	P-25-5	V層	1	1.80	1.25	0.45	0.6
	5	石鏃	P-26-5	V層	1	1.75	1.20	0.45	0.8
	6	石鏃	P-26-7	V層	1	2.20	1.50	0.40	0.8
	7	石鏃	R-24-3	V層	1	1.55	1.35	0.35	0.6
	8	石鏃	S-31-25	盛土	1	2.40	1.30	0.45	0.8
	9	石鏃	S-31-35	V層	1	2.30	0.85	0.40	0.6
	10	石鏃	S-31-36	V層	1	2.50	1.60	0.50	1.4
	11	石鏃	S-31-42	盛土	1	2.90	1.35	0.45	0.8
	12	石鏃	S-32-2	盛土	1	2.65	1.10	0.40	0.8
	13	石鏃	T-18-11	V層	1	2.35	1.20	0.50	0.8
	14	石鏃	T-19-3	V層	1	1.40	1.30	0.25	0.4
	15	石鏃	T-20-8	V層	1	2.65	1.40	0.40	0.8
	16	石鏃	T-24-18	V層	1	2.25	1.60	0.45	1
	17	石鏃	T-24-9	V層	1	2.75	1.60	0.65	1.4
	18	石鏃	T-29-5	V層	1	3.50	1.45	0.40	1.2
	19	石鏃	T-30-26	盛土	1	1.90	1.50	0.35	0.8
	20	石鏃	T-30-43	盛土	1	3.10	1.15	0.55	1.2
	21	石鏃	T-30-44	盛土	1	2.20	1.00	0.30	0.6
	22	石鏃	T-30-9	盛土	1	2.30	1.40	0.30	0.8
	23	石鏃	T-31-16	V層	1	3.50	2.20	0.55	2.8
	24	石鏃	T-31-21	盛土	1	2.30	1.50	0.60	1.2
	25	石鏃	T-31-22	盛土	1	3.15	1.40	0.40	1
	26	石鏃	T-32-14	盛土	1	1.95	1.55	0.45	0.8
	27	石鏃	V-16-100	盛土	1	2.20	1.50	0.25	0.4
	28	石鏃	V-16-75	盛土	1	2.60	1.30	0.40	1
	29	石鏃	V-16-76	盛土	1	2.80	1.60	0.65	2.2
	30	石鏃	V-16-77	盛土	1	2.80	1.60	0.50	1.6
	31	石鏃	V-16-78	盛土	1	1.80	1.30	0.30	0.4
	32	石鏃	V-16-79	盛土	1	2.25	1.65	0.50	1.2
	33	石鏃	V-16-96	盛土	1	2.25	1.10	0.40	0.8
	34	石鏃	V-16-97	盛土	1	2.90	1.90	0.40	1.6
	35	石鏃	V-16-98	盛土	1	2.60	1.40	0.50	1.4
	36	石鏃	V-16-99	盛土	1	2.40	1.80	0.60	1.8
	37	石鏃	V-20-15	V層	1	2.30	1.40	0.55	1
	38	石鏃	V-20-17	V層	1	2.90	1.55	0.55	1.6
	39	石鏃	V-24-9	V層	1	2.35	1.30	0.35	0.8
	40	石鏃	V-25-5	盛土	1	3.40	1.60	0.40	1
図IV-16	41	石鏃	V-27-12	盛土	1	2.00	1.65	0.50	1.2
	42	石鏃	V-27-13	盛土	1	3.10	1.40	0.40	1.2
	43	石鏃	V-27-14	盛土	1	2.30	1.55	0.50	1.2
	44	石鏃	V-27-15	盛土	1	2.45	1.70	0.35	1
	45	石鏃	V-28-12	V層	1	3.10	1.45	0.60	1.8
	46	石鏃	V-28-13	V層	1	2.40	1.40	0.40	1
	47	石鏃	V-28-4	盛土	1	3.60	1.50	0.70	2
	48	ポイント	V-20-18	盛土	1	4.35	2.35	0.90	5.8
	49	ポイント	V-27-16	盛土EWトレンチ	1	3.95	1.90	0.85	4.1
	50	ポイント	L-37-2	V層	1	(4.45)	2.50	0.75	4.3
	51	ドリル	K-18-11	I層	1	4.10	1.25	0.80	3.7
	52	ドリル	T-30-29	盛土EWトレンチ	1	2.60	0.70	0.40	0.8
	53	ドリル	V-27-18	V層	1	3.80	1.00	0.70	2.6
	54	ドリル	V-27-17	V層	1	2.85	1.30	0.50	1.2
	55	ドリル	S-31-37	盛土	1	2.80	1.10	0.60	1.8
	56	ドリル	V-20-20	盛土EWトレンチ	1	2.40	1.55	0.80	2.4
	57	ドリル	S-31-14	V層	1	(2.5)	(1.9)	0.65	1.1
	58	ドリル	T-30-17	V層	1	2.80	2.10	0.60	2.2

図版番号	遺物番号	分類	グリッド	層位	点数	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g
	59	ドリル	V-28-15	盛土	1	(3.95)	3.05	1.20	12.4
	60	つまみ付ナイフ	V-28-16	V層・盛土	1	6.50	3.70	0.80	18.7
	61	つまみ付ナイフ	S-21-3	V層	1	5.25	2.05	0.70	6.2
	62	つまみ付ナイフ	T-30-31	盛土EWトレンチ	1	3.60	1.70	1.05	4.4
	63	つまみ付ナイフ	S-31-27	I層	1	2.75	(1.7)	0.65	2
	64	スクレイパー	V-16-21	I層	1	4.90	3.35	1.10	16.5
	65	スクレイパー	X-18-4	盛土	1	(5.65)	2.85	0.80	11.3
	66	スクレイパー	V-16-3	盛土EWトレンチ	1	5.60	4.00	1.30	30.7
	67	エンドスクレイパー	O-35-1	V層EWトレンチ	1	2.50	2.90	0.75	6.4
	68	ラウンドスクレイパー	R-19-9	I層EWトレンチ	1	2.95	4.15	1.00	11
	69	スクレイパー	S-31-15	V層EWトレンチ	1	4.30	3.10	1.35	12.8
図IV-17	70	スクレイパー	V-16-24	盛土	1	5.30	2.55	0.50	3.7
	71	スクレイパー	V-16-101	I層	1	4.60	1.70	0.50	3.5
	72	スクレイパー	V-16-121	盛土	1	4.75	3.50	1.35	13.2
	73	スクレイパー	V-27-19	V層	1	4.90	3.45	0.85	9.3
	74	スクレイパー	L-20-7	I層	1	(3.1)	(3)	0.75	5.5
	75	スクレイパー	L-20-6	盛土	1	(5.7)	(3.4)	1.20	18.3
	76	スクレイパー	R-20-7	盛土	1	4.35	2.10	1.20	8.6
	77	スクレイパー	S-31-64	表採	1	5.05	3.05	0.70	9.7
	78	スクレイパー	P-24-8	I層	1	2.10	1.35	5.50	1.6
	79	Rフレイク	T-29-10	Ⅲ層	1	4.70	4.60	1.75	33.4
	80	くさび形石器	T-16・18-6	盛土	1	2.10	1.40	0.80	2
	81	くさび形石器	L-20-8	I層	1	2.80	2.00	1.25	5.2
	82	くさび形石器	L-20-9	盛土	1	3.30	2.10	1.00	6.2
	83	石核	T-16・18-9	I層	1	2.40	2.50	2.45	11.8
	84	石核	T-16・18-8	I層	1	3.40	3.30	2.25	24
	85	石核	V-16-122	I層	1	3.55	2.95	2.20	21.3
	86	異形石器	N-35-13	盛土	1	4.05	3.85	0.85	7.8
図IV-18	87	石斧片	R-20-17		1	(9.05)	4.90	2.85	215.8
	88	石斧片	T-24-14	盛土EWトレンチ	1	(9.05)	4.90	2.80	202.5
	89	石斧片	S-31-47	I層	1	18.00	4.10	2.00	接合
	89		T-32-38	盛土	1				150.7
	90	石斧片	P-22-12	V層	1	(11)	7.50	4.15	529.9
	91	石斧	L-20-13	I層	1	(13)	(5.75)	2.00	160.6
	92	石斧	R-19-2	盛土	1	(7)	3.10	0.90	42.1
	93	石斧	L-20-14	盛土	1	(8.25)	(6.45)	(2.65)	209
	94	石斧	S-31-60	表採	1	11.75	4.35	2.25	153
	95	たたき石	X-18-20	表採	1	9.80	6.40	3.75	300.5
	96	たたき石	T-16・18-12	V層	1	8.70	6.00	2.75	266.4
	97	たたき石片	V-20-10	表採	1	(7.85)	(8.05)	3.75	376.8
	98	たたき石	V-23-2	I層	1	(9.6)	(9.55)	3.10	411.4
	99	たたき石	R-22-4	I層	1	5.35	5.45	3.70	181.9
	100	たたき石	T-24-5	V層	1	5.15	5.05	4.40	194
	101	たたき石	U-16-9	V層	1	4.50	4.60	4.05	153.8
図IV-19	102	たたき石	V-16-130	I層	1	4.95	4.70	3.55	144.2
	103	砥石	X-20-4	V層	1	237.00	268.00	62.00	4740
	104	砥石片	T-32-16	V層	1	51.50	51.00	14.00	45.3
	105	砥石片	S-31-54	盛土EWトレンチ	1	51.00	42.00	16.00	25.4
	106	砥石片	T-18-16	表採	1	32.00	33.50	12.00	17.4
	107	砥石	R-20-26	I層(焼土上面)	1	128.00	91.00	21.50	231.5
	108	砥石	S-31-4	I層	1	192.50	191.00	32.00	1258
図IV-18	110	すり石片	M-35-5	EWトレンチ	1	96.00	64.00	48.00	397.7
図IV-19	111	くぼみ石片	T-32-35	V層	1	123.50	59.00	32.00	263.7
図IV-18	112	すり石	T-30-53	I層	1	81.50	64.50	31.00	220.2
図IV-19	113	すり石	X-22-3	V層	1	92.00	57.50	37.00	318.6
	114	石皿片	V-22-11	I層	1	134.50	67.50	21.00	327.4
	115	石棒片	V-16-48	不明	1	126.50	40.50	12.00	89.1

図版一 1



1. 調査前風景

NE →



2. 調査前風景

W →



1. 重機作業風景

NE →



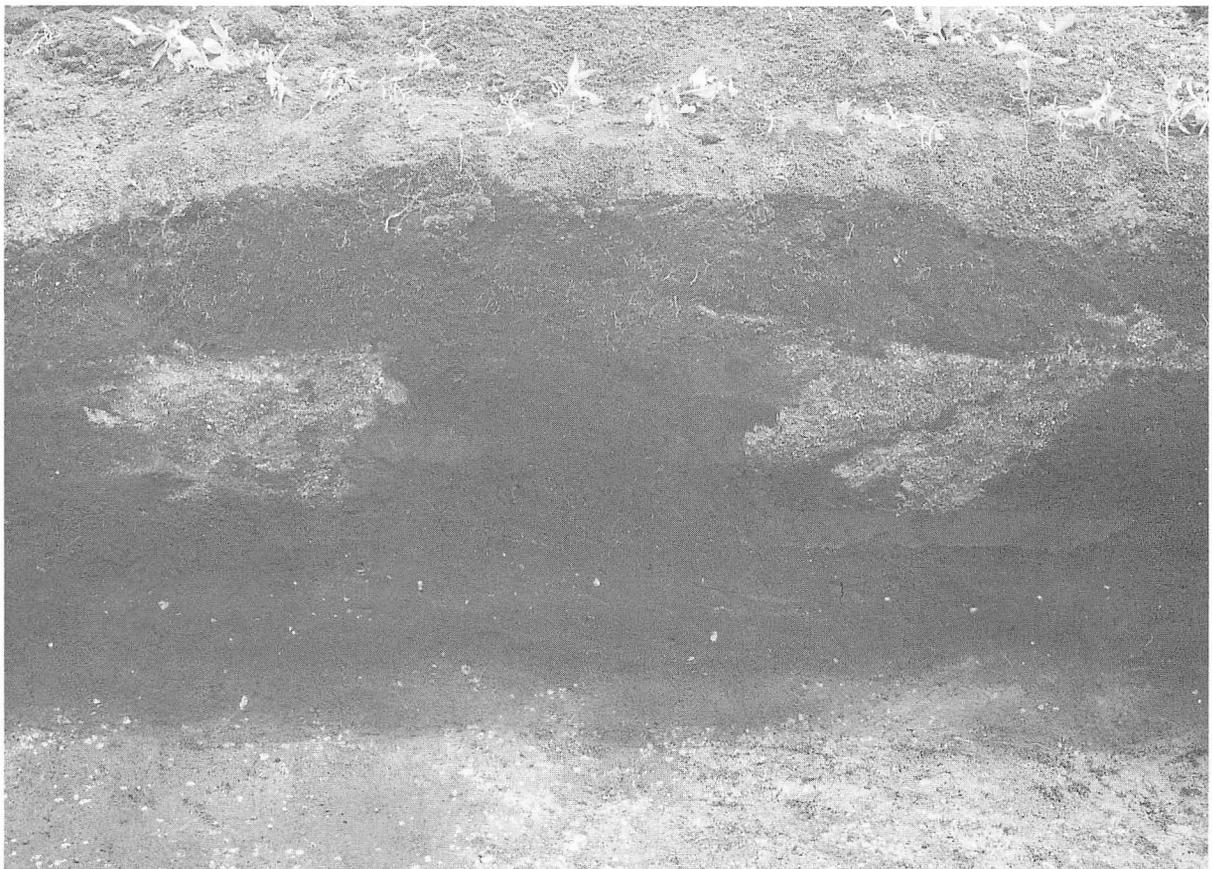
2. 重機作業風景

NE →



1. T-29トレンチセクション

E →



2. T-29トレンチセクション

NE →



1. X-1 調査終了状況

W→



2. X-1 集石出土状況

NE→



3. X-1 オロシガネ状石製品

S→



4. X-1 オロシガネ状石製品

E→



1. X-1・XP-1 確認状況

NW →



2. X-1・XP-1 セクション

NW →



1. X-6 遺物出土狀況

W →



2. X-6 周提東側遺物出土狀況

E →



3. X-6 周提東側遺物出土狀況

N →



1. X-4 中央マウンド検出状況

S →



2. X-4 中央マウンド調査状況

S →



3. X-4 中央マウンド調査状況

NW →



4. 文化庁調査官視察

NE →



1. X-4 周提西側トレンチセクション (周提内側) S →



2. X-4 周提南側トレンチセクション (周提内側) W →



3. X-4 周提東側トレンチセクション (周提内側) S →



1. X-4 中央マウンド立石出土状況

NW →



2. X-4 周堤内土壌検出状況

SE →



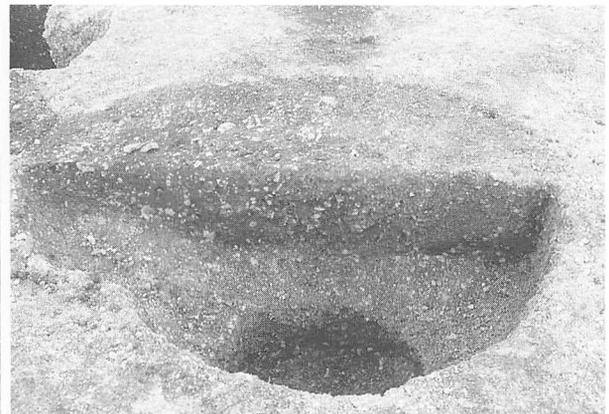
1. H-1 完掘状況

E →



2. 遺構検出状況

SE →



3. H-1 炉跡セクション

E →



4. H-1 柱穴 (HP-33・34) 検出状況

NE →



1. H-1/HP-4・5 セクション SE →



2. H-1/HP-3 セクション SE →



3. H-1 出入口部の配列ピット E →



4. 出入口部のピットセクション E →



5. H-1 小柱穴群検出状況 E →



6. H-1 小柱穴群完掘状況 E →



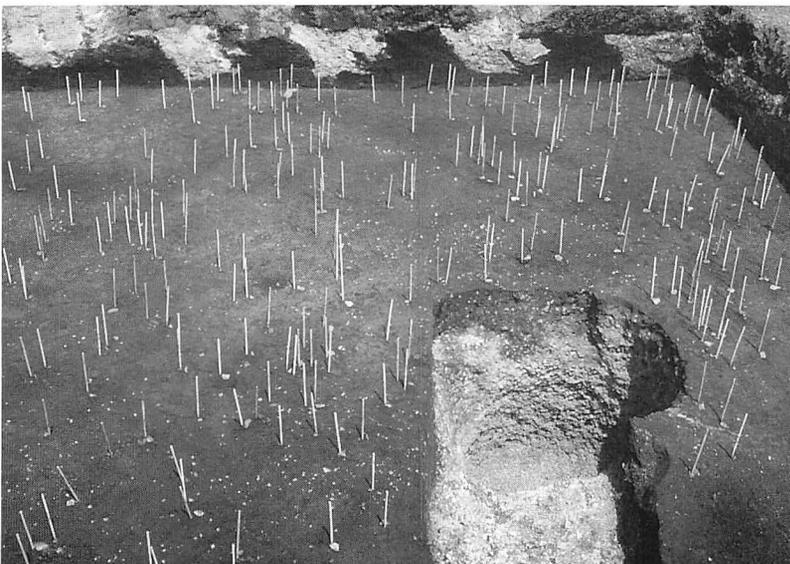
1. P-1 完堀状況

SW →



2. P-1 セクション (テストピット)

SW →



3. P-1 周囲の遺物出土状況

S →



1. P-2 完堀状況

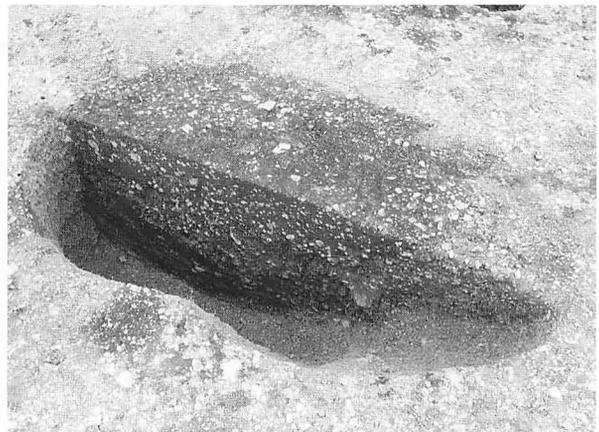


S → 2. P-2 セクション

W →



3. P-3 完堀状況



NE → 4. P-3 セクション

S →



5. SP-6 セクション

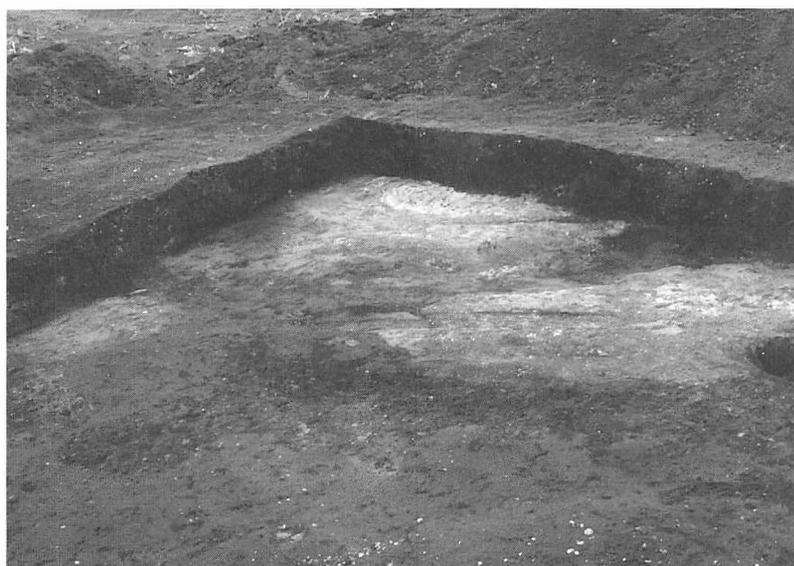
S →



1. 盛土遺構（南）焼土検出状況（O-30南北トレンチ） NE →



2. 盛土遺構（南）T-29トレンチセクション NW →



3. 炭窯跡検出状況（P-30東西トレンチ） S →



1. 盛土遺構（南）遺物出土状況(1)

S →



2. 盛土遺構（南）遺物出土状況(2)

N →



3. 盛土遺構（南）遺物出土状況(3)

N →



1. 重機トレンチ調査風景

N →



2. トレンチ調査状況

E →



3. トレンチ調査完了風景

W →



1. 調査終了状況（調査区西側）

E →



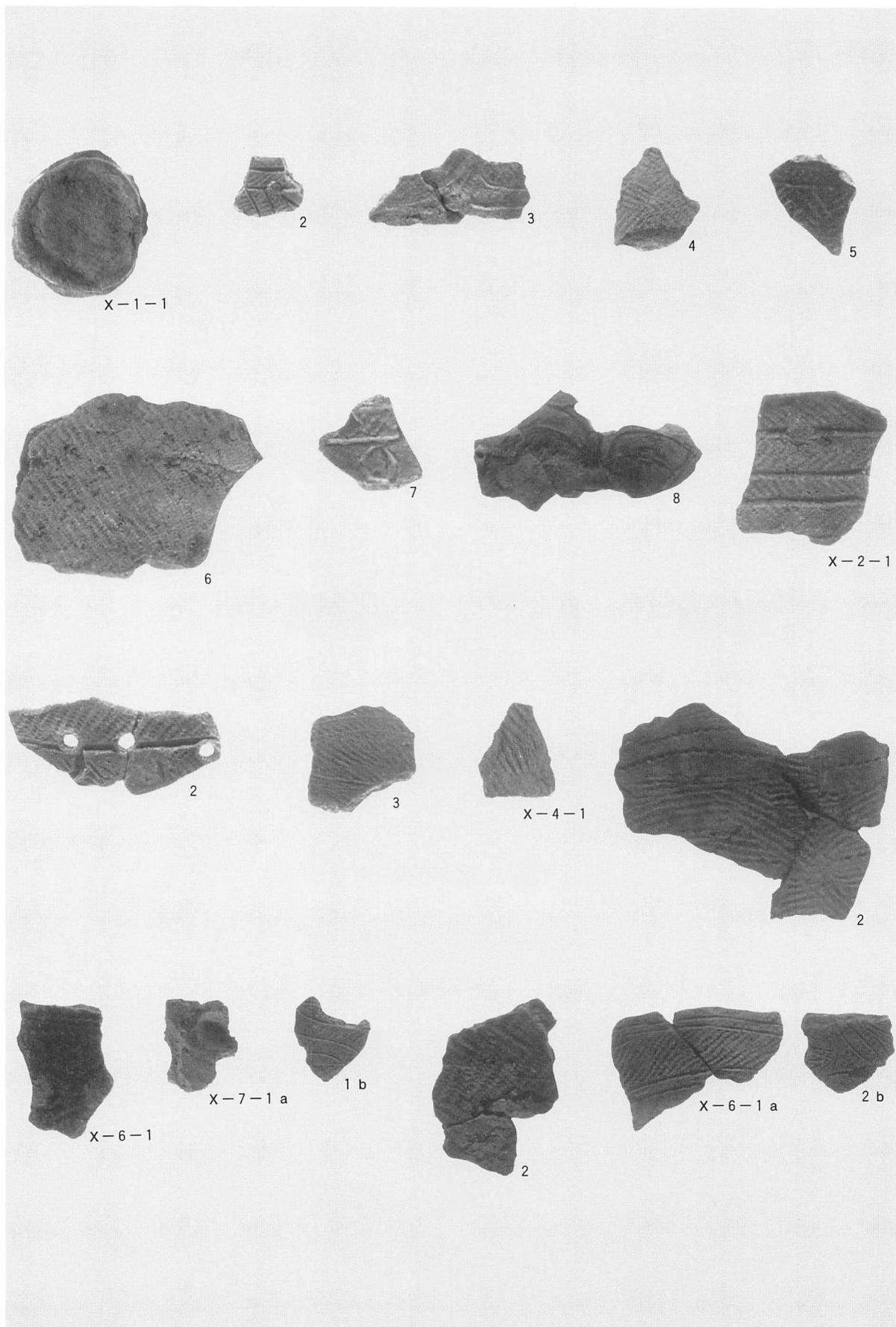
2. 調査終了状況（調査区東側）

N →

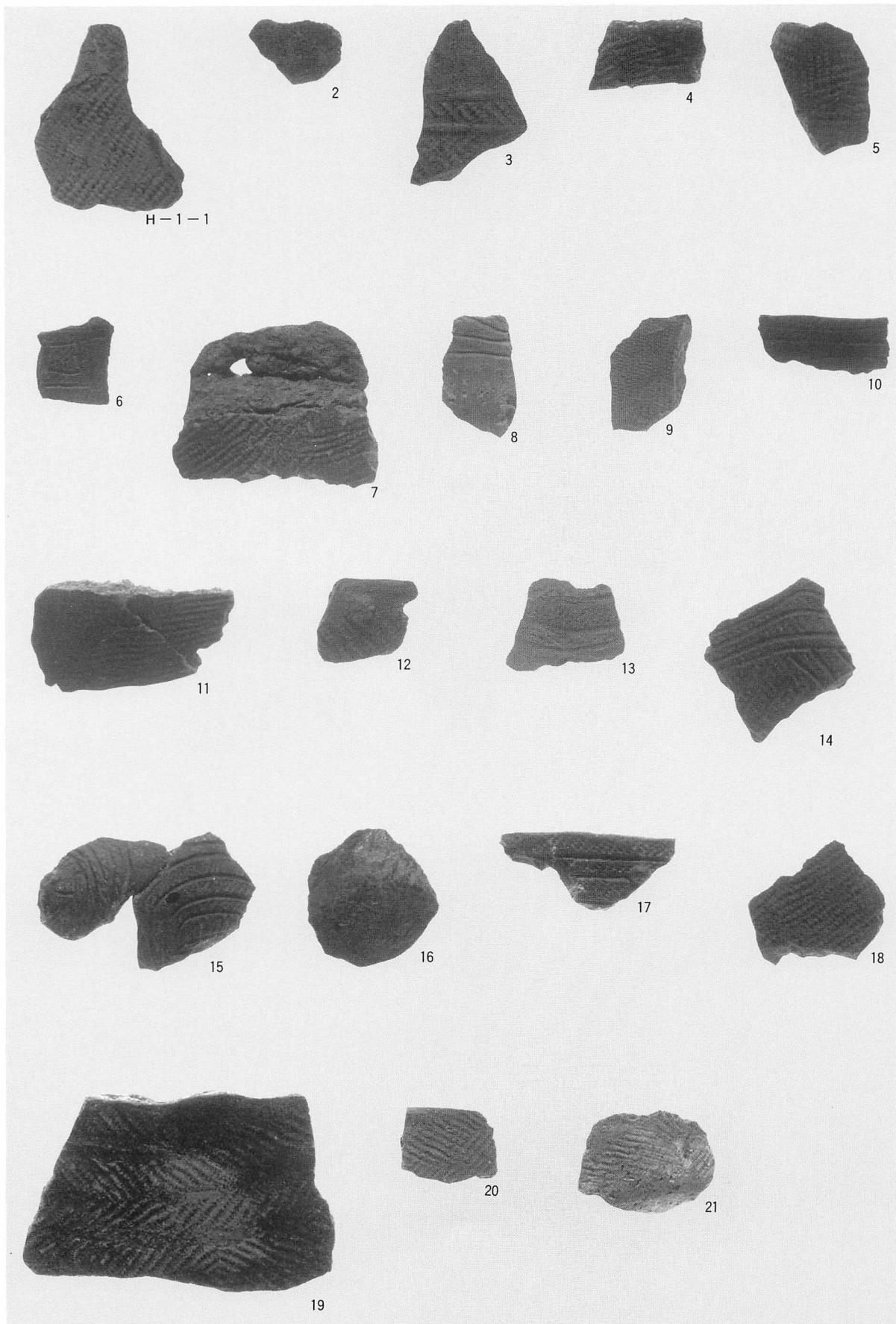


3. 調査終了状況（調査区北側）

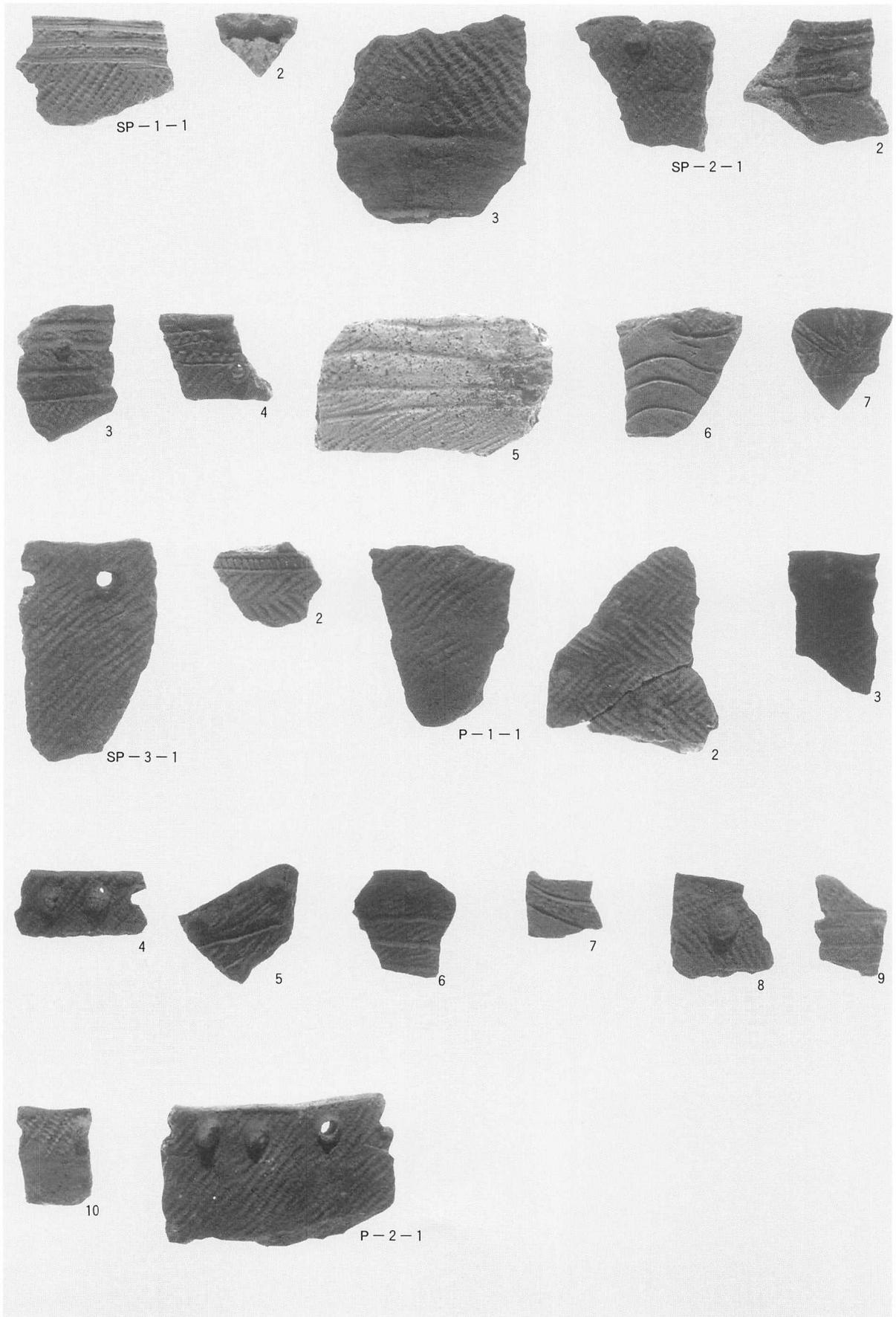
SE →



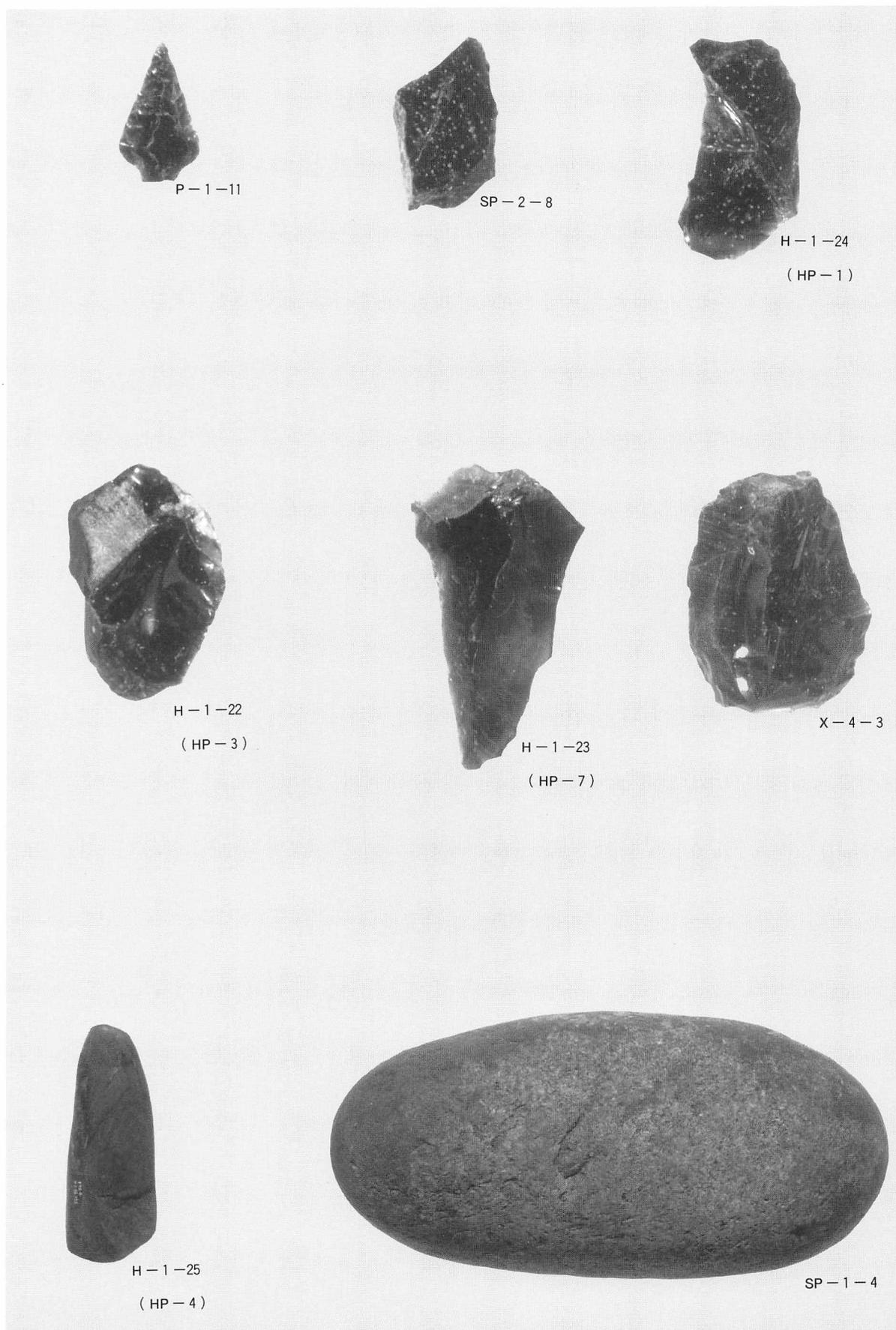
1 遺構の土器(1)



1 遺構の土器(2)



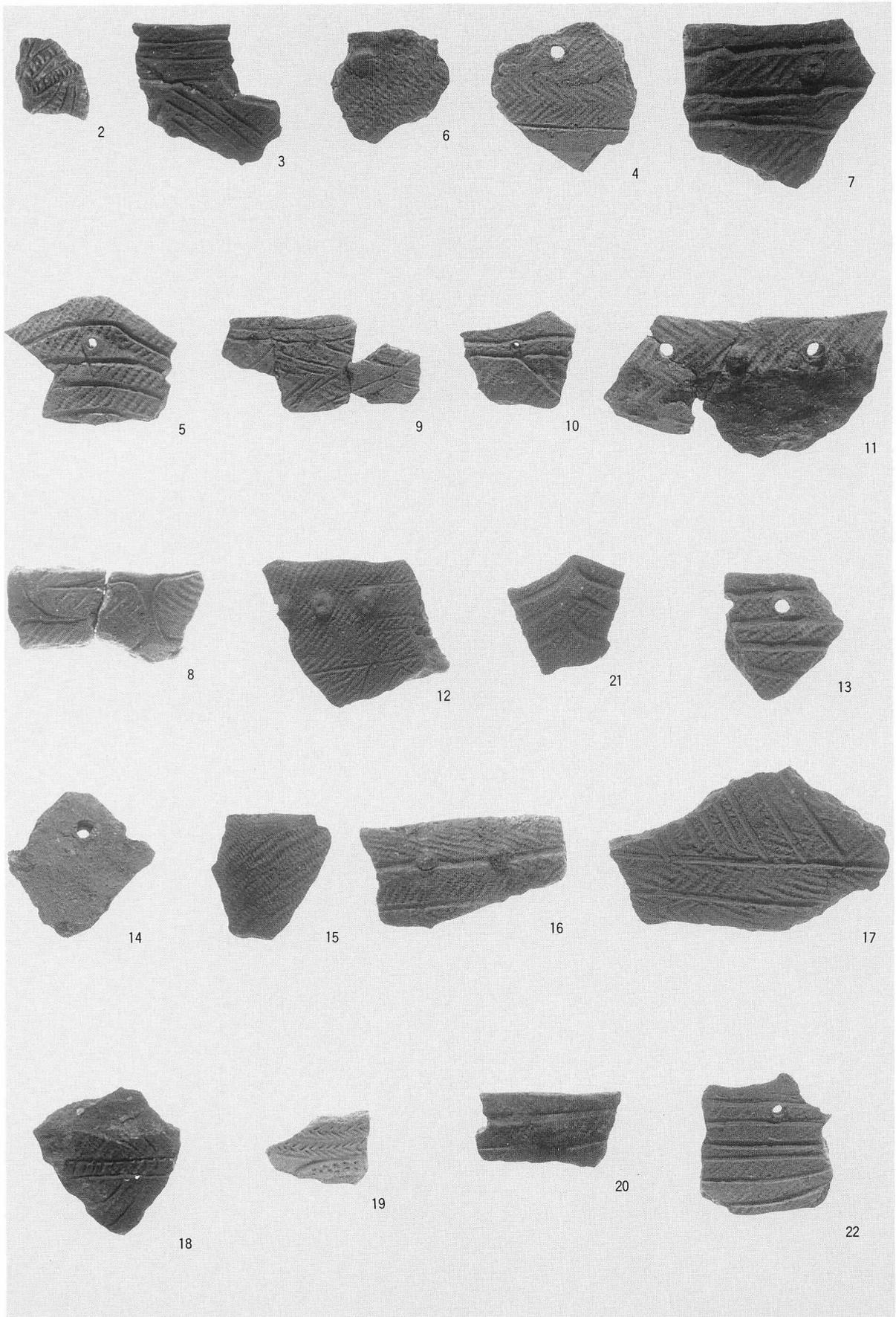
1 遺構の土器(3)



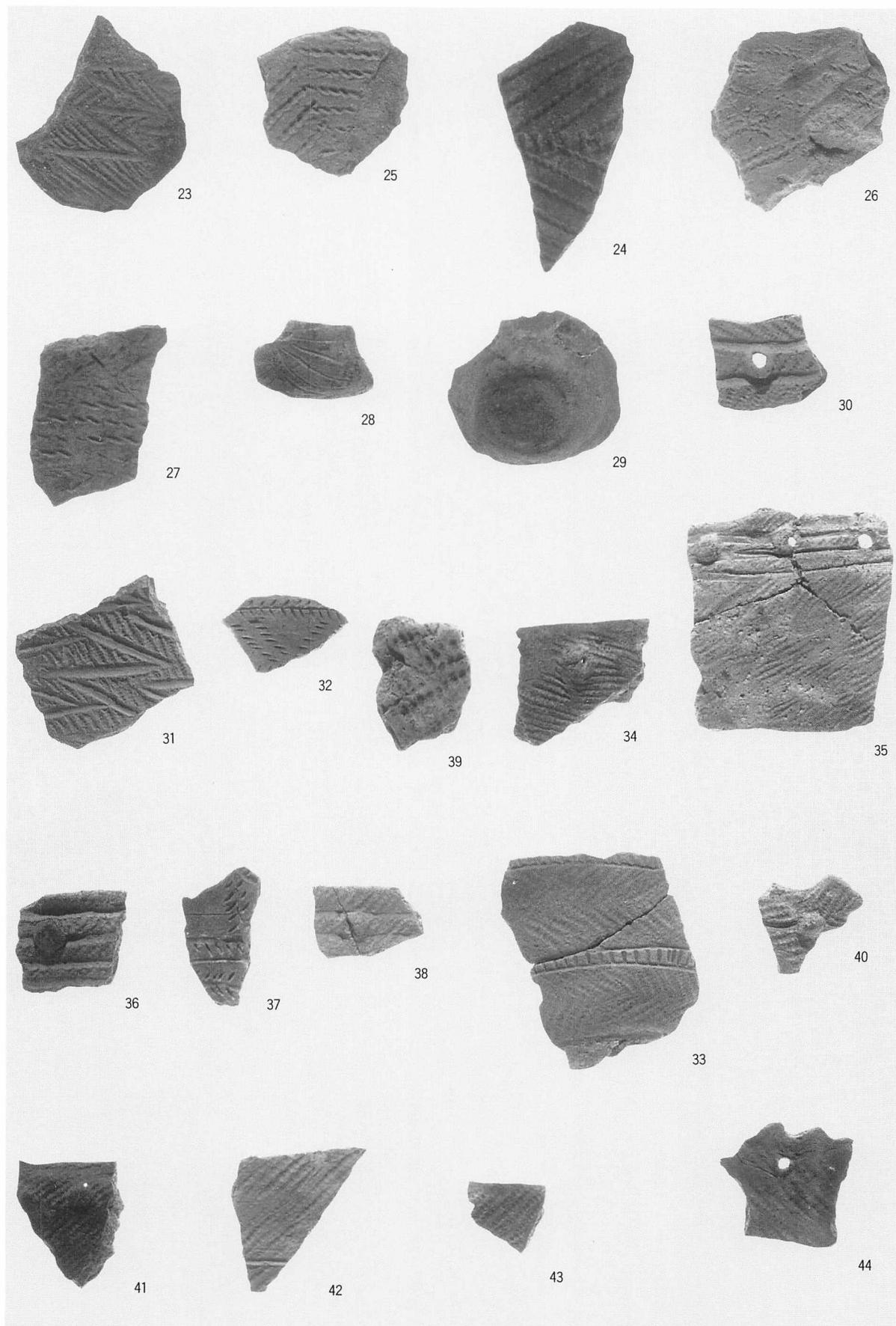
1 遺構の石器(1)



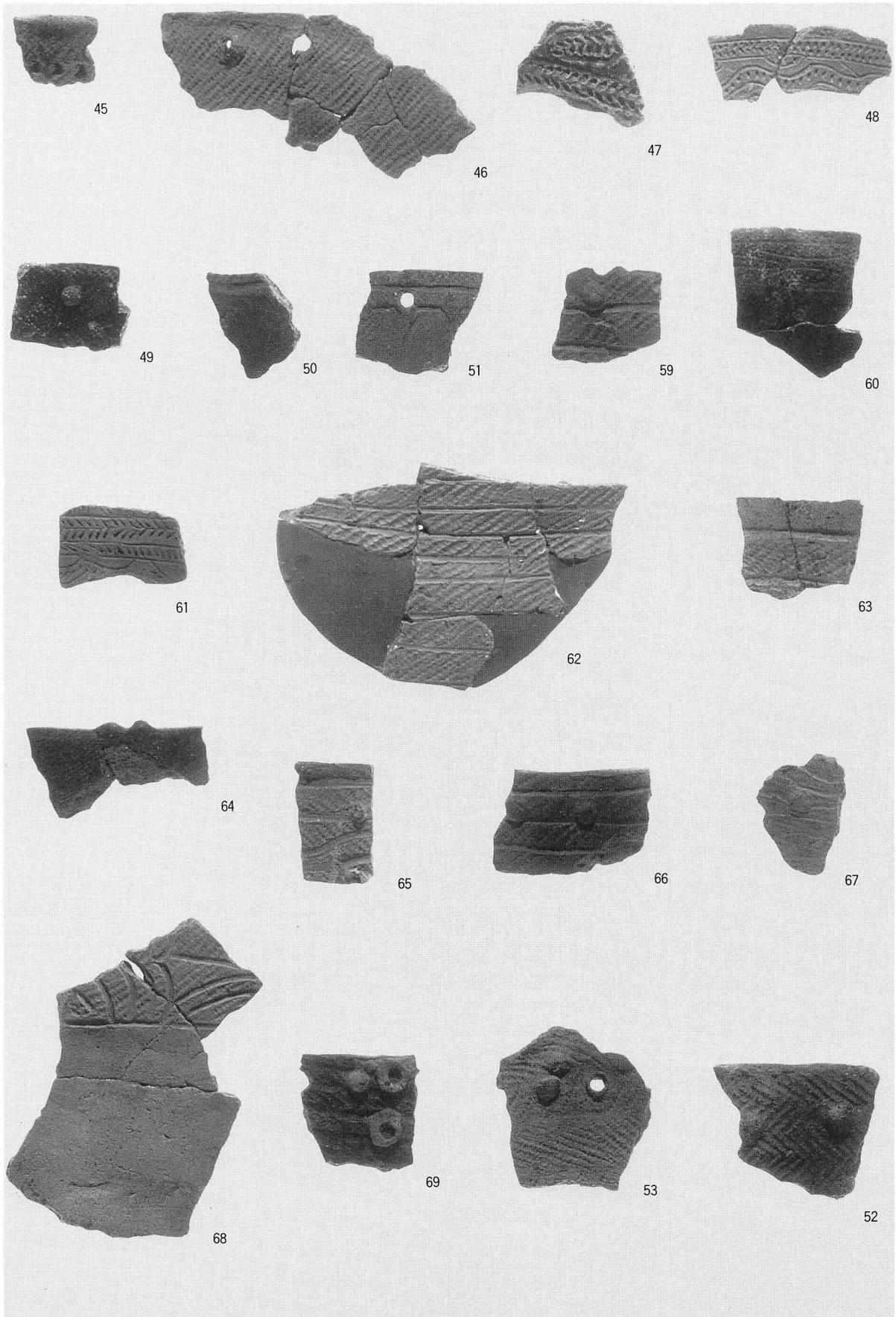
1 包含層の土器(1)



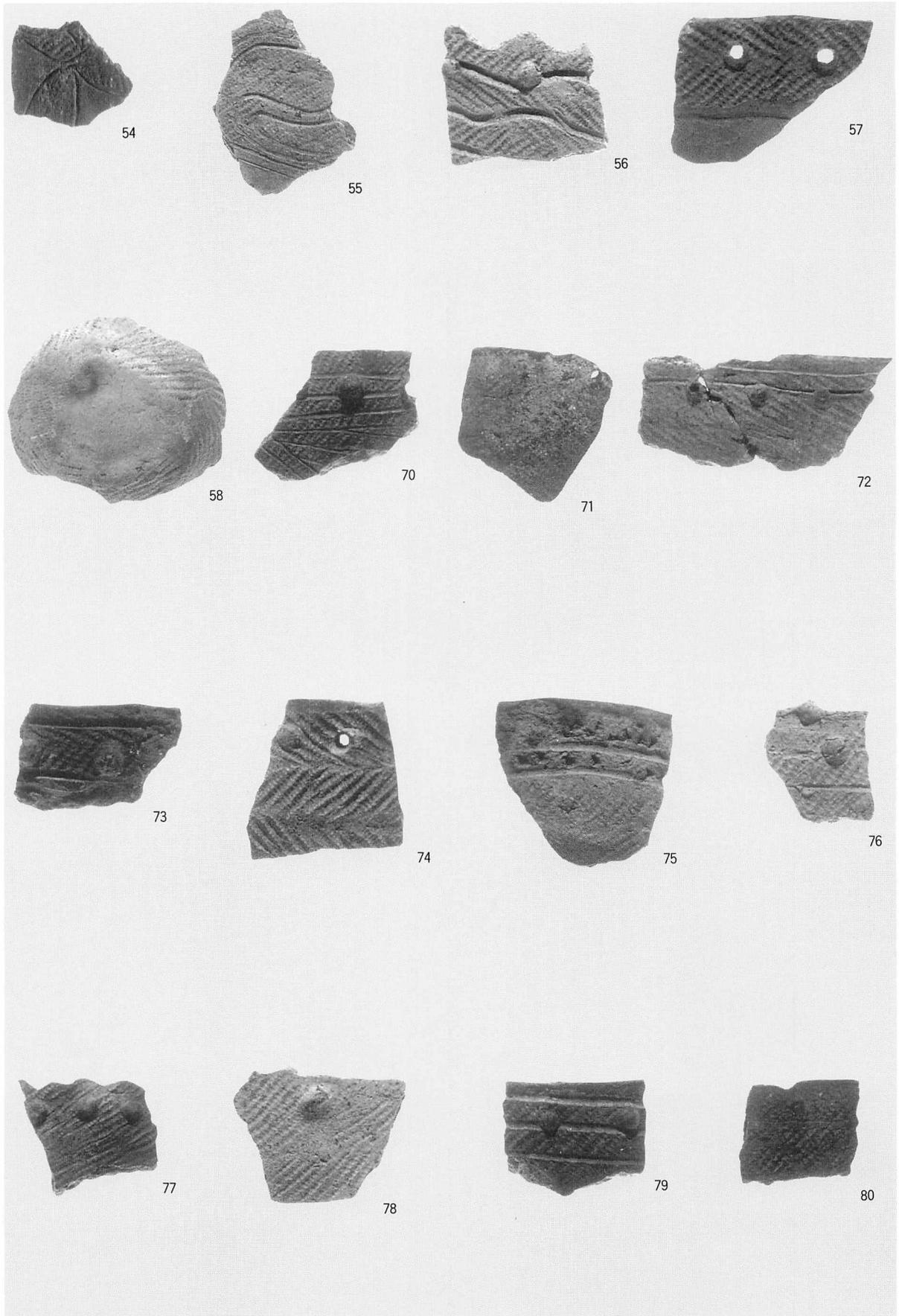
2 包含層の土器(2)



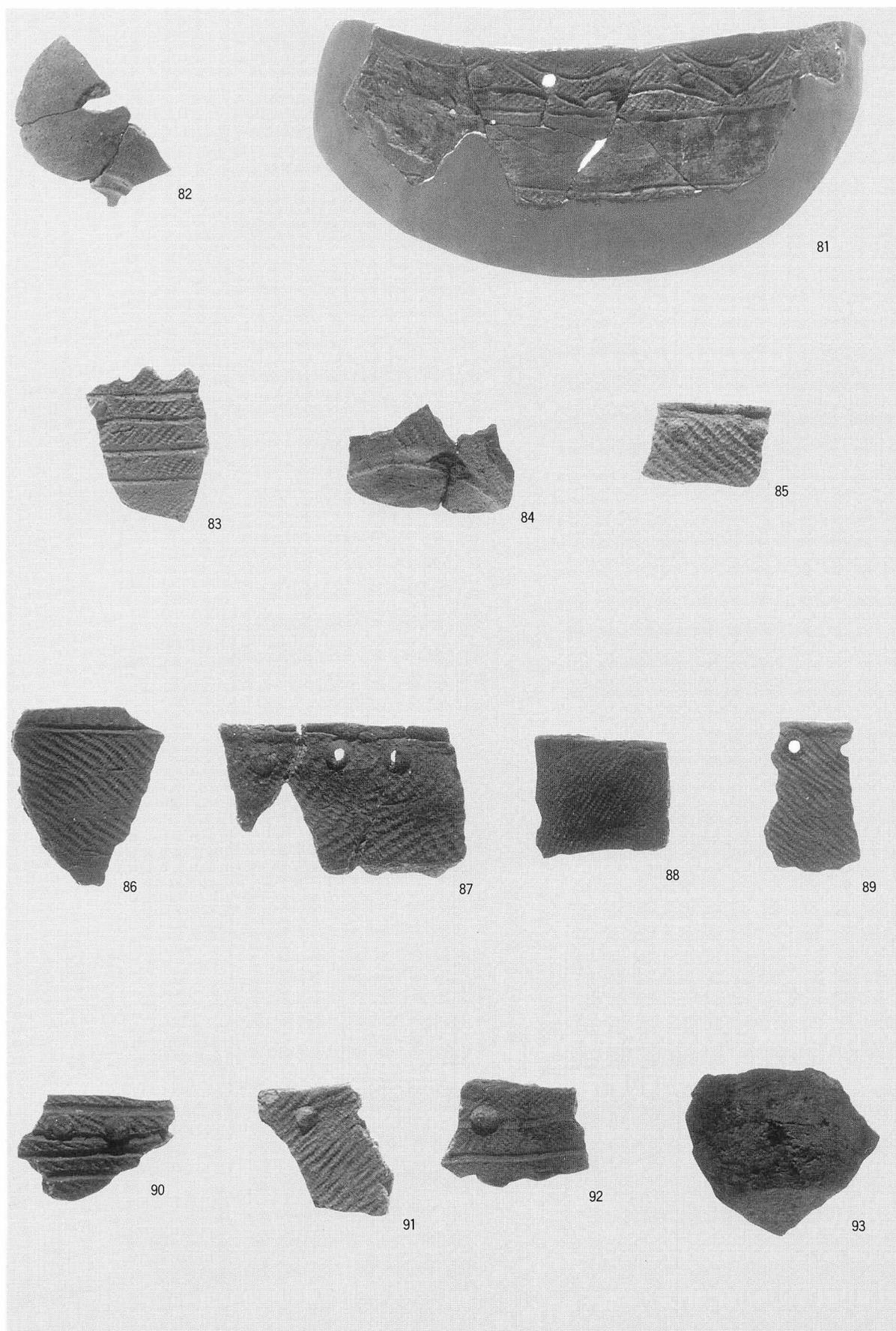
1 包含層の土器(3)



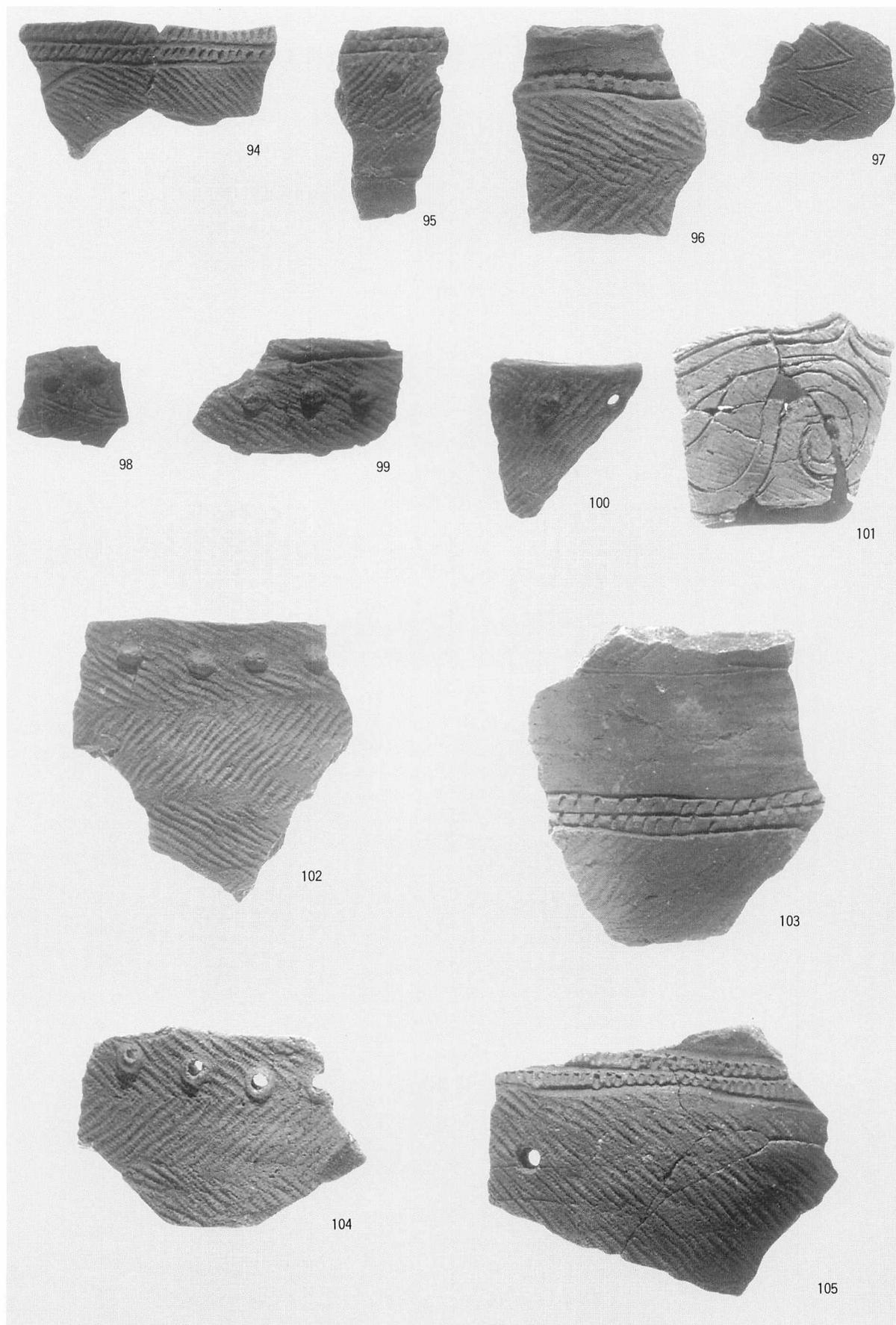
1 包含層の土器(4)



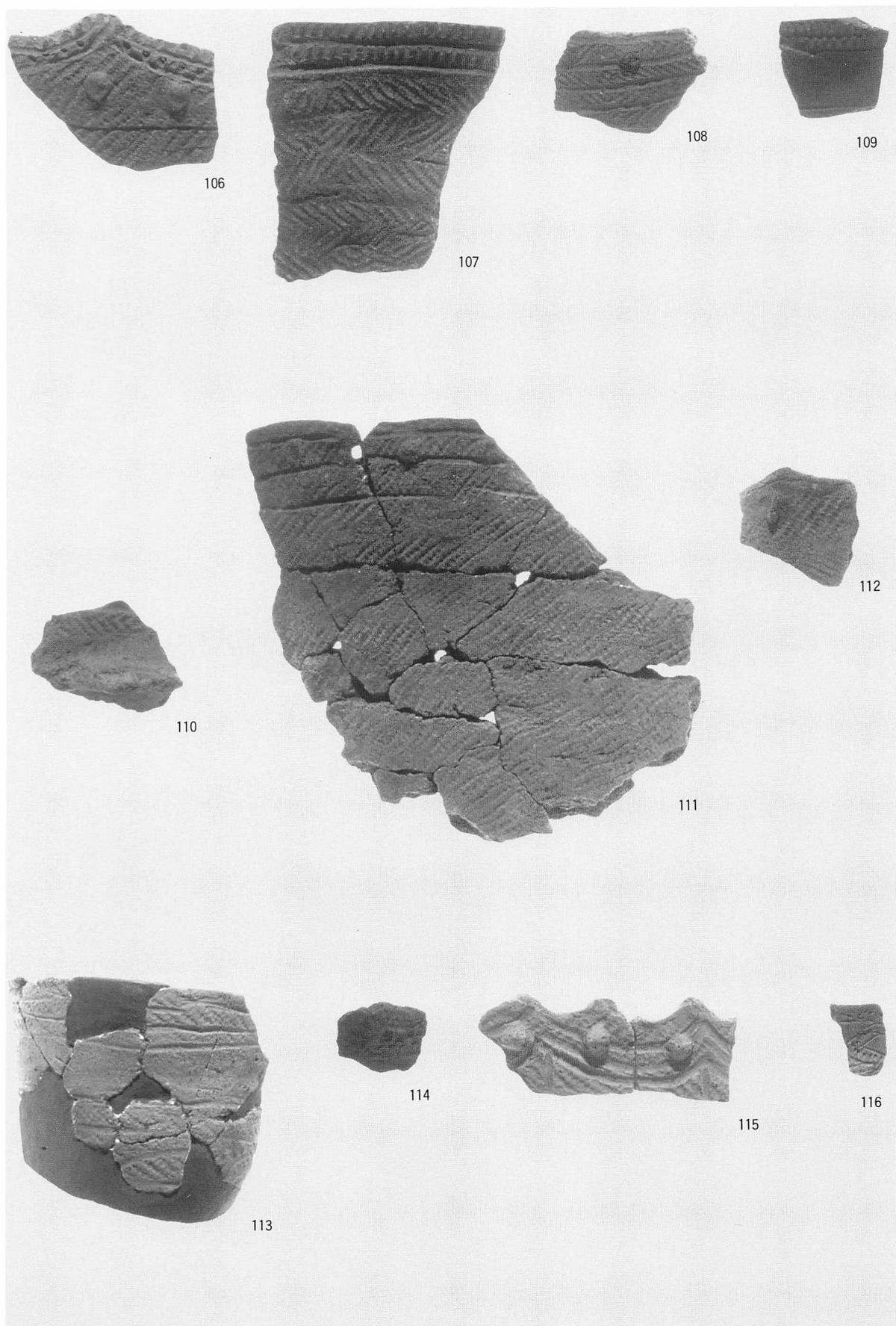
1 包含層の土器(5)



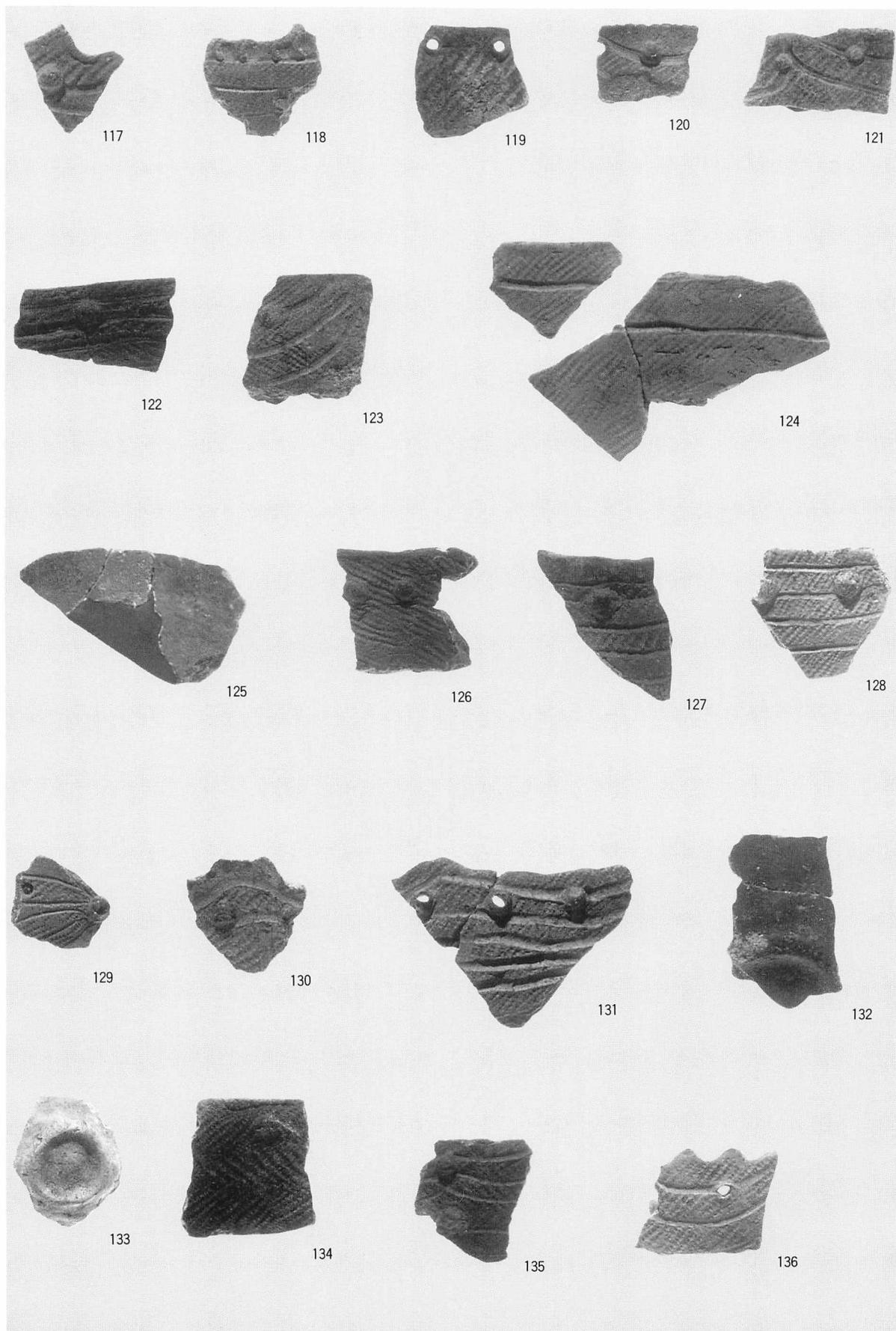
1 包含層の土器(6)



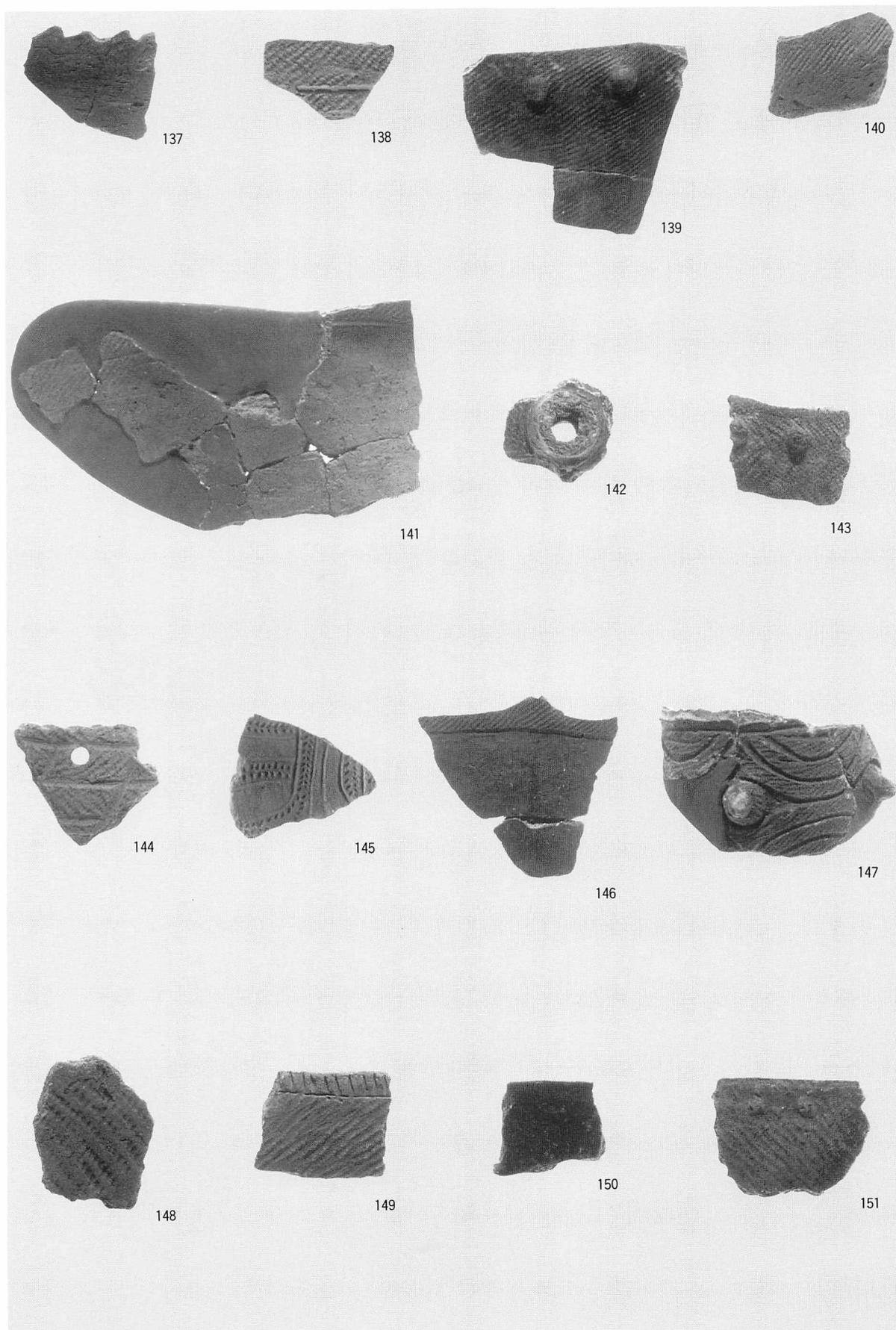
1 包含層の土器(7)



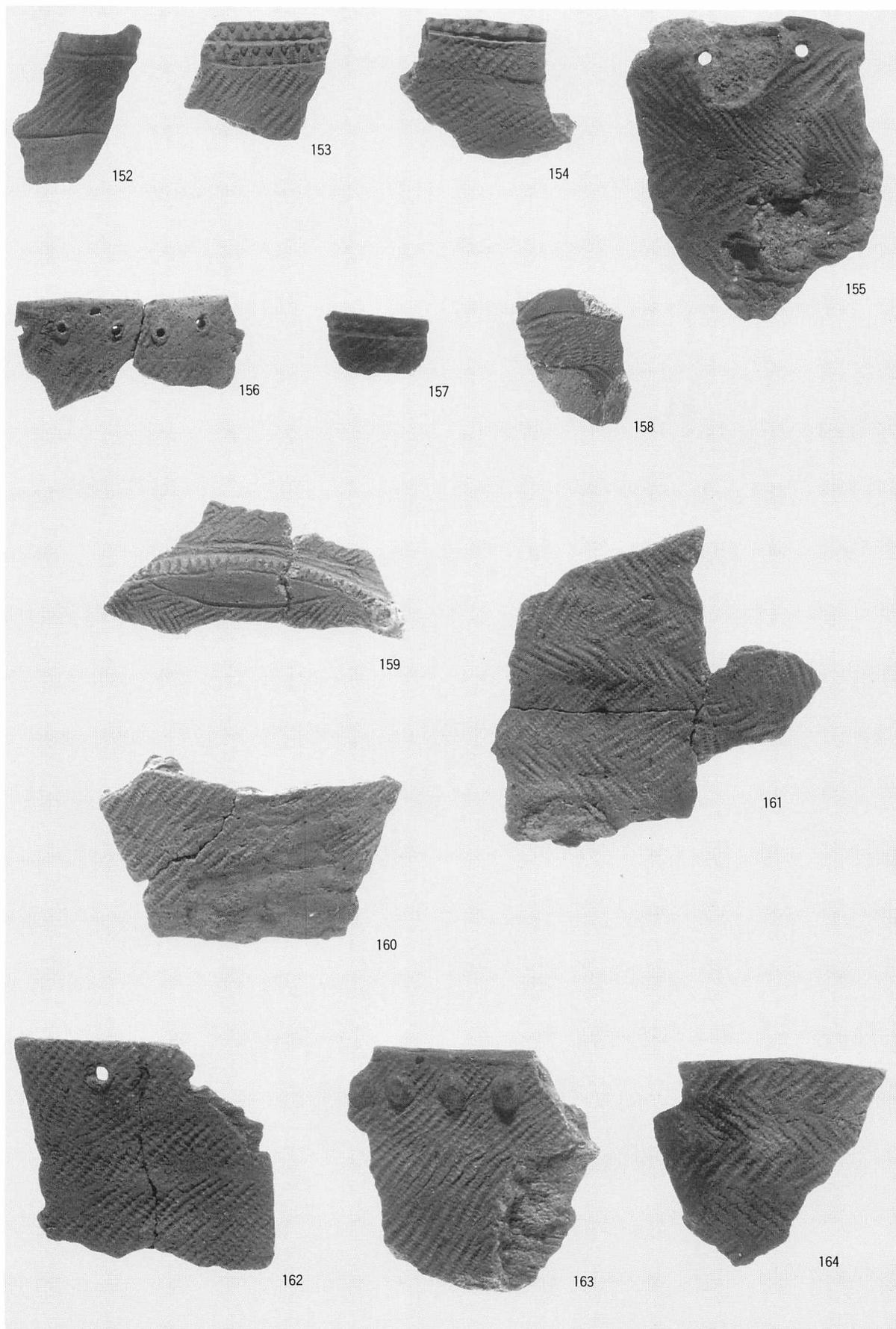
1 包含層の土器(8)



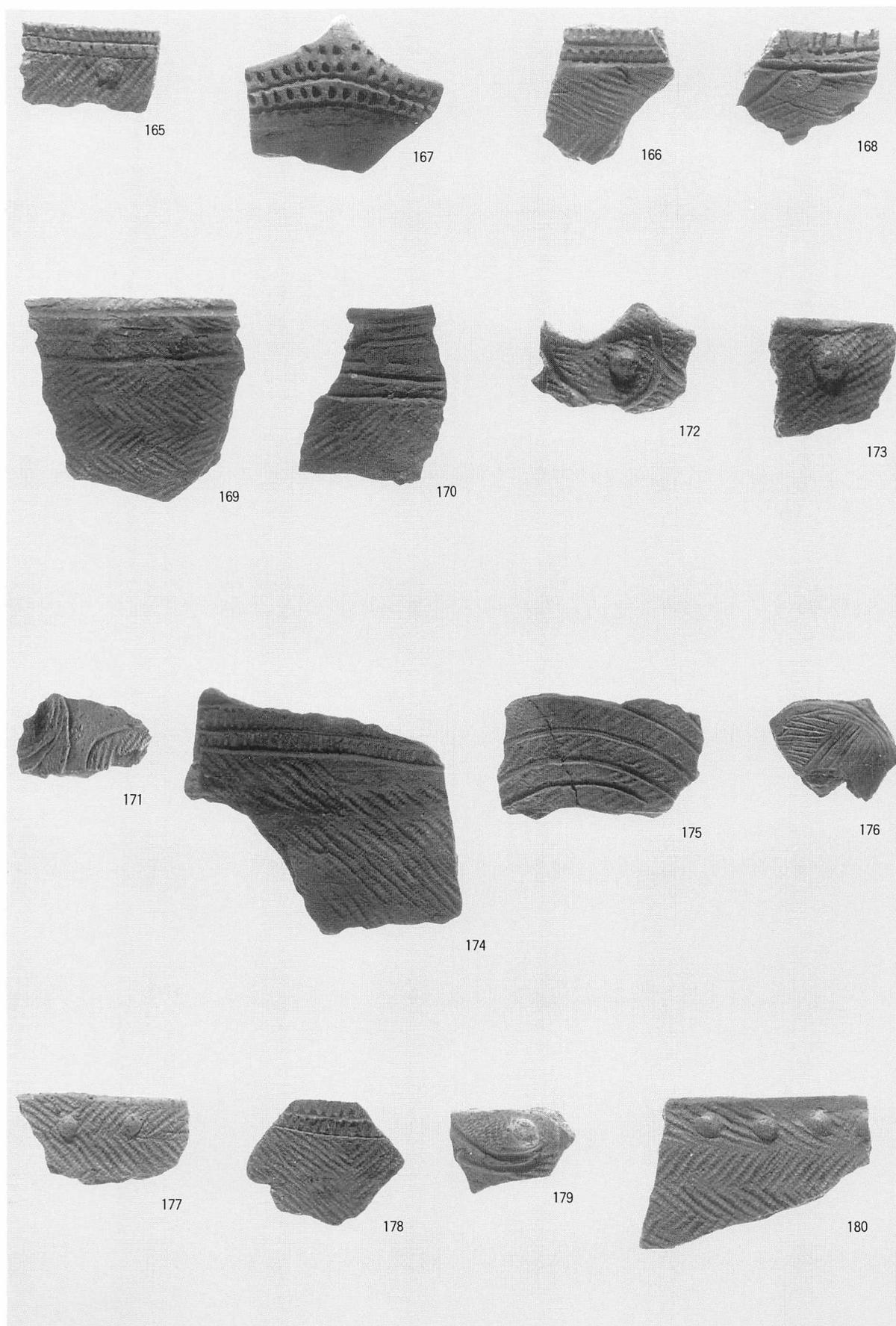
1 包含層の土器(9)



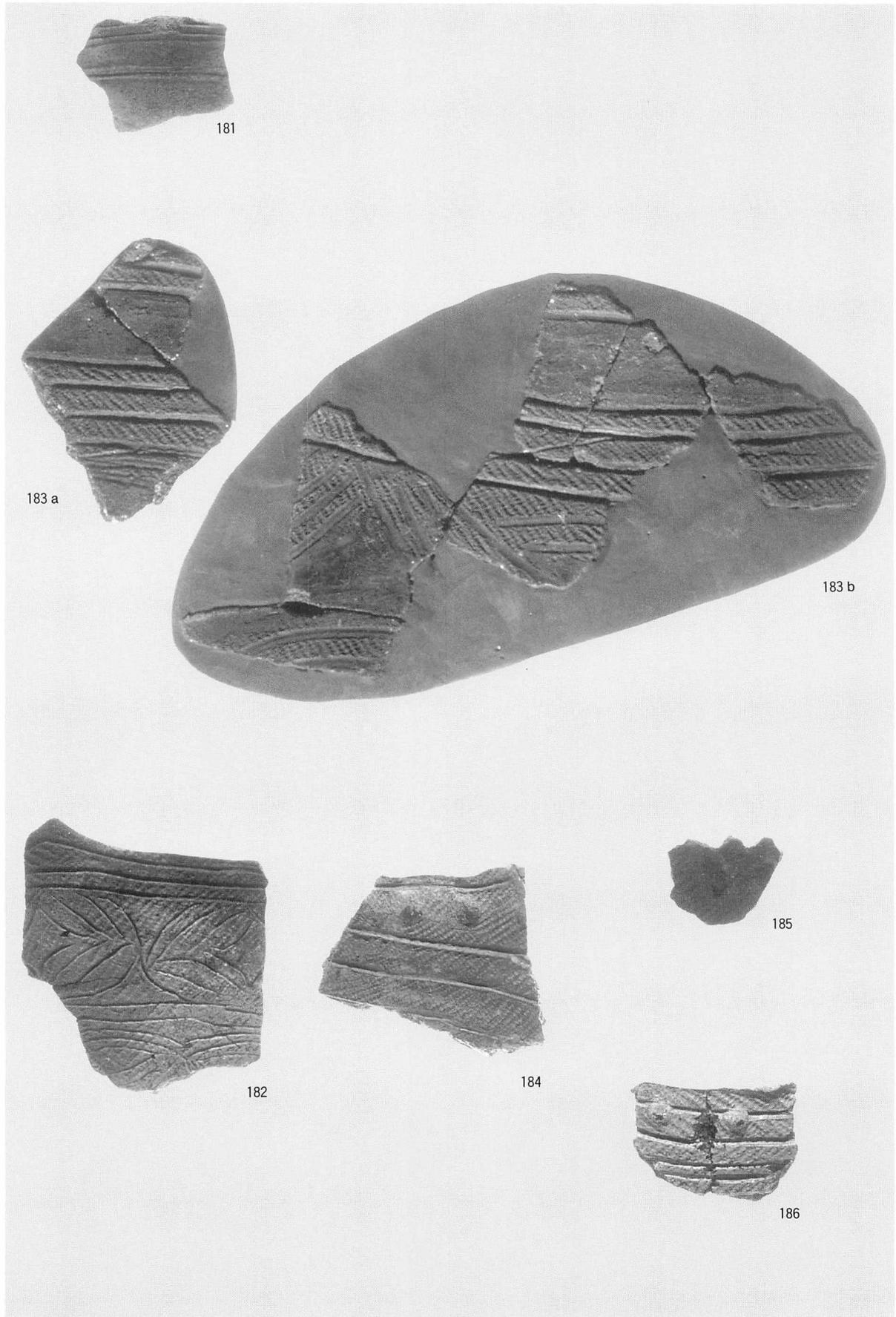
1 包含層の土器(10)



1 包含層の土器(11)



1 包含層の土器(12)



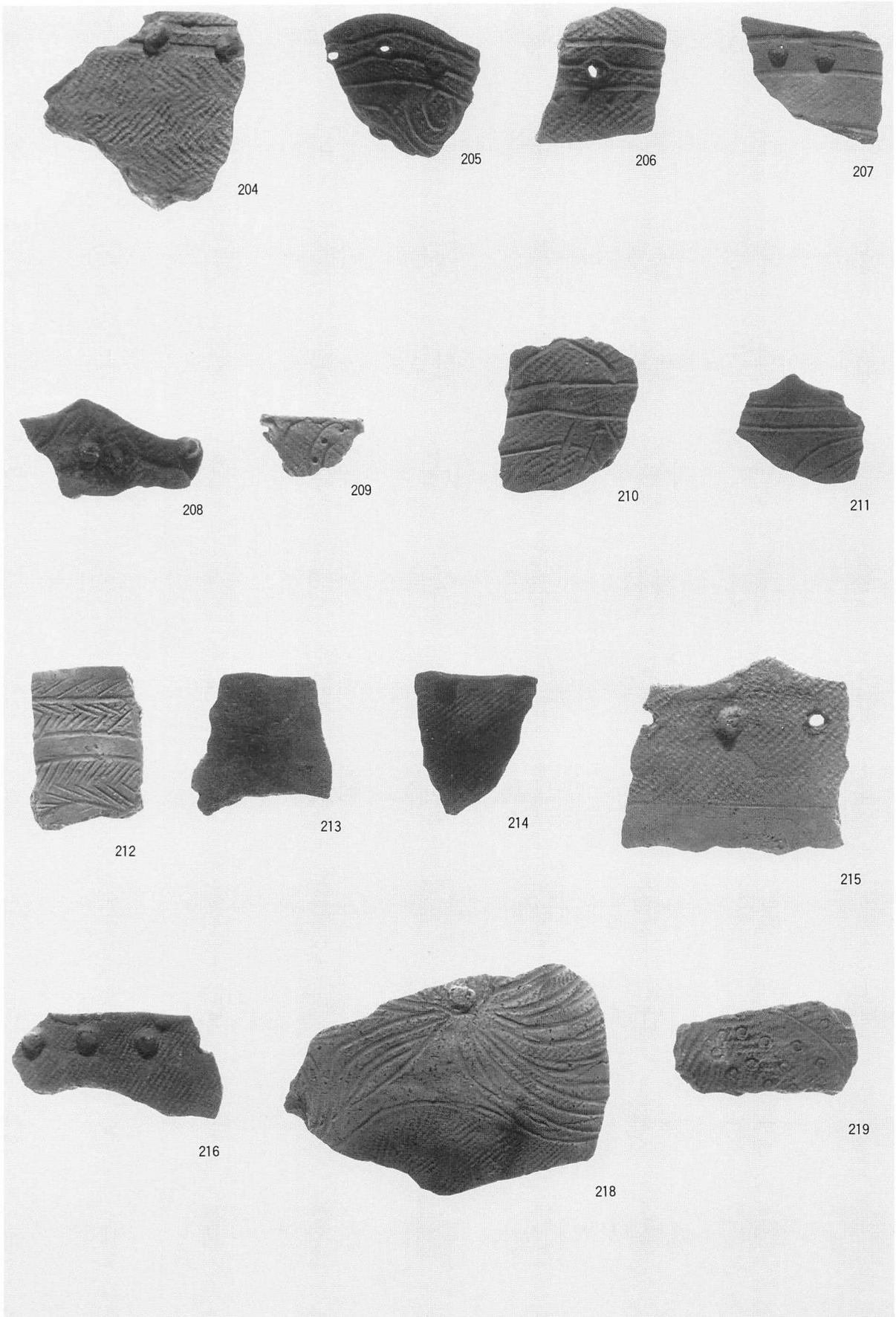
1 包含層の土器(13)



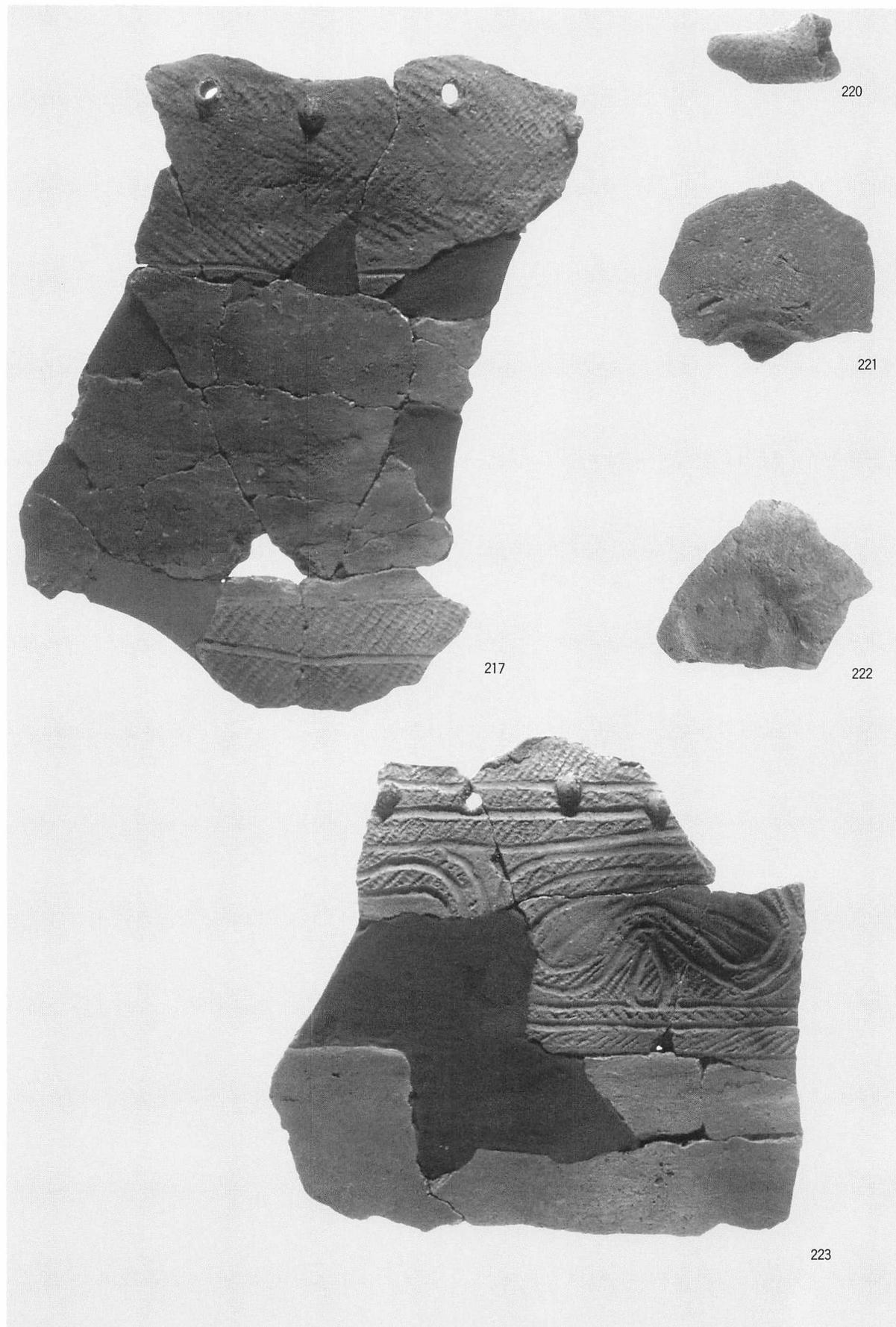
1 包含層の土器(14)



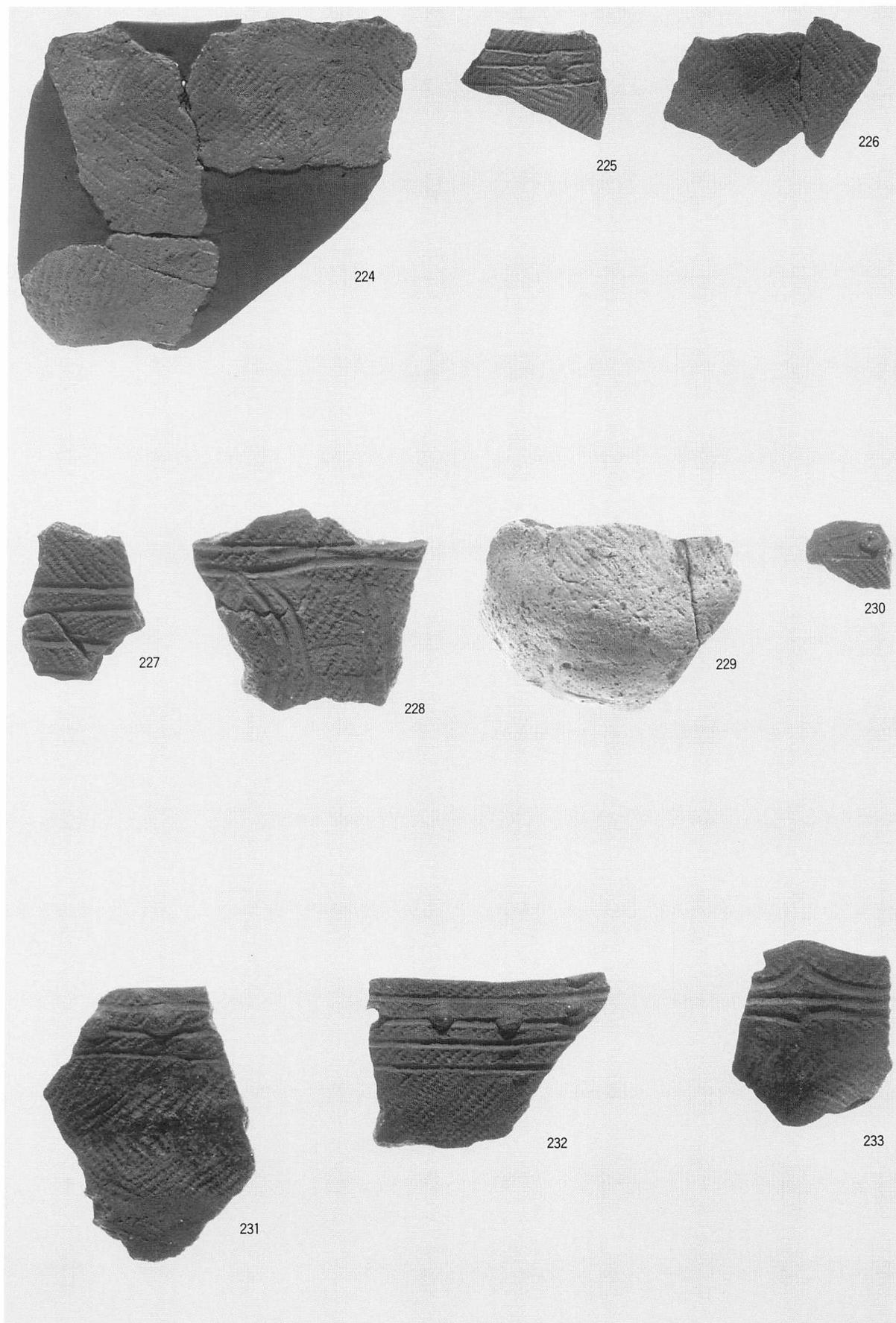
1 包含層の土器(15)



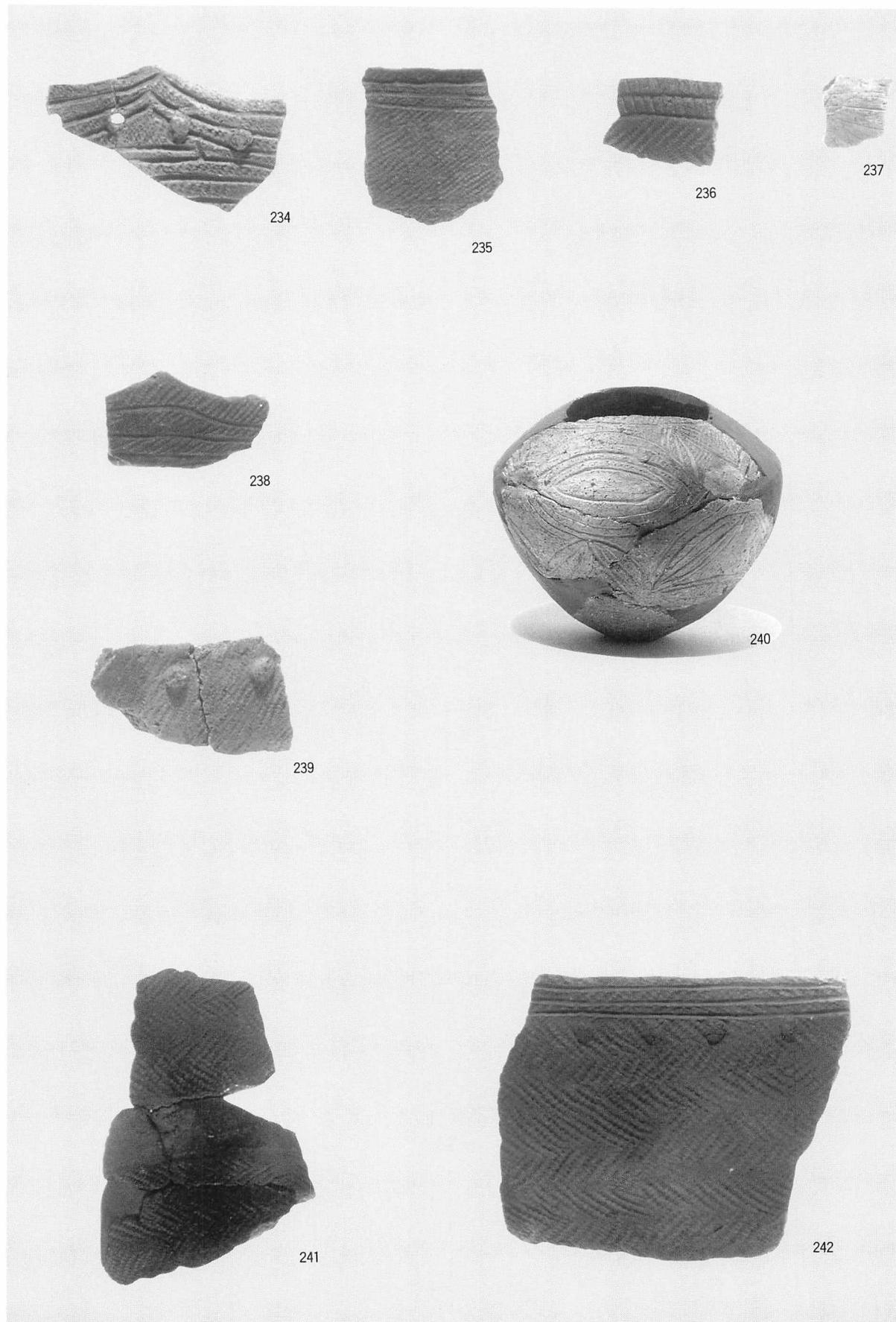
1 包含層の土器(16)



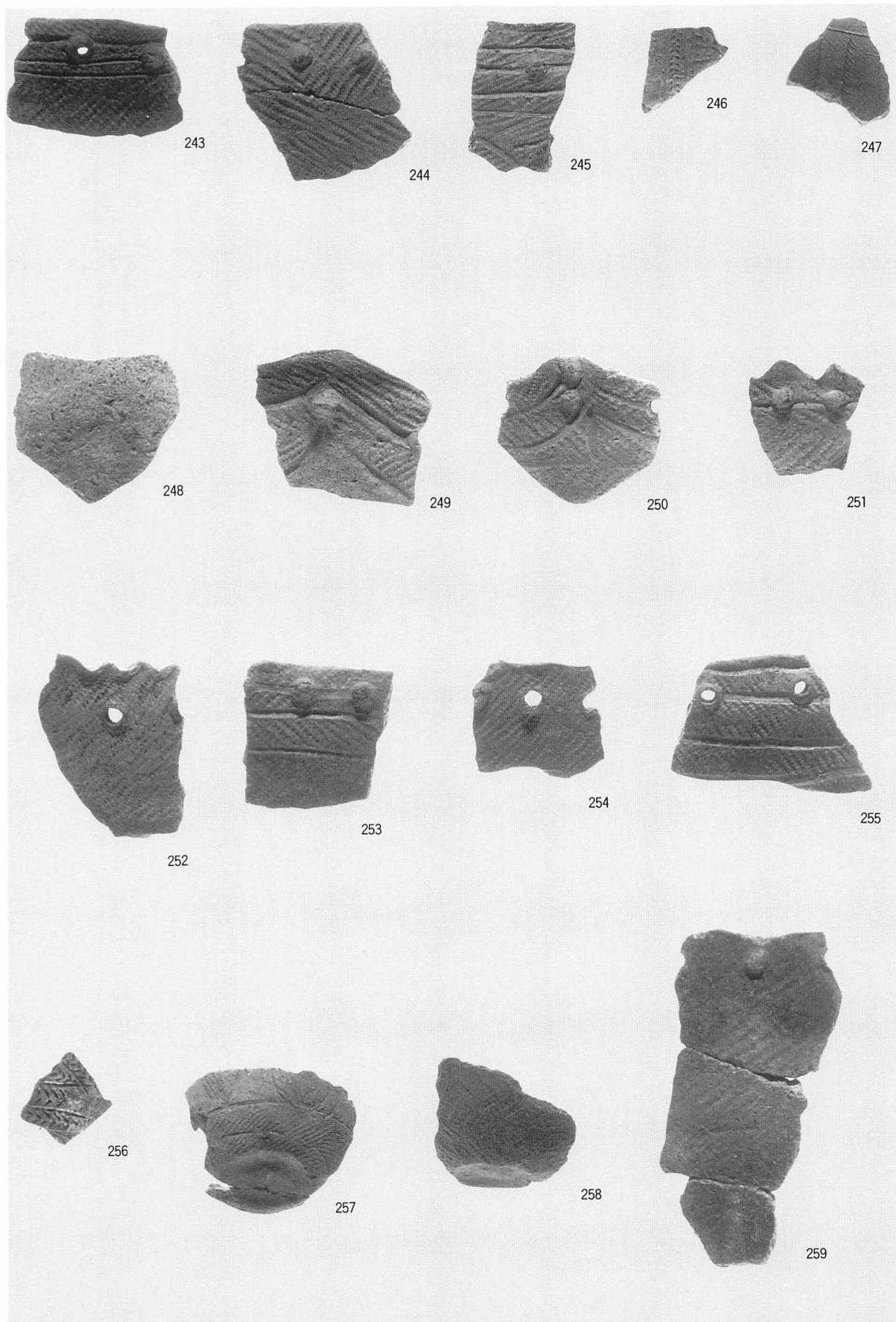
1 包含層の土器(17)



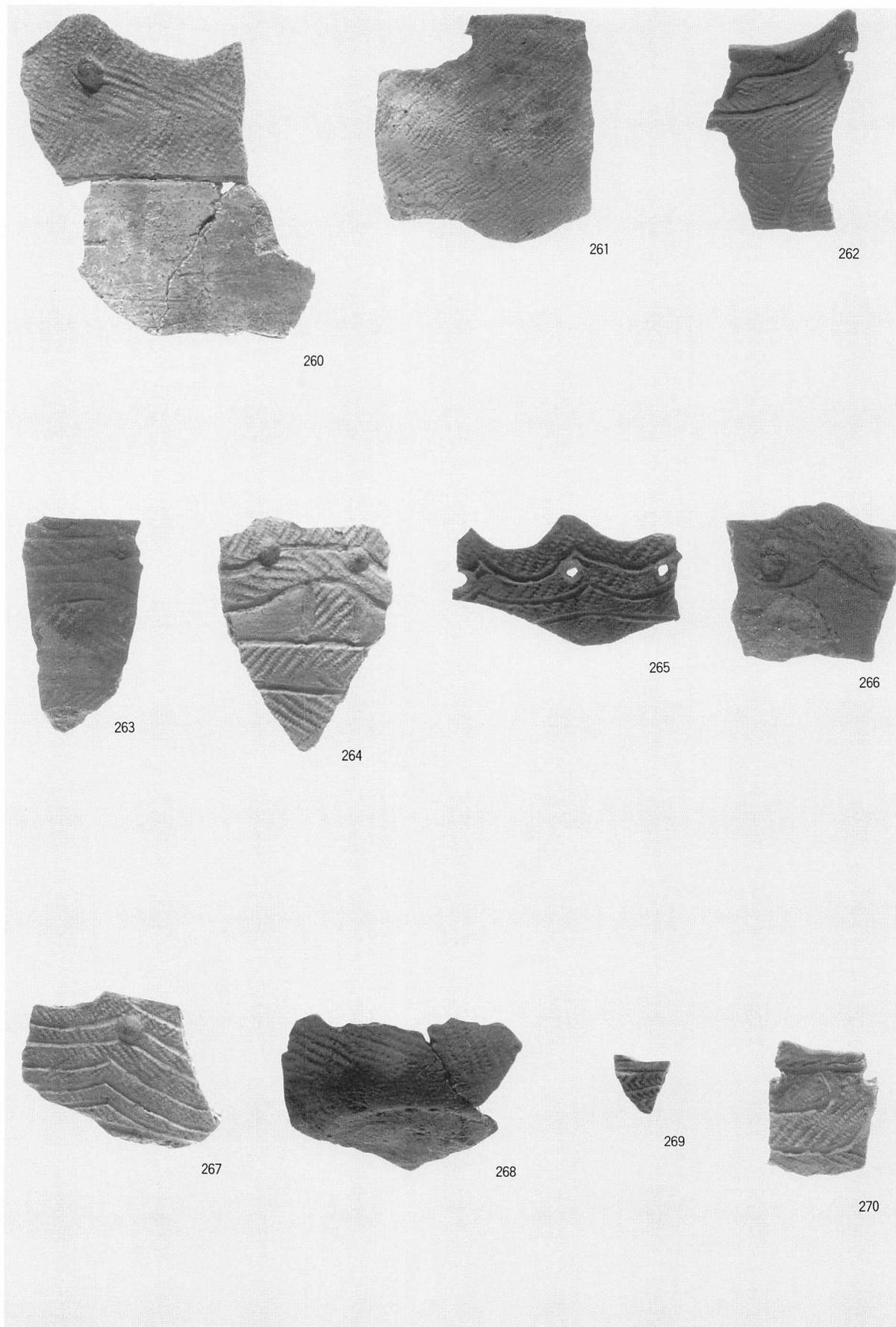
1 包含層の土器(18)



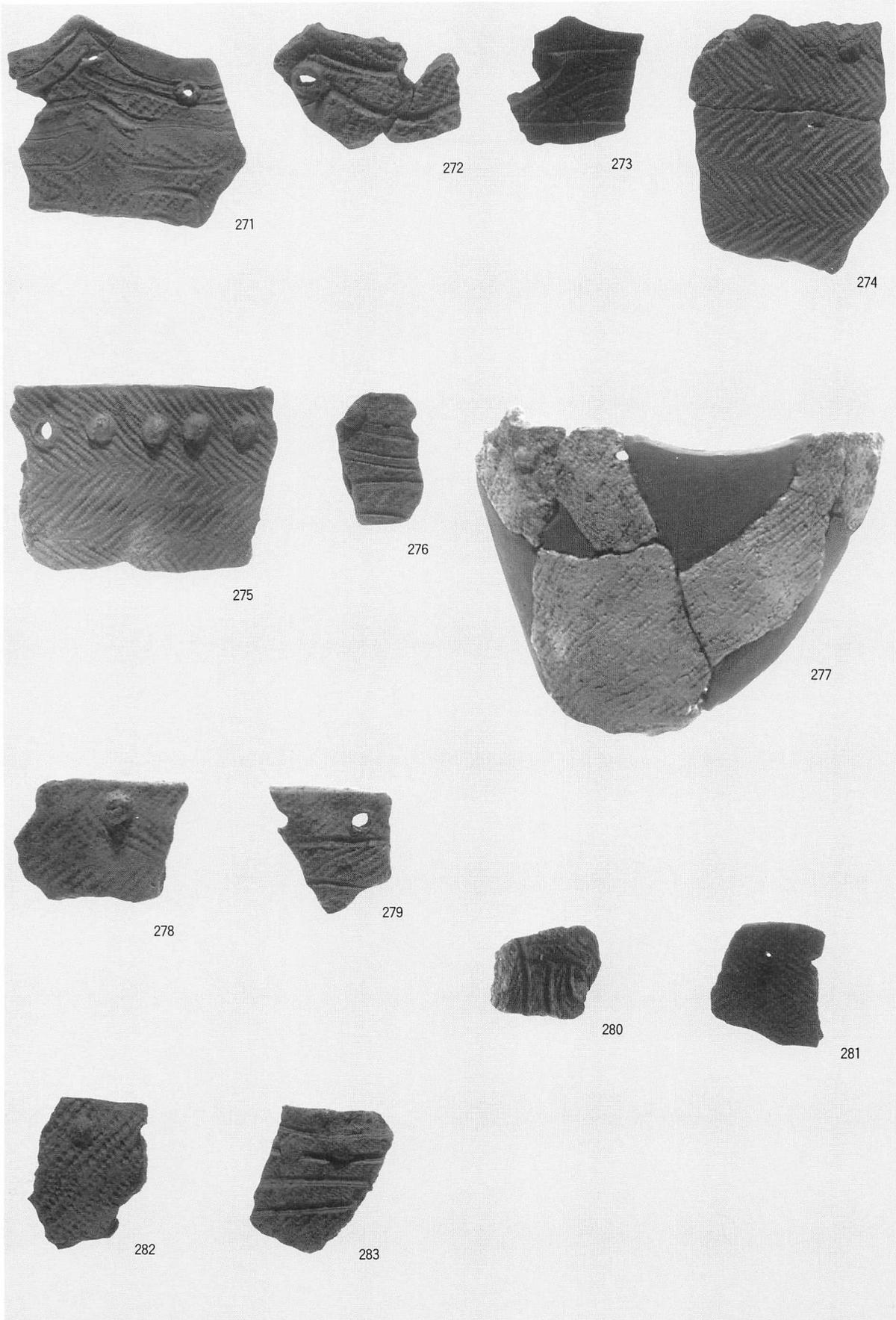
1 包含層の土器(19)



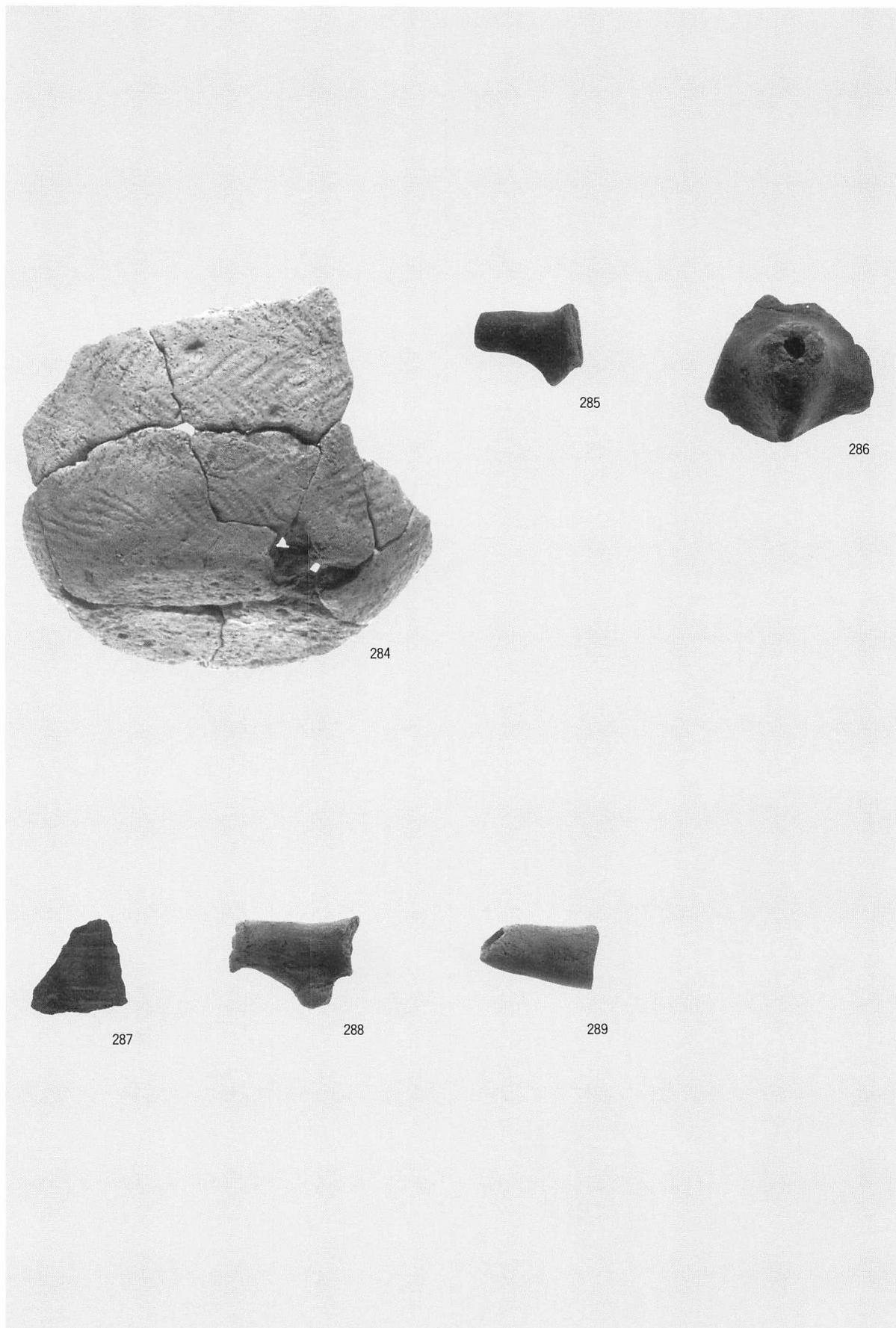
1 包含層の土器(20)



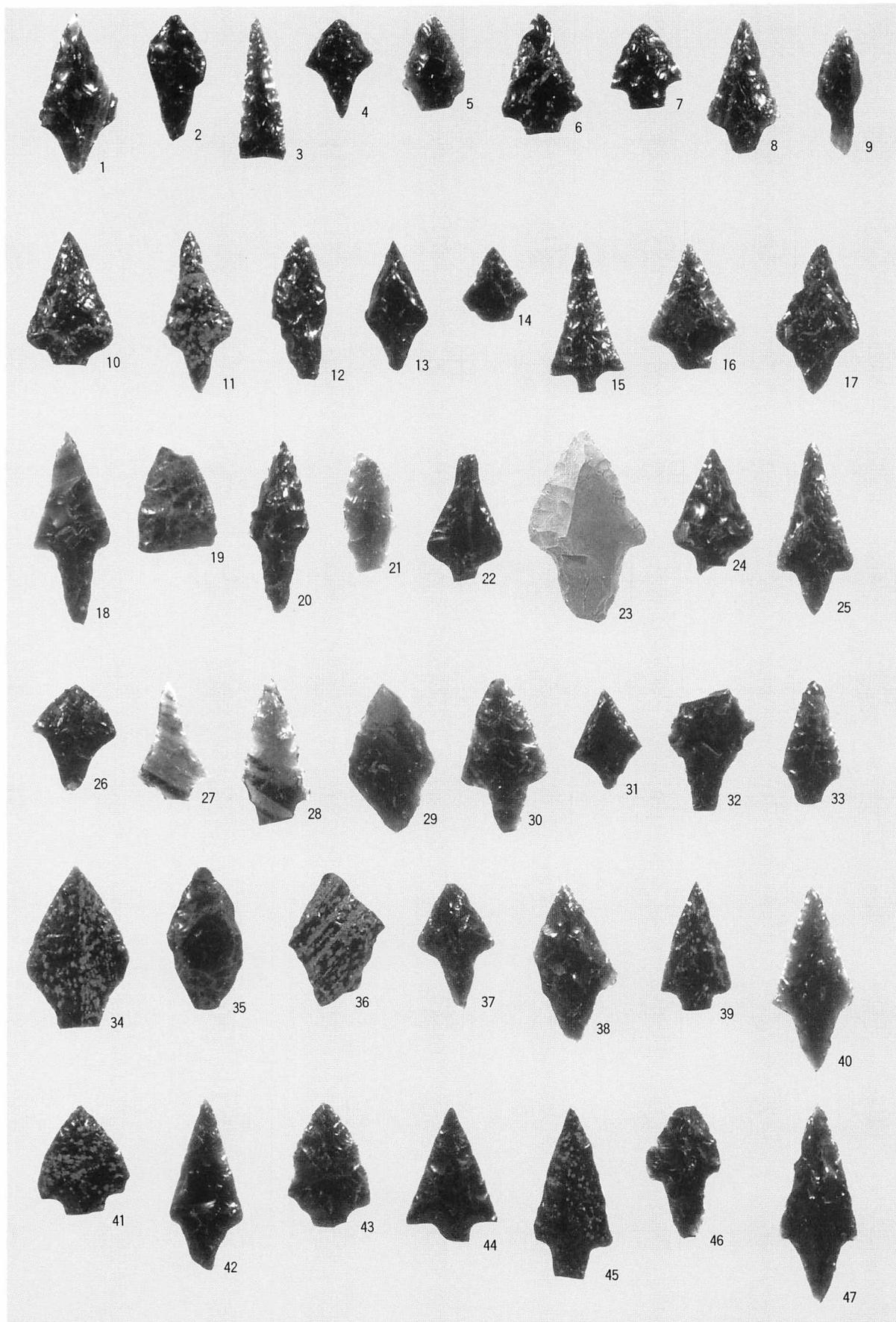
1 包含層の土器(21)



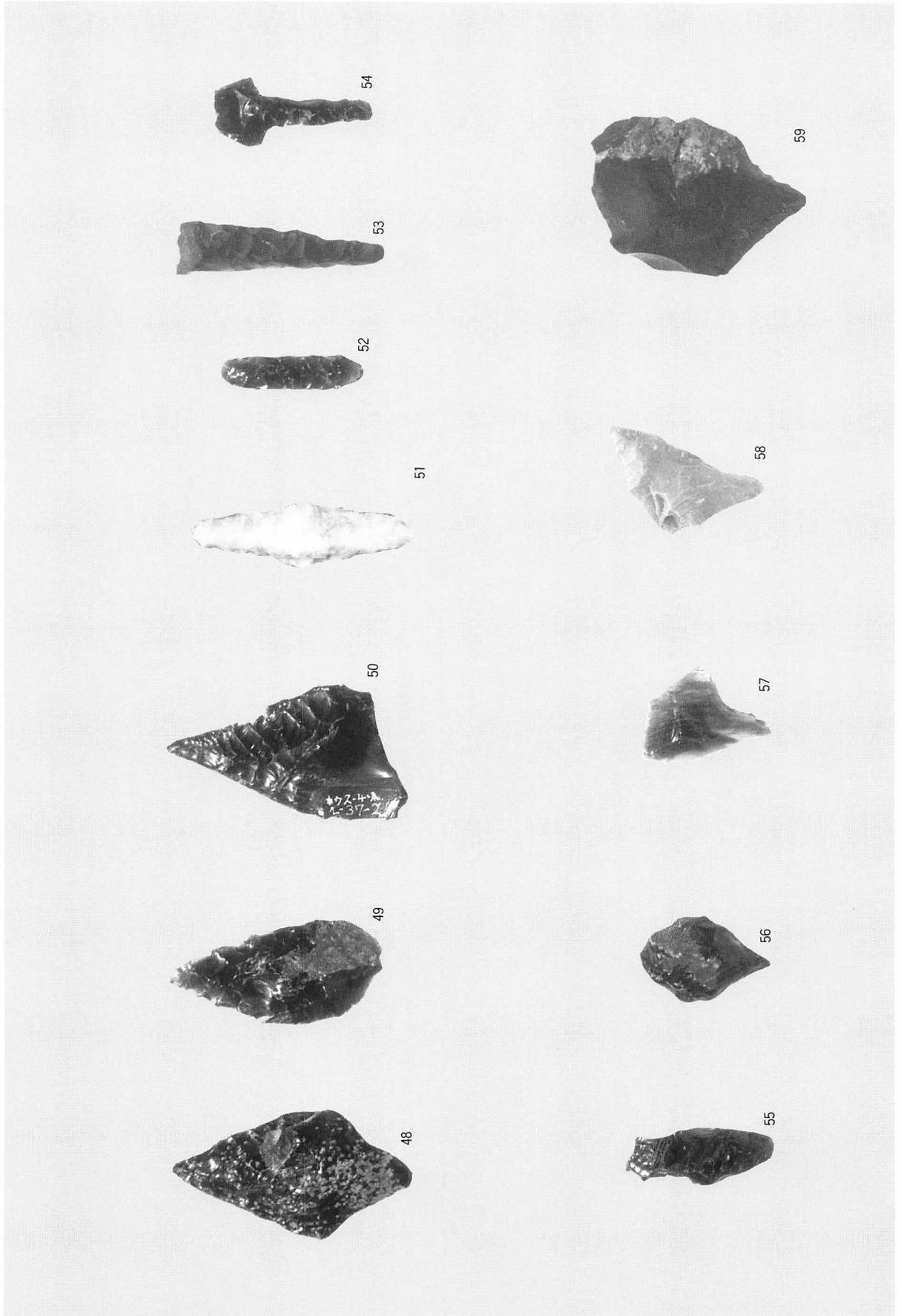
1 包含層の土器(22)

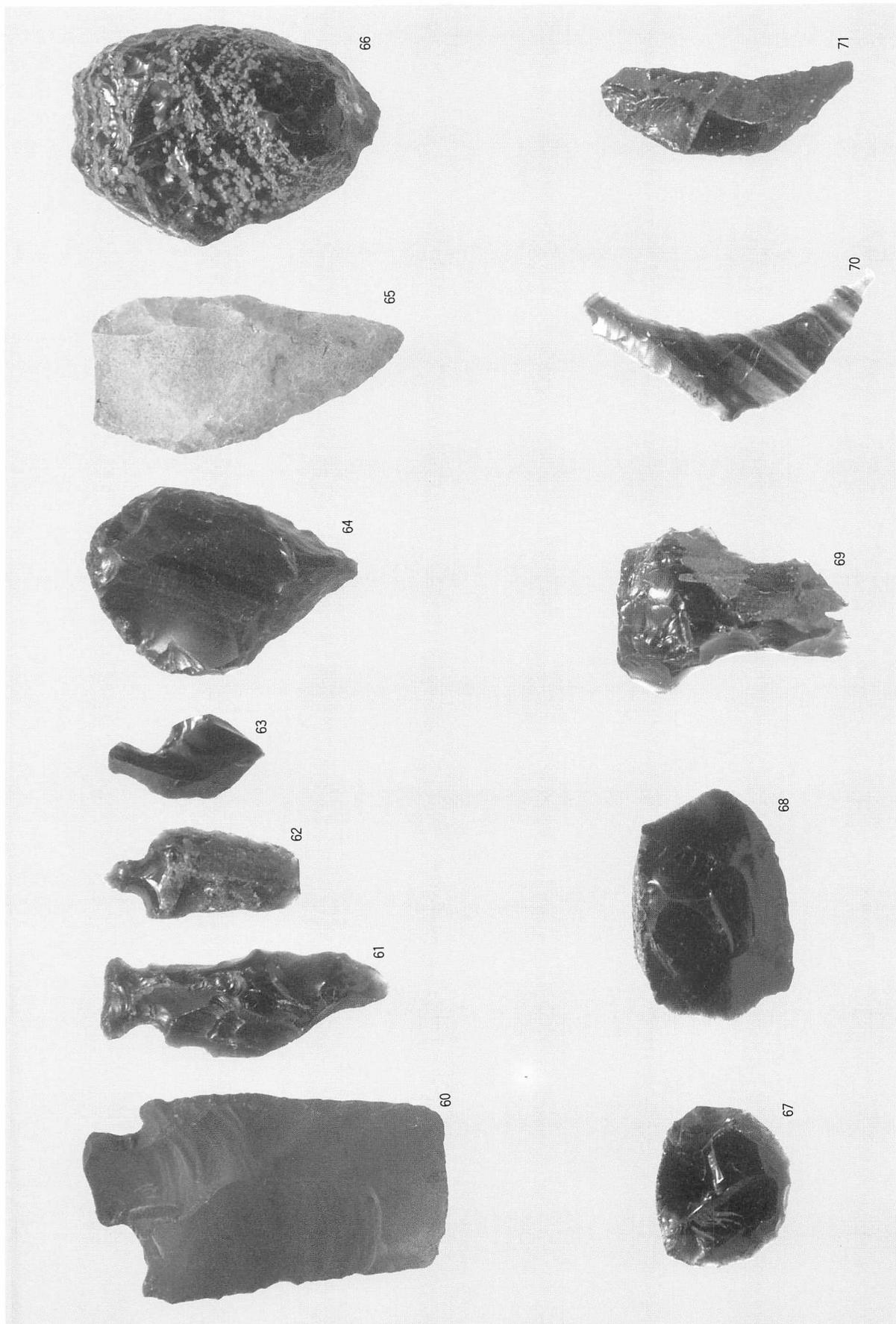


1 包含層の土器(23)



1 包含層の石器(1)





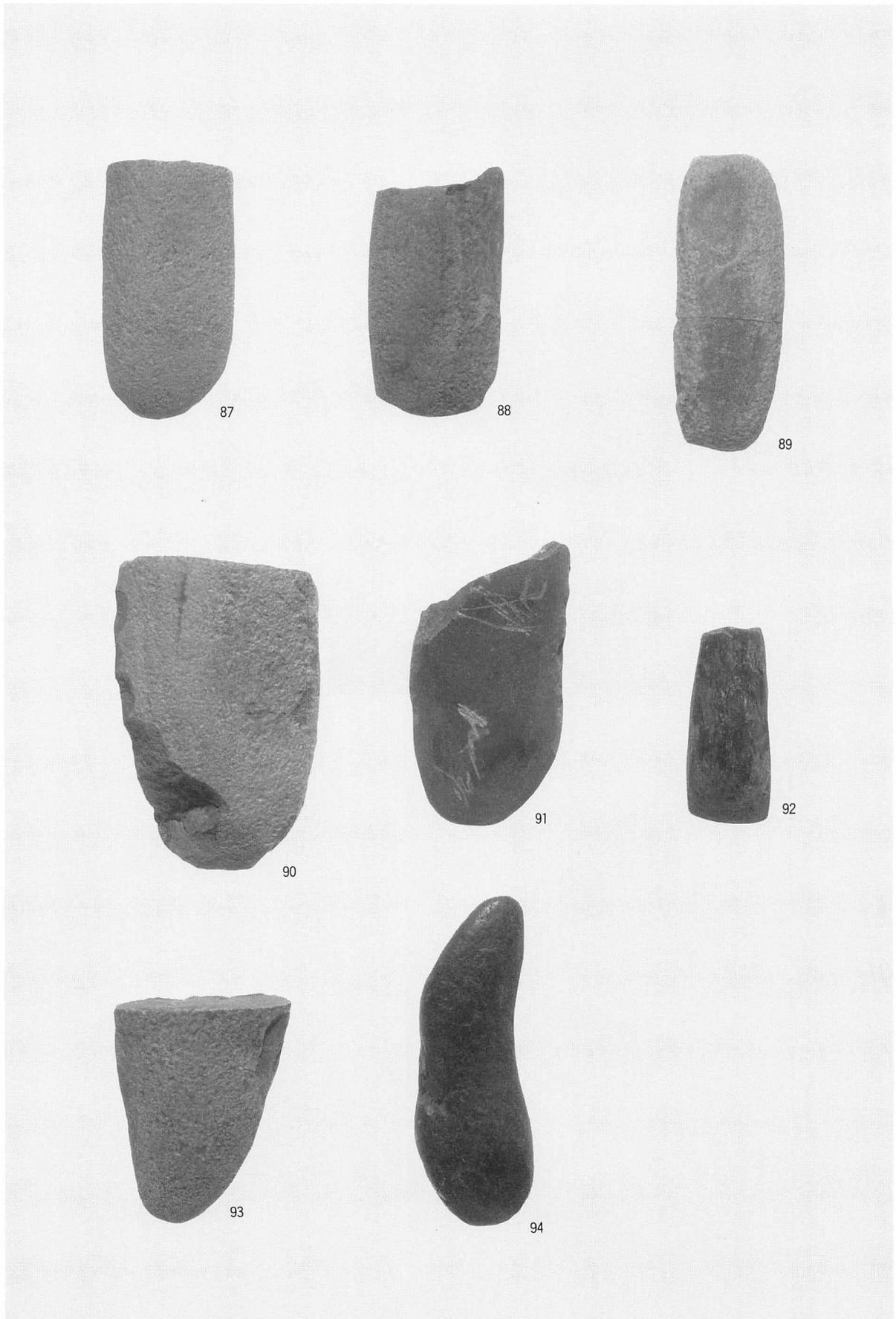
1 包含層の石器(3)



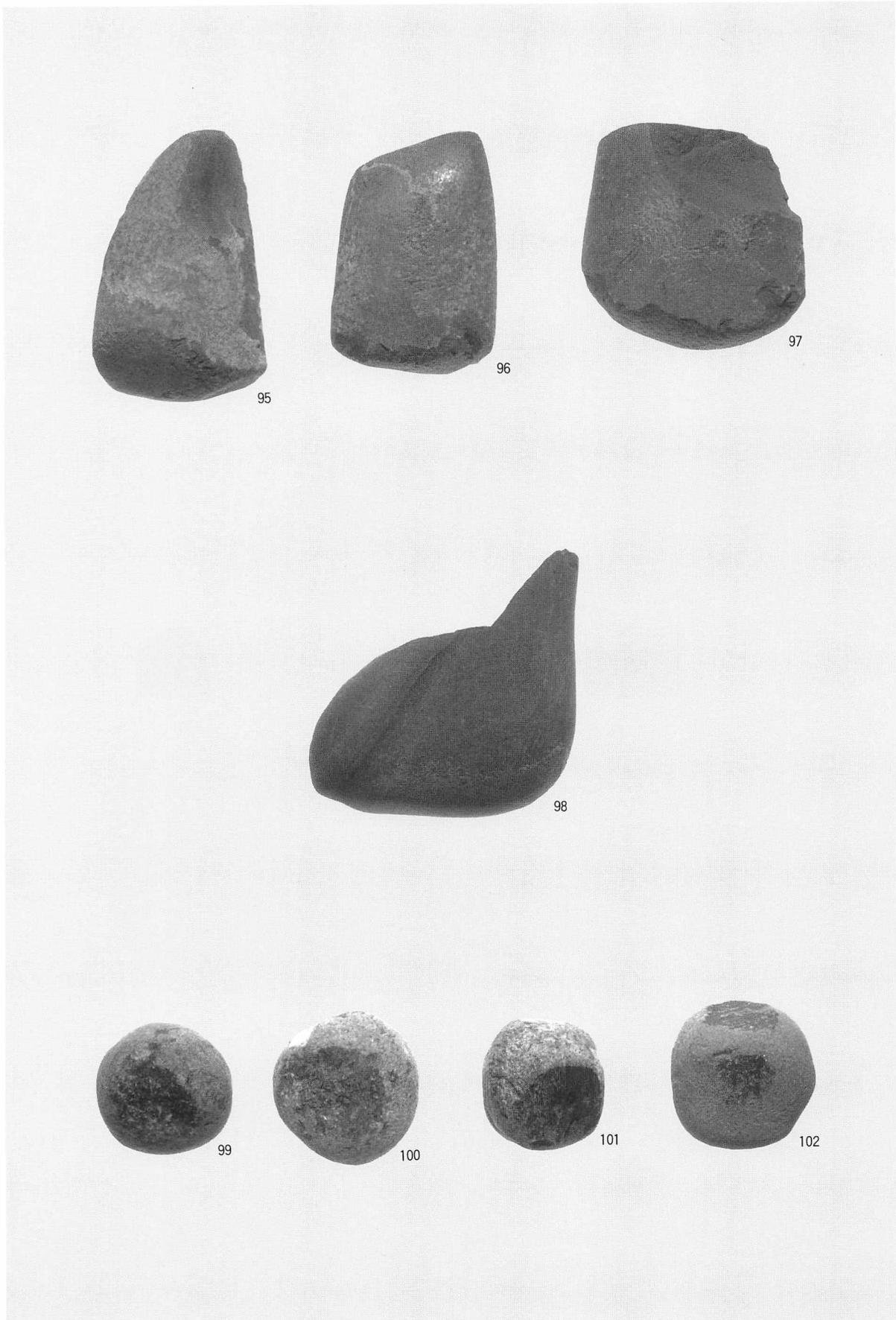
1 包含層の石器(4)



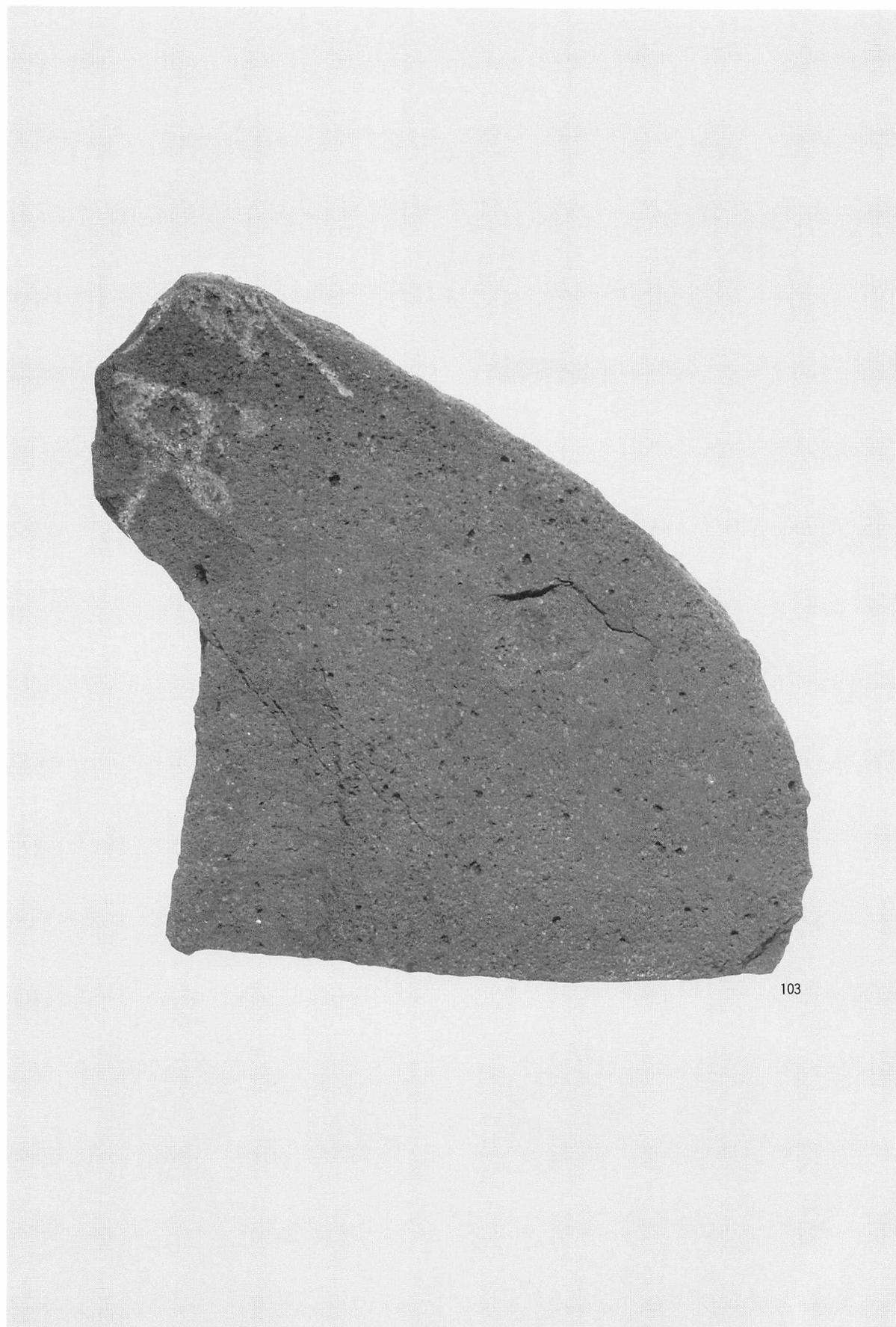
1 包含層の石器(5)



1 包含層の石器(6)



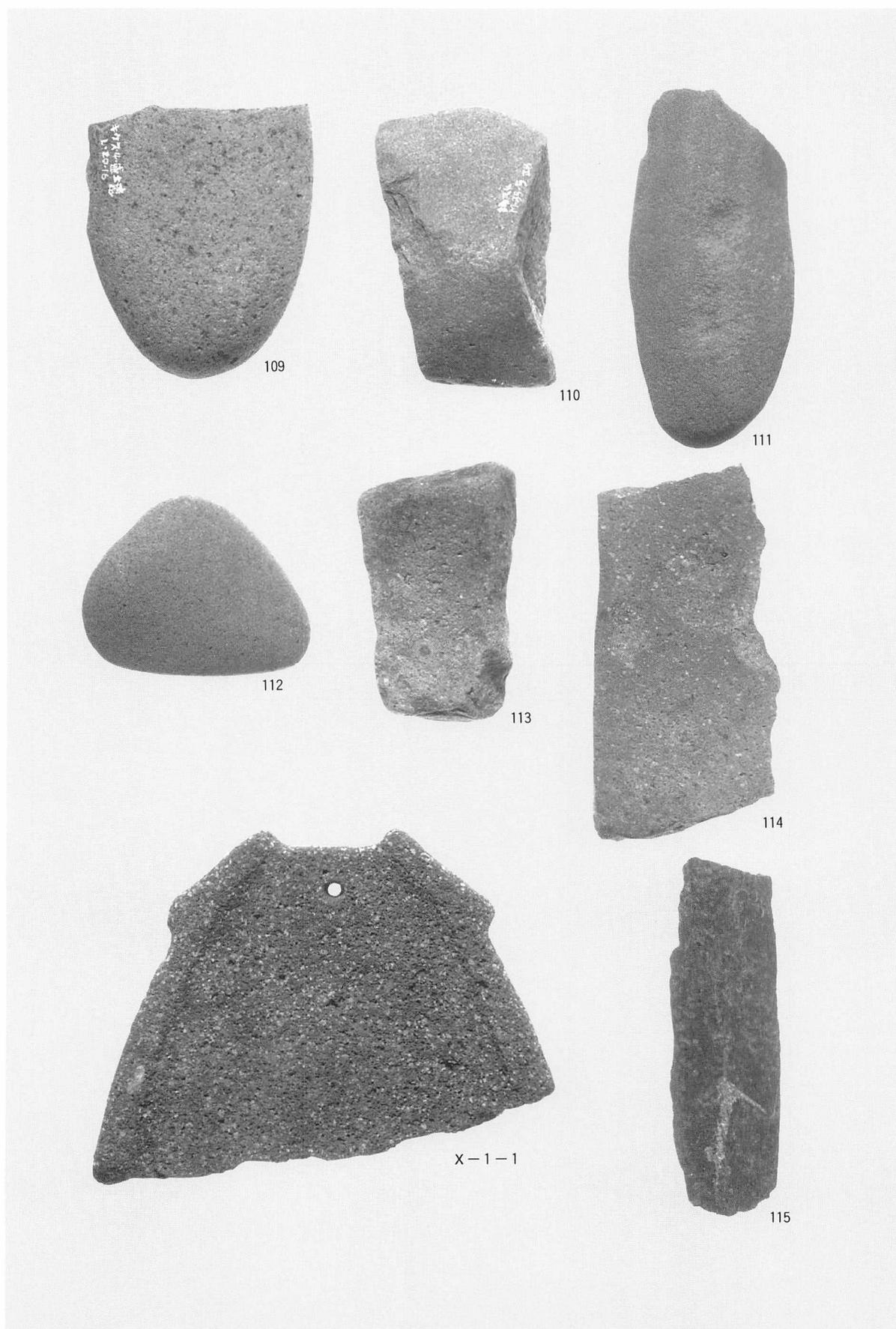
1 包含層の石器(7)



1 包含層の石器(8)



1 包含層の石器(9)



1 包含層の石器(10)

報告書抄録

ふりがな	ちとせしきうす4いせき							
書名	千歳市 キウス4遺跡							
副書名	北海道横断自動車道(千歳～夕張)建設用地内埋蔵文化財事前発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第119集							
編著者名	皆川洋一							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒064 札幌市中央区南26条西11丁目							
発行年月日	平成9年3月28日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
キウス4	ほっかいどうちとせし 北海道千歳市 ちゅうおう 中央1190-3ほか	01234	92	42°52'48"	141°42'45"	19930714～ 0802 19931012～ 1027	3,380	道路建設に 伴う事前発 掘調査。
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
キウス4	集落、墓	縄文時代 後期	周堤墓 9基 盛土遺構 2か所 竪穴住居跡 1軒 土壇 3基 焼土 9か所 柱穴状ピット 多数	土器 堂林式土器 ホッケマ式土器 エリモB式土器 東釧路IV式土器ほ か 石器 石鏃、ドリル、ス クレイパー、異形 石器、石斧、たた き石、台石、石皿、 石棒、オロシガネ 状石製品ほか	発掘された遺構、遺物の内容から本遺跡は、北隣にある国指定史跡「キウス周堤墓群」に連続する縄文時代後期の遺跡と推定される。			

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第119集

千歳市 キウス4遺跡

—北海道横断自動車道（千歳～夕張）建設用地内埋蔵文化財事前発掘調査—

平成9年3月28日 発行

編 集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
TEL (011) 561-3131

印 刷 富士プリント株式会社
〒064 札幌市中央区南16条西9丁目
TEL (011) 531-4711